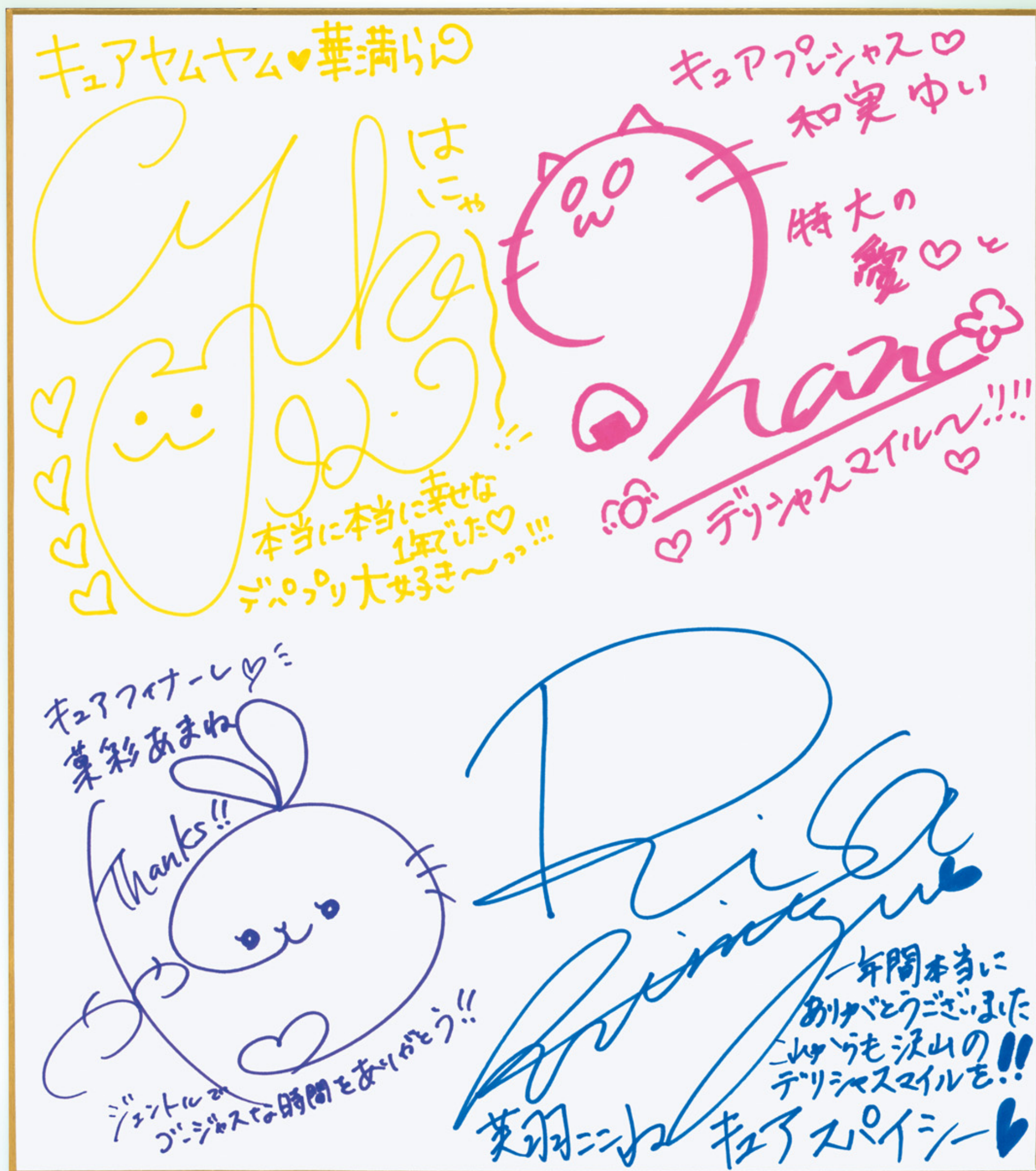
Gakken Mook
デリシャスパーティ♡プリキュア
Delicious Party♡Precure
OFFICIAL COMPLETE BOOK
オフィシャルコンプリートブック
デリシャスマイル〜〜！
な活躍をプレイバック♥

Contents

キャストおつかれさま
寄せ書きサイン色紙

１年間、デリシャスパーティ♡プリキュアとして活躍したキャストの４人による
ありがとうが重なった寄せ書き色紙を公開！

スタッフおつかれさま
寄せ書きイラスト色紙

『デリシャスパーティ♡プリキュア』の制作に携わったスタッフから、
愛あるメッセージが激盛りのイラスト色紙が到着！

キュアプレシャス／和実ゆい

キュアプレシャス

（声／菱川花菜）

まっすぐ朗らかで元気な中学２年生・和実ゆいが変身するプリキュア。お料理に宿る妖精レシピッピが見えるゆいは、怪盗ブンドル団のジェントルーにつかまってしまったレシピッピを助けたいと願い、その強い思いに応えたエナジー妖精コメコメの力を分けてもらい、プリキュアへと覚醒した。得意な技はキロカロリーで威力を表すパンチ！　イメージカラーはピンク。

変身

エナジー妖精のコメコメとエナジーをシェアしながら変身する。食べる仕草や、手でおむすびの形を作るなど、「お料理」と「分かち合う」というテーマが随所につめこまれた変身シーン。

表情集

キュアプレシャスの持ち味「みなぎるパワー」が表情にもあふれ、真っ向から立ち向かう力強さを見ることができる。

2000キロカロリーパンチ！

パンチの威力がさらにアップして2000キロカロリーに！　飛んでいるときにこの技を放つと、飛行速度も格段にアップする。

1000キロカロリーパンチ！

パンチの威力が1000キロカロリーにアップした技。唱え方は「せんきろ」ではなく、「いっせんきろ」となっている。

500キロカロリーパンチ！

キュアプレシャスの最初のパンチ。500キロカロリーのパワーを拳にこめて、ピンクの光を放ちながら敵に放つ。

プリキュア！プレシャス・トライアングル！

ハートキュアウォッチをタッチし、三角に力を放出しウバウゾーを浄化する。最後は一緒に「ごちそうさまでした！」。

浄化

プリキュア！デリシャスプレシャス・ヒート！

ハートジューシーミキサーを使ってエナジーをミックスし、敵に放つ。パワーアップした強化ウバウゾーを浄化することが可能に。

キュアプレシャスの技

おなかいっぱいパンチ！

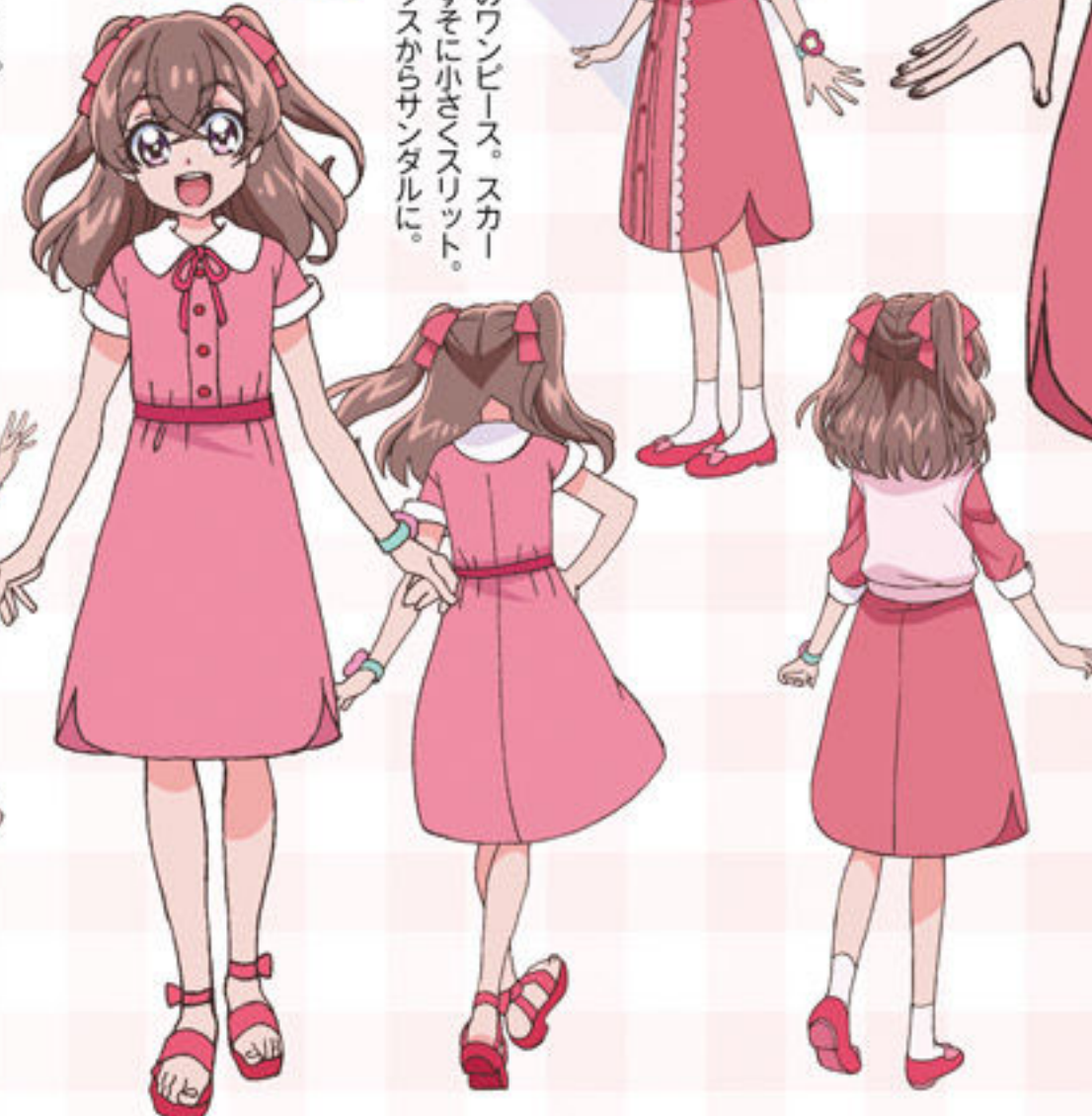
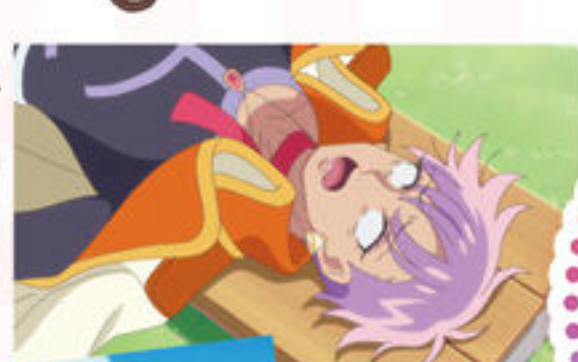
キュアスパイシー、キュアヤムヤム、キュアフィナーレのパワーも得てキュアプレシャスが放つ究極のパンチ。パンチするときには1のあとに0が無数に並ぶ。

基本スタイル

お料理を守るために戦うコスチュームにエプロンが付いている。和テイストのキュアプレシャスは、ブーツも足袋風。

パーティアップスタイル

パーティキャンドルタクトを使うときパワーアップした姿。コスチュームは振り袖をイメージさせる豪華さに。髪もボリュームアップ。

表情集
和実（なごみ）ゆい
（声／菱川花菜）
おいしーなタウンに住む中学2年生。素直で明るく、元気な女の子。食べることが大好きで、祖母に教えられた「ごはんは笑顔」という言葉を大切にしている。幼いころからお料理の妖精レシピッピを見ることができる。運動神経が抜群。よく動き、すぐにおなかがへるので「はらペコった～！」が口ぐせになっている。自宅は母が切りもりする定食屋さん「なごみ亭」。
はらペコった～！
デリシャスマイル～！
たくさん食べるゆいは、おばあちゃんの言葉通りいつも「笑顔」で、表情はとても明るい。
エプロン
自分でお料理を作ったり、定食屋さんを手伝ったりするゆいには、エプロンは必需品。
冬私服
暖かそうなショートコートを着用。スカートは夏服とは変わってフリル付きに。
夏私服
夏のワンピース。スカートのすそに小さくスリット。パンプスからサンダルに。
ジャージ
私立しんせん中学校の体操服。ボトムスはこのハーフタイプと長ズボンの2種類。
冬制服
基本の制服に、ピンクのカーディガンを重ねた、ゆいの冬モード。
夏制服
冬制服のリボンはなくなり、セーラーカラーに。ソックスの長さは各自の自由。
制服
私立しんせん中学校の制服。リボンの色は自由らしく、ゆいはピンク。
通学カバンと上ばき
スクールカバンは男女兼用。上ばきの先は男女で色の違いがある。
▼イースキ島のマイラ王女と入れ替わり、捕らえられたときは縄をぶっち切り！
◀▲空腹で行き倒れたローズマリーを担ぎ上げた！
ゆいの能力
怪力！
抜群の運動神経に加えて、ゆいは怪力の持ち主！ 日常生活でもプリキュアのときも、驚異のパワーでピンチを乗り越えていく！
受け継がれるDNA!?
マグロを素手で捕まえた！
コメを3俵担いで20キロ歩いた！
1時間に100人分の食事を作った！
▲怪力はおばあちゃん譲り!? おいしーなタウンには、祖母・和実よねの怪力伝説が数々残されている
ゆいのグッズ
お弁当箱
曲げわっぱの和風テイスト。巾着は大好きなニンジン柄だ。
調理器具
ゆいたちがお料理に使う包丁は安全なセラミック製。
カバン
お出かけ用ショルダーバッグ。やっぱりおむすび型!?

「おいしい」は笑顔！

ゆいの笑顔の思い出はおばあちゃんのおむすび！

「ごはんは笑顔」——そう言ったのはゆいのおばあちゃんだ。「おいしい」の思いで「笑顔」になるし、笑顔がほかほかハートを生み、力を分けてくれる。プリキュア4人にも「おいしい」思い出が刻まれている。ゆいの思い出は、おばあちゃんのおむすびだ。

◀▲おばあちゃんがくれたおむすび。ビックリするほどおいしくて、不思議と涙も止まる。「おいしい」は人を元気にしてくれると気づいた瞬間だ

定食屋さん「なごみ亭」

◀▲ゆいの母あきほが営む「なごみ亭」。あきほの母よねが大切にしていた招き猫が店を見守っている。あきほが作る定食は人気で、店には"ほかほかハート"があふれている

ゆいのコスチュームましまし

サッカー部ユニフォーム

ドレス

パジャマ

キャンプ着

浴衣

ハロウィン衣装

文化祭衣装（チャイナ服）

野球ユニフォーム

ゆいの家族

祖母のよねは亡くなっていて両親とゆいの3人家族。だが、父は遠洋漁業に従事しているので、普段は母とのふたり暮らし。

20年前のひかる

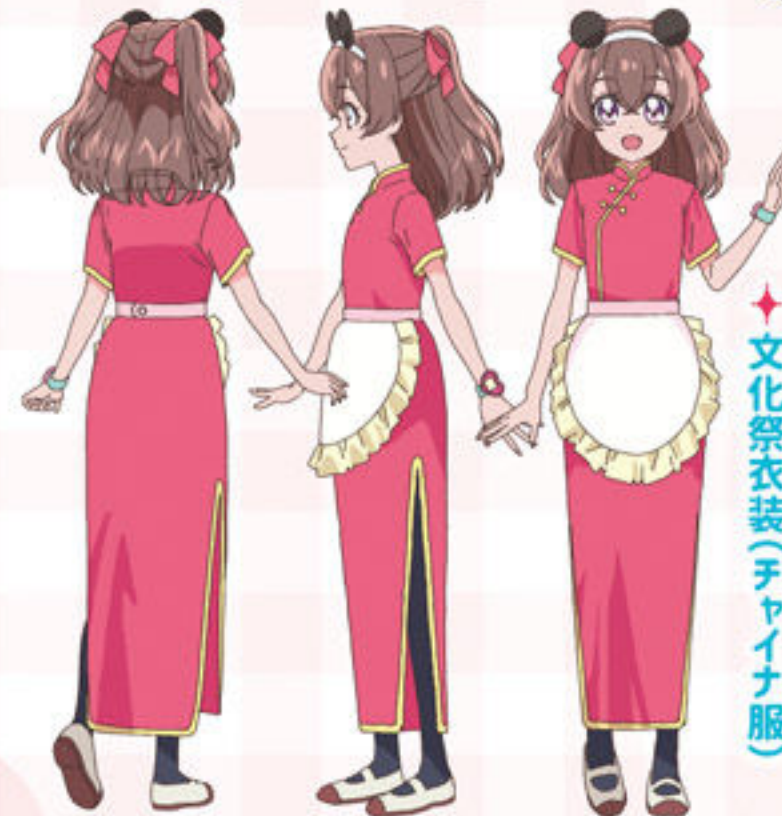
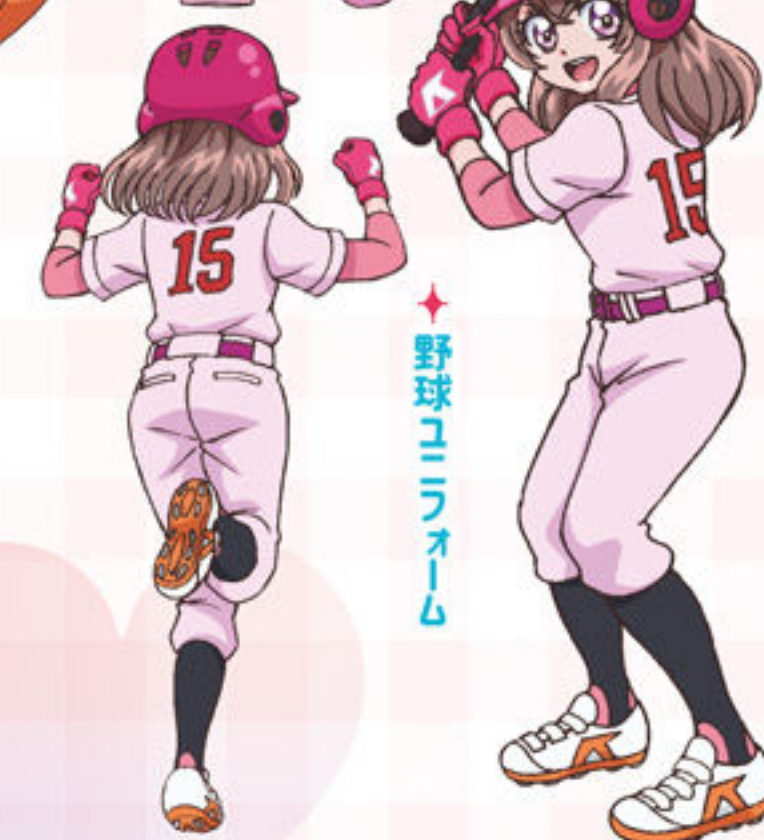
和実（なごみ）ひかる（声／木内秀信）
ゆいの父。第38話は「潮田ひかる」として登場。拓海の父・品田門平と長く漁に出ていた。

和実（なごみ）あきほ（声／中村千絵）
ゆいの母。若いころは板前修業をして料理の腕をみがいていた。サッパリした性格。

和実（なごみ）よね（声／宮崎美子）
おいしーなタウンの誰にでも好かれ、よねさんが好きな「招き猫」は、街のシンボルになった。

ゆいのおばあちゃん

20年前のよね

キュアスパイシー／芙羽（ふわ）ここね

Cure Spicy / Kokone Fuwa

キュアスパイシー

（声／清水理沙）

クールビューティな中学2年生・芙羽ここねが変身するプリキュア。ゆいたちとふれあうことで、いままで知らなかった新たな気持ちに気づいたここねが、大切な場所やレシピッピを守りたいと強く願い、エナジー妖精パムパムに力をシェアしてもらってプリキュアへと覚醒した。敵の動きをエナジーではさんで止める技が得意。イメージカラーはブルー。

基本スタイル

アシンメトリーのスカートの背中には、大きく優雅なリボンがついている。プリンセスのドレスのようにエレガントなスタイルだ。

パーティアップスタイル

パワーアップ時のコスチューム。ブラウスの袖やスカートの広がり、帽子のつばや髪の長さなど、ひらひら感のボリュームがアップ！

表情集

表情はクールだが、ドーナツ風のリボンや髪にハートのハイライト、フォーク＆スプーンのイヤリングなどかわいいアクセントが満載。

キュアスパイシーの技

シンデレラフィット

エナジーで作ったふたが、童話のヒロイン・シンデレラがはいていたガラスの靴のように、ウバウゾーの寸胴鍋にぴったりフィットした際に出た言葉。

ピリッtoサンドプレス！

エナジーを2枚の大きなパン状の形にして、敵をサンドイッチのように挟みこむ。

ピリッtoヘヴィサンドプレス！

「ピリッtoサンドプレス」のパワーアップバージョン。パンが2枚重ねになり、サンドイッチがボリュームアップ。

浄化

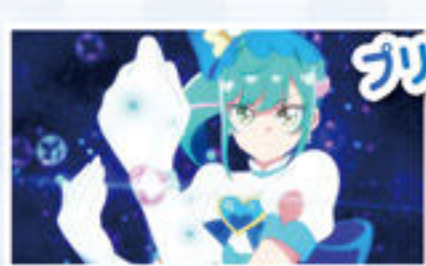
プリキュア！スパイシー・サークル！

ハートキュアウォッチをタッチしてエナジーでサークルを描き、さらにらせん状にして相手を包み込む。最後に「ごちそうさまでした！」。

クラスティパンバリア

パンバリアの強化版。シールドを敵に向けて放ち、攻撃技としても使える。

パンバリア

メロンパンのようなシールドで、敵の攻撃をはねかえす技。

キュアスパイシー！
分け合うおいしさ、
焼きつけるわ！
変身
パムパムをやさしく手のひらに包み、愛おしそうに見つめるここねと、幸せそうなパムパム。変身シーンに愛があふれている。
パーティ・ゴー！
オープン！
プリキュア・
パムパム！
デリシャスタンバイ！
サンド！
パムパム！
テイスティ！
シェアリンエナジー！
ふわふわサンドde
心にスパイス！
ふわふわサンドde
心にスパイス！
キュアスパイシー！
分け合うおいしさ、
焼きつけるわ！
浄化
プリキュア！
デリシャススパイシー・
ベイキン！
キュアスパイシー！
ハートジューシーミキサー!!
エナジー！
ミックス！
シェアリン！
パム！
プリキュア！
デリシャススパイシー・ベイキン！
オナカイッパーイ！
ごちそうさまでした！
パワーアップしたウバウゾーを浄化する技。ハートジューシーミキサーでエナジーをミックスし相手を包み込んでいく。

表情集

芙羽（ふわ）ここね

（声／清水理沙）

ゆいと同じクラスの女の子。クールビューティで成績優秀。校内では「芙羽さま」と呼ばれ一目置かれていた。ひとりには慣れていたが、他人と話すことに慣れていなかった。おしゃれやかわいいものが大好き。ゆいやパムパムたちとの出会いを通して、心の扉を開く。お料理は苦手でも、がんばってサンドイッチを作った。実家は高級レストランを営む。

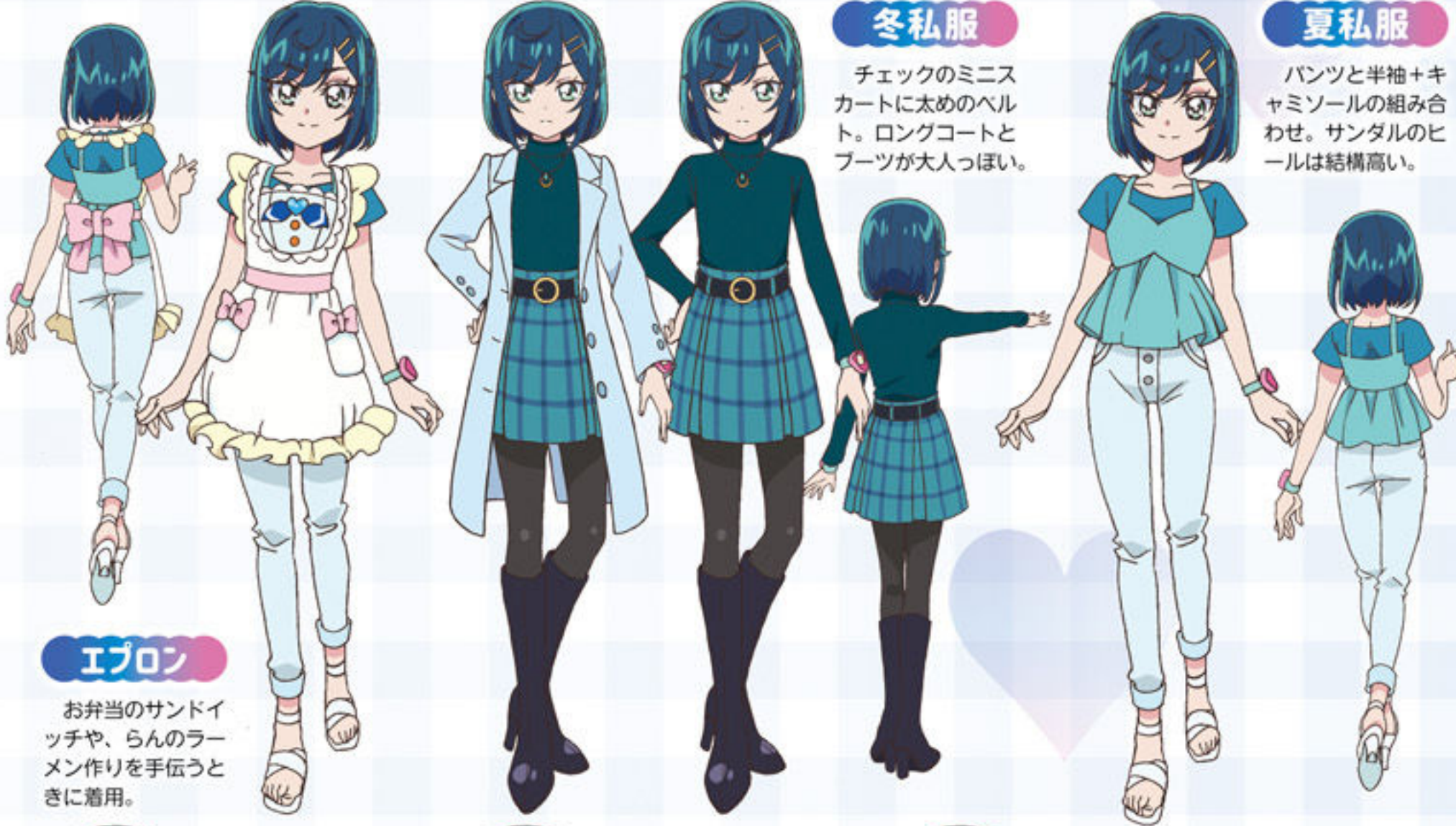
片側だけ編みこみにしたボブヘアーでおしゃれに。破顔するほどの笑顔はなく、大人っぽさが伝わってくる。アホ毛の乱舞で、実際のここねのキュートな一面も想像できる。

か、かわいい……。

冬私服

チェックのミニスカートに太めのベルト。ロングコートとブーツが大人っぽい。

夏私服

パンツと半袖＋キャミソールの組み合わせ。サンダルのヒールは結構高い。

エプロン

お弁当のサンドイッチや、らんのラーメン作りを手伝うときに着用。

ジャージ

ゆいやらんはハーフパンツだが、ここねは長ズボンを着用。

冬制服

基本の制服の上に、ブルーのマフラーと同系色のカーディガンを重ねる。

夏制服

私服でもタイツやパンツで足を見せないが、夏制服のソックスは短め。

制服

リボンは少し細めのタイで、イメージカラーのブルー。タイツを着用。

◀普段は口数が少ないここねも、コスメのことになると饒舌に。プリティホリックで話に花が咲くのは、ゆいよりもマリちゃん。

▼20年前のおばあちゃんとの再会に緊張するゆい。そんなゆいにここねはメイクを施して勇気づけた。

◀コスメショップ「プリティホリック」は、ここね御用達のお店。中学生にも似合うかわいいアイテムがそろっている

ここねの能力

コスメ！

おしゃれが好きなここねは、プリティホリックなどのコスメにも詳しい。メイクが勇気をくれることを、ゆいに教えたことも。

プリティホリック

▶アミュレット

▶リップ

▶ネイル

ここねのグッズ

✦お弁当箱

バッグのイメージとは異なり、お弁当箱は水玉模様でポップに。

✦大好きなハートパン

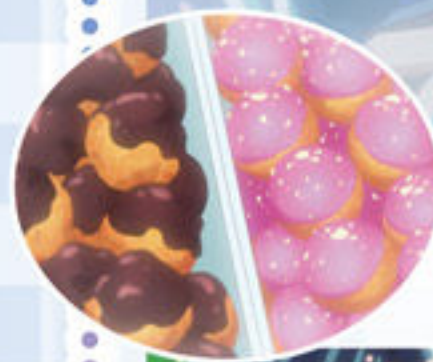
ここねのお気に入りは、カレーパンと、このハートパン。

✦バッグ

お出かけ用のバッグ。丸型の金具に高級感が漂う。

「おいしい」は笑顔！

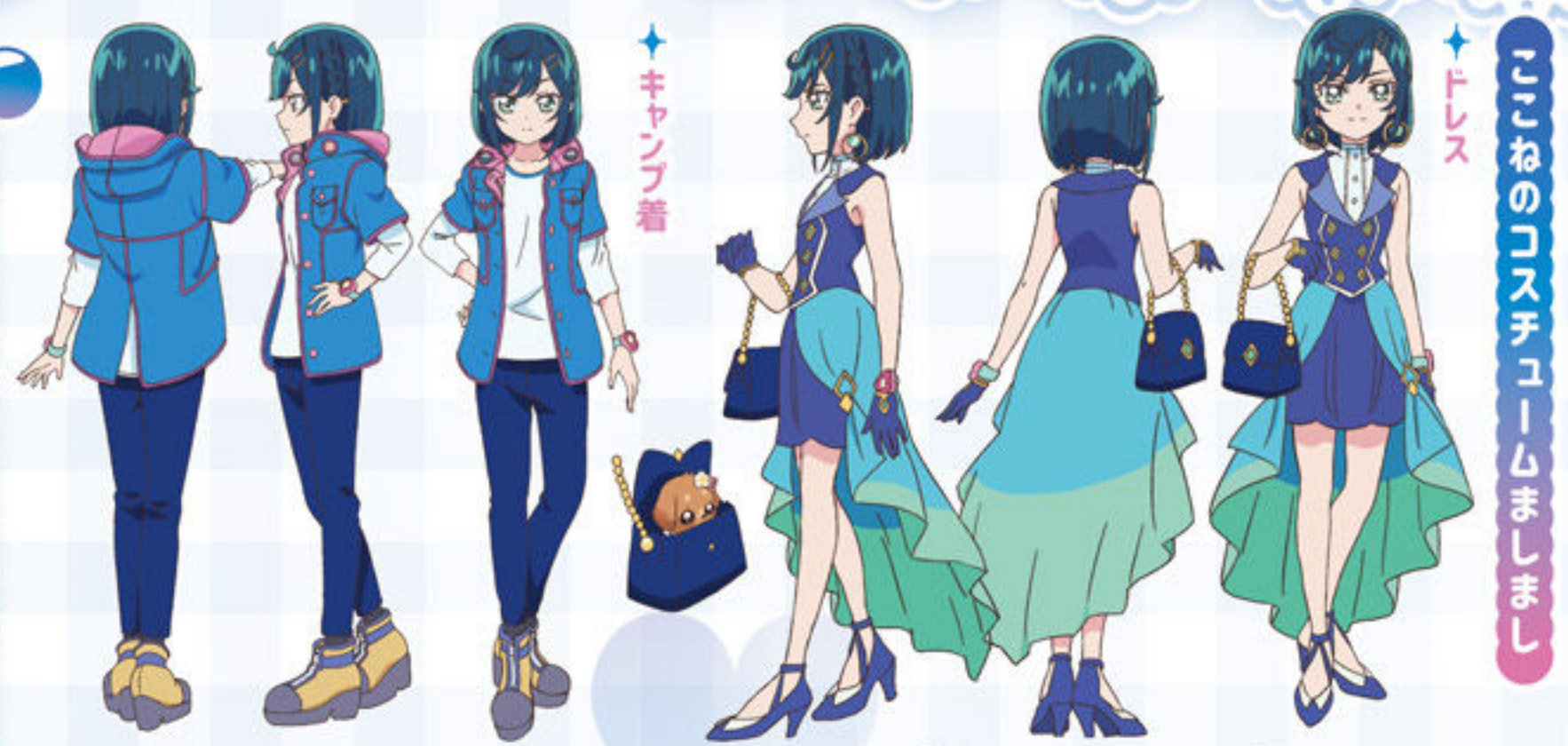
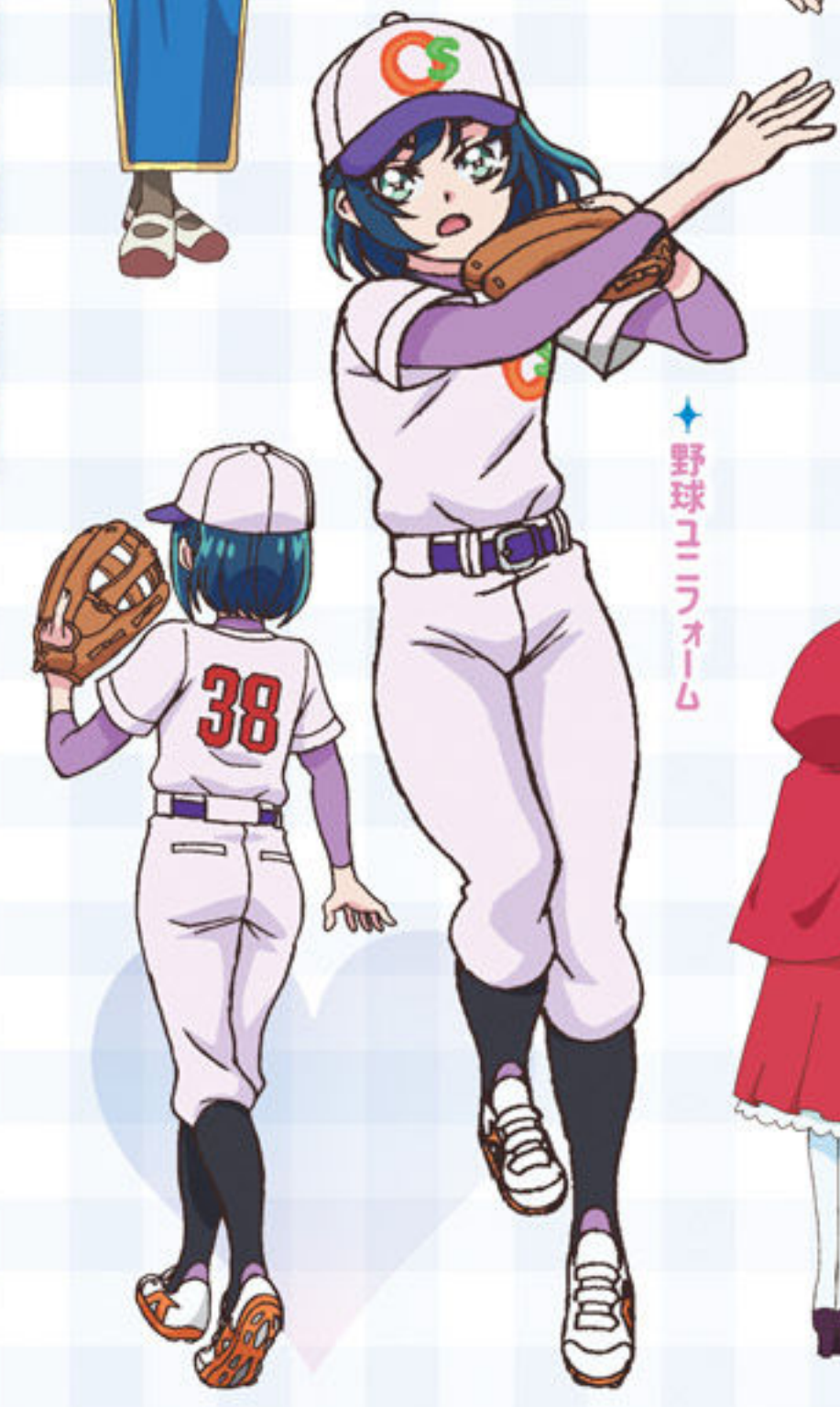
ここねの笑顔(?)の思い出はボールドーナツ

　幼いころ、ここねがねだったボールドーナツ。それを買わなかったときから娘が遠慮がちになったのではと、母のはつこは後悔していた。娘の心からの笑顔が見たい。なごみ亭のあきほに「ごはんは笑顔だから」とアドバイスされたはつこは、思い出のボールドーナツを「一緒に食べよう」とここねに声をかけ、母と娘は笑顔でドーナツをほおばるのだった。その後、ここねが作ったサンドイッチも一緒に食べ、芙羽家には笑顔があふれた。

◀▲かわいいドーナツにここねはクギづけ。あのとき聞いた「わがまま」という言葉がここねの胸に残っていた。時を経て、今度はそのボールドーナツが芙羽家の人々が食卓に集うきっかけを作った

レストラン・デュ・ラク

▶おいしーなタウンで有名な高級レストラン。コース料理のほか、ダンスも楽しめるスペースまである

▲あまねの指導もあり、ゆいたちは高級レストランを堪能したのだった

▲あまねがチェックしたゆいとらんのマナー知識は、惨憺たるものだった

ここねのコスチュームましまし

ここねの家族

ここねは、レストラン・デュ・ラクを経営する両親と3人暮らし。とはいえ、両親は多忙で、ここねはひとりごはんに慣れていた。

芙羽しょうせい（声／中野泰佑）

ここねの父。レストラン・デュ・ラクのオーナーで、おもに経営面を担当。

芙羽はつこ（声／行成とあ）

ここねの母。メニュー開発や買い付けを担当。「神の舌」の異名を持つ。

幼いころのここね

父母とお出かけをした。いまはひとりに慣れている。

轟（声／櫻井笙人）

ここねを見守る芙羽家の運転手。ここねは両親より轟といることのほうが多い様子。

キュアヤムヤム

（声／井口裕香）

おしゃべりでキュートな中学2年生の女の子・華満らんが変身するプリキュア。実家のラーメンをめちゃくちゃにしたジェントルーに激怒したらんは、ラーメン誕生までの苦労を熱く語り心を燃やす。そこにエナジー妖精のメンメンも熱く反応し、エナジーを分けてもらって、らんはプリキュアへと覚醒した。エナジーを麺状にした光線を放つ。イメージカラーはイエロー。

変身

麺のエナジーをすするシーンが入る。「ゆるさないよ！」のセリフに合わせて手と首を傾ける動きも、いまだかつてないキメポーズだ。

表情集

喜怒哀楽の表情が豊か。髪に付いた真っ赤で大きなお団子が特徴。プレシャスたちとおそろいのイヤリングをつけている。

基本スタイル

チャイナドレスを基調にしたコスチューム。スリットが入ったスカートの下にスパッツをはき、動きやすそう。髪はちぢれ麺のように巻いている。

パーティアップスタイル

パワーアップ時のコスチューム。髪飾り、背中のリボンも、動きやすさを保ちながらボリュームアップしている。

キュアヤムヤムの技

バリカッターブレイズ！

麺のように伸ばしたエナジーを多数形成し、相手に向けて放つ。

バリバリカッターブレイズ！

「バリカッターブレイズ！」よりボリューム感が格段に増し、攻撃力もバリバリにアップ。

バリバリ「ワンターン！」ブレイズ！

「バリバリカッターブレイズ！」と、メンメンが炎を同時に放ったとき「ワンターン！」でふたりの形相がシンクロ。

3人技

プリキュア！ MIXハート アタック！

キュアプレシャス、キュアスパイシー、キュアヤムヤムの3人が、ハートジューシーミキサーでエナジーを合わせ、敵を浄化する。

浄化

プリキュア！ ヤムヤム・ラインズ！

麺状にしたエナジーの束をらせん状に放ち、敵を包みこんで浄化する。最後は、一緒に「ごちそうさまでした！」。

プリキュア！ デリシャスヤムヤム・ドレイン!!

ハートジューシーミキサーを使って浄化する技。ダイヤルをイエローに合わせ、エナジーをミックスして敵に放ち、包みこむ。

華満(はなみち)らん

（声／井口裕香）

ゆいのクラスメイトで、よくしゃべり、よく食べ、妹弟の面倒もよく見る情熱マシマシの元気娘。食べ物への好奇心が旺盛で、話し始めると止まらない。自宅はラーメン屋さん「ぱんだ軒 華満」を営むが、らんの好奇心はあらゆる食へと向かい、おいしーなタウンを食べ歩きしてはSNS「キュアスタ」に投稿する。発明家の一面も持つ。

絶対絶対、なんとかしてみせる！

表情集

明るく元気でキュート。喜怒哀楽がはっきりしていて表情は豊か。首元にナルトのペンダントが見える。

夏私服

ボーダーのTシャツとショートパンツで軽快に。シューズにはなるとマーク！

エプロン

お店を手伝うときは店名入りの赤いエプロンだが、これはゆいの家で着用。

冬私服

パーカの上にパンダカラーのジャンパー。春夏秋冬、パンダ愛！

ジャージ

上着の下にTシャツを着ている。ボトムスは、ゆいと同じハーフパンツ派。

冬制服

マフラーをまいた冬バージョン。パンダがデザインされたマフラーがキュート。

制服

スカートはショート丈。リボンはオレンジ色だ。胸のパンダは欠かさない。

夏制服

夏の制服も基本形はゆいと同じだが、やはりスカートは短めを着用。

✦楽ちん帽子1
飲み物と扇風機をセットした帽子。のどがかわけばジュース、暑ければ送風が可能。

✦らんらん特製 出前5号
揺れを少なくしてラーメンをおいしく運ぶための出前セット。最終話では「出前6号」が登場。

✦コメコメ風のしっぽ＆カチューシャ耳
コメコメ風になれる、かわいい発明。あくまで、コメコメ風。

らんの能力

発明！

食べ物の情報収集や発信以外に、らんは発明もしている。いろいろなことを知りたい、表現したいというのがらんの個性。

✦ステッキ型シャボン玉器
手元のスイッチを押すと、さまざまな形のシャボン玉を筒の横からぷくぷくと放出。

✦スマートフォン
ハートキュアウォッチの前は、スマホを使ってキュアスタに投稿。

らんのグッズ

✦お弁当箱
お弁当箱もパンダ……？

✦リュック
ここにもパンダのワンポイント！

「おいしい」は笑顔！

らんの笑顔の思い出はキュアスタ

幼いころ、思うがままに食べ物について熱弁していたとき、らんは「変」と言われてしまい、落ち込むことがあった。そんならんを支えたのがお料理への情熱。「キュアスタ」に熱い思いを込めて投稿していた。「ちゅるりん」のアカウントには、らんの「おいしい」が詰まっている。「ちゅるりん」の熱いお料理への愛は、らんのとびきりの個性だ。充実した情報を、あのブンドル団がフォローして追うほどだった。

▲周囲の友達は、らんがなぜこれほどまでに興奮して話すのか、わからなかった

▲▶自信をなくし落ち込んだらんだったが、いまは堂々と情熱を伝えられるようになった。キュアスタの更新も続ける

◀ラーメンにかける両親の情熱を見て育ったらんから、「おいしい」を伝えたい熱い思いを消すことはできないのだった

らんのコスチュームましまし

✦白衣

✦ドレス

✦ハロウィン衣装（パンダ）

✦野球ユニフォーム

✦キャンプ着

✦浴衣

✦文化祭衣装（チャイナ服）

ラーメン屋さん「ぱんだ軒 華満」

▲開店前から行列ができる、人気のラーメン屋さん。店の入り口には独特なパンダ像が立ち、なかのカウンターには大きなぬいぐるみが座っている

らんの家族

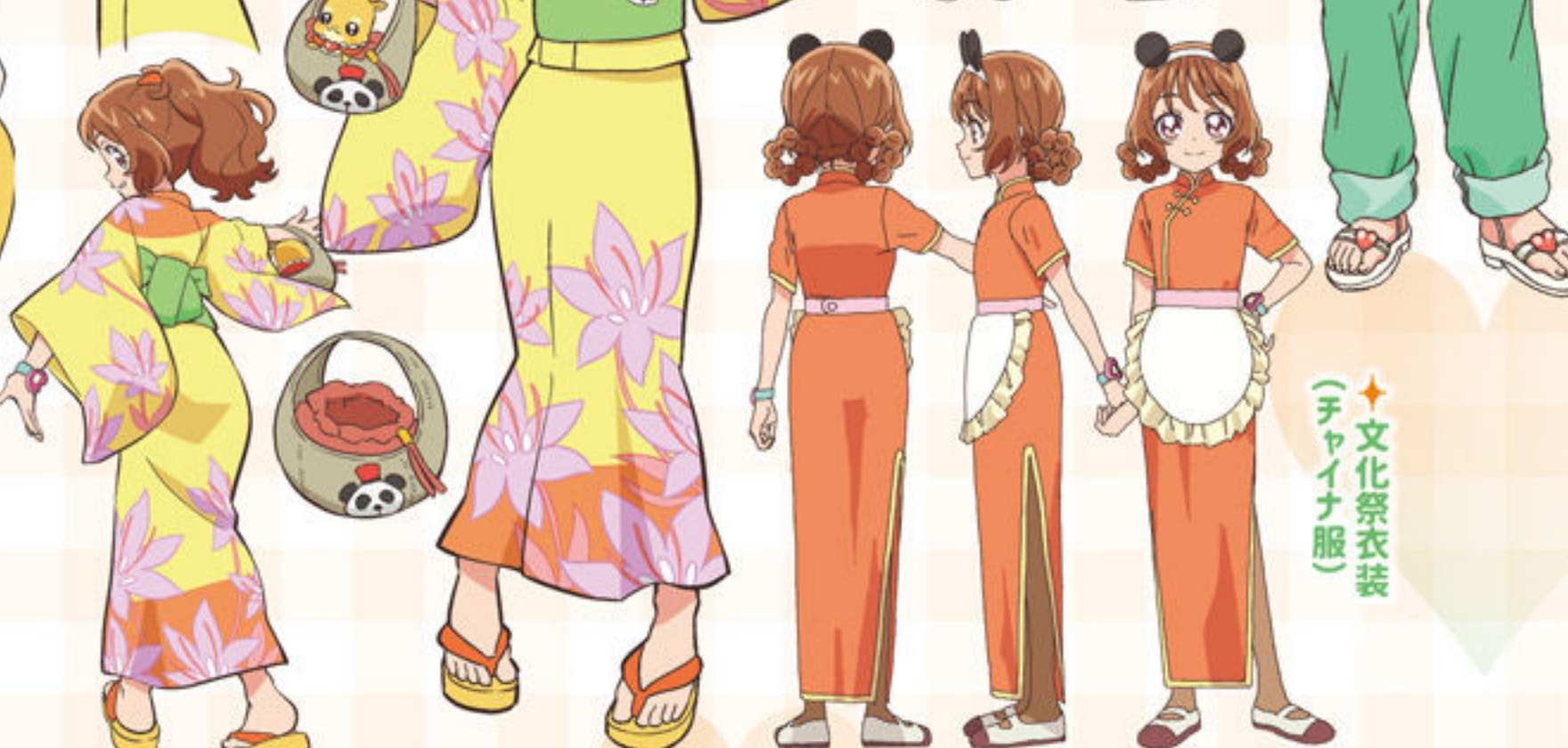
華満家はラーメン屋さん「ぱんだ軒 華満」を営む。両親と子ども3人の5人家族。らんは一番上の長女で、妹＆弟思いのよきお姉さんだ。

✦華満こしのすけ（声／斧アツシ）

らんの父。極上のラーメンを求め続ける麺職人。食材を探究する旅をして、現在の自慢のラーメンにたどりつく。

✦華満つるね（声／小林愛）

らんの母。夫とともにラーメンを探究し続けている。ゆいの祖母と知り合いだった。

✦華満りん（声／河村梨恵）

らんの妹。明るく素直。家のお手伝いをよくしている。コメコメと仲よし。

▲両親が世界の味を探究し、完成した「ぱんだ軒」のラーメン。らんは両親の努力をリスペクトしている

✦華満るん（声／山口茜）

らんの弟。華満家の末っ子。素直で、お姉ちゃんたちと仲がいい。

キュアフィナーレ／菓彩あまね

CHARACTER COLLECTION 4

Cure Finale / Amane Kasai

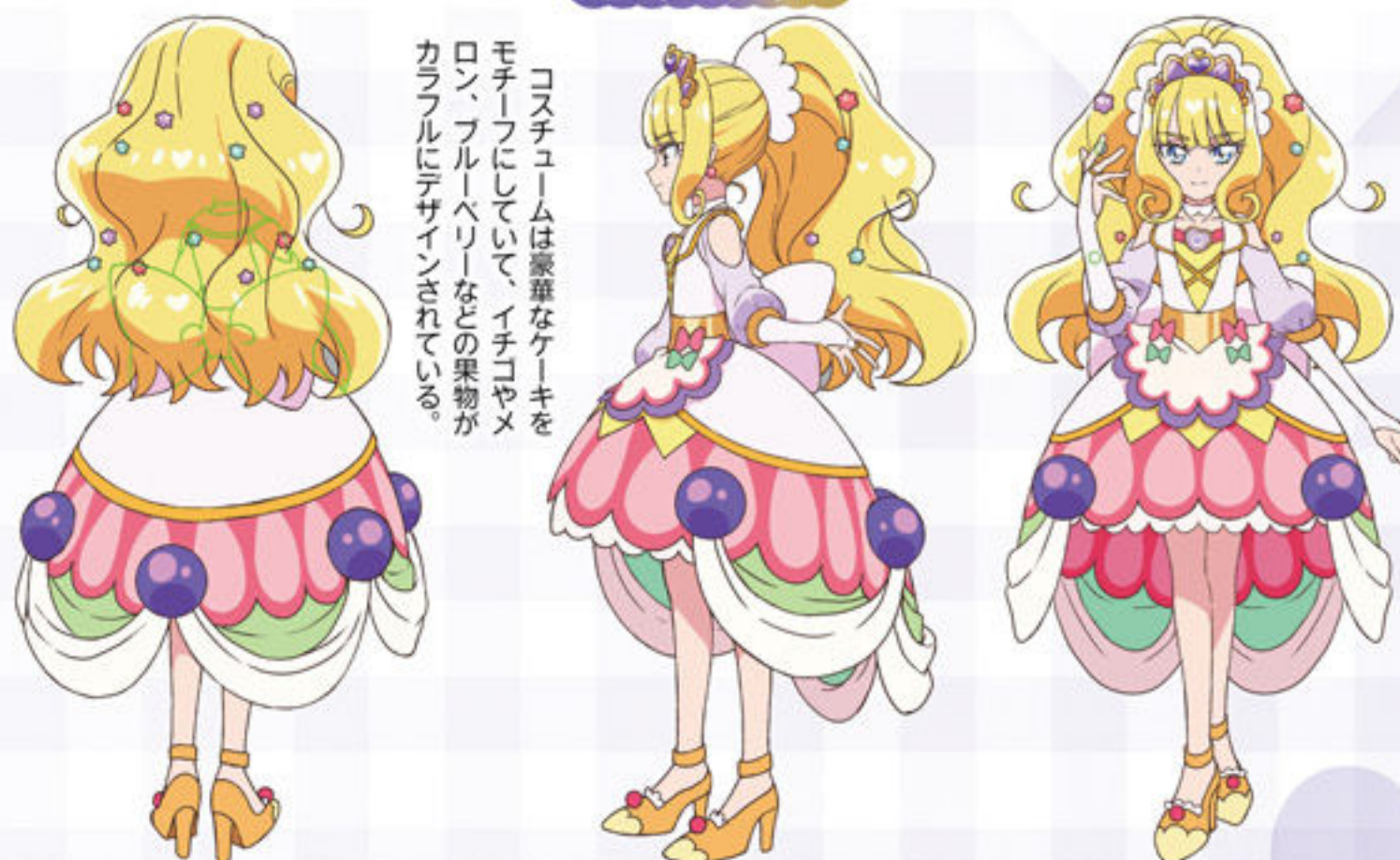
キュアフィナーレ

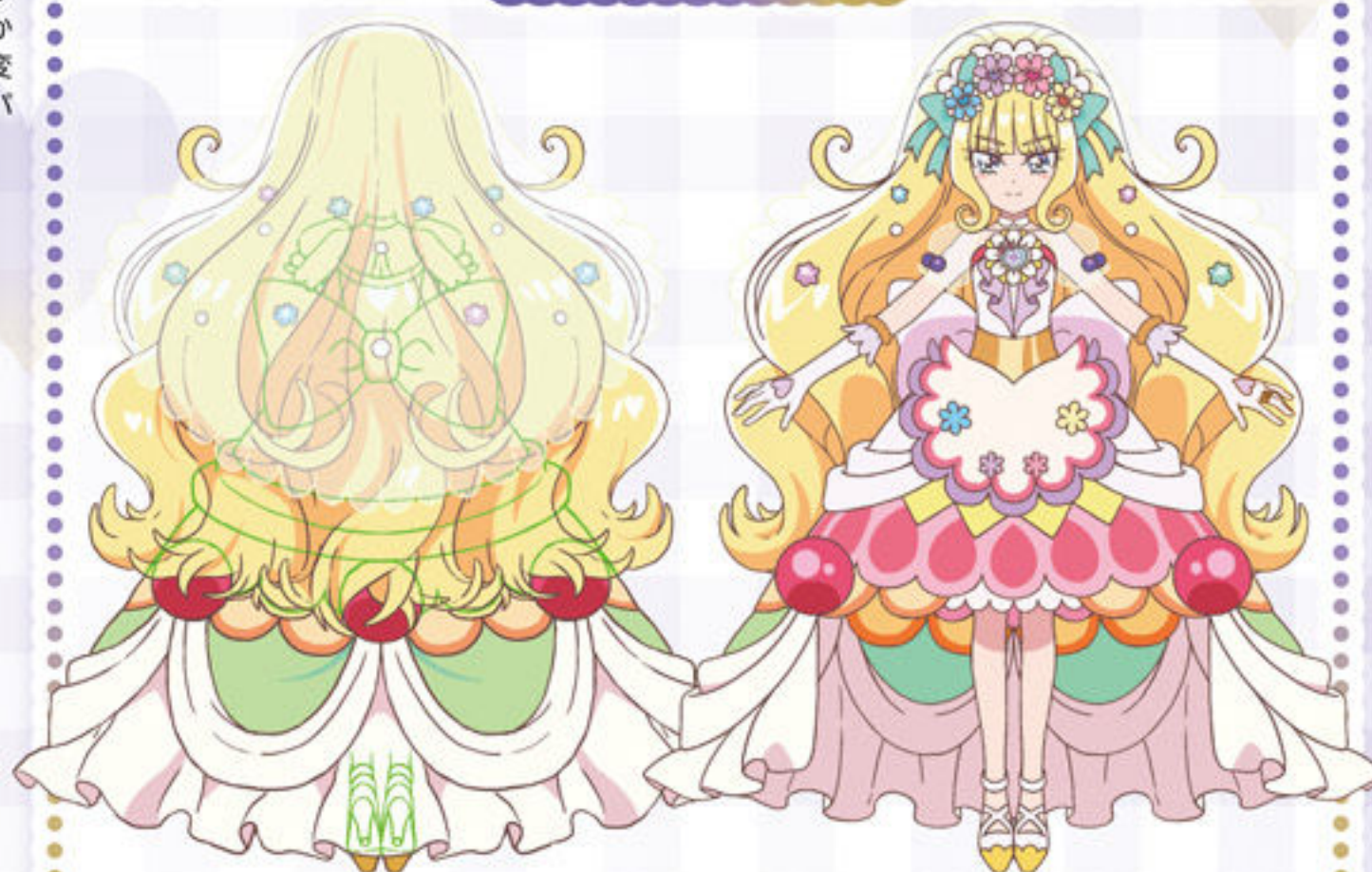
（声／茅野愛衣）

正義感が強く、しっかり者の中学3年生・菓彩あまねが変身するプリキュア。かつて心を操られてしまい怪盗ブンドル団の活動をしていたあまねが、パフェのレシピッピとの思い出やキュアプレシャスの言葉に励まされ、レシピッピを守るためにハートフルーツペンダントでプリキュアへと覚醒した。華麗な格闘技が持ち味。イメージカラーはゴールド。

表情集

髪形や色の変化など、変身前のあまねとのギャップが大きい。髪に隠れているが、耳には3人とは異なるフルーツ型のイヤリングをつける。

基本スタイル

コスチュームは豪華なケーキをモチーフにしていて、イチゴやメロン、ブルーベリーなどの果物がカラフルにデザインされている。

パーティアップスタイル

金髪が大きく広がり、ドレスも華やかなロングドレスに変化。ゴージャスにパワーアップした。

ジェントルにゴージャスに、咲き誇るスウィートネス！

パワーアップした4人は空中を超スピードで移動。4つの光を描きながら包囲し、浄化する。最後に「フーッ」とひと息。

4人技 プリキュア！ライト・マイ・デリシャス！

まずは、コメコメの力で4人がパーティアップスタイルにパワーアップする。これで準備完了。

キュアフィナーレ！
食卓の最後を、
このわたしが飾ろう
変身
フルーツをふんだんに使った色鮮やかな変身。あまねの黒髪が金髪に変化することで印象がガラリと変わる、ぜいたくなシーケンスだ。
プリキュア・
デリシャスタンバイ！
パーティ・ゴー！
フルーツ！
ファビュラス・オーダー！
シェアリンエナジー！
トッピング！
ブリリアント！
シャイン・モア！
ジェントルに
ゴージャスに、
咲き誇るスウィートネス！
キュアフィナーレ！
食卓の最後を、
このわたしが飾ろう
キュアフィナーレの技
プリキュア！
フィナーレ・ブーケ！
クリーミーフルーレからエナジーを絞りだし、金平糖のような輝きを持ったビームを放つ。
プリキュア！
フィナーレ・ブーケ！
浄化
プリキュア！
デリシャスフィナーレ・
ファンファーレ！
クリーミーフルーレを４回絞り、無限大を描きながらビームを放出し浄化する。最後は一緒に「ごちそうさまでした！」。
ダンシンフルーツ
クリーミーフルーレ！
オナカイッパーイ！
プリキュア！
デリシャスフィナーレ・
ファンファーレ！
ごちそうさまでした！
ブルーミン・

表情集

長い黒髪をカチューシャでまとめ、クラシカルな印象。あまり感情を強く表には出さないようで、表情は硬く見えるが、人望は厚い。

菓彩（かさい）あまね

（声／茅野愛衣）

ゆいたちより1学年上の中学3年生。「みんなを笑顔にしたい」と願う生徒会長。面倒みがよく、生徒たちに慕われている。自宅はフルーツパーラーKASAIを営み、あまねも甘い物が大好き。とくに好きなのはおはぎと、思い入れもある「パフェ」。凛々しくはっきりとした口調で話す。お化けは苦手。怪盗ブンドル団に心を操られてしまったことも。

わたし、パフェになりたい！

エプロン

ゆいたちとおそろいだが、胸にハートフルーツペンダントが見える。

夏私服

七部袖のブラウスに肩紐付きのタイトスカートで、きれいめのいでたち。

冬私服

タイトなロングスカートだが、スリットが入って動きやすそう。こちらも品がある

ジャージ

学年は違っても、デザインは2年生と同じ。ズボンはロングを着用。

冬制服

白いカーディガンに白いマフラーを重ねた、シンプルな冬のおしゃれ。

夏制服

スカートは膝が隠れるような長さに。白いソックスが清楚な印象を与える。

制服

ゆいたちより学年は上だが、制服の基本形は同じ。リボンの色はパープル。

▼イースキ島からいらしたお客様を、校長先生や生徒会メンバーとお出迎え

生徒会長

▲あまね生徒会長は人望が厚い。体調不良から復帰したあまねを、生徒たちは取り囲んだ

あまねの能力

文武両道！

学校では生徒会長の務めを見事にこなし、家では兄を相手に空手の鍛錬にはげむ。まさに文武両道を体現している。

あまねのグッズ

✦タブレット

生徒会ではこのタブレットを使って生徒たちの成績を確認していた。

✦メガネ＆指示棒

ゆいたちに、レストランでのマナーレッスンをしたとき。

空手！

▲兄の影響もあってか、あまねは空手もする。黒帯の有段者らしい

「おいしい」は笑顔！

あまねの笑顔の思い出はパフェ

子どものころからあまねはパフェが大好き。フルーツパーラーKASAIでパフェを食べるお客さんが笑顔になるのがうれしかったのだ。みんなを笑顔にする「パフェ（のような人）になる！」。あまねはそう決めた。生徒会長になっても、みんなを笑顔にしたいと願う。パフェの思い出は、あまねにとって道しるべになったのだ。

幼少期のあまね

▲「パフェになる！」と決意したころ。お店には笑顔があふれていた

▲お客さんがみんな笑顔になると、あまねも笑顔になれた。みんなを笑顔にしたい！　その思いは生徒会長になっても変わらなかった

あまねのコスチュームましまし

空手着

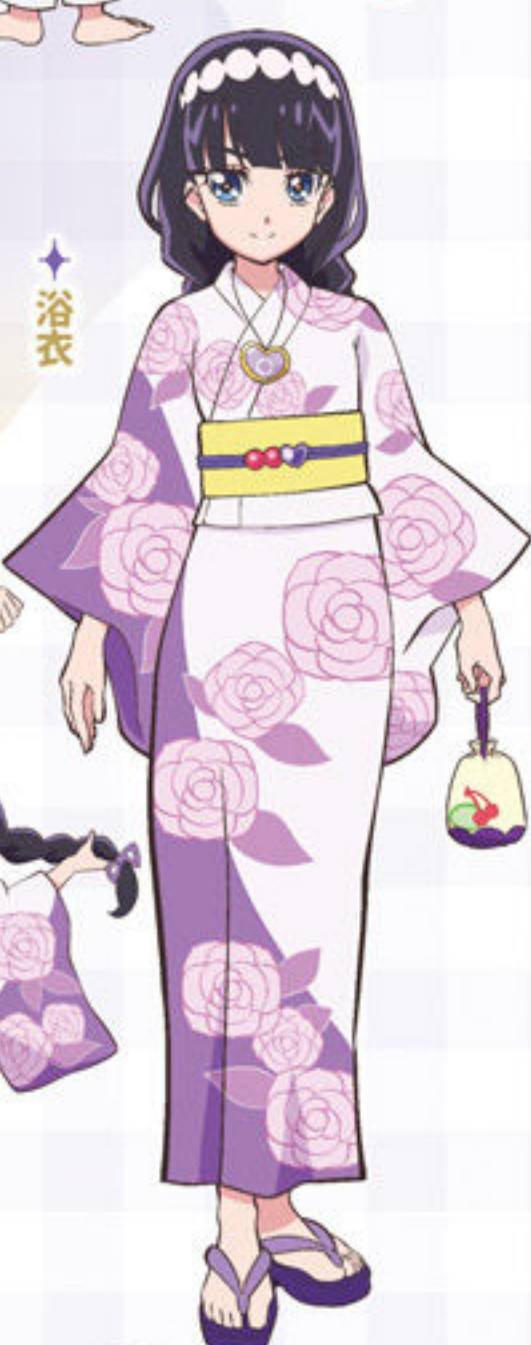
フルーツパーラーKASAIのエプロン

ハロウィン衣装（天使）

浴衣

野球ユニフォーム

フルーツパーラーKASAI

パフェやフルーツポンチが人気のお店。お店の看板が描かれるカラフルなエプロン。

キャンプ着

ドレス

文化祭衣装（吸血鬼）

あまねの家族

両親とふたごの兄、そしてあまねの5人家族。おうちはフルーツパーラーを経営し、ふたりの兄がよく手伝いをしている。

菓彩しゅういち（声／藤井啓輔）

あまねの父。フルーツパーラーKASAIのオーナー。

菓彩ぼたん（声／進藤尚美）

あまねの母。いつも着物姿で、関西弁を話す。

20年前のしゅういち＆ぼたん

ゆいの祖母のよねと知り合いで、ジンジャーとも出会っている。

菓彩ゆあん（声／宮田俊哉［Kis-My-Ft2］）

あまねのふたごの兄の、兄。厳格で硬派。チョコレートケーキが好き。

菓彩みつき（声／宮田俊哉［Kis-My-Ft2］）

あまねのふたごの兄の、弟。優しい。生クリームのケーキが好き。

エナジー妖精

お料理を司る幸せな世界「クッキングダム」からやってきた、食べ物のエナジーを持つ妖精。動物の姿をしている。ゆい、ここね、らんがプリキュアへと変身するときにエナジーを分け、それぞれがペアになった。

みんな大好きコメ！

表情集

エナジー妖精3人のなかでは幼く、表情や仕種はあどけない。

コメコメ

【コネクトル・モチモチット・フックララ・グリコーゲン・コメックス二世】

（声／高森奈津美）

お米のエナジー妖精で、白キツネの姿をした女の子。無邪気で元気。ゆいに憧れ、早くゆいのように大きくなりたいと願う。頭をなでなでされると人の姿に化けることができる。プリキュアのパワーアップに力を貸すなど、エナジー妖精のなかでも特別な存在だ。語尾に「～コメ」とつけしゃべる。

コメコメの先代にあたる、男の子のエナジー妖精。20年前、ジンジャーとともに力を尽くしたのち光につつまれ、二世の誕生へとつながる。

コメコメ一世

【コネクトル・モチモチット・フックララ・グリコーゲン・コメックス一世】

浴衣・少女期

野球ユニフォーム・少女期

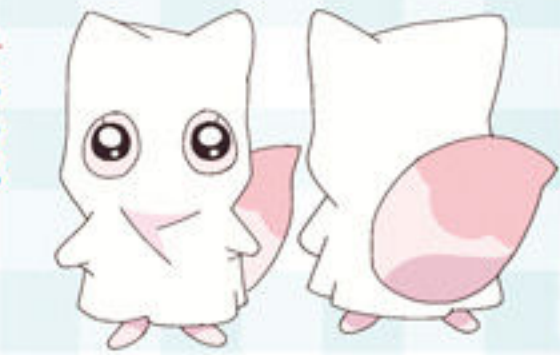
お買い物かご

パムパムみたいにほめられたくて、カレー用のニンジンを買いに初めてのおつかい。

浴衣

コメコメのグッズ＆コスチュームましまし

エプロン

ドレス

ハロウィン衣装

コメコメの能力

化ける

キツネだけに（？）、人の姿に「化ける」ことができる。コメコメ自身が心の成長をむかえると、化けられる姿が大きくなる。

時を超える

▲20年前のおいしーなタウンへ。コメコメはみんなを過去につれていくことができた。これとは別に空間を超えることができる。どちらもやすやすとは使えない能力。

パーティアップ

▶成長したコメコメは、パーティアップスタイルにパワーアップさせる力も発揮

ピーマンこくふくしたコメ

「ゆいだいすき」かけたコメ

ひとりであるけたコメ

【コメコメの化け成長記録】

頭をなでなでしたコメ

頭を自分でなでなでしたら、人の赤ちゃんのような姿に。まだお話はできなかったけど……。

赤ちゃん期

立って、歩いた！「うれちぃコメ」としゃべった！

幼児期

文字を書いた。書いて思いを伝えることを覚えた。

子ども期

ピーマンは苦手だったけど、いろんな経験と調理の工夫で克服できた。

成長期

最終形態。コメコメの力をみんなにシェアできた。

コメコメの力をみんなに！

少女期

ここねと一緒に守りたいパム！

表情集

かわいいもの好きのここねが、ひと目でやられたかわいさ。おませな視線やウインクも。

パムパム

【パートナル・フワフワン・コーパシィヌ・イースト・パムサンド】

（声／日岡なつみ）

パンのエナジー妖精で、イヌの姿をした女の子。人間でいうと4、5歳ぐらい。おしゃまで、ほめられると調子に乗るタイプ。ここねのことが大好き。人間の言葉を話すことができ、まだしゃべれなかったコメコメとゆいたちの通訳をした。語尾に「～パム」とつける。

パムパムの能力

最終話で意外なスキルを初披露！　巨大招き猫をおしゃれに飾ったのだ。おしゃれなここねに憧れて、いっぱい練習した成果だ。

おしゃれにする！

パムパムのコスチュームましまし

✦ドレス

✦浴衣

✦ハロウィン衣装

らんちゃんの思いが僕のハートに火をつけたメン！

メンメン

【メンパーヌ・チュルチュルット・クルクルリン・グルタミンサン・メンドラゴン】

（声／半場友恵）

麺のエナジー妖精で、ドラゴンの姿をした男の子。人間でいうと、パムパムと同じくらいの4、5歳。おっとりとしたのんびりやだが、らんの熱い情熱に感銘を受け、熱血モードになって火を吐くこともある。語尾に「～メン」とつける。

表情集

おとなしくて優しい表情。火を吐くときはとくに凛々しい。

メンメンのコスチュームましまし

✦スーツ

✦はっぴ

✦ハロウィン衣装

ファイヤー！

麺占い

メンメンの能力

強烈な火を吐き、「やきそばマリちゃん」の鉄板を加熱した。麺の残り汁で占う「麺占い」もでき、うどんのレシピッピを探し出した。

プリキュアのアイテム

✦ハートキュアウォッチ

プリキュアの証として現れたスマートウォッチ型多機能アイテム。

✦ハートジューシーミキサー

エナジーをミックスして、光を放つ。

✦クリーミーフルーレ

キュアフィナーレの小技・浄化技のアイテム。

✦ハートフルーツペンダント

キュアフィナーレのアイテムもリボン付きに。

パーティアップVer.

✦ハートキュアウォッチ

リボンがデコレートされてバージョンアップ。ハートにも追加される。

✦ハートフルーツペンダント

あまねが持つプリキュアへの変身アイテム。

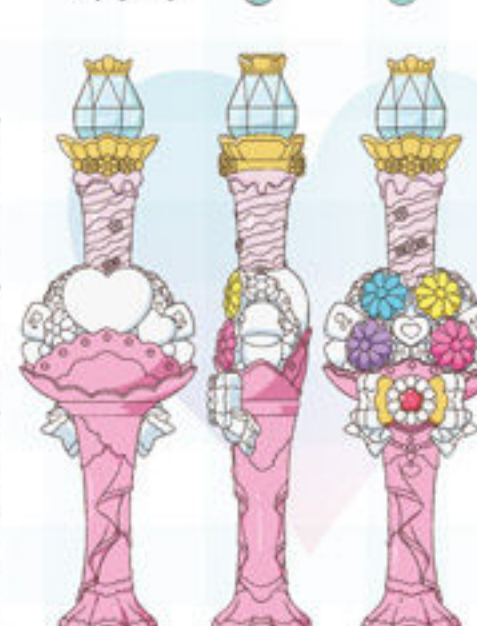
✦パーティグラス

マリちゃんからの贈り物。みんなで集まると、これで乾杯！

✦パーティキャンドルタクト

パーティアップスタイルで4人が使用。

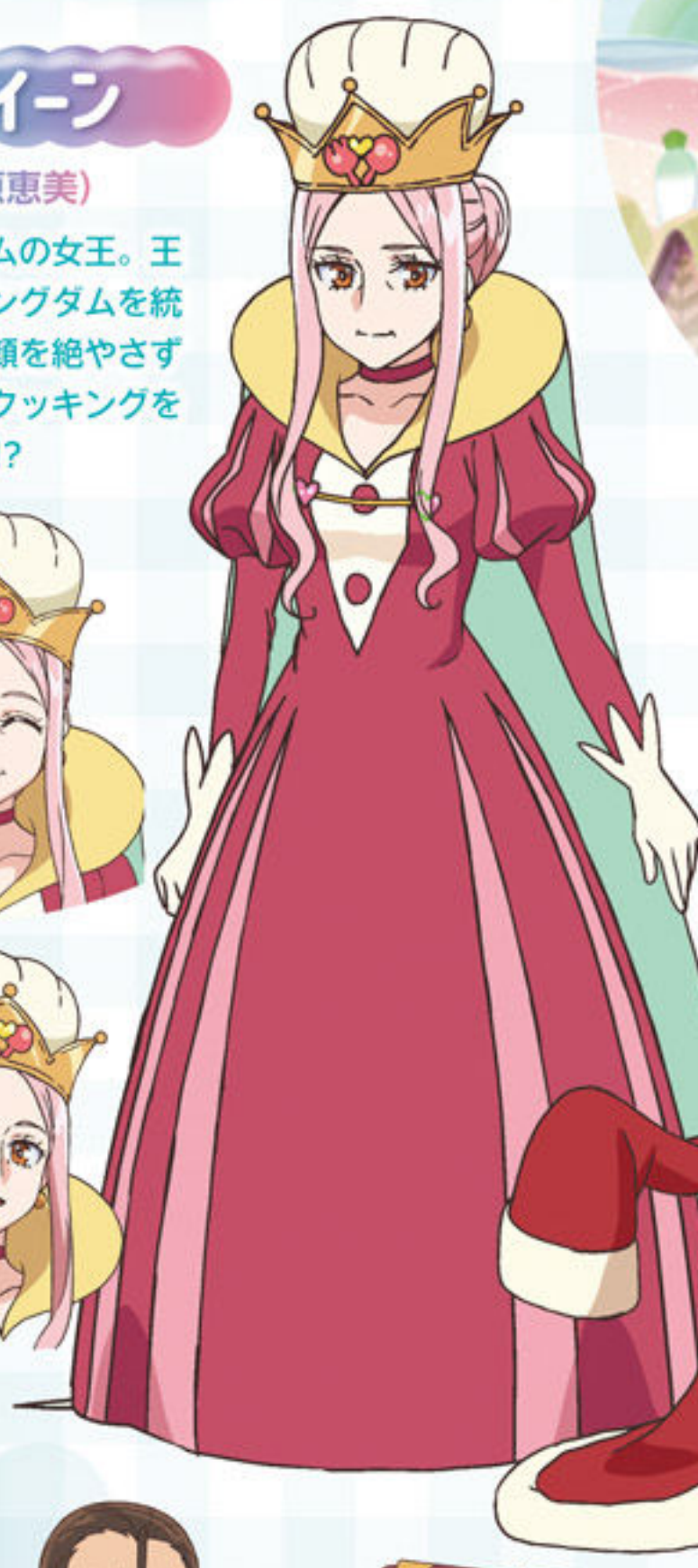
✦パーティアップリング

4人の左手中指に装着されるリング。

CHARACTER COLLECTION 6
ローズマリー
Rosemary
ローズマリー
（声／前野智昭）
クッキングダムのクックファイター。ブンドル団に奪われたレシピボンを探すため、捜索隊隊長としておいしーなタウンにやってきた。美意識が高く、美容に詳しい。ゆいたちは「マリちゃん」と呼ぶ。「〇〇盛り～！」が口ぐせ。
コート
クックファイターの制服。階級が上がるほど裾が長くなるようだ。
エプロン
「屋台メシグランプリ」で着用したおしゃれなエプロン。
表情集
涙もろく情に厚いマリちゃんは表情も豊か。時折、クックファイターの鋭い眼差しも見せる。
マリちゃんのコスチュームましまし
スーツ
ハロウィン衣装（魔法使い）
野球ユニフォーム
はっぴ
青年期
ローズマリー14歳
クックファイターとして、師匠ジンジャーのもとで修行していた3人。
メイクもね♡
◀人付き合いに戸惑う緊張したここねとも、メイクを通して仲よくなった
デリシャスフィールド！
▶マリちゃんが生み出す戦闘用異空間。掛け声とともに、最後は足を高く上げてエビぞるのがフィニッシュの合図
マリちゃんの能力
デリシャスフィールドを張ることができ、おいしーなタウンの人たちが戦闘に巻き込まれずに済んだ。おしゃれスキルも完璧！
マリちゃんのグッズ
キャリーバッグ
クッキングダムから一緒に来たエナジー妖精たちは、このなかに。
スペシャルデリシャストーン
神秘の力を放つデリシャストーンのうち、特別な力を持つ石。マリちゃんとフェンネルのみが所有。

クッキングダムの人々

クックイーン

（声／篠原恵美）

クッキングダムの女王。王とともにクッキングダムを統べる。いつも笑顔を絶やさず優しいが、実はクッキングを尻にしいている!?

クッキング

（声／鈴木琢磨）

クッキングダムの王。レシピボンをブンドル団から取り戻すため、ローズマリーとエナジー妖精を、おいしーなタウンに派遣した。のんきで、お人好し。最後まで、フェンネルを信じて疑わなかった。

衛兵たち お城を守る存在。セクレトルーは衛兵の制服を奪い、変装して城内に潜入した。

フェンネル

（声／三上哲）

クックファイターを統括し、近衛隊長も務める。伝説のクックファイター・ジンジャーの弟子として、ローズマリーやシナモンとともに修行した。20年前に起きたレシピボン盗難事件の犯人はシナモンだが、フェンネルは何か事情を知っている様子。再び起きたレシピボン盗難事件に心を痛めている。

クッキングダムの宝

✦レシピボン

世界中のすべての料理の作り方を記した書物。代々クッキングダムで守られてきたが、過去にも一度、盗まれたことがある。この本にすべてのレシピッピが閉じ込められると、お料理の存在・食材までも失われてしまう。

✦通信機

クッキングダムと、おいしーなタウンのマリちゃんを結ぶ通信機。

クックファイター

クッキングダムの戦士。衛兵とは別の存在で、試験を受けなければなれない。幼いころから修行にはげみ、ステップアップしていく。

セルフィーユ

（声／津田美波）

クックファイター見習いの女の子。志は高いが怖がりで、何度も試験に落第。ゆいたちと出会い、前に進む勇気をもらう。

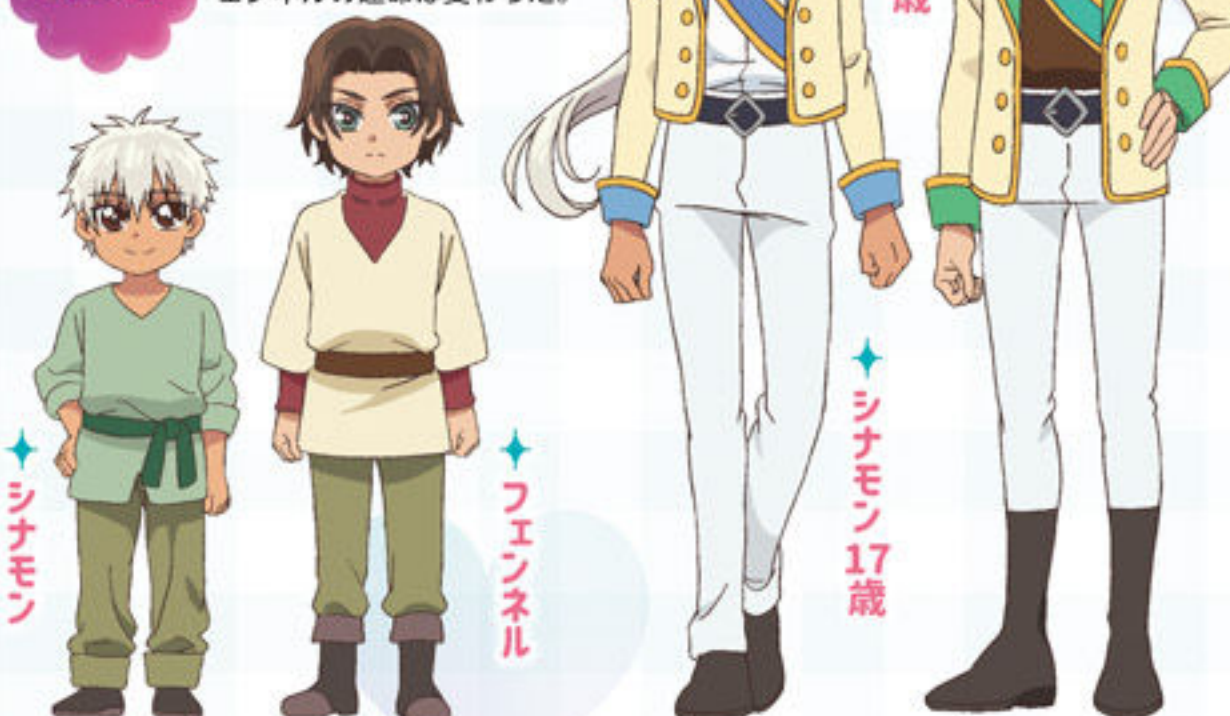
ジンジャー

（声／安原義人）

最高位のクックファイター「クックファイター・グランデ」の称号を持つ。ネコのかぶりものの下の素顔は誰も知らない。ローズマリーやフェンネルたちの師匠で、すでに亡くなっている。20年前、おいしーなタウンに現れ、ゆいの祖母よねたちと交流があった。

ジンジャーの弟子たち

かつてクッキングダムで、ジンジャーがクックファイターとして教えていた弟子たち。20年前に起きた過去のレシピボン盗難事件の背景にはこの3人の関係があった。

幼少期 師匠が幼いシナモンを弟子として連れてきたことで、フェンネルの運命は変わった。

✦シナモン　✦フェンネル　✦フェンネル21歳　✦シナモン17歳

レシピッピ

（声／島袋美由利、河村梨恵、長谷川育美）

レシピッピとは……

お料理に宿る妖精。「いただきます」「おいしい」などに含まれる「ありがとう」の気持ちが生む「ほかほかハート」が大好き。和・洋・中・デザートごとに分けて、おいしーなタウンによく出没するレシピッピたちをご紹介。

★レシピッピの名称表記の基本形式は「○○（料理名）のレシピッピ」です。
【例】おむすびのレシピッピ

表情集

「ピー！」としか言わないが、豊かな表情で感情を表す。

おいし～なタウンのレシピッピ

中華系

らんが大好きなお料理は、ラーメンのほかにもチャーハン、餃子、しゅうまいなどなど定番ぞろい！

▲中華ストリート
▲チャーハン　▲かにたま　▲えびしゅうまい　▼ギョーザ　▼はるまき　◀ちゅうかどん　▶ラーメン
▼ぱんだ軒 華満

◀華満家が営む「ぱんだ軒」には、ほかほかハートが充満している！

和食系

ゆいの大好きなおむすび、おすしなどのごはんものをはじめ、煮物、揚げ物などのおそうざい系。

▲おすし　▲和食ストリート

▼からあげ　▲てんぷら　▲なごみ亭

▼しらすどん　▼カレーライス　▲おむすび　▼街のごはん屋さん　▲にくじゃが

▲肉じゃがは和食の煮込み料理の代表メニューだ

デザート系

デザートといえばあまねの家のパフェだが、和風の甘味処で提供するかき氷や水無月も！

▲はごろも堂
▲かきごおり　▲さくらもち　▲しらたまだんご

▼ソフトクリーム　▲みなづき　▲フルーツポンチ　▼フルーツパーラー KASAI

▲パフェ
▲フルーツパーラー KASAIにも、ほかほかハート！

洋食系

ここねが大好きなパンや洋食系にも、さまざまな種類のレシピッピがいる。

▲オムライス　▲洋食ストリート
▼カレーパン　▲ハートパン　▲ハートベーカリー
▼ピーマンのにくづめ　▼ハンバーグ　▼サンドイッチ　▼レストラン・デュ・ラク
▼ローストチキン
▲ローストチキンは「レストラン・デュ・ラク」の人気メニュー

世界のお料理のレシピッピ

第１話でシャッター街と化した、他国のお料理のお店たち。このときすでに一部のレシピッピは捕獲されていたのだ。

▲ブリトー　▼タコス　▲ナチョス　▶シュラスコ
▲ウガリ　▼バーベキュー　▲タジンなべ　▶ケバブ　◀マンダジ

レシピッピはおいしいイベントが大好き！

飲食街のお店だけでなく、おいしいイベントがあればほかほかハートはあふれ、さまざまなレシピッピが自由に姿を現すのだった。

▲ショートケーキ

✦誕生日

あまねの双子の兄の誕生日には、ケーキのレシピッピが２匹！

▶チョコケーキ

✦文化祭

ナルシストルー"先生"も「おいしい」と感じたリンゴあめ。

▲リンゴあめ

✦ハロウィン

ハロウィンといえば、かぼちゃ系レシピッピ！

▲パンプキンパイ

✦グルメロケ

グルメインフルエンサーのオススメは杏仁豆腐。

◀あんにんどうふ

✦すすれ！ちゅるちゅるフェスティバル

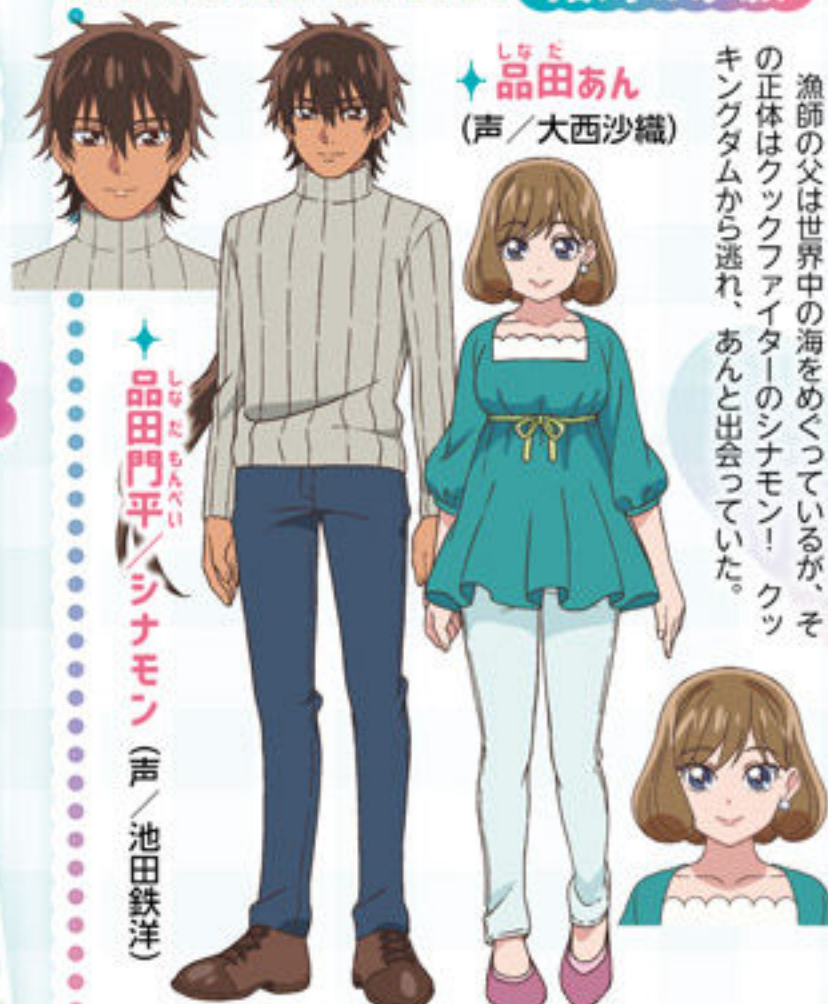
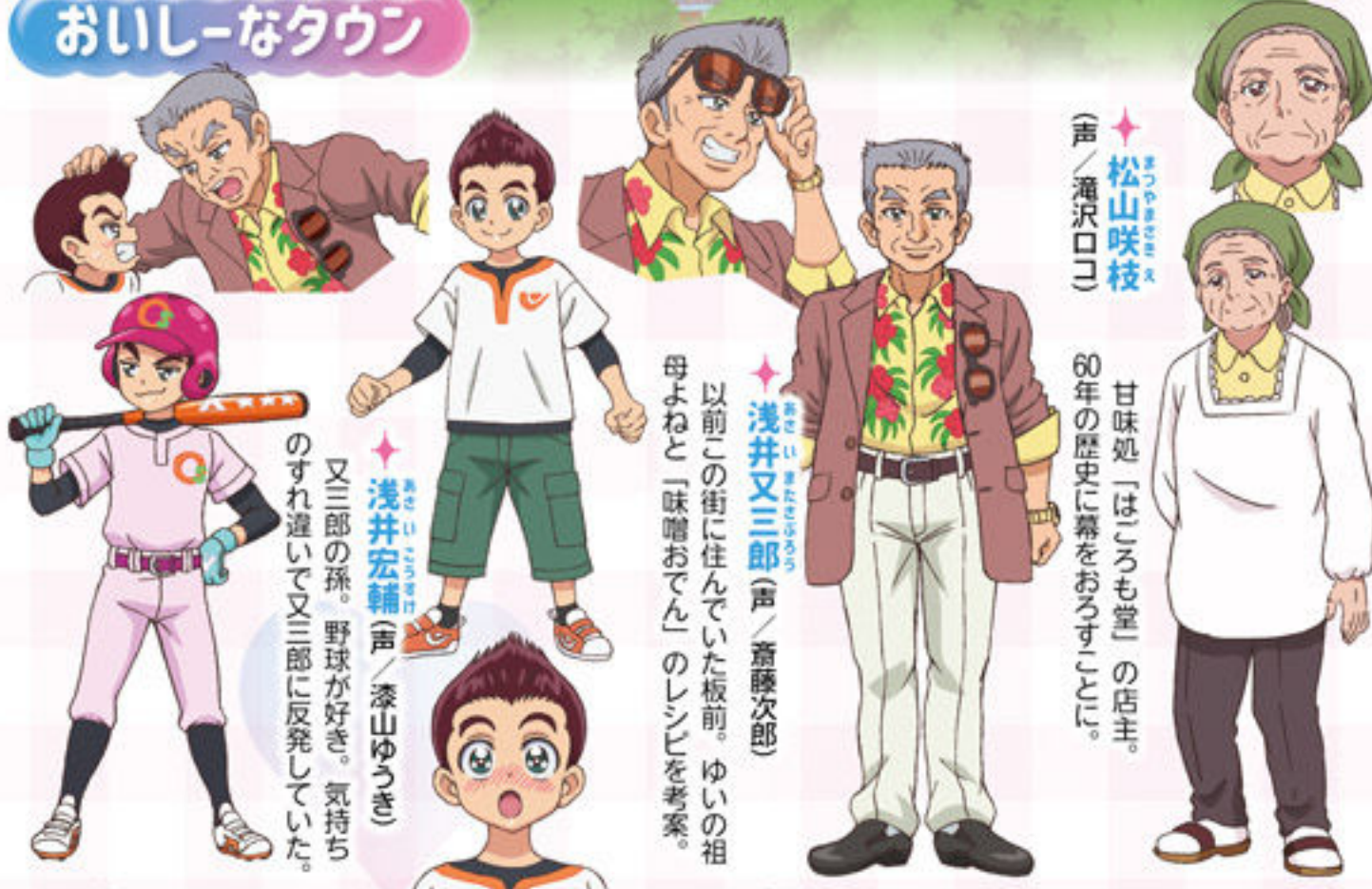
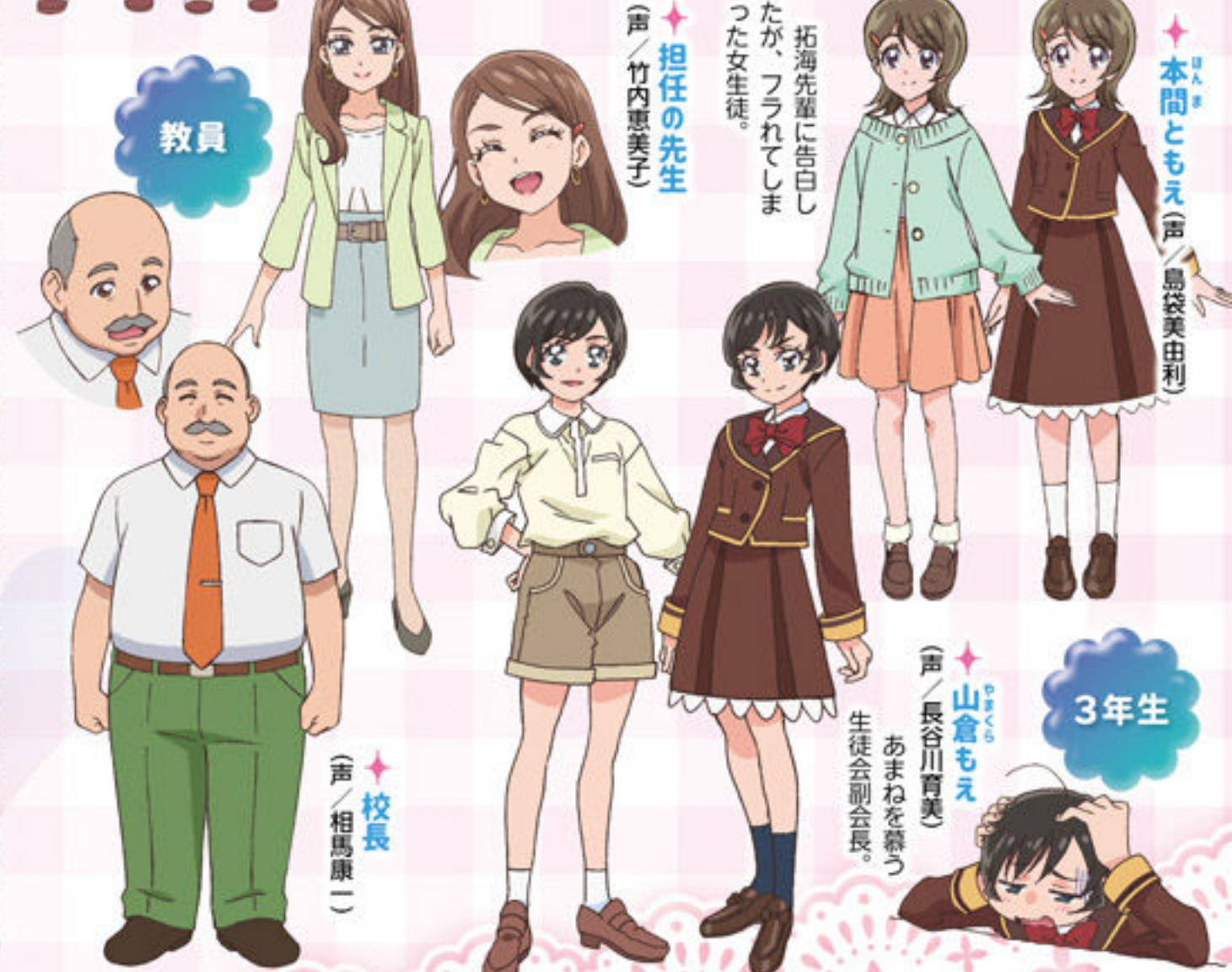
和洋中、麺と名の付くヌードル系レシピッピが大集結。

▼ラーメン　▼うどん　◀そば　◀ミートソースパスタ　▲そうめん

✦屋台メシグランプリ

海鮮やきそば vs マリちゃんのやきそば。２匹のレシピッピが激突!?

▲やきそば　▲かいせんやきそば

CHARACTER COLLECTION 9
品田拓海／ブラックペッパー
品田拓海／ブラックペッパー
（声／内田雄馬）
ゆいの幼なじみの中学3年生。ぶっきらぼうだがなんだかんだ面倒みがよい。ゆいに恋心をいだく。ゆいからは「拓海」と呼び捨てにされている。胡椒が好き。父の門平にデリシャストーンを託され、謎の戦士ブラックペッパーとしても活躍。
表情集
拓海
無愛想で近づきがたい印象さえあるが、ゆいが絡むと真っ赤になってあたふたすることも。純情だ。
ブラックペッパー
マスクで目元を隠しているが、口許の動きも大きく、表情豊かに見える。
冬制服
制服
▶上着なし
▶上着あり
冬私服
夏制服
エプロン
夏私服
拓海のコスチュームましまし
文化祭衣装（侍）
野球ユニフォーム
タキシード
拓海のグッズ
デリシャストーン
ブラックペッパーに変身後は、石を帽子に装着。
宝石箱
拓海がブラペになれるデリシャストーン。普段は箱にしまっている。
拓海の能力
なんといってもブラックペッパーに変身すること。もうひとりのプリキュアのような活躍を見せた。またケーキ作りは、ゆいも認める腕前。
料理！
変身
変身！
ブラックペッパー！
技
◀▼プリキュアとともに戦う。格闘技や光弾など戦士としての能力は高い。第40話では変身シーンも
ペッパーミル・スピンキック！
拓海の家族
品田あん
（声／大西沙織）
漁師の父は世界中の海をめぐっているが、その正体はクックファイターのシナモン！　クッキングダムから逃れ、あんと出会っていた。
品田門平／シナモン
（声／池田鉄洋）

おいしーなタウンの人々

ゲストキャラクター

おいしーなタウンで出会った人たちもご紹介。「おいしい」がいっぱいの街には、グルメインフルエンサーや海外からのお客様もやってきた。

怪盗ブンドル団

世界中の料理を独り占めにしようともくろむ一味。すべてのレシピッピを捕獲して、レシピボンを完成させようとしている。

ジェントルー

（声／茅野愛衣）

プリキュアの前に最初に現れたブンドル団のメンバー。怪盗ブンドル団であることに誇りを持ち、言動はジェントル。レシピッピを手荒に奪うことを嫌う。その正体は、心を操られてしまった菓彩あまねだった。

✦菓彩あまね
心を操られてしまい、ブンドル団だったときは、あまねの姿をしていても瞳の色は赤い。

表情集

グッズ＆能力

✦捕獲箱
レシピッピをこのなかに入れ、その力でウバウゾーを出現させる。

ウバウゾー召喚

レシピッピ捕獲後にウバウゾーを召喚。自分の力を入れ込んだ強化型も召喚できる。

レシピッピのブンドり方

「ブンブンドルドル」の声で箱から紫色のオーラが噴出。レシピッピを捕獲する。

ジェントルーはおいしい味を奪って、味を変えてしまう！

✦キュアスタで情報収集
ジェントルーはキュアスタを見て、レシピッピのいそうな場所を見つけていた。

ナルシストルー

（声／阪口周平）

自称「天才」「超絶イケメン」。キザでおおげさ。美意識が高いナルシスト。人が苦しむのを見て喜ぶが、ナルシストルー自身、食べ物にまつわる苦い思い出を持っていた。発明が得意で、レシピッピ捕獲箱やスピリットルーなどを開発している。

表情集

グッズ＆能力

✦発明！
ブンドル団全員のレシピッピ捕獲箱を開発。改良を加え、強化型ウバウゾーも召喚可能。

✦レシピッピ捕縛箱

✦強化レシピッピ捕縛箱

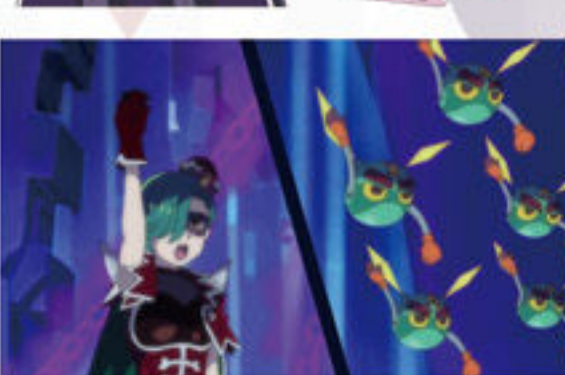
モットウバウゾー召喚

レシピッピ捕獲箱を改良し、モットウバウゾーを召喚することに成功。

レシピッピのブンドり方

掛け声とともに捕獲箱から緑色のオーラが噴出し、レシピッピを捕獲。

✦ミニスピリットルー
小さいスピリットルーたち。大量に存在する。

ナルシストルーは楽しく食事する人々がおもしろくなく、お料理にまつわる思い出も奪う。

ナルシストルーは食べ物の思い出を奪う！

モットウバウゾー召喚

くっつくでごわす！
モットウバウゾー！

調理道具に工具をくっつけることで、強力なモットウバウゾーを生み出す。

レシピッピのブンドり方

ドンドン、トルトル、ブンドル～

掛け声とともに胸部中央にレシピッピ捕獲箱が出現。緑色のオーラが出て捕獲する。

スピリットルーは料理をブロックに変える！

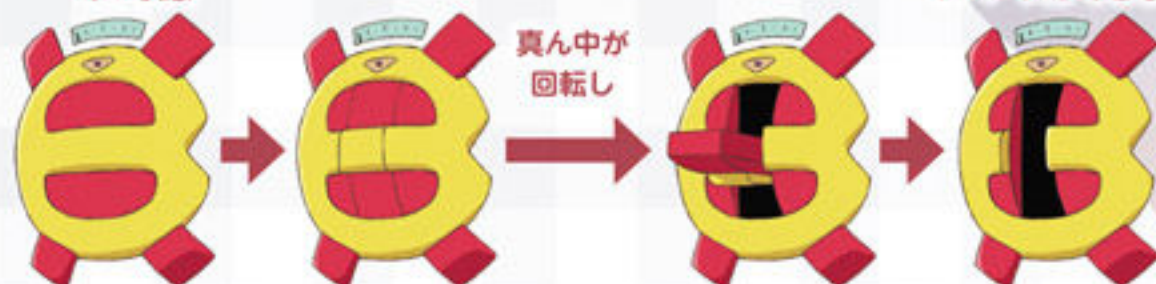
表情集

スピリットルー

（声／かぬか光明）

ナルシストルーが開発したロボット。ブンドル団が作ったスペシャルデリシャストーンの力で動き、食事は不要なものと思っている。激励するのは好きで、キャンプ場で荷物を運ぶここねたちを励ました。語尾に「～ごわす」とつけて話す。

グッズ＆能力

✦強化捕獲箱モード
レシピッピ捕獲箱は内蔵されていて、捕獲するときは胸の表面に出てくる。

✦応援！
召喚したウバウゾーを応援するのが好きらしく、楽しそうに舞い踊る。

✦胸のギミック
レシピッピ捕獲箱は、右の順番で胸元にセットされる。

捕獲箱がない状態 → 真ん中が回転し → 捕獲箱をはめるスペースができる

✦包帯姿
マリちゃんやシナモンを相手に戦い、傷つき、はつこたちに介抱された。

ブンドルー ブンドルー！

✦せーの！
出撃する団員たちに気合を入れて、追い立てるのも大事な仕事だった。

表情集

グッズ＆能力

✦データ管理用タブレット
アジトでほかの団員の動向やレシピッピ捕獲状況を管理。

✦衛兵に変装
アジトにいることが多かったが、自らクッキングダムに潜入する行動力も。

ゴッソリウバウゾー召喚

働きなさい
ゴッソリウバウゾー！

さらに強化された捕獲箱で奪ったレシピッピの力で、大型のゴッソリウバウゾーを出現させる。

レシピッピのブンドり方

ゼンブルゼンブルブンドルー

「ゼンブル」と全部を望むよくばりな掛け声をかけ、赤いオーラでレシピッピを捕獲。

セクレトルー

（声／木下紗華）

団長ゴーダッツの秘書的役割もになう怪盗。「～てゆーか」に続けて、グチや本音が表に出てしまっている。お料理がへたでつらい思いをした過去があるが、おいしいものは好きで、ここねの母を「神の舌様」と尊敬していた。

✦回想のセクレトルー
卵もうまく割れない……恋人と別れたのは、お料理が苦手なことがきっかけだった!?

セクレトルーはお料理の存在そのものを奪う！

ゴッソリウバウゾー召喚
奪い尽くせ
ゴッソリウバウゾー！
ゴーダッツはおむすびのレシピッピを捕獲し、一度だけ自らゴッソリウバウゾーを召喚。
表情集
温厚で落ちついた印象のフェンネルの表情が、憎悪剥き出しに変化。
ゴーダッツのモニター
顔が映る猫のようなモニターから、セクレトルーらに指令を出していた。
フェンネル
巨大化！
師匠を超えるため、ゴーダッツは自ら再現したスペシャルデリシャストーンの力で変貌！
レシピッピ捕獲箱
ほかの団員と異なり、ツノの形がついたゴーダッツ仕様の捕獲箱。
ゴーダッツ
（声／三上哲）
ブンドル団の団長。当初はアジトで声のみが聞こえるだけだったが、正体はクッキングダムの近衛隊長フェンネルだった。師匠ジンジャーの後継者を自認していたが、シナモンにその座を奪われ、嫉妬心の果てに20年をかけてクッキングダムと世界を独占しようとしていた。
グッズ＆能力
さらに怪物化!!
ジンジャーへの愛憎入り交じった無念の思いは、巨大ゴーダッツをさらに怪物化させていく。
クッキングダムで反省中の3人
ゴーダッツはプリキュアに浄化され、レシピッピも解放された。大罪をおかしたブンドル団は、クッキングダムで反省の機会を与えられることになった。
フェンネル
セクレトルー
ナルシストルー

ゴッソリウバウゾー　モットウバウゾー　強化ウバウゾー

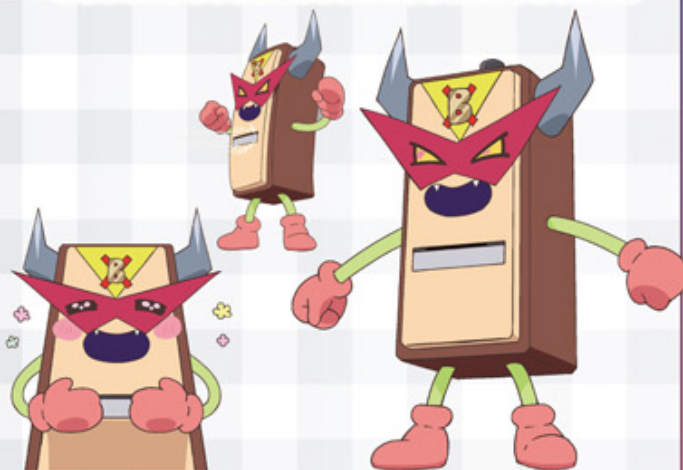
ウバウゾー

ブンドル団がプリキュアに対抗して出現させる怪物。レシピッピを奪った捕獲箱からの力と調理に関係する道具などを合わせ誕生する。複数の段階にグレードアップ！

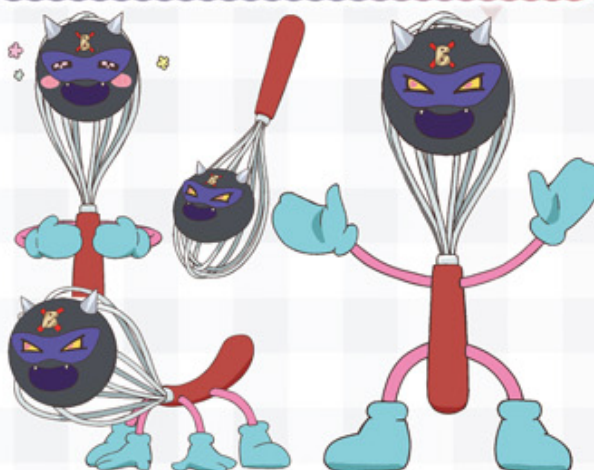
強化ウバウゾー

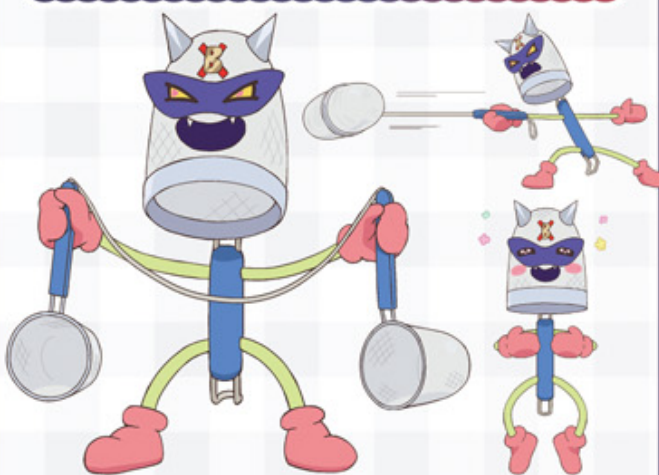
レシピッピの捕獲箱に、ブンドル団の団員が自らの力も注ぎ、戦闘力を強化したウバウゾー。外見的にはウバウゾーの目元のマスクは大きくなり、色が青から赤へ。

フライパン・強化ウバウゾー（第10話）

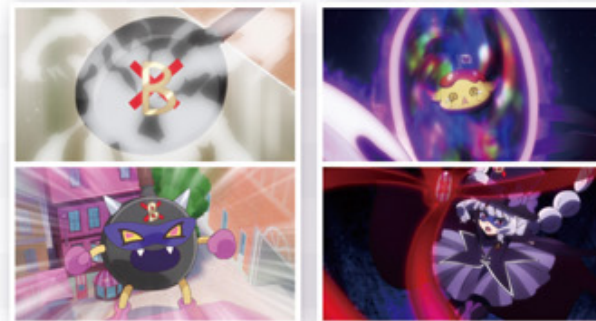
ポテトマッシャー・強化ウバウゾー（第11話）

鰹節削り器・強化ウバウゾー（第12話）

みじん切り器・強化ウバウゾー（第12話）

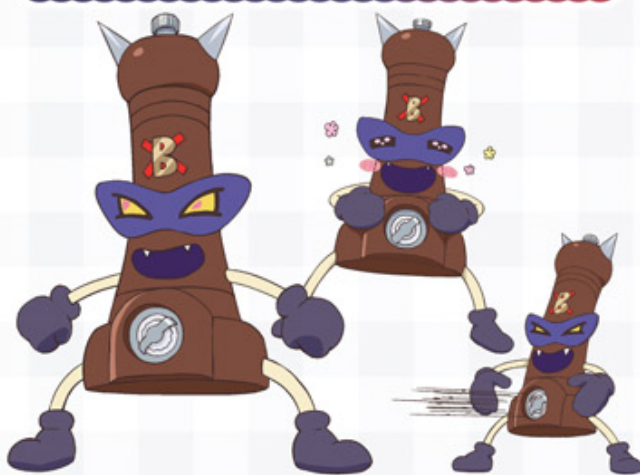
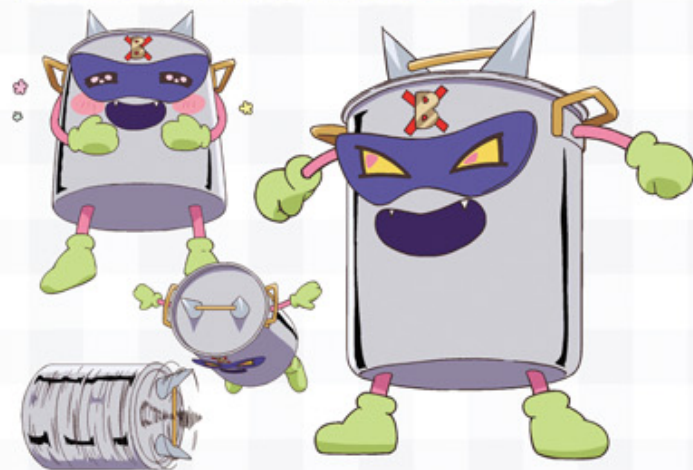
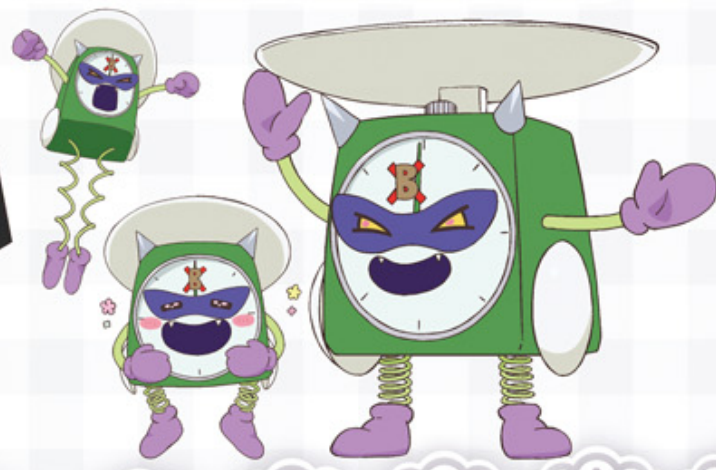
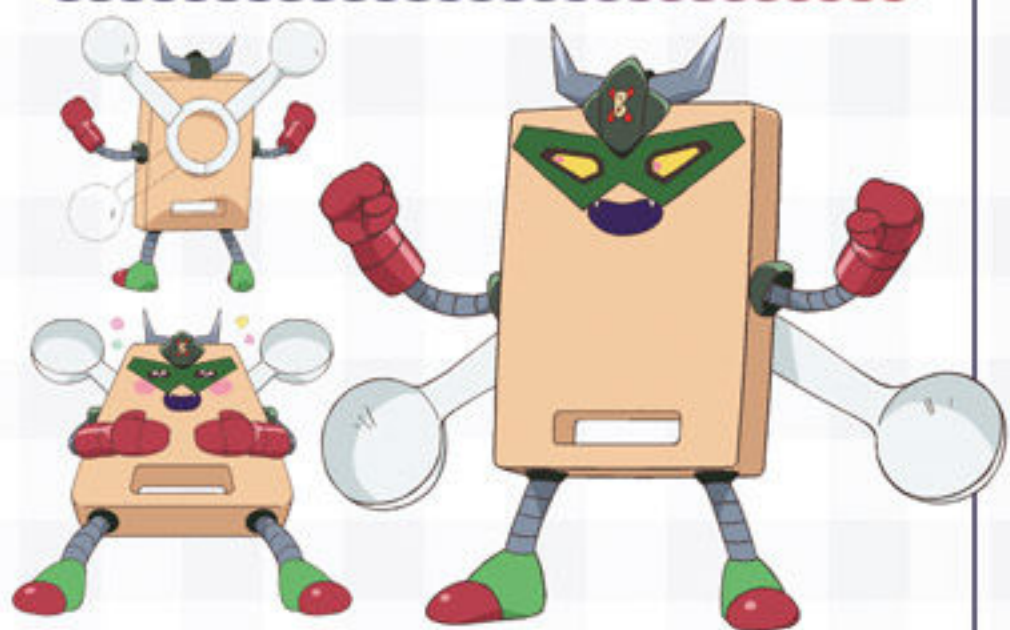
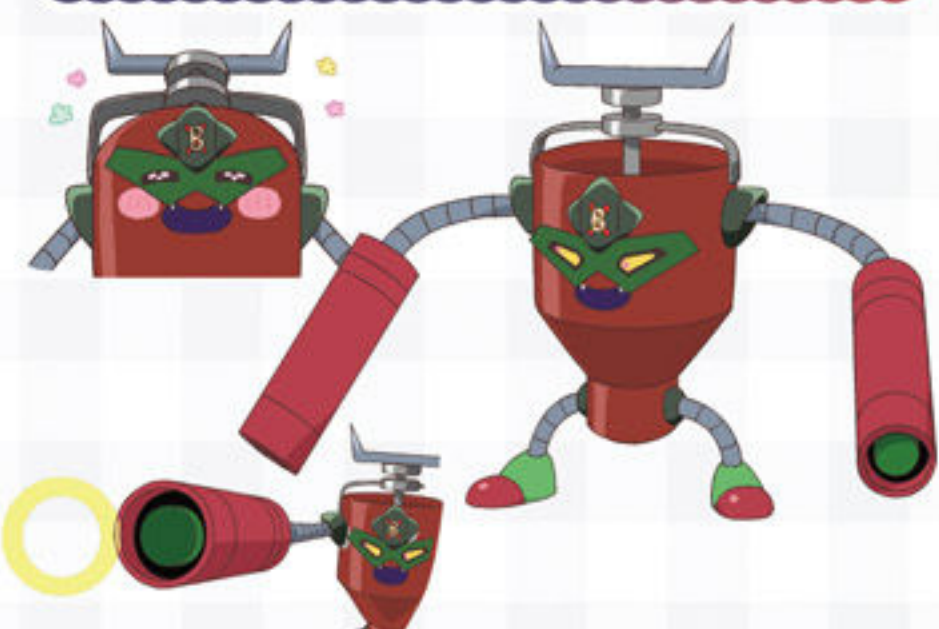
泡立て器・ウバウゾー（第5話）

野菜水切り器・ウバウゾー（第6話）

振りザル・ウバウゾー（第7話）

フライ返し・ウバウゾー（第8話）

たこ焼き器・ウバウゾー（第9話）

ウバウゾー

レシピッピを捕獲箱に確保し、その捕獲箱の力と調理器具を合わせることで誕生。おもにジェントルーが召喚していた。

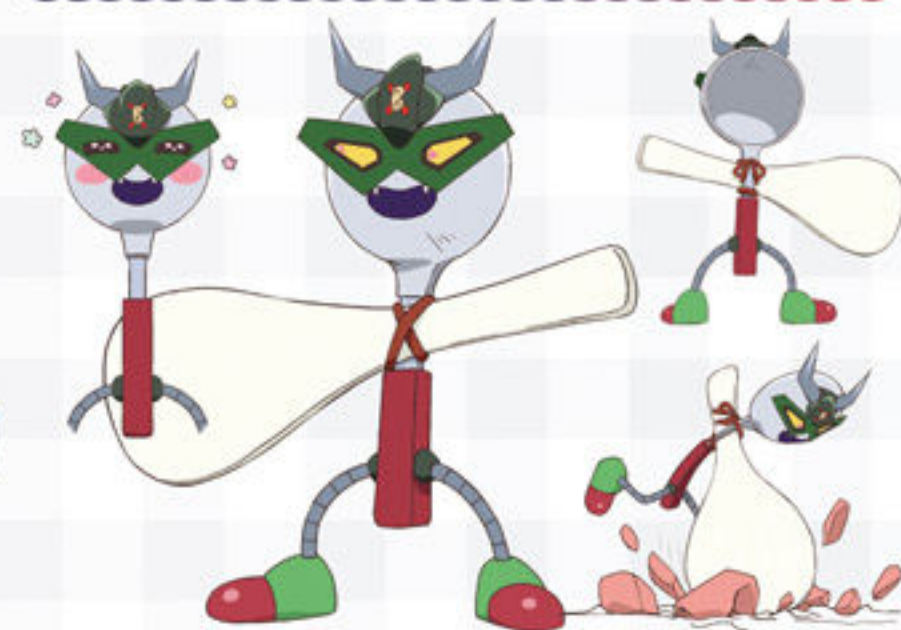
フライパン・ウバウゾー（第1話）

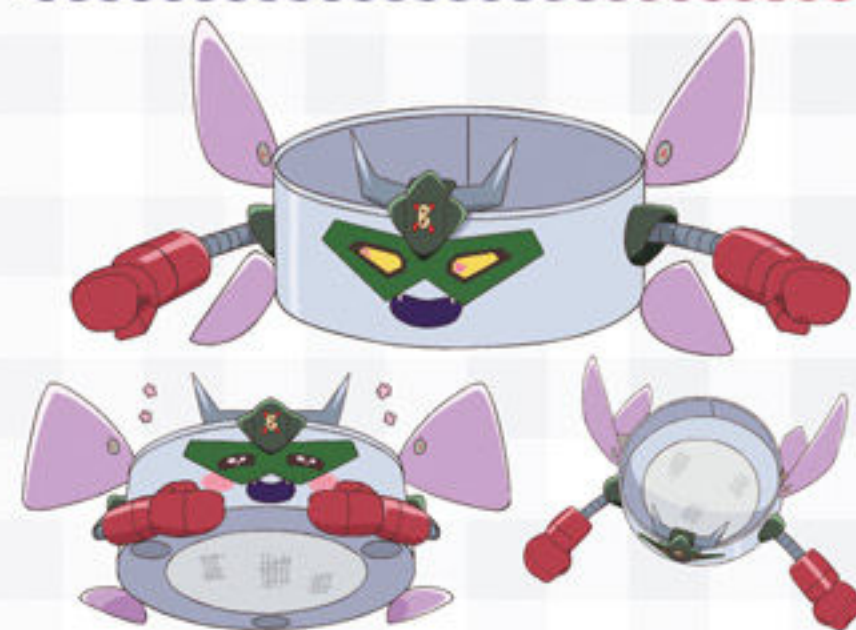
ペッパーミル・ウバウゾー（第2話）

寸胴鍋・ウバウゾー（第3話）

計量器・ウバウゾー（第4話）

計量スプーン＆まな板(長方形)・モットウバウゾー(第22話)

ドーナツの成形器＆めん棒・モットウバウゾー(第23話)

ピザ窯＆ピザパドル・モットウバウゾー(第24話)

ダッチオーブン＆モンキーレンチ・モットウバウゾー(第25話)

中華鍋＆ドリル・モットウバウゾー(第26話)

両手鍋＆バネ・モットウバウゾー(第27話)

しゃもじ＆おたま・モットウバウゾー(第17話)

寸胴鍋＆泡立て器・モットウバウゾー(第18話)

粉ふるい＆スクレーパー・モットウバウゾー(第19話)

ソムリエコルク抜き＆ボウル・モットウバウゾー(第20話)

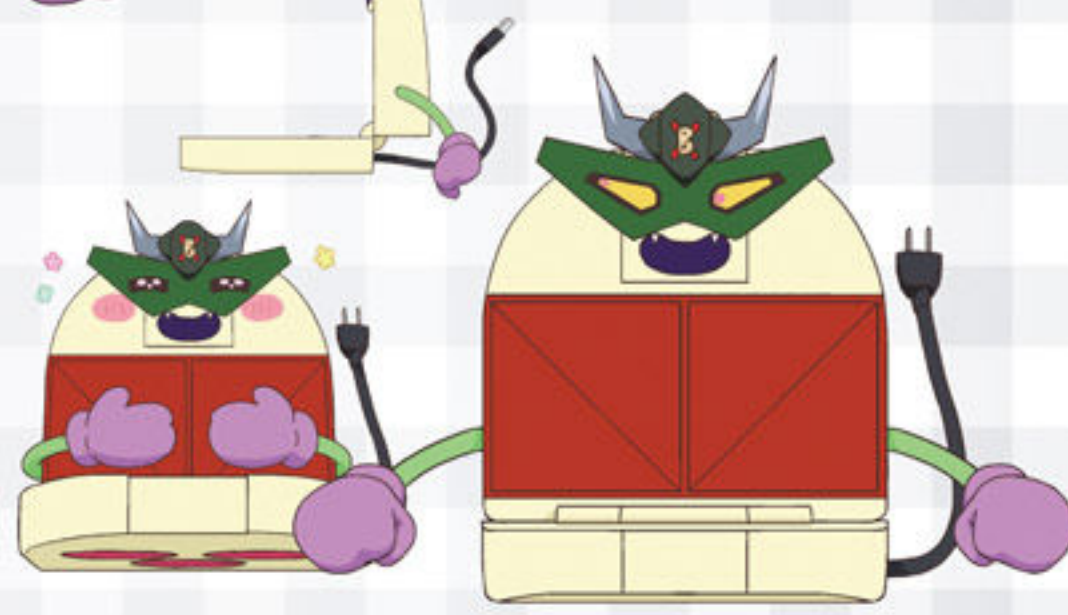
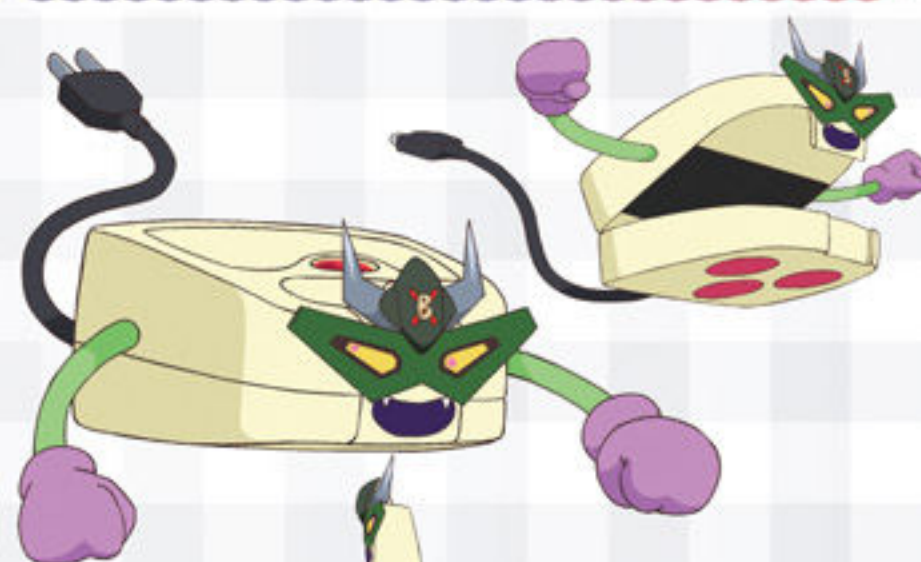
かき氷器＆和菓子の型抜き・モットウバウゾー(第21話)

計量スプーン＆まな板(丸型)・モットウバウゾー(第22話)

モットウバウゾー

　レシピッピの捕獲箱を強化し、さらに戦闘力がアップ。マスクは緑色に。電気調理器具から生み出すものと、「しゃもじ＆おたま」など、ふたつの道具を合体させるパターンがある。

電子レンジ・モットウバウゾー(第13話)

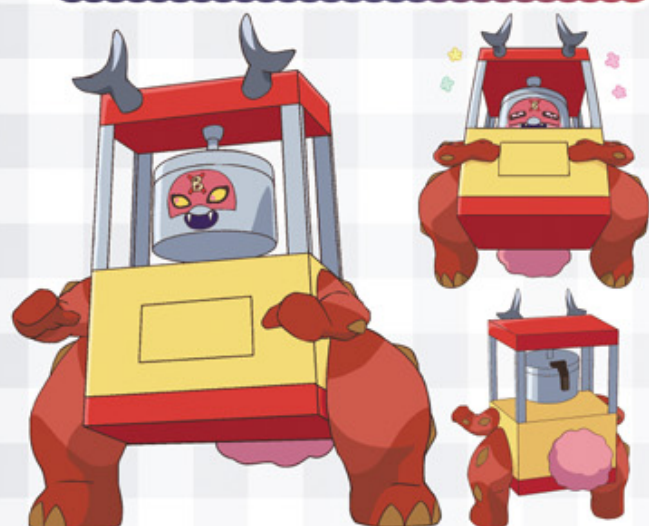
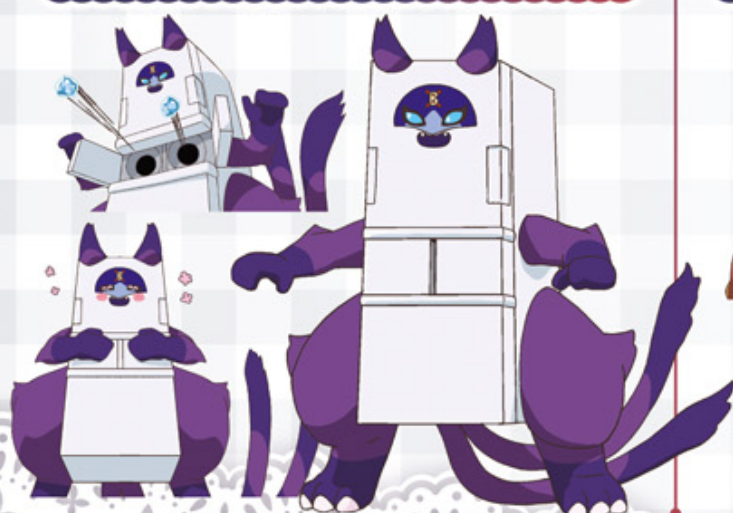
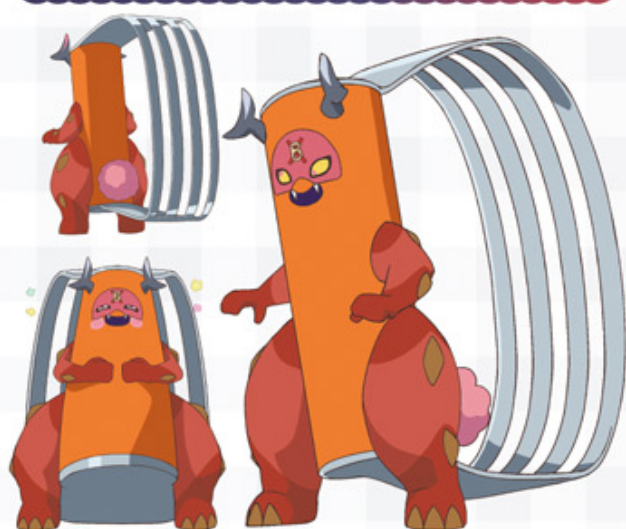
ホットサンドメーカー・モットウバウゾー(第14話)

コーヒーメーカー・モットウバウゾー(第15話)

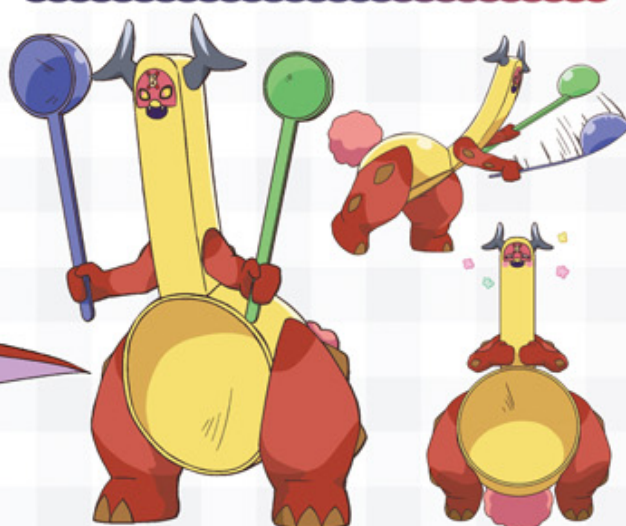
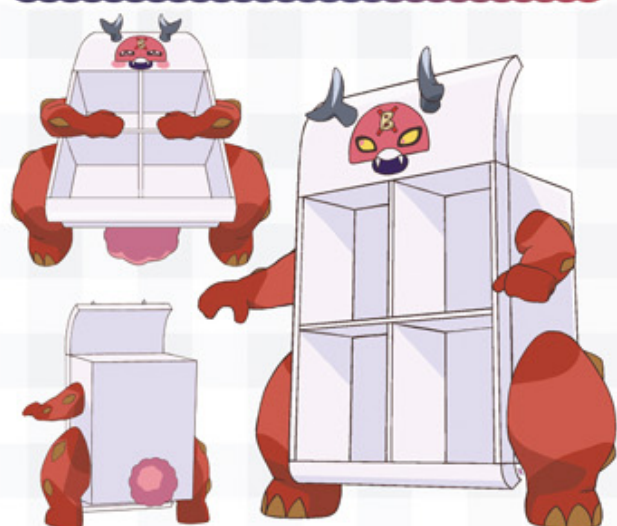
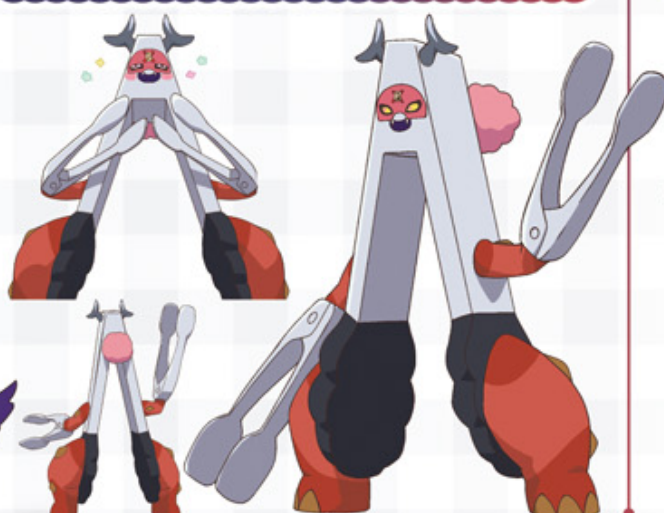
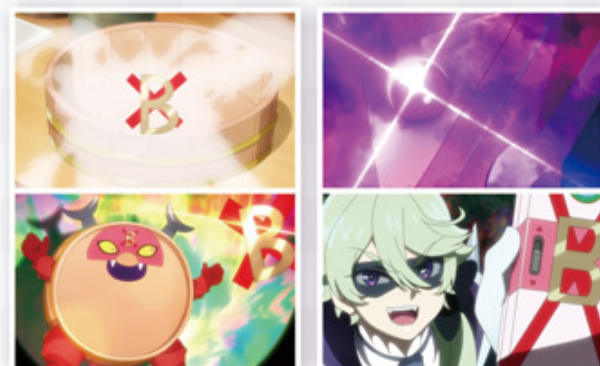
圧力鍋・モットウバウゾー(第16話)

七輪・ゴッソリウバウゾー（第38話）

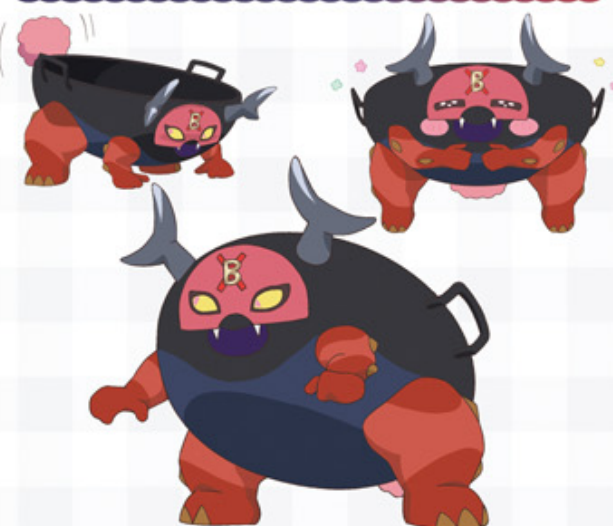
ゆで卵メーカー・ゴッソリウバウゾー（第39話）

取手付き粉ふるい・ゴッソリウバウゾー（第40話）

ポップコーンメーカー・ゴッソリウバウゾー（第41話）

冷蔵庫・ゴッソリウバウゾー（第42話）

パイブレンダー・ゴッソリウバウゾー（第33話）

おでん鍋・ゴッソリウバウゾー（第34話）

計量スプーン・ゴッソリウバウゾー（第35話）

杏仁豆腐容器・ゴッソリウバウゾー（第36話）

トング・ゴッソリウバウゾー（第37話）

ゴッソリウバウゾー

ブンドル団のスペシャルデリシャストーンでさらに強大化！マスクは形も変化し、ツノはこれまでにない形に。プリキュアひとりの技では太刀打ちできないほどにパワーアップした。

寿司桶・ゴッソリウバウゾー（第28話）

中華鍋・ゴッソリウバウゾー（第29話）

ソースボトル・ゴッソリウバウゾー（第30話）

にんにくつぶし器・ゴッソリウバウゾー（第32話）

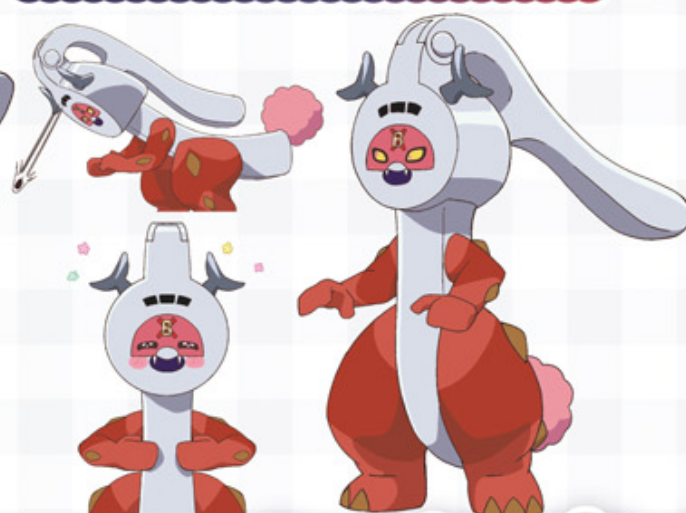



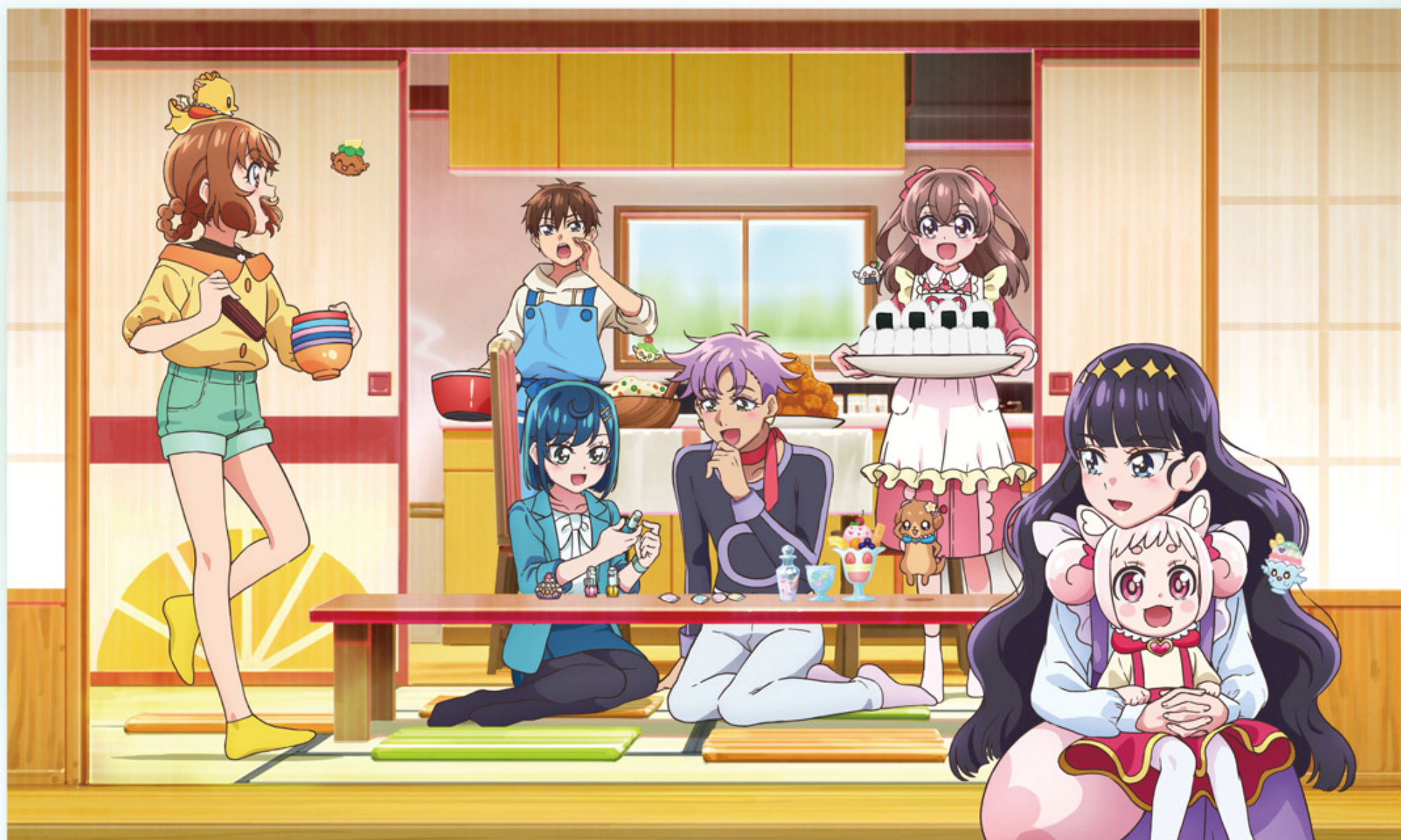
ILLUSTRATION GALLERY（イラストレーション ギャラリー）

PART1

『デリシャスパーティ♡プリキュア』で使用されたキービジュアルや
スチールなどが集合。食べることを思い切り楽しむゆいたちが印象的だ。

✦初出／メインビジュアル　原画／油布京子

✦初出／前期変身前スチール　原画／油布京子

✦初出／前期変身後スチール　原画／油布京子

✦初出／後期変身前スチール　原画／油布京子

✦初出／デリシャスパーティ♡プリキュア
オフィシャルコンプリートブック　原画／油布京子

✦初出／後期変身後スチール　原画／油布京子

デリシャスマイル〜！なエピソードをプレイバック STORY GUIDE ストーリーガイド

第1話〜第45話

おいしいお料理と人々の笑顔を守るため、お料理に宿る妖精・レシピッピを狙う怪盗ブンドル団に立ち向かったデリシャスパーティ♡プリキュア。その活躍を一挙に振り返る！

▲食べることが大好きなゆいは、祖母から教えられた「ごはんは笑顔」という言葉を大切にしている　◀空腹のコメコメにおむすびをあげるゆい。さらにローズマリーを自宅の定食屋さん「なごみ亭」へ招き、ごはんをごちそうする

第1話 ごはんは笑顔♡ 変身！キュアプレシャス

お料理を大切に思う心から生まれた伝説の戦士・プリキュア！

　おいしーなタウンで暮らす和実ゆいは、ある日、クッキングダムからやってきたローズマリーとエナジー妖精のコメコメに出会い、お料理に宿る妖精・レシピッピの存在について教えてもらう。その後、ゆいが幼なじみの品田拓海と一緒にオムライスを食べていると、そこにレシピッピを狙う怪盗ブンドル団のジェントルーが現れ、オムライスのレシピッピを強奪し、ウバウゾーという怪物を出現させる。ローズマリーがウバウゾーに立ち向かおうとする姿を見たゆいは、レシピッピを助けるためともに戦うことを決意。コメコメの力を分けてもらいキュアプレシャスに変身すると、ウバウゾーを浄化し、オムライスのレシピッピを助け出した。

▲レシピッピが奪われると、そのお料理の味が変わってしまった　◀ジェントルーが生み出したフライパン・ウバウゾー　▶ローズマリーの呼びかけに応じてキュアプレシャスに変身したゆいは、プリキュア！　プレシャス・トライアングル！でウバウゾーを浄化

第2話 さようなら、ゆい…！ マリちゃんの決意

ゆいを巻き込みたくないローズマリー　その心を動かすゆいの言葉とは？

　捕らわれたレシピッピを救うためにもブンドル団に奪われた「レシピボン」を取り戻さなければならない——それを知ったゆいは、ローズマリーの代わりにブンドル団と戦うことを約束。だが、ローズマリーはこれ以上ゆいを巻き込みたくなく、彼女の前から姿を消してしまう。そんなとき、再びジェントルーが出現。ローズマリーはひとりでウバウゾーに立ち向かおうとするが、そこに駆けつけたゆいは「この世で一番強いのは誰かのためにがんばる心」という祖母の言葉を口にし、改めてプリキュアとして戦う決意を表明。その言葉に心を動かされたローズマリーは彼女とともに活動する決心をし、ふたりは力を合わせてウバウゾーを浄化した。

▲フライパン・ウバウゾーとの戦いでデリシャストーンが壊れ、ローズマリーは戦えなくなった　▶拓海のおうちが営むゲストハウスに泊まることになったローズマリー。だが、ゆいが訪ねるとそこには別れの手紙が……

▲ローズマリーは友情の印として、パーティグラスをゆいにプレゼントした　▶キュアプレシャスの力強い言葉はローズマリーの心を動かした。ローズマリーの戦略とキュアプレシャスのパワーで、ふたりはウバウゾーを浄化

第3話 コメコメのおつかい！ まいごで大騒動!!

大好きなゆいを喜ばせたい コメコメがひとりで奮闘する！

クッキングダムからローズマリーが連れてきたエナジー妖精のパムパムが目を覚ました。パムパムはよく話し、知識も豊富で、ゆいやローズマリーは感心しきり。その様子を見たコメコメは自分もゆいの役に立ちたいと、ゆいには内緒でおつかいに出かける。途中、偶然出会った芙羽ここねの力も借りながら買い物を成し遂げたコメコメだが、帰り道で迷ってしまった。ときを同じくして、ジェントルーがレシピッピを奪っていた。拓海のおかげでなんとか再会することができたゆいとコメコメは、すぐにキュアプレシャスに変身し、レシピッピを救出。その晩、ゆいやローズマリーがカレーを作っていると、なんとコメコメが人の姿に化ける！

▲ゆいが書いたメモを持って、晩ごはんのカレーに使うニンジンを買いに出かけたコメコメ　▶コメコメがいないことに気づき、街じゅうを探していたゆい。再会後、がんばっておつかいをしてくれたコメコメに感謝を伝える

▲パムパムによると、コメコメが人の姿に化けることができるのは特別なエナジー妖精だからだそう　▶ウバウゾーやデリシャスフィールドを目撃したここね。驚いて動けない彼女をキュアプレシャスは家まで送り届ける

第4話 ふくらむ、この想い…キュアスパイシー誕生！

新たな仲間は高嶺の花!? パンをシェアしてつながる絆！

新学期、ここねと同じクラスになったゆい。ここねはクラスメイトに高嶺の花と思われ距離がある様子だったが、ゆいは迷子の子うさぎを一緒に救出したことをきっかけにここねと距離を縮める。その日の放課後、ふたりがハートベーカリーでパンを食べていると、ジェントルーがレシピッピを奪ってしまった。ローズマリーはレシピッピを助けるためにデリシャスフィールドを展開。そのとき、ここねも一緒にフィールドのなかへ。パムパムから状況を聞いたここねがキュアプレシャスと一緒に大切な場所を守りたいと強く願うと、彼女はパムパムと力をシェアしてキュアスパイシーに変身！　キュアプレシャスと力を合わせてウバウゾーを浄化した。

▶頭脳明晰なクールビューティで、スタイルも抜群なここねは、周囲から憧れの視線を送られがち。それゆえにひとりで行動することが多かったが、ゆいとパンをシェアしたことで、友達と一緒に何かをすることの喜びを知る

▲騒動後、ゆいとここねはカレーパンを半分こにして一緒に味わった　▶ここねの思いがパムパムの思いと共鳴し、新たなプリキュア・キュアスパイシーが誕生。プリキュア！スパイシー・サークル！でウバウゾーを浄化した

第5話 なかよくなりたいのに…！ ここね、初めてのおともだち！

ゆいたちと仲よくなりたいが 焦ってしまうここねの心

これまでひとりで行動することが多かったここねは、友達との接し方がよくわからない。ゆい、ここね、ローズマリーの3人でお出かけをした際には、ここねはやる気が空回り。それがそっけなく見えてしまい、ローズマリーは「ここねは私のことが苦手なのよ」と誤解してしまう。ゆいやローズマリーに嫌われたくないここねは、ウバウゾーと対峙したときにも焦りからピンチに陥る。だが、キュアプレシャスとローズマリーは「失敗したくらいで嫌いになるわけない」と彼女を激励。ふたりの言葉で前向きになれたキュアスパイシーは、ウバウゾーを浄化した。その後、ローズマリーとここねはパーティグラスとリップを贈り合い、友情を育んだ。

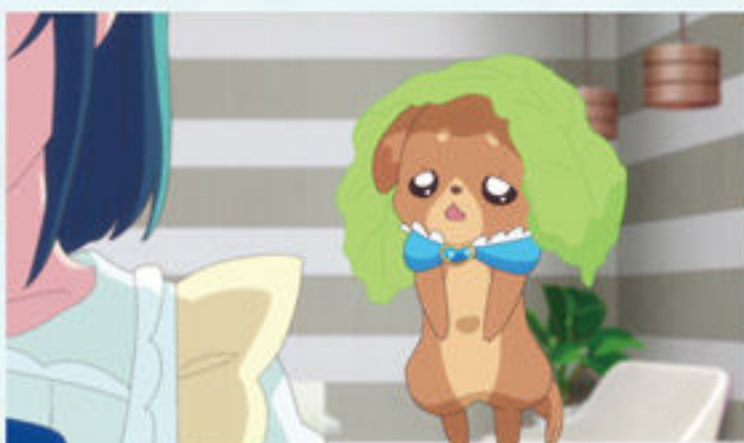
▲プリティホリックでおしゃれ知識を披露するが、のちに「好きなものを押し付けてしまったのでは」という不安に駆られるここね　▶ゆいのおうちで一緒に野菜スープを作った際に、ここねはニンジンの皮を剥きすぎてしまう

▲ここねはリップのつけ方をゆいにレクチャー。彼女なりの方法で絆を強めていく　▶キュアプレシャスやローズマリーは、キュアスパイシーのいいところを挙げ、失敗をすることがあっても彼女は十分素敵なのだと伝える

第6話 学校！怪物！大パニック!? ねらわれたエビフライ！

パムパムが起こした怪物騒動で ここねはクラスメイトと友達に!?

ゆいとは仲よくなったものの、ほかのクラスメイトとはまだ打ち解けていないここね。パムパムはそんな彼女を心配して学校についていくが、家庭科室に姿を隠したところを一般生徒に目撃され、「家庭科室にヤカンの怪物が出る」といううわさが学校中に流れてしまった。真相を知らないゆいとここねは、ブンドル団を警戒して怪物について調査を開始。すると、食堂のエビフライを狙うジェントルーに遭遇した。ここねはジェントルーの攻撃から逃げようとして用具入れに閉じ込められたクラスメイトを救出すると、ゆいとともにプリキュアに変身してウバウゾーを浄化。騒動の解決後、ここねはクラスメイトと距離を縮めることができた。

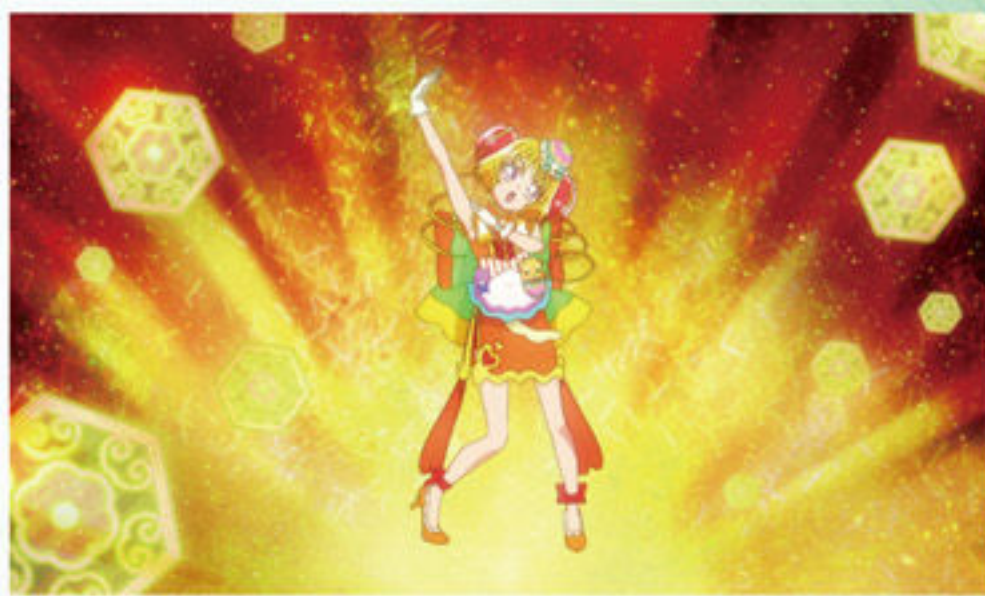
▲朝、ハートキュアウォッチで通信しながら一緒に作ったロールパンサンドを味わうゆいとここね。ここねは生ハムメロンも作ってきた　▶怪物のうわさを収めるため、生徒会長の菓彩あまねは校内のパトロールを行うことに

▲▶クラスメイトはここねに憧れるあまり、彼女を「芙羽さま」と呼ぶなど距離があった。だが、ここねの「同じ釜のごはんを食べた友達」という言葉をきっかけに、騒動後には一緒にゴミ捨てじゃんけんをする仲に

第7話 強火の情熱！ きらめいてキュアヤムヤム!!

ラーメンへの熱い情熱で 心がつながるらんとメンメン

SNS・キュアスタで「ちゅるりん」というアカウントがレシピッピについて投稿しているのを発見したゆいたち。ちゅるりんのことを調べるため、目覚めたばかりのエナジー妖精・メンメンとともに、投稿されていたラーメン屋さん「ぱんだ軒」を訪れると、そこはクラスメイトの華満らんのおうちだった。ゆいたちからレシピッピのことを聞いたらんは、より多くのレシピッピに会うために半額サービスを実施。だが、ジェントルーが集まってきたレシピッピを盗んでしまった。らんが「うちの味を返して！」と訴えると、その情熱にメンメンも心打たれて共鳴し、キュアヤムヤムが誕生！　プリキュアは3人で協力してレシピッピを救出した。

▲ラーメン好きのらんとメンメンは出会ってすぐに意気投合　▶ぱんだ軒のラーメンは華満一家の汗と涙の結晶。それをジェントルーに「客は安さに釣られただけ。味など気にしない」と嘲笑され、らんは怒りに燃える

▲ちゅるりんの正体はらんだった！　ゆいたちはハートキュアウォッチで記念撮影　▶熱血モードのメンメンから力を分けてもらい、らんはキュアヤムヤムに。プリキュア！ ヤムヤム・ラインズ！でウバウゾーを浄化する

第8話 ちゅるりん卒業!? おでかけ！おいしーなタウン

キュアスタをやめる？ やめない？ らんが見つけたもうひとつの選択肢

みんなでおいしーなタウン街歩きツアーに繰り出したゆい、ここね、らんたち。しかし、なぜからんは様子がおかしい。なんと彼女は、自分の投稿がブンドル団に利用されていたことに責任を感じて、キュアスタをやめたのだと言う。そんななか、以前にらんがキュアスタで紹介したハンバーガー屋さんにジェントルーが現れたという知らせが届く。ウバウゾーを浄化したゆいたちは、そのまま店でハンバーガーをテイクアウトすることにする。そのときらんは、キュアスタにお持ち帰り情報を投稿すれば、レシピッピが1か所に集まらないためブンドル団に悪用されないとひらめいた！　モヤモヤが晴れたらんは、いつもの元気を取り戻した。

▲街歩きを楽しむ一同。それがうらやましくてついてきたローズマリーも、その後に合流した　▶らんはキュアスタをやめることに相当モヤモヤしている様子。ゆいたちは無理をしないほうがいいのではいかと助言する

▲プリキュアに敗れたジェントルーがマスクを外すと、生徒会長のあまねに……!?　▶攻撃を跳ね返すウバウゾーにプリキュアは苦戦を強いられるが、キュアヤムヤムが機転を利かせて相手の動きを拘束することに成功！

第9話 かみ合わないふたり？ ここねとらんの合わせ味噌！

考え方や意見が違うからこそ友情はより味わい深いものになる

キュアスタのアイコンを何にするかで、ここねとらんが対立。そのことを気にしたらんは「今度からここぴーの話をちゃんと聞く！」と意気込み、同じくここねも「お友達なら意見を合わせなきゃ」と決意するが、ゆいたちがふたりのために計画したたこ焼きパーティで、ここねとらんはまたしてもすれ違ってしまう。ウバウゾーが現れても、なんだか息が合わないふたり。だが、そのときキュアプレシャスが、「違う味が仲よくなれば、味噌も人もうまみが増す」という祖母が語った合わせ味噌のコツを思い出す。その言葉をきっかけに気持ちがうまくかみ合ったキュアスパイシーとキュアヤムヤム。ふたりは思ったことを言い合えるいい友達になった。

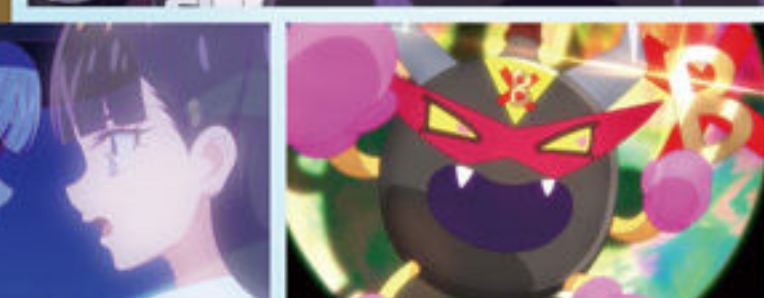
▲らんもローズマリーからパーティグラスをもらい、ゆいたちは「これからみんなで力を合わせてがんばろう」と乾杯　▶互いに思い合うからこそ気を遣いすぎるここねとらん。無理に相手に合わせようとして疲弊してしまう

▶「対策を考えればいい方法が見つかる」というキュアスパイシーの言葉をヒントに、活路を開いたキュアヤムヤム。その後キュアスパイシーが、キュアヤムヤムを参考にして思い切り重視に戦い、ウバウゾーを拘束する

第10話 泣かないでレシピッピ… 誕生！ハートジューシーミキサー

いままで助けたレシピッピたちがプリキュアに新たな力を授ける！

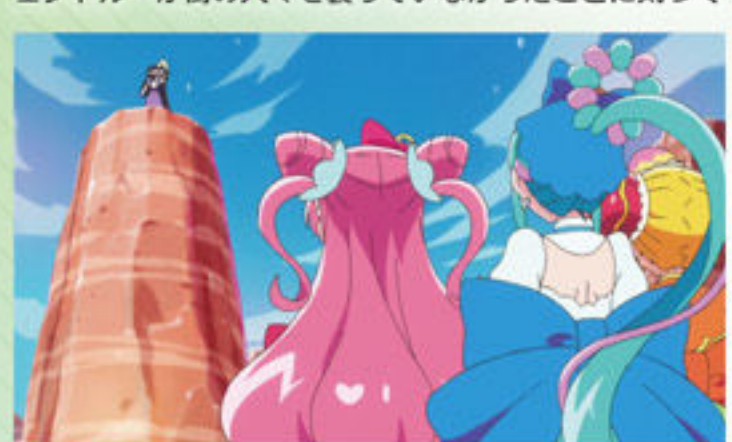
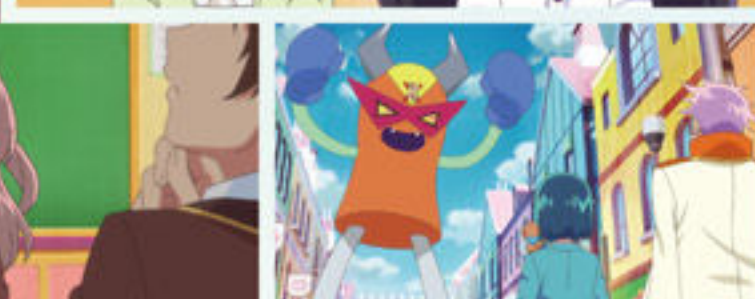
コメコメが人の姿に化けて歩けるようになった。その成長を喜びながらゆいたちがオムライス屋さんで食事をしていると、店に集まっていたレシピッピがジェントルーに奪われてしまう。しかも、今回のウバウゾーはいつもより強力。失敗続きのジェントルーが仲間のナルシストルーから、より強いウバウゾーの作り方を教えられていたのだ。プリキュアは苦戦を強いられるが、ハートキュアウォッチに映し出されるレシピッピの涙を見て「絶対に助ける！」と決意。その思いにいままで助けたレシピッピたちが呼応し、新たなアイテム「ハートジューシーミキサー」が出現！　キュアプレシャスは新しい力でウバウゾーを浄化し、レシピッピを救出した。

▲オムライス屋さんで居合わせたあまねに話しかけるゆい。だがあまねは冷たく突き放す　▶レシピッピが苦しむ姿を見たジェントルーのなかにあまねの本当の心が……。あまねはジェントルーを止めようとするが……？

▲敗れたジェントルーは「すまない……レシピッピを傷つけて……」という言葉を残して姿を消した　▶ハートジューシーミキサーで新たな技のプリキュア！ デリシャスプレシャス・ヒート！を放つキュアプレシャス

第11話 ジェントルーの罠！ ゆいとらん、テストで大ピンチ!?

あらわになるジェントルーの素顔！本当の彼女はいい人？　悪い人？

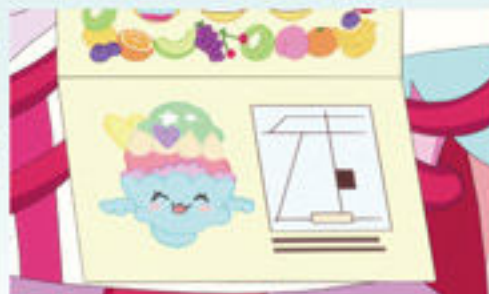
学校で突然、実力テストが行われ、勉強が苦手なゆいとらんは落第点を取ってしまった。だがそれは、ふたりを補習で足止めし、その間にレシピッピを狙おうとするジェントルー＝あまねの策略だった。放課後、ゆいとらんが補習の課題に取り組んでいると、街にジェントルーが出現。ここねはひとりでウバウゾーとの戦いを引き受け、ローズマリーがジェントルーを追跡する。ゆいとらんは急いで課題を終わらせ、キュアスパイシーたちと合流し、ウバウゾーを浄化。追い詰めたジェントルーにキュアプレシャスは「本当はこんなことしたくないんじゃないの？」と問いかけるが、ジェントルーは気持ちを昂ぶらせ、その素顔をあらわにする！

▲ここねは90点でテストをパスしたが、ゆいとらんは40点の合格ラインに届かず涙目に　▶課題を拓海に手伝ってもらったゆいは、拓海の言葉から、これまで一度もジェントルーが街の人々を襲っていなかったことに気づく

▲あまねは一瞬本当の心を取り戻すが、その直後、ナルシストルーによって連れ去られてしまった……　▶キュアヤムヤムの攻撃でジェントルーのマスクが破損。その下から現れたあまねの姿に、プリキュアは衝撃を受ける

第12話 小さじ一杯の希望！ジェントルーの本当の心

ほんのわずかな望みに賭けてジェントルーと直接対決！

ジェントルーの正体は、ブンドル団に心を操られてしまったあまねだった。それを知ったゆいはあまねを助けたいと思う。だが、再びゆいたちの前に姿を現したジェントルーは、ブンドル団の団長であるゴーダッツによってより強く操られてしまっており、本当の心は見えなくなっていた。このままでは確実にあまねの心は消えてしまう……。彼女を助けるため、わずかな希望に賭けてジェントルーと対話を試みるゆいたち。ゴーダッツはなおもジェントルーを支配下に置こうと、ウバウゾーを強化してプリキュアにけしかけるが、あまねへの強い思いを持ったプリキュアはウバウゾーを浄化。あまねはブンドル団から解放されるのだった。

▲ジェントルーに何度も「あなたと友達になりたい」と呼びかけるキュアプレシャス。あまねのレシピッピに対する愛を確信するがゆえの行動だった　▶一瞬現れた本当のあまねは、本心から「私を止めて……」と言う

▲プリキュアがウバウゾーを浄化すると、あまねの瞳の色が変化。ゴーダッツの操作から解放された証拠だ　▶ハートジューシーミキサーを使った３人技であるプリキュア！ MIXハート アタック！でウバウゾーを浄化

第13話 うばわれた思い出を守れ！明かされる拓海のヒミツ

思い出を狙う新たな敵が登場！拓海が握りしめる石の正体は？

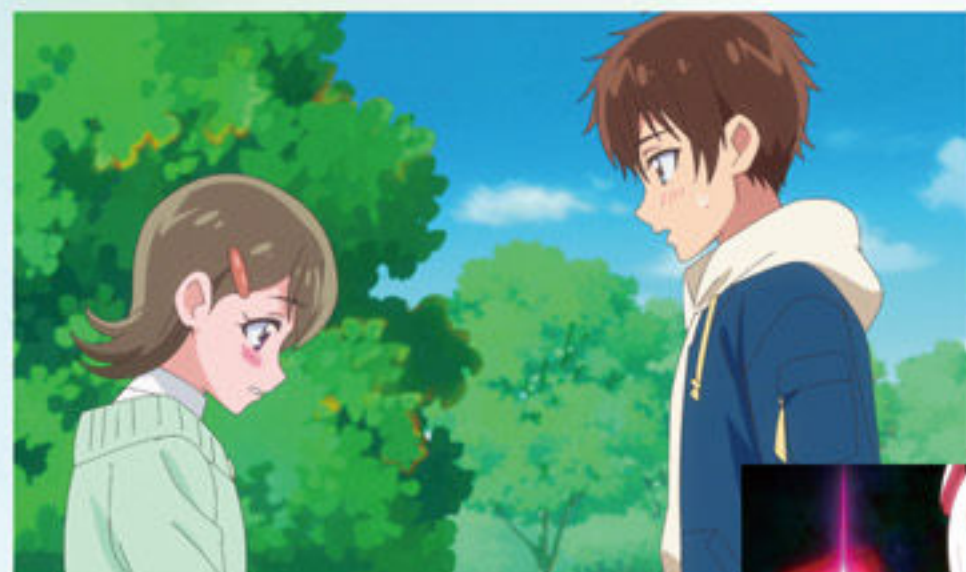
ゴーダッツから解放されたあまねは、しばらく学校を休んでいた。一方、プリキュアの戦いを目撃した拓海は、ゆいのことが気になっていた。彼は1年前、父・門平が持つデリシャストーンを見たことがあり、同様のものを持つローズマリーがゆいをそそのかして怪物退治をさせているのではと疑っていたのだ。門平に話を聞こうにも、なかなかその機会を持てない拓海。そんなとき、拓海の母・あんが、門平との思い出が詰まるしらす丼のことを突然忘れてしまう。ナルシストルーがレシピッピとともにお料理にまつわる思い出を奪ったからだった。ゆいたちはプリキュアに変身し思い出を取り戻す。その様子を見た拓海は、ある決意を固める——。

▲右がゆいの父・和実ひかるで左が拓海の父・品田門平。ふたりは漁師で、世界中を航海している。この日は和実家と品田家合同のリモート通話を実施　▶拓海は１年前にデリシャストーンを父から託されていた

▲ゆいが自分の意志で戦っていることを知った拓海は、「だったら俺は、おまえの笑顔を守る」と心に誓う　▶キュアプレシャスがピンチに陥りそうになったとき、なぜか岩が崩れ、モットウバウゾーの動きを止めた

第14話 初恋ってどんな味？恋するキモチと拓海のこたえ

ナルシストルーに追い詰められるプリキュアの前に謎の少年が登場!?

拓海が後輩の本間ともえから告白される現場を目撃したゆいたち。拓海の返事を聞かずにその場から逃げ出したともえと鉢合わせして、優しい言葉で彼女を励ました。後日、ゆいたちはともえと再会。話をするうちに、ともえは告白の返事を聞く勇気を持てるようになった。だが、そこにナルシストルーが現れ、ともえの恋の思い出も奪ってしまう。ゆいたちはプリキュアに変身して戦うが、キュアプレシャスがピンチに。そのとき、謎の少年・ブラックペッパーが登場する！　彼のおかげでプリキュアはモットウバウゾーを浄化。その後、拓海から告白の返事を聞いたともえはフラれてしまったが、ゆいたちはそんな彼女に寄り添うのだった。

▲ともえは、目玉焼きにケチャップとマヨネーズをかける拓海を見て、自分の心に正直なところに引かれたという　▶ナルシストルーが生み出すモットウバウゾーは、ウバウゾーよりも強力。プリキュアを追い詰める

▲▶突然プリキュアの前に現れ、力を貸してくれたブラックペッパー。その正体は実は拓海なのだが、彼をひと目見たローズマリーは「シナモン……？」と呟く。はたして、シナモンとはいったい誰のことなのか……？

第15話 ドキドキ！ ここね、初めてのピクニック！

ランチを楽しめなかったここねへ 運転手・轟からの粋なアドバイス

学校の食堂が使えないため、みんなでお弁当を持ち寄り、ピクニックをすることになったゆいたちのクラス。ここねはクラスメイトと楽しい時間を過ごしたいと考えるが、緊張しすぎてお弁当をおいしく味わえなかった。放課後、ここねが運転手の轟にそのことを話すと、轟は彼女を公園へと連れて行き、かわいらしく盛り付けられたホットドッグを差し出す。普段ひとりでおいしいものを食べ歩きキュアスタに投稿しているという轟は、お料理の楽しみ方がわからなくなったときはひとりで食べてみるのもいいとアドバイス。そのおかげで心に余裕を取り戻したここねは、モットウバウゾーが現れても強い心で立ち向い、轟の思い出を守り抜いた。

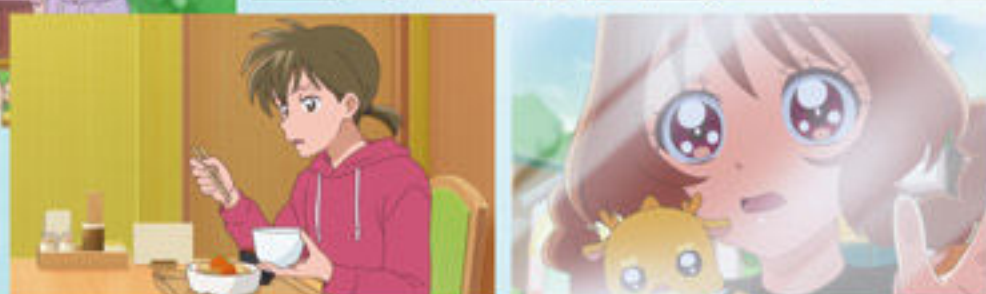
▲轟の助言に従い、ひとりでじっくりとホットドッグを味わったここね。お料理の楽しさを体感する　▶轟がここねにあげたホットドッグは、かつて多忙を極めていた轟に食の喜びを思い出させてくれた大切な一品だった

▲ここねと轟の思い出が詰まるホットドッグを、ゆい、らん、ローズマリーも堪能　▶ナルシストルーが奪った轟の思い出を取り戻すため、キュアスパイシーは奮闘。ブラックペッパーも感心する活躍ぶりだった

第16話 らんらんって変…!? 肉じゃがとウソ

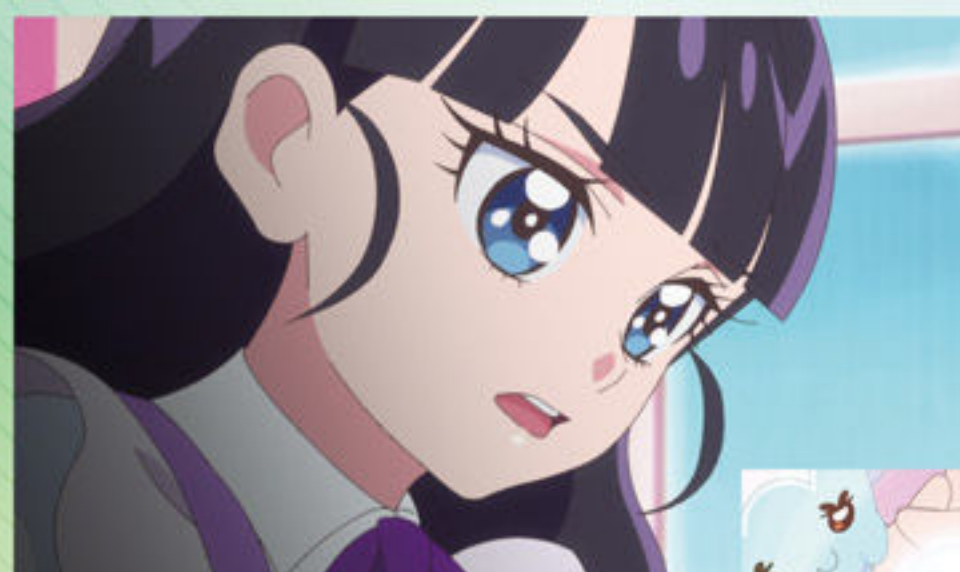
「変」と言われて落ち込むらん だがそれこそが彼女の魅力！

ある日、らんがひとりでサンドイッチを称えていると、クラスメイトの高木晋平から「変なヤツ」と言われてしまった。らんはすっかり意気消沈するが、ゆいたちが励ましてくれたおかげで元気を取り戻す。その帰り道、らんは食堂で肉じゃがを食べる高木を発見。だが、彼は浮かない顔をしていた。レシピッピとお料理の思い出を狙って現れたナルシストルーを退けたらんは、高木にその表情の理由を質問。すると彼は、兄が作ってくれた肉じゃがと食堂のそれは味が違うと語り出した。そう聞いたらんは、味の違いの原因を一発で的中させる。らんのお料理に対する情熱を知った高木は、彼女のことを「なんかかっこいいかも」と評するのだった。

▲らんは小学生のころ、好きなことについて語りすぎて友達が離れていった経験があった　▶兄がひとり暮らしを始めたため、さびしさを抱える高木。食堂の肉じゃがは、兄の肉じゃがとは味が違い、ガッカリしていた

▲らんはゆいの母とも協力して、高木の兄が作る甘い肉じゃがを再現した　▶プリキュアはモットウバウゾーに身体を拘束されてしまうが、キュアヤムヤムは機転を利かせ、地面に穴をあけて拘束から脱出する

第17話 4人目のプリキュア!? あまねの選択

過去への罪悪感で苦しむあまねに ローズマリーが衝撃の提案

長く学校を休んでいたあまねが久しぶりに登校してきた。心が解放されすっかり元通りのようだが、あまねを慕うパフェのレシピッピは彼女に元気がないことを心配してゆいたちのもとに相談に来る。あまねの様子を見に、ゆいたちが彼女の家のフルーツパーラーＫＡＳＡＩを訪れると、確かにあまねは思い詰めた表情をしていた。そのとき、ローズマリーは持っていたハートの結晶体を落としてしまうが、それをあまねが手に取ると結晶体は美しく光り輝いた。その様子を見たローズマリーは、あまねにプリキュアの素質があることを見抜き、一緒にレシピッピを守ろうと頼む。だが、あまねは「私にはその資格はない」と拒否してしまう。

▲ジェントルーとして悪事を働いていたことで罪悪感を抱えるあまね。生徒会長をやめようと考えていた　▶ハートの結晶体は、エナジー妖精と同じく、「ほかほかハート」が集まってできたものだ

▶レシピッピを狙ってフルーツパーラー KASAI付近に現れたナルシストルーは、ふたつの道具を組み合わせた強力なモットウバウゾーを生み出した。プリキュアはブラックペッパーと力を合わせてそれに立ち向かった

▲今回のモットウバウゾーは、かつてジェントルーが作り出したウバウゾーにそっくり。それを見て動揺したあまねは、モットウバウゾーに捕らわれてしまった　▶ジェントルーだったころの記憶があまねを苦しめていた

◀▼幼いころから心を通わせていたあまねとパフェのレシピッピ。ほかほかハートの結晶体はふたりの思いが作り出したものだった。あまねが当時の気持ちを取り戻したことで、結晶体は「ハートフルーツペンダント」へと姿を変える！

第18話 わたし、パフェになりたい！ 輝け！キュアフィナーレ！

絶体絶命の状況で奇跡を起こした あまねとパフェのレシピッピの絆

プリキュアになることを拒んだあまね。優しく責任感の強い彼女は、元ブンドル団の自分がレシピッピに関わるのはよくないと思っていた。そのとき、ナルシストルーがパフェのレシピッピを強奪。プリキュアはすぐに応戦するが、あまねは自分のせいでみんなが傷つく姿を見せつけられ、罪悪感に押しつぶされそうになる。だが、キュアプレシャスはそんな彼女に「過去は変えられない、でも未来はこの瞬間から作っていける」と語りかけ、「明日はどんな自分になりたい？」と質問する。あまねが「みんなを笑顔にできるパフェのような人になりたい！」と叫ぶと、彼女はキュアフィナーレに変身！　華麗な戦いぶりでレシピッピを助け出した。

▶あまねがキュアフィナーレになったことをクッキングダムに報告するゆいたち　▲右がみつきで左がゆあん。ふたりは双子だが、好きなケーキの味はバラバラ。幼いころに、誕生日ケーキをめぐってケンカをしたこともある

▶4人そろっての初めての変身！　早くも4人は息ピッタリだ　▼キュアプレシャスを助けるために現れたブラックペッパーに、ローズマリーは「あなた、シナモンと関係があるの？」と問いかける。だが、ブラックペッパーは「私とは関係ない」と答えて去っていった

第19話 みんなでデコレーション！ お兄さんへの贈りもの

誕生日ケーキを手作りしながら 仲を深めるプリキュア4人

ついにプリキュアが4人そろった！　そんななか、あまねの兄のみつきとゆあんの誕生日が近づいてくる。兄たちに何かを贈りたいと考えたあまねは、ゆいにアイデアを相談。するとゆいは、みんなでデコレーションケーキを作ろうと提案する。好みが違う兄たちのために、2チームに分かれて2種類のケーキを作ることにしたあまねたち。順調に作業が進んでいたが、そこにナルシストルーが現れ、ケーキのレシピッピたちと兄たちのケーキにまつわる思い出を奪ってしまった。ゆいたち4人はプリキュアに変身し、抜群のチームワークでモットウバウゾーを浄化。無事にふたつのケーキも完成し、みんなでみつきとゆあんの誕生日をお祝いした。

第20話 あまねのマナーレッスン！憧れのレストラン

おいしいお料理を楽しむために！ テーブルマナーは思いやりの心

ここねの両親が経営する「レストラン・デュ・ラク」へ招待されたゆいたち。あまねはゆいとらんにテーブルマナーを教えようとするが、ふたりは一向に覚えられず落ち込む。だが、ここねが「食事を楽しむために周りが嫌がることをしない、その思いやりこそがマナーだ」という両親から教えられた言葉を聞かせると、ゆいとらんはマナーを覚えることに前向きになれた。

翌日、ゆいたちはドレスアップしてデュ・ラクへ向かうが、モットウバウゾーが現れる。キュアフィナーレはキュアスパイシーと力を合わせてモットウバウゾーを浄化。デュ・ラクに戻ったゆいたちは、拓海やみつき、ゆあんと一緒に、おいしいお料理とダンスを楽しんだ。

▲高級レストランに見合うマナーをゆいとらんに教えるあまね ▶マナーの形ばかりに囚われていた自分を反省したあまねは、それに気づかせてくれたここねに感謝の言葉を伝えるが、なぜか逆にここねからお礼を言われる

▶戦闘中、キュアフィナーレが昨日のお礼の理由をキュアスパイシーに尋ねると、キュアスパイシーはあまねの思いやりにあふれた言葉に励まされていたことを明かす。それを聞いて、キュアフィナーレは自信を取り戻せた

第21話 この味を守りたい…！らんの和菓子大作戦

歴史ある和菓子屋さんを守りたい！ らんの奮闘とあまねの思い

大好きな和菓子屋さん「はごろも堂」が閉店することになり、らんは大ショック！ たくさんの和菓子店を擁するデパートが近所にできるからだと知り、店を守るために、キュアスタや学校で宣伝をして客を呼ぼうと考える。しかし、はごろも堂の店主と話したり、モットウバウゾーと戦ったりするうちに、閉店の理由がデパートだけではないことと、長い歴史のなかで店に詰まった人々の思い出の美しさに気づいたらん。たとえはごろも堂が閉店しても人々の心にその思い出は残り続け、それが伝えられて歴史になる――あまねたちからそう聞かされたらんは、店の存続のために動くことをやめ、はごろも堂に対する思いをキュアスタに残すことにした。

▲あまねはらんに、店には店の事情があるから自分たちが干渉すべきではないと助言。だが、らんはそれを理解できず、あまねとケンカしてしまった ▶店を愛してくれた客への感謝の気持ちをらんに語るはごろも堂の店主

▶モットウバウゾーと戦うなかで、はごろも堂を思う気持ちはキュアフィナーレも一緒なのだと気づけたキュアヤムヤム。店や和菓子に対する人々の思い出を取り戻すため、ふたりで協力してモットウバウゾーに立ち向かう

第22話 ブラペ引退!? 伝説のクレープを探せ

自分の行動は余計なお世話？ 苦悩するブラックペッパー＝拓海

戦いのなかでプリキュアの足を引っ張ってしまい、自分は余計なことをしているのではと落ち込むブラックペッパー。そんななか、拓海は青果店店主の湊陽佑のために、「伝説のクレープ」という、いまはもう食べられないかつての人気スイーツの再現を買って出る。それは湊と入院中の幼なじみ・櫻井麻恵の思い出の品だった。拓海たちが当時の味を完全に再現すると、湊と麻恵は大喜び。だが、ナルシストルーはそんなふたりの思い出を奪ってしまった。拓海は再びブラックペッパーに変身。前回の戦いの反省を生かした活躍で、今度はプリキュアの力になることができた。キュアプレシャスから感謝の言葉ももらい、拓海は自信を取り戻した。

▲ゆいに味見をしてもらいながら、クレープを作る拓海 ▶クレープ作りをしたのも余計なお世話だったかも……と落ち込んでいた拓海だが、彼の作ったクレープは、ケンカ中だった湊と麻恵の仲直りのきっかけになった

▲▶戦いののち、キュアプレシャスはブラックペッパーにメッセージカードを添えたお菓子をプレゼント。そこに記された感謝の言葉を見た拓海は「俺がやってきたことは間違ってなかったみたい」と思えるようになった

OPENING Cheers! デリシャスパーティ♡プリキュア

Machicoの歌に乗せて、ゆいたちの日常やコメコメの成長などをポップに表現。プリキュアやブラックペッパーの活躍もかっこよく表されている。第27～30話は、『映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！』のハイライト映像を使用している。

第19話～第45話

プリキュアとその仲間たちの登場シーンは、第19話でキュアフィナーレが登場。第20話からシナモンのシルエットがとれ横顔が見えるようになった。

第10話～第45話

怪盗ブンドル団の登場シーンは、第10話からナルシストルーの顔が見えるようになり、第13話以降ではジェントルーの姿が消える。さらに、第30話からはセクレトルーとスピリットルーだけになっている。

EYE CATCH

番組のAパートとBパートの間に挿入されるアイキャッチは、全4種類。

❶ハート型風船のついたボックスに乗ったエナジー妖精が、ふわふわと上昇。気がつけば、それぞれグラスに入ってスヤスヤ……。それをプリキュアが優しく見守っている。

❷広い野原で寝転がっているゆい、ここね、らん。空に浮かぶ雲がレシピッピのように見えてきて……。思わずよだれをたらすゆいと、それを笑顔で見つめるここねとらんの微笑ましいひと幕。

❸化けたコメコメがいろいろな食べ物をおいしく食べ、化けられる姿が成長。どんどん大きくなっていって、最後にはみんなと一緒に食卓を囲む。みんなの笑顔がまぶしく描かれている。

❹お買い物に行ったプリキュアが、カートにアイテムをたくさん入れて、みんなで右往左往。お財布を手にしたキュアプレシャスが走って行くと……なぜかみんながカゴのなかに。それを不思議そうに見つめるコメコメがかわいい。

ENDING DELICIOUS HAPPY DAYS♪

吉武千颯が歌う前期EDテーマ。華やかで力強い歌声が、毎週の放送のラストを飾る。キュアプレシャス、キュアスパイシー、キュアヤムヤムが決めポーズも盛り込んだダンスを披露。もちろん、エナジー妖精たちも元気に登場している。

第18話～第20話

第18話からは、冒頭にキュアフィナーレが登場。3人の背後のスクリーンにも姿が映し出されるようになった。

ENDING ココロデリシャス

佐々木李子が歌う後期EDテーマ。毎週、冒頭に登場するプリキュアが変わっていく楽しい映像だ。第27～30話は、『映画デリシャスパーティ♡プリキュア 夢みる♡お子さまランチ！』のテーマソング「ようこそ、お子さま♡ドリーミア」（歌／後本萌葉）が使用され、映像も映画のものになっている。

第23話 ここねのわがまま？ 思い出のボールドーナツ

互いに気持ちを伝え合うことで グッと距離が縮まる親子の心

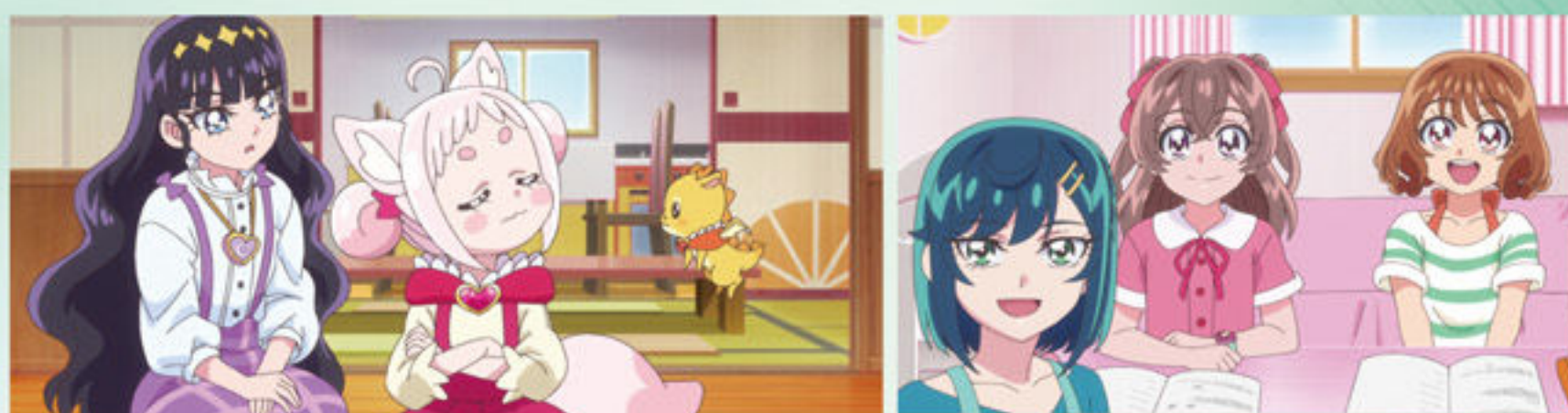
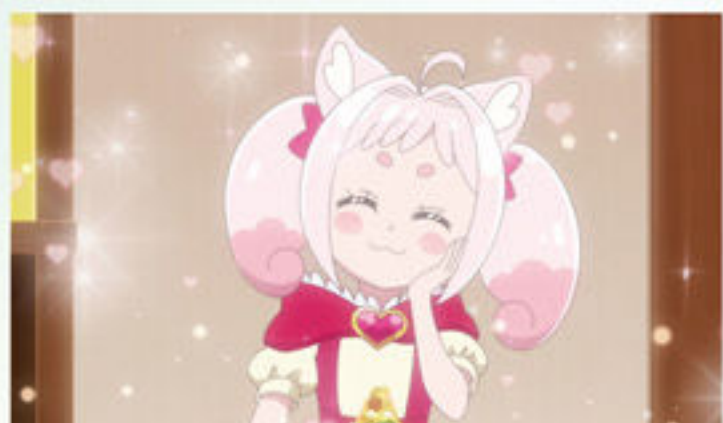
ここねの両親の出張がキャンセルになり、久しぶりに家族でゆっくり過ごせることになった。だが、ここねは両親と何を話せばいいかわからない。話のきっかけをつかもうと、昔、両親にねだった思い出のあるボールドーナツを売る店を訪れたここねは、母・はつこと遭遇した。そこにレシピッピを狙ってナルシストルーが現れるが、ここねはプリキュアに変身して浄化。騒動後、ここねが思いきって両親に「パパとママと一緒にボールドーナツを食べたい」と本心を伝えると、両親も「パパとママにここねのことを教えてほしい」と言う。家族で仲よくしたい気持ちはみんな一緒だったのだ。ともに同じものを食べ、芙羽親子は互いへの理解を深めた。

▲▶ここねの母・はつこは「神の舌」の異名を取り、父・しょうせいはデュ・ラクのオーナー。ふたりは出張が多いため、ここねはひとりに慣れてしまっており、戸惑いから両親によそよそしい態度を取ってしまう

▲ここねは手作りのロールパンサンドを両親に振る舞い、近況を話して聞かせた　▶はつこもボールドーナツのことを覚えていたと知り、自分と同じ気持ちなのだと気づけたキュアスパイシー。親子の思い出を守るために戦う

第24話 コメコメなんて知らない！ 波乱のピザパーティ

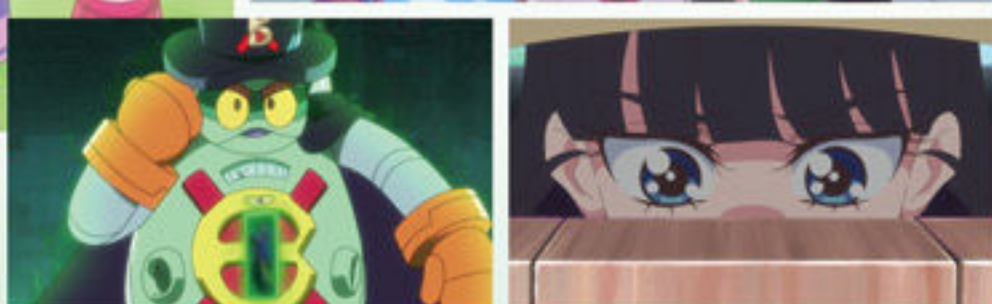
コメコメのわがままが発端で パムパムが大ピンチに……!?

夏休みのある日、ゆいたちは、ゆいのおうちに集まって宿題に取り組んでいた。みんなの勉強が終わるまで、コメコメたちは庭で遊んでいることにするが、コメコメとパムパムがケンカしておうちを飛び出してしまう。あまねとローズマリーが追いかけるが、ふたりが保護する前にナルシストルーがパムパムを捕獲。あまねはキュアフィナーレに変身してモットウバウゾーに立ち向かい、コメコメたちがナルシストルーのすきをついてパムパムを救出する。そこにゆい、ここね、らんも合流し、4人そろったプリキュアはブラックペッパーとも力を合わせてナルシストルーを撃退。ゆいのおうちに戻ったコメコメとパムパムは、互いに謝って仲直りをした。

▲成長したコメコメはときにわがままも言うようになった。だが、優しい心は成長しても変わらない。あまねに諭され、パムパムを怒らせたことを反省する　▶捕らわれたパムパムを、コメコメが身を挺して助け出した！

▲ゆいたちの宿題も終わり、コメコメたちも無事に仲直り。心配ごとがなくなったみんなはピザパーティを満喫する　▶ブンドル団のセクレトルーからいやみを言われたナルシストルーは、いつも以上の気迫でプリキュアを攻撃

第25話 新たな怪盗!? にこにこキャンプでごわす！

キャンプ場を訪れたゆいたちに 新たな敵の魔の手が迫る!?

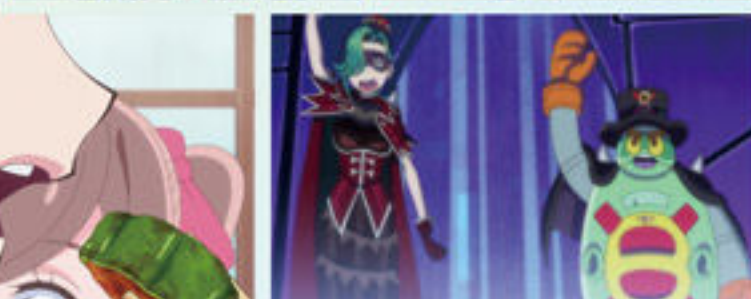
引き続き夏休み中のゆいたちは、ゆいの母・あきほに教えてもらったキャンプ場を訪れた。自然と触れあったり、青空の下でお料理をしたりと、思いきり非日常を満喫していると、どこからともなく怪しい声が聞こえてくる。その声の持ち主は、ナルシストルーが新たに作り出したブンドル団のロボット・スピリットルーだった。バーベキュー場に集まるレシピッピを奪ったスピリットルーは、強力なモットウバウゾーを作り出してプリキュアを襲撃。だが、プリキュアも見事なチームワークで応戦する。モットウバウゾーを浄化したゆいたちは、再びキャンプを楽しむことに。初めての経験がいっぱいの一日を過ごし、忘れられない思い出を作った。

▲ゆいが忘れた鍋を拓海が届けてくれたり、着火剤をほかのキャンプ客がわけてくれたり、いろいろな人に助けられながら、ゆいたちは食事を堪能　▶スピリットルーの身体にはなぜかデリシャストーンらしきものが……？

▲一緒に見上げる満点の星空に4人は感動　▶キュアスパイシー、キュアヤムヤム、キュアフィナーレ、ブラックペッパーがモットウバウゾーの攻撃を引き付けて道を拓き、キュアプレシャスが2000キロカロリーパンチ！を放つ

第26話 ここねのやくそく！ ピーマン大王への挑戦

ピーマンを怖がるコメコメのため ここねが苦手克服に向けて大奮闘

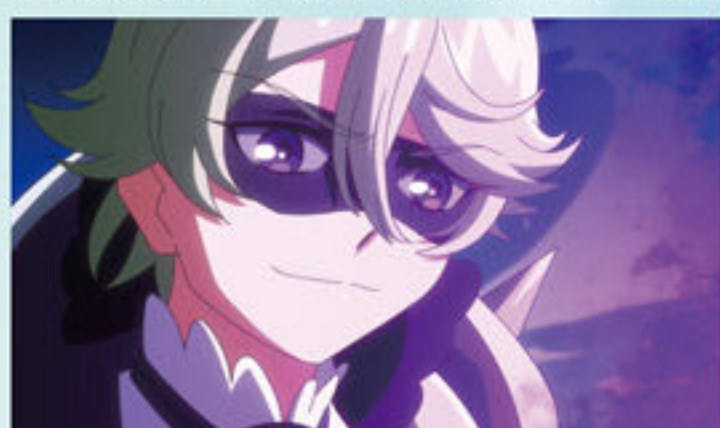
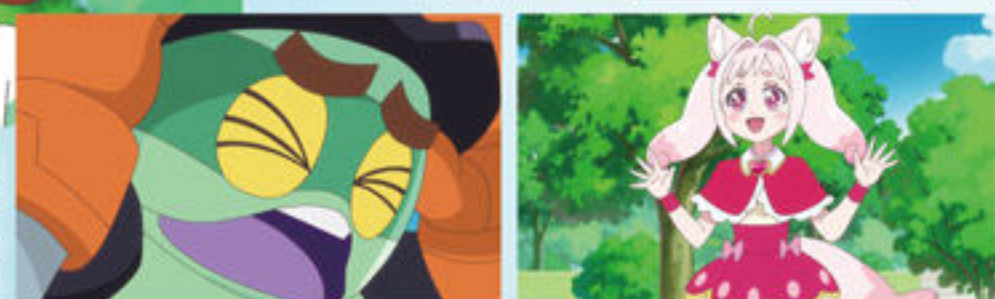
スピリットルーには特別な力を宿す石「スペシャルデリシャストーン」が埋め込まれていた。いったいなぜ……？　みんなでそんな話をしていたさなか、ゆいがピーマンでお料理を作ろうとしたところ、コメコメに加え、ここねもピーマンが苦手だと発覚する。コメコメには自分のように苦手意識を持ったまま成長してほしくないと考えたここねは、コメコメに手本を示すべく、ピーマンを食べることを決意。翌日、轟の提案でピーマン農園を訪れたここねは、生産者の愛情を知り、ピーマンを食べたいという気持ちになる。スピリットルーとの戦いのあと、ついにここねはピーマンをパクリ！　その姿に勇気をもらい、コメコメも苦手を克服できた。

▲▶幼少期にピーマンの苦みを経験して以来、恐怖心を持っていたここねは、ゆいたちが作ったピーマンのお料理をひと口も食べられなかった。だが、農園を訪れ、ピーマンについて知ったことで、苦手意識を払しょくする

▲苦手を乗り越えたここねとコメコメはすっかりピーマンが好きになった　▶苦いピーマンを排除しようとするスピリットルーに、「どんな食材も、お料理も、なくなっていいものなんてない！」と言い放つキュアスパイシー

第27話 コメコメ大変化!? らんのハッピー計画

人と違うところを隠すよりも心持ちを 変えたほうがハッピーになれる

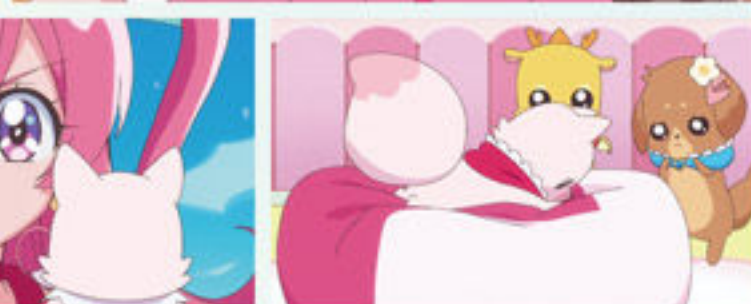
突然みんなを楽しませたいと思い立ったらんは、独自の発明品の開発に没頭。人に化けてもしっぽや耳があることを気にしていたコメコメは、そんならんに発明でしっぽや耳を消してほしいと頼み込む。後日、らんは依頼の品ではなく、コメコメとおそろいのしっぽと耳を付けられるアイテムを作り、「見た目を変えるより、いっそ自分のハートを変えちゃうってどう？」とアドバイス。その言葉でコメコメは前向きな気持ちになれた。その後、現れたスピリットルーにも、ごはんを食べることはハッピーだと知ってほしいと訴えるキュアヤムヤム。スピリットルーはその言葉に耳を傾けようとするが、そのとき、ナルシストルーが現れる！

▲お料理への情熱を人前で隠してきたらんは、ほかの人と違うところを隠したいと考えるコメコメの気持ちに共感を示す　▶食事に対する偏った考えをインストールされていたスピリットルーは、プリキュアの話を聞いて混乱

▲▶混乱するスピリットルーの前に現れたナルシストルー。彼はスピリットルーからスペシャルデリシャストーンを抜き取ると、レシピッピ捕獲箱にはめ込んだ。いったいナルシストルーは何を企んでいるのか……？

第28話 コメコメの力をみんなに…！ パーティキャンドルタクト！

プリキュアとコメコメの心が 重なったとき、奇跡が起こる！

スペシャルデリシャストーンをはめた捕獲箱から、強力なゴッソリウバウゾーを作り出したナルシストルー。その強さにプリキュアは大ピンチ。ナルシストルーはとどめを刺さずに退却したため、ゆいたちはおむすびを食べながら対策を考えることに。その後、再びナルシストルーが現れた。プリキュアは、今度は彼が持つスペシャルデリシャストーンを狙うが、またも窮地に追い込まれ、プリキュアの力になれないコメコメは思わず泣き出してしまった。だが、プリキュアが自分たちの力になろうとがんばるコメコメに感謝の言葉を伝えると、コメコメの力から「パーティキャンドルタクト」が誕生！　プリキュアは新たな力で浄化技を放った。

▲コメコメの先代に強い力があったことを思い出したパムパムは「コメコメならなんとかできるかも」と言う。コメコメは意気込むが、期待には応えられなかった　▶落ち込むコメコメを強い言葉で励ますキュアプレシャス

▲プリキュアに敗れたナルシストルーはローズマリーによって捕縛され、スペシャルデリシャストーンもプリキュアのもとへ渡った　▶コメコメから力をもらったプリキュアは、新たなスタイルにパーティアップ！

第29話 おいしいパラダイス！ レッツゴー！クッキングダム！

おいしい食べ物がいっぱいのクッキングダムをゆいたちが観光♪

捕らえたナルシストルーをクッキングダムへ連れていくことになり、コメコメの力で世界を渡ったゆいたち。そこで見習いクックファイター・セルフィーユの案内で国のなかを見て回り、おいしーなタウンとは異なる風景に胸を躍らせる。だが、同じころ、ゆいたちの知らないところで、セクレトルーもクッキングダムに忍び込み、レシピッピを奪っていた。異変に気づいたゆいたちはプリキュアに変身し、セクレトルーが生み出したゴッソリウバウゾーに立ち向かう。セルフィーユのサポートのおかげで見事勝利したプリキュアは、引き続きレシピッピを守るために戦うことをクッキングダムの王・クッキングに約束し、おいしーなタウンへ戻った。

▲クッキングダムには、「おむすびの花」や「おかず池」など、ほかほかハートを活用して作られたおもしろい場所がたくさん！　▶セクレトルーは衛兵に扮して城のなかに忍び込むが、セルフィーユに正体を見破られた

▲おいしーなタウンに帰る道中、ゆいたちはほかの世界で戦うプリキュアの活躍を見る　▶怖がりなため、なかなか見習いから昇進できずにいたセルフィーユ。だが、恐怖に打ち勝ったことで真のクックファイターになれた

第30話 おまつりわっしょい！ やきそばマリちゃん

屋台メシグランプリ優勝を目指しゆいたちの心がひとつに集結！

金欠のローズマリーへ、優勝するとクーポン券がもらえる、お祭りの「屋台メシグランプリ」に参加してはどうかと提案するゆいたち。その話を聞いたローズマリーはすぐさま参加を決意し、ゆいたちも力を貸すことにする。みんなで意見を出し合い、メニューはやきそばに決まった。お祭り当日、みんなのがんばりの甲斐あって、ローズマリーの屋台「やきそばマリちゃん」は大盛況だ！　途中、セクレトルーが現れ、レシピッピを奪おうとするが、プリキュアとローズマリーはやきそば作りで鍛えたチームワークでゴッソリウバウゾーを浄化。グランプリは、「やきそばマリちゃん」とライバル店の「鉄板ふじの」の同率1位で決着した。

▲▶やきそばはグランプリの常連店「鉄板ふじの」が出すメニューと同じ。しかし、みんなの意見を大切にしたいローズマリーは、メニューを変更しないと決断。PVや、派手な宣伝とパフォーマンスでふじのに対抗する

▲グランプリ閉幕後、ゆいたちは一緒に花火を眺めながらやきそばを味わうのだった　▶チームの力をバカにするセクレトルーの言葉に、腹を立てたローズマリー。怒りのパワーで、敵に拘束されたプリキュアを救出！

第31話 おいしーなタウンの休日 プリンセスゆい!?

ゆいと王女が入れ替わった！誘拐事件も発生して大騒動に!?

おいしーなタウンにイースキ島の王女、マイラ・イースキがやってきた。彼女の顔はゆいと瓜ふたつ！　マイラと対面したゆいは、忙しい彼女が街で何も食べていないと知り、帰国前に好きなものを食べられるよう、自分が王女の身代わりになると申し出る。ゆいの服を借りたマイラは、ここねたちといろいろなものを味わうことに。一方、王女に扮したゆいは、マイラの失脚を目論むサンザー王子に捕まってしまった。だが、ゆいはキュアプレシャスに変身して王子一派の手から逃れる。その間にここね、らん、あまねもプリキュアに変身して、マイラを大切なスピーチの会場へと送り届けた。ゆいとマイラは無事に元に戻り、笑顔を交わした。

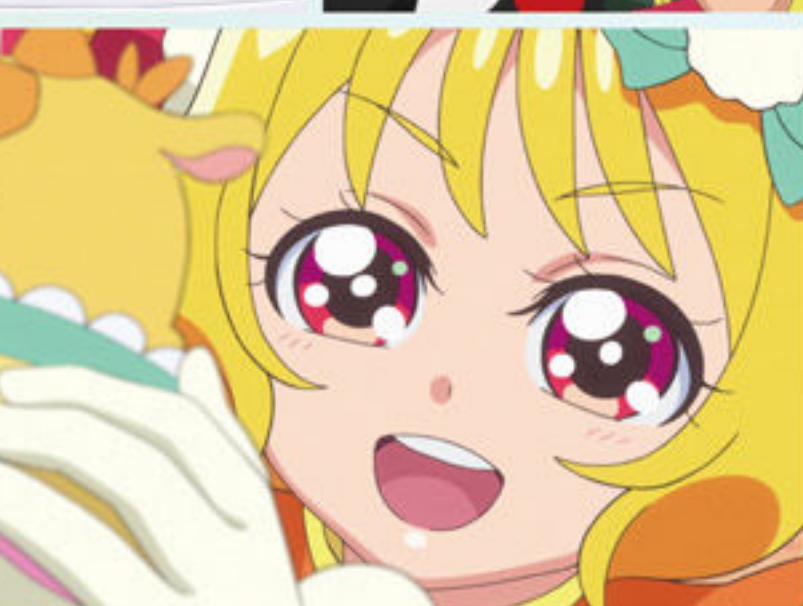
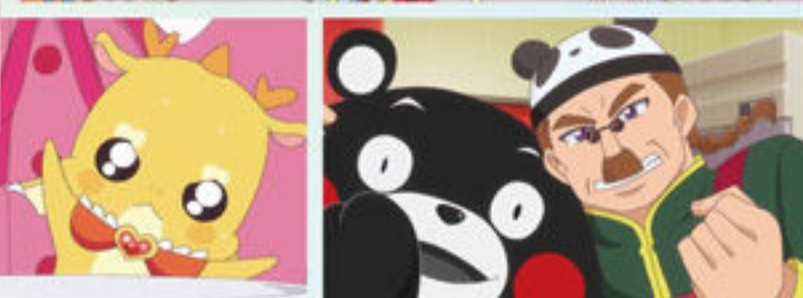
▲左がマイラで右がゆい。王女として幼いころからプレッシャーにさらされてきたマイラは、自分がどんな食べ物が好きかわからなくなっていた。だが、ここねたちといろいろなものを食べるうちに自分の「好き」を思い出す

▲公務で多くを語らないマイラだったが、好きなものを思い出し、自分の言葉でスピーチをする勇気を持てた
▶サンザーはマイラを誘拐して大切なスピーチを欠席させようとしたが、キュアプレシャスはその企てを阻止

第32話 すすれ！ちゅるフェス まいごのうどんを探せ！

行方不明のうどんのレシピッピを見つけるためにメンメンが奮闘！

おいしーなタウンで麺の祭典「すすれ！ちゅるちゅる☆フェスティバル」が開催される。家族で出店するらんは気合十分だ。だが、開幕直前、うどんのレシピッピが行方不明に。ほかの麺のレシピッピたちは悲しくて泣いてしまい、その影響が麺のお料理にも表れていた。らんは焦りに駆られるが、メンメンは彼女にうどんのレシピッピを探し出すことを約束し、「らんちゃんはフェスティバルに集中してメン！」と力強く宣言。そんなメンメンの奮闘により、うどんのレシピッピは見つかった。そこにセクレトルーが現れてゴッソリウバウゾーを作り出すが、今度はキュアヤムヤムが活躍し、浄化に成功。フェスティバルは大盛況のうちに成功を収めた。

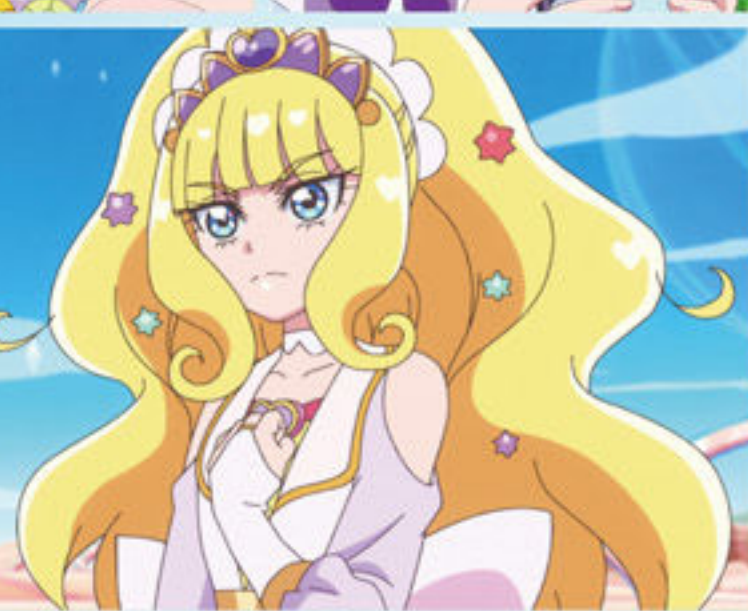
▲メンメンたちにレシピッピの捜索を任せ、らんはフェスティバルの準備へ。一緒に探しに行きたい気持ちを抑え、メンメンたちを信じて待つ　▶麺のエナジー妖精であるメンメンは「麺占い」でうどんのレシピッピを探す

▲再会を喜ぶ麺のレシピッピたち。そのおかげでフェスティバル会場のお料理はおいしさを増した　▶麺占いで力を使い果たして戦えないメンメンに、キュアヤムヤムは「メンメンが動けないならヤムヤムががんばる！」と言う

第33話 清く正しく！ あまねとハロウィンパーティ

自分の暗い感情を許せないあまね パフェのレシピッピと大ゲンカ!?

ハロウィンパーティの計画を立てていたゆいたちは、ローズマリーからナルシストルーの近況を聞かされる。そのときあまねは、自分の心にナルシストルーへの恨みの気持ちがあることに気づく。そんな自分にいら立ったあまねはパフェのレシピッピに八つ当たり。パフェのレシピッピはショックを受けて彼女の前から姿を消してしまった。ハロウィン当日、ゆいたちがパーティを楽しんでいるとセクレトルーが現れる。だが、あまねはペンダントが作動しなくなり変身できない。自己嫌悪におちいるあまねだが、ローズマリーに背中を押され、パフェのレシピッピと仲直り。あまねはプリキュアに変身し、ゴッソリウバウゾーを浄化した。

▲ハロウィンパーティでは、ゆいはジャック・オ・ランタン、ここねは赤ずきん、らんはパンダキョンシー、あまねは天使に仮装！　▶パフェのレシピッピと心がすれ違ったためか、ハートフルーツペンダントは光を失う

▲仲直りのときにパフェのレシピッピをハロウィンパーティに誘ったあまね。セクレトルーと戦ったあと一緒にパーティを楽しんだ　▶自分のなかの暗い気持ちを乗り越えたキュアフィナーレは「私はもう揺るがない」と決意

第34話 おじいちゃんはガンコ！ おでんは野球のあとで

気持ちがすれ違う祖父と孫の心を思い出のおでんがほっこり温める

祖母・よねのおでんの味を再現したいゆい。たまたまゆいの家に、よねと一緒におでんのレシピを考案した元料理人・浅井又三郎が来たので作り方を聞こうとするが、職人気質の彼からは教えてもらえなかった。同行していた又三郎の孫・宏輔はそんな祖父に反発し、その場から飛び出してしまう。宏輔を追いかけたゆいは彼が野球好きだと知り、練習試合を開催することに。野球を楽しむうちに宏輔は祖父に謝りに行こうと思いはじめるが、そのときセクレトルーがふたりの思いが詰まるおでんを奪ってしまった。ゆいはすぐに変身し、ゴッソリウバウゾーを浄化しておでんを取り戻す。その後、宏輔と又三郎は互いに思いを伝え合い、仲直りできた。

▲ゆいが開いた練習試合にはここねたちや拓海、みつき、ゆあんも参加した　▶週末は祖父に連れられ、いろいろなところにおいしいものを食べに行っているという宏輔。だが、彼はそれよりも友達と野球をしたかった

▲ゆいに背中を押され、又三郎に気持ちを伝えられた宏輔。そのことに感謝した又三郎はゆいに、一緒におでんを作ろうと誘う。ゆいは作り方を目に焼きつけながら、宏輔と又三郎の姿にかつての自分と祖母の姿を重ねた

第35話 ここねとお別れ!? いま、分け合いたい想い

芙羽家がイースキ島へお引っ越し!?
悩むここねの本当の気持ちは？

ここねの両親がイースキ島の名物になるお料理を考案する仕事を引き受けた。ふたりからイースキ島への引っ越しを提案されたここねは、両親と一緒にイースキ島へ行くか、ゆいたちとこの街に残るか、悩んでしまった。そんな彼女にパムパムは、みんなに本心を話してみるよう背中を押す。ここねはそれに励まされ、両親に「私、お友達と離れたくない。でもパパとママとも一緒にいたい。それにイースキ島のお料理作りも応援したい！」と気持ちを吐露。娘の正直な思いを知った両親は、ここねの意志を尊重して引っ越しを撤回。母のはつこがイースキ島に単身赴任しつつ、オンラインで家族一緒に食事ができるようにする道を選んだ。

▲友達も両親も大好きだからこそ、自分はどうしたらいいのか悩むここね。パムパムは「みーんなここねの味方パム」と言い、彼女を励ました　▶ここねの本心を聞くために、しょうせいとはつこはボールドーナツを作る

▲▶ここねが引っ越したら3人で戦わなければいけないと考えていたキュアプレシャスたちに、キュアスパイシーは「これからもみんなと一緒にいたい！」と伝える。心がつながった4人はいつも以上のパワーを出せた

第36話 らんがデビュー!? きらめくグルメ・エモーション！

TVカメラの前に立ったらんは
自分の個性を発揮できるか!?

ぱんだ軒が人気TV番組「今日も！ムシャムシャパラダイス」の取材を受けることになった。憧れのグルメインフルエンサー・館本飯菜の来店に、らんは大興奮！　だが取材当日、急遽カメラに映ることになったらんは、緊張でいつもの調子をまったく出せなかった。その後、街にゴッソリウバウゾーが出現し、飯菜のお料理に対する思いが詰まったノートを破壊してしまう。プリキュアに変身してゴッソリウバウゾーを浄化したらんが飯菜をなぐさめると、飯菜はお守りのような存在だったノートの代わりに、らんのパワーを貸してほしいと依頼。再び飯菜と一緒にカメラの前に立ったらんは、今度は自分らしさを前面に出して食リポを成功させた。

▲▶タテモッティと呼ばれ愛される飯菜は、あきらめない心で夢をつかんだという。らんがグルメインフルエンサーに憧れていると知り、「一緒にお料理の魅力伝えていこ！」と言葉をかけて失敗に落ち込むらんを励ました

▲一方ローズマリーは、師匠のジンジャーがかつておいしーなタウンにいたことを知り、その理由をひとりで調査していた　▶飯菜に教えられたあきらめない心で、ゴッソリウバウゾーに立ち向かったキュアヤムヤム

第37話 ひそむ怪しい影… あまねの文化祭フィナーレ！

ナルシストルーが文化祭に潜入！
どうなる!?　生徒会長最後の大仕事

今日はゆいたちが通う私立しんせん中学校の文化祭！　あまねにとっては生徒会長としての最後の大仕事なので、いつも以上にやる気満々だ。だが、あまねは来場客のなかにナルシストルーらしき人影を発見。気のせいかと思ったが、実はナルシストルーはクッキングダムを脱走し、本当に文化祭に紛れ込んでいた。手分けして彼を捜索するゆいたち。同じころ、ナルシストルーを始末しようとするセクレトルーも文化祭にやってきていた。キュアフィナーレに変身したあまねは身を挺してナルシストルーを守り、セクレトルーを撃退。その後、ナルシストルーもクッキングダムに戻り、文化祭は無事閉幕。あまねは生徒会長の責務をまっとうした。

▲来場客として文化祭を訪れたローズマリーは、同じく客として来ていたあまねの両親からジンジャーの話を聞く　▶発明品で身体を小さくして逃げようとするナルシストルー。しかし、セクレトルーに捕まってしまった

▲文化祭閉幕後、全校生徒からあまねへ花束が贈られた　▶ナルシストルーは自分に合う食べ物がなかなかないゆえにずっとお料理に苦い思いがあったが、リンゴあめは気に入った様子。それを見てキュアフィナーレは微笑む

第38話 おばあちゃんに会える!? おむすびと未来へのバトン

20年前のおいしーなタウンへ！ 過去から未来へ託されつながる思い

ジンジャーに会うため、コメコメの力で20年前へタイムスリップしたゆいたち。ゆいの祖母・よねの家でジンジャーに会い、話を聞く。ジンジャーはこの時代に起きたレシピボン盗難事件を調査しておいしーなタウンに来たのだ。この事件はシナモンを陥れるために何者かによって仕組まれた罠だと考え、黒幕から住人の笑顔を守ろうとしているという。ジンジャーは未来に起こりうる街の危機に備えて、この時代のパムパムやメンメン、そしてコメコメI世と力を合わせ、「ほかほかハートの蓄積装置」を作成し、未来の人々の笑顔をゆいたちに託す。その思いを受け取って現代に戻ったゆいたちは、みんなの笑顔を守るために戦う決意を新たにした。

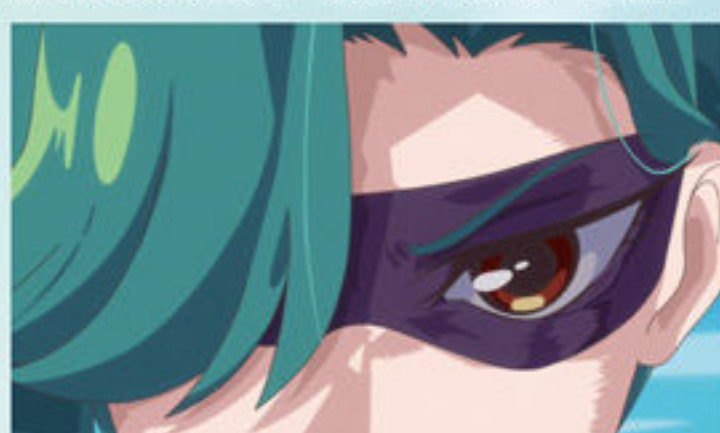
▲ゆいは20年前のよねとも対面。「ごはんは笑顔」という言葉に込められたよねの思いを知り、ゆいは感激する ▶ジンジャーとエナジー妖精たちは莫大な力を費やしながら、ほかほかハートの蓄積装置を完成させた

▲拓海が持つデリシャストーンは、シナモンのものだった!? ▶現代に戻ったゆいたちは、ブラックペッパーとセクレトルーが交戦中だと知り、すぐに変身。ジンジャーから受け取った強い思いでゴッソリウバウゾーを浄化

第39話 お料理なんてしなくていい!? おいしい笑顔の作り方

絶不調のキュアプレシャスがセクレトルーのおかげで復活!?

20年前への旅で得た情報を、クッキングダムのフェンネルに報告するローズマリー。一方、助っ人としてサッカー部の試合に出場したゆいは、エース選手・玉木わかなが食べていた、彼女の父による手作り弁当に興味を持つ。愛情たっぷりの弁当のようだが、わかな自身は、睡眠を削ってまで弁当を手作りする父を心配していた。ゆいは祖母の言葉でわかなを励まそうとするが、わかなの共感を得られず、落ち込んでしまう。だが、セクレトルーと戦うなかで、祖母の言葉も大切だが、自分自身が生きて感じた言葉を届けることが必要だと気づいたゆい。改めて自分自身の言葉をわかなに伝えると、今度はちゃんとわかなに気持ちが届いたのだった。

▲わかなの父はサッカーをがんばる娘のために苦手なお料理に挑戦していたが、わかなは自分のために父が無理していることを心苦しく感じていた ▶落ち込んだゆいは、ゴッソリウバウゾーを前にしてもパワーが出ない

▲▶キュアプレシャスに「私の経験上、完璧でなければこの世界では生きていけません」と言い放つセクレトルー。その言葉にセクレトルーの人生が詰まっていると感じたキュアプレシャスは、それをヒントに悩みを解消

第40話 俺に出来ること… ブラックペッパーと拓海の決断

ブラックペッパーの正体をついにプリキュアが知ることに！

20年前のレシピボン盗難事件の犯人に仕立て上げられたシナモンの正体は、拓海の父・門平だった。彼と話をしたローズマリーは、海外でお料理が消えていることと、ブラックペッパーの正体が拓海であることを知る。門平とローズマリーは拓海のデリシャストーンを返してもらい、それを使ってローズマリーの壊れたデリシャストーンを修理することに。ときを同じくしてセクレトルーがコメコメたちを捕まえてしまう。変身できないゆいは生身で戦うが、当然歯が立たない。その光景を前にした拓海は再びデリシャストーンを手に取り、ブラックペッパーに変身！ コメコメたちを助け、プリキュアと協力してセクレトルーに立ち向かった。

▲正式なクックファイターではなく、プリキュアでもない拓海にとって、ブンドル団との戦いは並々ならぬ危険が伴う。だが自分も「おいしい笑顔を守りたい」と、拓海はこれからもブラックペッパーとして戦う道を選択

▲拓海がブラックペッパーだと知ったゆいは気持ちが昂り泣き出してしまったが、泣き止んだあと、改めて拓海に「これからもよろしく」と伝える ▶5人が力を合わせたとき、いままでにないほどのパワーが生まれた！

第41話 メリークリスマス！ フェンネルの大切なもの

ブンドル団の団長・ゴーダッツがプリキュアの前に姿を現す！

門平、ローズマリー、拓海は、壊れたスペシャルデリシャストーンを直す旅へ出発。一方、なごみ亭ではクリスマスパーティが開催されていた。ここね、らん、あまねをはじめ、たくさんの人が集まり、パーティは大盛り上がり。だが、クッキングダムからおいしーなタウンに調査に来て、たまたまパーティに参加することになったフェンネルだけは、どこか表情を曇らせていた……。そんなとき、セクレトルーがおむすびのレシピッピを奪い、ゴッソリウバウゾーを生み出す。ゆいたちはすぐにプリキュアに変身して浄化するが、その直後、なぜかフェンネルに攻撃されてしまった。なんと、彼こそがブンドル団の団長・ゴーダッツだったのだ！

▲みんなの笑顔が集まるクリスマスパーティ。フェンネルはゆいに誘われて参加することに　▶ゆいの父が語る昔話を聞いたフェンネルは、シナモンと一緒にジンジャーのもとで修行していたころの記憶を思い出した

▲自作のスペシャルデリシャストーンを完成させていたフェンネルは、レシピボンを使い世界を支配すると宣言。旅から戻った門平やローズマリーとにらみ合う　▶鬼気迫る勢いでキュアプレシャスを攻撃するセクレトルー

第42話 ゴーダッツのたくらみ プレシャス vs. ブラックペッパー

拳を振るうブラックペッパーの前にキュアプレシャスが立ちはだかる

ゴーダッツに立ち向かう門平とローズマリー。だが、ジンジャーに対する執着やシナモンへの嫉妬の感情でフェンネルの憎しみの心は膨れ上がっており、その強大な力の前に門平は倒れてしまった。ゴーダッツはワープゲートでアジトへと引き返すが、ブラックペッパーは彼を追走。キュアプレシャスとローズマリーもそのあとに続く。ブンドル団のアジトに着いたキュアプレシャスは、怒りのままにゴーダッツと戦おうとするブラックペッパーを止めるため、必死に説得。その言葉を聞き入れてブラックペッパーは拳を下ろすが、そのとき、ゴーダッツが彼に強力な攻撃を放った！　キュアプレシャスはその光景に強いショックを受ける……。

▲門平はクッキングダムを愛し、クックファイターとして誇りを持って戦っていた。ブラックペッパーは、父の思いを踏みにじったフェンネルを許せない　▶傷ついた門平とセクレトルーはここねたちに手当てしてもらった

▲キュアプレシャスはフェンネルの心に寄り添おうとしたが、フェンネルはそんな彼女をあざ笑う　▶倒れるブラックペッパーを見て呆然自失のキュアプレシャス。危機を感じたコメコメは残り少ないエナジーでその場を脱出

第43話 レシピボン発動！ おいしーなタウンの危機

悲しみに打ちひしがれるゆいは笑顔を取り戻すことができるのか!?

おいしーなタウンに戻ってきたゆいは、自分のせいで拓海とコメコメが傷ついた罪悪感によって打ちひしがれる。そのとき、ゴーダッツがレシピボンを発動。世界中からお料理が消えてしまった。ここね、らん、あまねはプリキュアに変身し、世界を支配しようとするフェンネルを止めるため、ローズマリーとともにブンドル団のアジトへ出発。まだ悲しみを拭えないゆいはひとり街に残るが、拓海と会話したことで、もう一度「みんなを笑顔にしたい」と強く思う。さらに、自分の名前は「人と人、思いと思いを〝結〟ぶ人になれますように」という願いを込めて祖母が付けたものだと知ったゆいは、笑顔を取り戻し、再びプリキュアに変身する！

▲「レシピボンも、ゆいの笑顔も取り戻す！」と誓い、戦いに臨む4人　▶両親から自分の名前の由来を聞き、おむすびを思い浮かべるゆい。すると、なごみ亭の招き猫からほかほかハートがあふれ、おむすびの花が咲いた

▲拓海に送り出されたキュアプレシャスは、仲間が待つブンドル団のアジトへと向かう　▶エナジーが尽きて倒れていたが、奇跡の復活を果たしたコメコメ。頭を下げるゆいにおむすびを勧め、ふたりで分け合って食べた

◀▲「「ありがとう」は心のアツアツごはん」など、自らの言葉でフェンネルに語りかけるキュアプレシャス
▼仲間たちから託された力を込め、キュアプレシャスは暴走するゴーダッツに、おなかいっぱいパンチ！を放つ！　それにより暴走の源だったふたつのスペシャルデリシャストーンが分離。ゴーダッツの暴走は止まる

第44話 シェアリンエナジー！ありがとうを重ねて

人々の「ありがとう」の思いがプリキュアに力を分ける！

大気中に満ちるほかほかハートに背中を押されながら、仲間とともに最後の決戦に挑むキュアプレシャス。だが、おいしーなタウンじゅうの招き猫がジンジャーの作った「ほかほかハートの蓄積装置」だったことを見抜いたゴーダッツは、蓄積装置を封じ込め、ふたつのスペシャルデリシャストーンを合わせた強大な力でプリキュアをねじ伏せる。ゆいたちは絶体絶命の状況に陥るが、そのとき、蓄積装置が真の力を発動！　招き猫が動き出し、プリキュアの助太刀をしはじめた。同時に、再びほかほかハートがあふれ出し、ゆいたちはそこから人々の「ありがとう」の思いを受け取ると、もう一度プリキュアに変身！　暴走するゴーダッツを浄化した。

◀プリキュアに変身してクッキングダムのパーティを盛り上げたゆいたち。パムパムとメンメンも人の姿に化けられるようになり、元ブンドル団のメンバーも前を向けるようになって、国じゅうに幸せな空気があふれる

第45話 デリシャスマイル～！みんなあつまれ！いただきます!!

別れのさびしさも乗り越えてゆいたちはおいしい笑顔を重ねる

プリキュアがゴーダッツを浄化したことで捕らわれていたレシピッピが解放された。世界にお料理が戻り、おいしーなタウンも以前のように笑顔に包まれる。家族や友人と喜びを分け合ったあと、ゆいたちは取り戻したレシピボンを返すためにクッキングダムへ。クッキングたちからの感謝の言葉を受け取り、お祝いのパーティを楽しんだゆいたちは、さびしい気持ちも乗り越えながらローズマリーやコメコメたちに別れを告げ、おいしーなタウンに帰っていった。そして、暖かな春の日差しのなか、ゆい、ここね、らん、あまね、拓海はランチ会の買い出しへ！　彼女たちはこれからも一緒においしいものを食べ、たくさんの笑顔を重ねていく――。

▼ある日、ゆいたちがクッキングダムへのおみやげにメッセージを書こうとしていると、通りがかった少女、ソラ・ハレワタールがペンを貸してくれた。爽やかな印象を残して駆けていく彼女に、ゆいたちは微笑みを送る

プリキュアを演じたキャストが
1年間の思いを語り尽くす！

菱川花菜

【ひしかわ・はな】
5月19日生まれ。ラクーンドッグ所属。主な出演作は、『黒の召喚士』シュトラ・トライセン役、ゲーム『ソードアート・オンライン アンリーシュ・ブレイティング』シルヴィー役など。

和実ゆい／キュアプレシャス

1年間一緒に過ごして ゆいちゃんがいるから大丈夫と 思えるようになりました

ゆいは誰かのために がんばれる女の子

――『プリキュア』シリーズでは、主人公のプリキュアを演じるキャストが座長を務めますよね。菱川さんも1年間の座長、お疲れさまでした。

ありがとうございます。思い返してみれば、全然座長っぽくなかった気がしますが、素敵なキャストさんたちに出会えて、温かい現場で『デパプリ』を作っていけました。1年の間にいろいろな愛をもらったなぁとしみじみしています。

――例えばどんな愛をもらったなと感じていますか？

キャストさん、スタッフさんはもちろん、お子さんたちからの愛をすごく感じました。フードコートでコメコメのぬいぐるみを持ちながら食事をしている子を見たり、「デリシャスマイル～！」っていう言葉が聞こえたりしたときは、もうそれだけで子どもたちからの『デパプリ』やゆいちゃんへの愛が伝わってきた気がして、いつも幸せな気持ちになっていました。

――菱川さんは『トロピカル～ジュ！プリキュア』のオーディションも受けていたそうですね。

キュアパパイアを受けました。当時もオーディション用のテープ収録から楽しくて仕方なかったんです。名乗りを言えるだけで幸せで、それは『デパプリ』でも同じでした。ただ、『デパプリ』のオーディションは、楽しかった以上に自分がキュアプレシャスになるんだと強く感じたんです。憧れよりも共感できる部分が大きかったからかもしれません。その後、スタジオオーディションで控え室に行ったとき、壁に貼ってあったキャラクター表のゆいちゃんを見て、あまりのかわいさに思わず声が出ちゃったことまでよく覚えています。

――そのとき、ゆい／キュアプレシャスにどんな印象を持ちましたか？

私は『ふたりはプリキュア』を観て育ったのですが、まずプリキュアっぽいと思ったんです。懐かしさがありつつも今風で、プリキュアを大好きな方がデザインされたことが伝わってきました。

――オーディションの思い出は？

当時の担当マネジャーさんがすごく応援してくれて、スタジオオーディションが決まった日から、「毎日ボイスメモにセリフを録音して、一番よかったと思うものを送ってください」と言ってくれたんです。その時間がすごくありがたくて、ゆいちゃんに決まっても決まらなくても、この時間は自分のためになったと感じました。マネジャーさんの熱意は『デパプリ』が作中で描いた、誰かのためにがんばるという役作りにもつながったんじゃないかなと思います。

――ゆい役が決まったときは感激もひとしおだったのではないですか？

逆に、現実感がなくてリアクションができませんでした。実は、ゆいちゃん役が決まったことはサプライズで教えてもらったんです。「養成所のインタビューを撮影するから」と言われて事務所に行ったら、いつも冷静なマネジャーさんがソワソワしていて。決まらなかったから落ち込まないように気を遣ってくれているんだと思っていたら、マネジャーさんからピンクの花束を渡されて。そこでもしかしたらと思ったものの、そのあとの言葉は全然頭に入ってきませんでした。でも、マネジャーさんが「菱川さんが子どもたちに明るい未来を見せていくんです」と言ってくれて、がんばらなきゃという気持ちが生まれました。

――アフレコが始まってから、ゆいへの印象は変わりましたか？

正直なところ、最初はゆいちゃんがどう話すのか、どう行動をするかがまったくつかめなかったんです。アフレコ当初、私は高校生だったので、通学中もゆいちゃんならどうするかを考えていました。でも、アフレコを重ねていくうちに、ヒーローでかっこよくて、誰かのためにがんばれる子だとわかって。『デパプリ』を観た子どもたちに「ゆいちゃんみたいになりたい」と思ってもらえるようにがんばらなきゃと考えるようになりました。

――ゆいのお芝居で大切にしたことは？

ゆいちゃんっておばあちゃんの言葉をすごく大切にしていて、周りで問題が起きたときには、その言葉を道しるべに問題を解決していくこともあり、中学2年生にしては達観しているようにも感じられるんですよね。でも、ゆいちゃん自身は、その言葉が本当に大切だと思っているので、まず押しつけがましくならないように注意しました。それから、おばあちゃんが言ったからではなく、ゆいちゃん自身が大切に思っているということがわかるよう、思ったままに言葉にすることを意識しました。深澤敏則SDから「ゆいは、プラスのエネルギーでみんなを引っ張っていける子」だと聞いていたので、それも基盤にしていきました。

『デパプリ』チームは まさに家族のような存在

――ゆいはコメコメに対しても、とても大らかに接していましたよね。

ずっとコメコメのことは守りたい存在としても見ていたのですが、2022年秋公開の映画を経てペアとして向き合えるようになったんじゃないかなと思っています。

――普段はゆいが引っ張る立場なのが、映画では逆転していたのも印象深いですね。

そうなんです！　TVシリーズではコメコメが悩んでそれをみんなが協力して解決していたし、コメコメの考えを肯定するシーンも多かったですが、映画だとコメコメがゆいちゃんを元気づけるシーンもあり、成長を感じられて愛しくなりました。

――コメコメ役の高森奈津美さんに、伝えたいメッセージはありますか？

会いたいです……。私、高森さんが大好

きなんです。たまたま高森さんのテープオーディション中の声を聞いたんですが、すごくかわいくて、そのときから高森さんのコメコメが大好きですし、一緒にペアとして活動できて本当に幸せでした。映画ではクライマックスのシーンを一緒にアフレコできて、隣にコメコメを感じながら技を放てたことを光栄に思っています。収録中、いつも困ったら高森さんの顔を見てしまい、困らせてしまってすみません。そんな私を笑い飛ばしてくれてありがとうございます。ずっと尊敬していますし、末永くよろしくお願いします。

――ほかのプリキュアキャストのメンバーには、どんな印象がありましたか？

誰に対してもまっすぐにぶつかっていくゆいちゃんを受け入れてくれて、マリちゃんも含めて、みんな家族みたいなチームだなと思っています。

――マリちゃんはずっとゆいたちを支えてくれましたね。

そうなんです。私はマリちゃんが大好きすぎて、最終話の映像チェックでマリちゃんがクッキングダムに帰るとわかったときは、顔を真っ赤にして泣いてしまったくらいです。マリちゃんって、ゆいちゃんたちを子ども扱いせずに、対等に物事を考えてくれる。お互いを尊重し合っていて、本当に尊い存在だと思っています。

――そして、ゆいといえば拓海の存在も忘れてはなりません。

大好きです。私としては、最終話でもゆいちゃんに恋心は芽生えていないと思うんです。とはいえ、第22話でゆいちゃんがブラックペッパーに送っていたありがとうのメッセージが、第40話でブラペの正体が拓海だとわかったことで、拓海自身にも向かうようになった。恋よりも大きな、ずっと大切にしたいという気持ちが生まれている気がします。できることなら最終話後のふたりの、ほのぼのとしたエピソードを作ってほしいです。

――敵対する形の怪盗ブンドル団は、どこか憎めない存在でしたね。

私は食べることが好きなので、食べ物の味を変えちゃうなんていやな人たちだろうと思っていました。でも、ブンドル団の人たちに食べ物にまつわる悲しい過去があることもわかって、なんとかしたいという気持ちが強くなりました。ただ、それは助けたいとはちょっと違うんですね。あくまで対等な存在であって、一緒にこの世界を楽しんでほしいという気持ちのほうが強かったです。

自分のなかで生きていく ゆいという存在

――全45話のなかで、とくに印象的なエピソードは？

第39話です。ゆいちゃんがおばあちゃんから教えてもらったことも大切だけど、自分が感じて考えた言葉が大切と気づく話で、私のなかでは革命的なエピソードでした。第38話のアフレコで第39話の台本をもらって、待ち時間に読んでいたのですが、思わず控え室で泣いちゃったくらいです。バトンを受け取った自分が、それをまた次につないでいくというのは、自分にもすごく刺さったエピソードでした。自分も大好きだった『プリキュア』を受け継いで、それを未来に託さなきゃいけない。そのことに改めて気づかされましたし、ゆいちゃんの成長にも感動しました。あと、第31話も好きです。ゆいちゃんが、自分を縛っている縄をバーンと力で吹き飛ばしちゃうところがすごくて（笑）。もともとゆいちゃんは力持ちでしたが、それを改めて感じさせてくれるお気に入りのシーンです。このシーンはかわいさよりも勇ましさを重視してお芝居をしていきました。

――いま、菱川さんからゆいにひと言声をかけるとしたら、なんと伝えたいですか？

言いたいことがありすぎて……。アフレコが始まったころ、深澤SDから「これから朝起きて、学校に行くときも何をするときも、ずっと隣にゆいがいると思って生活してください」とお話があったんです。そのときからずっと私の心にはゆいちゃんがいて、これからの人生でいろんな役に会ったとしても、生き続けていくんだろうなと思うんですね。そんなゆいちゃんに言いたいこと……「ありがとう」かな。そして「これからもよろしくお願いします」とも伝えたいです。最終話の収録のとき、自分の気持ちをメモにしたんですが、それをいま読んでみると、菱川花菜としてのメモというよりも、和実ゆいとしての自覚が書かれているように感じたんです。私は普段ネガティブで、よくひとりで考えごとをするのですが、ゆいちゃんと出会ってゆいちゃんからたくさんのことを教えてもらえたことで、自分にはゆいちゃんがいるから大丈夫って思えるようになりました。

――そんな菱川さんにとって「プリキュア」とはなんですか？

人生？　……もっと大きいものかな。何物にも代えがたい宝物です。私は『デパプリ』のことを考えると楽しくなるし、うれしくなる。イベントやライブ、キャラクターショーで見た子どもたちのウキウキとした顔は、一生忘れないと思います。

――ゆいを演じたことは、人生でやはり相当大きなポイントになりそうですね。

はい。ただ、オーディションを受けた時点で、役に決まらなくても私はゆい／キュアプレシャスを一瞬でも演じたんだという事を、一生背負っていくだろうと思っていました。ご縁があって自分が演じることになったときは、すごく運命を感じましたし、とにかくうれしかった。そのくらい強いものを感じていたせいか、最終話のCパートで、『ひろがるスカイ！プリキュア』の予告が流れたときは、なぜ第46話の予告じゃないんだろうって衝撃がすごかったです。でも、最終話Cパートのアフレコを終えて、『トロピカル～ジュ！プリキュア』の最終話で自分が受け取ったバトンをきちんと次に渡せたと思ったので、いまは『ひろがるスカイ！プリキュア』も楽しみです。

――最後に、『デパプリ』を1年間応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

1年間、応援してくださってありがとうございました。皆さんからの応援で元気をもらえましたし、子どもたちの笑顔に励まされました。そして、子どもたちの大好きを私たちに伝えてくださった保護者の皆さん、本当にありがとうございます。私は、『デパプリ』を観てくれたすべてのお友達にありがとうと伝えたいです。これから先、いやなことがあったり壁にぶつかったりしたとき、ごはんを食べてゆいちゃんが言っていた「ごはんは笑顔」を思い出してくれたらうれしいです。

菱川花菜から プリキュアのみんなへ

清水理沙さま

いつも、私がつまずいたときにそばにいてくれてありがとうございました。清水さんが私に教えてくれたこと、遅くまで一緒に台本チェックをしてくれたこと、絶対に忘れません。運転が上手なところ、清涼感のある声、空気が変わるようなお芝居が本当に大好きです。清水さんがいてくれるだけで、アフレコ現場も和やかになりました。これからも仲よくしてください。そして、20歳になったらおいしいお酒の飲み方を教えてください。

井口裕香さま

第1話の収録は別々でしたが、井口さんが控え室のお菓子の箱に「心はひとつだよ。1年間がんばろう」って書いてくださり、それを見て、井口さんがいるから大丈夫だと緊張がほぐれました。辛くなったり、みんなに会いたいと思ったりしたときは、その箱を見て井口さんの字にほんわかしていました。舞台挨拶や動画出演ではたくさん助けていただき、ありがとうございます。これからは私が引っ張っていくので、成長を見ていてください。

茅野愛衣さま

茅野さんは私が困ったときにすぐアドバイスをくださったのですが、そのやさしさに甘えちゃいけないと思っていました。でも、その頼もしさ、周りを見る力に憧れていました。私は茅野さんのお芝居に憧れて養成所に入ったので、一緒のチームで作品を作れることが夢じゃないかと思うくらい幸せでした。気さくに場を和ませてくださり、ありがとうございます。受け取った愛を自信に変えていきますので、これからもよろしくお願いします。

清水理沙

さまざまな経験を経て心の振れ幅の大きなここねと一心同体になれました

【しみず・りさ】
9月9日生まれ。アクセント所属。主な出演作は、『ルパン三世Part6』マティア役、『それでも歩は寄せてくる』サマンサ役。そのほか海外映画、ドラマの吹き替えも多数担当している。

芙羽ここね／キュアスパイシー

ひとりが好きなここねに共感

—放送が終わった実感はわきましたか?

だんだんとわいてきています。最終話のアフレコのあとも、プリキュアキャスト4人でごはんを食べに行ったり、感謝祭のショーの収録があったりして毎週会っていたんですね。でも、1年通ったスタジオに行かなくなり、これからじわじわとみんなに会いたいとか、スタッフの皆さんはお元気かなと思うんだろうなと感じています。

—1年はあっという間でしたか?

あっという間でした。あまりにもあっという間過ぎて、本当に私はこの1年をちゃんと生きたのか心配になるくらい(笑)。毎週かみしめながら収録をしていたのですが、本当に楽しい現場だったからこそあっという間だなと感じられたのだと思います。

—清水さんはこれまでに何度か『プリキュア』シリーズのオーディションを受けたことがあるそうですね。

たぶん、5回くらい受けたと思います。本当に心の底からプリキュアになりたかったのですが、どこかで自分になれるのだろうかという意識もありました。今回オーディションを受けるにあたって、自分のキャリアを考えたときにきっと最後のチャンスだろうとも思ったんですね。だから相当に気合いを入れて臨みました。

—受けたのはここね／キュアスパイシーだけでしたか?

はい。ゆいやらん、あまねは私の性格と大きく違うし、まず演じられないなと思っちゃって。らんに至っては、セリフを見てこれはどうやって表現するんだろうかと思ったくらいでした。でも、ここねにはひとりで過ごすことが好きという、私との共通点があったんですね。私もごはんや映画、美術館などに全部ひとりで行っちゃうので、彼女のひとりで楽しく過ごせる気持ちがわかるかも、と考えていました。

—その段階でのここねへの印象は?

クールなところがあり話しかけづらいと資料に書いてあったので、普段は口数も笑顔も少なく、でもやさしい気持ちを持っている子なんだろうと思っていました。スタジオオーディションのときにビジュアルを見て、髪がボブカット、それから思ったよりもつり目気味だったことに驚きましたが、その時点ではあまり絵に引っ張られないようにお芝居をしていきました。オーディションでは、ちょうどコメコメのおつかいをお手伝いするセリフがあり、私はここねが困っている人がいたら助けたいと思い、すぐにそれを行動に移せる子なんだと感じて。その思いを大切に演じました。

—ここね役が決まったときの思い出は?

マネジャーから事務所に呼ばれたんです。「契約書にサインをください」と言われて、いままでそんなことはなかったからおかしいなと思っていたら、事務所にいたスタッフさんの顔がすごく明るくて違和感を覚えたんです。その後、サプライズでマネジャーがここね役に決まったことを伝えてくれて。本当に生きてきてよかったです。

—ここねはゆいたちと知り合ってどんどん表情豊かになっていきましたが、物語のなかで印象は変わりましたか?

ここまで表情がある子だとは予想していませんでしたね。思った以上にお芝居の幅も求められていて、第4話では拓海のまねをして「おう」と声を出すシーンがあるし、戸惑いも多かったです。でも、まねをするシーンはカチンコチンに緊張しているのが絵からも伝わってきたので、ここねらしさからちょっとはみ出してもいいのかなと、思い切って演じました。それから、大きく印象が変化したのは、第26話のピーマン大王の回。ピーマンが苦手で震えたり叫んだりといろいろな表情を見せてくれましたが、オーバーに演じすぎて「ちょっとここねじゃなくなっています」と指摘されました(笑)。でも、ここねのキャラクター性がとても広がったなと思います。第15話のピクニック回もそうですね。「踊りませんか?」と言い出したのがツボでした。

—ここねの変化に伴って、お芝居のアプローチも変わっていきましたか?

だんだんと心の扉の開き方を変えていった感覚ですね。最初のころは心を閉じていて「おはよう」への返事も目を合わせない。でも、心を開いて気を許し合える関係になっていくと、少しずつ目を合わせるようになる。その小さな変化を表現したいと思っていました。あと全体的に冷たくならないように、きつく聞こえないようにということを心がけていました。声に空気を含ませて柔らかくするとか、かどを立てずに言うといったことを大切にしましたね。

—ピーマン大王の話では、前半のラストに「いただきまーす!」という叫びのようなセリフがありましたよね。

小さな子どもを演じた経験があまりなかったので、そのセリフも子どものここねもどう演じるか悩みました。でも、ここねは過去に「わがまま」という言葉を聞いたことをきっかけに内向的になったと思うので、子どものころはオープンめに表現してみようと思い、「いただきまーす!」も大王に飛びかかるイメージで、思い切ってやりました。ここまで振れ幅が大きい役を任せていただいたことがほとんどなかったので、自分も成長させてもらえましたし、ここねという女の子がつかめてからは一心同体になれた気がしています。

誰かが悪いだけで終わらせなかった物語

—パムパムとの相思相愛のやりとりは、見ていてほっこりしました。

なっちゃん(日岡なつみ)の声が、本当にパムパムにピッタリなんですよ。おませな感じで、でも上品で嫌味にならない。なっちゃんが演じてくれたからこその、相思

相愛感が出せたと感じています。第4話でなっちゃんと一緒にアフレコができたのですが、一緒に変身しようと心が通じ合った感じがしたんです。私、本当にパムちゃんが大好きで、いまでもお守りのようにポーチを持ち歩いているんです。

――パムパムの「人の姿」もかわいかったです。

本当に！（井口）裕香ちゃんとも「(エナジー妖精は)うちの子がかわいい」「いやいやうちの子が」と話をしていたんですが、やっぱりうちの子自慢がしたくなっちゃいます。第35話のイチョウ並木のシーンで、パムパムが「ここねの味方パム」って明るく言ってくれたときは、ずっと見守ってくれるんだなと泣きそうになりました。

――パムパム役の日岡さんに伝えたいメッセージはありますか？

一緒にアフレコできた回数は少なかったですが、私はずっとなっちゃんの声となっちゃん自身を思い浮べながらアフレコをしていました。なっちゃんの声のやさしさと明るさがあったからこそ、ここねも私も成長できました。最初のころしか「プリティストア」に一緒に行けなかったので、また「プリスト」デートをしてください。

――ほかのプリキュアには、どんな印象がありましたか？

ゆいはここねの扉を開けてくれた存在。初めての友達ですし、第4話でパンをシェアできたシーンも印象的です。らんとのやりとりは第9話のケンカのシーンが好きですね。ここねのキャラクターの幅を広げてくれたし、やりとりが楽しかったんです。あまねは第20話のマナーレッスンの回。心から「ありがとう」を言えたし、ふたりの交流がていねいに描かれた素敵なシーンになっていたと思います。4人一緒のシーンだとやはりバトルが印象的です。変身シーンの掛け声も、だんだんアフレコで一発OKが出るようになって。打ち合わせをせずともアドリブを入れられるようになり、息が合ってきたのがすごく感じられました。

――ローズマリーや拓海といった周囲の人との関わりも楽しい作品でしたね。

マリちゃんはみんなのお母さんみたいでしたね。前野（智昭）さんとアフレコでご一緒したときは思わず本物のマリちゃんがいると思いましたし、「デリシャスフィールド！」の掛け声で、マリちゃんと同じく足を上げていたのが印象的でした。拓海先輩はどんどんかっこよくなって。第8話でハンバーガーを食べに行くお誘いをゆいにスルーされたときはみんなで応援していたんですが、第40話の「プリキュアの力はこんなもんじゃねーだろ」のセリフを聞いて、私たちも気合いが入りました。内田（雄馬）さんは、花菜ちゃんが悩んでいたときに、アドバイスをしていた姿が記憶に残っています。本当に素敵な人で、ブラペとゆいの関係性と重なるところもありました。

――怪盗ブンドル団も憎めない存在でした。

私はセクレトルーのメガネ姿にキュンとしていました。あとナルシストルーがリンゴあめを食べて「おいしい」というシーンが本当に好きでした。（茅野）愛衣ちゃんとも話していたんですが、『デパプリ』って誰かを悪い人というだけで終わらせず、全員を救った話だと思うんです。最終的にみんなで「おいしいね」と言える、素敵な物語でした。

勇気をもらえたここねとの出会い

――全45話でとくに印象的なエピソードは？

第12話のキュアプレシャスとジェントルーのやりとりはバトルもですが、純粋な気持ちのぶつけ合いを見て鳥肌が立ちました。ここねにまつわる話なら第23話のボールドーナツの話。第24話で描かれたエナジー妖精たちのだるまさんが転んだも好きです。コメコメとパムパムのケンカも、かわいくて仕方がなかったです。第30話のやきそばマリちゃんは、あまねのナレーションが最高でしたね。第38話のここねが風船を膨らませるシーンは思っていた以上に表情が崩れていておもしろかったです。

――最終話では、ローズマリーたちがクッキングダムに帰ることになりました。

帰っちゃうとわかってはいても悲しかったです。セリフも、これを言わなければ終わらないんだよなと思ってしまったくらいです。最終話の変身はバトルシーンではなかったのですが、これがスタジオで言える最後なんだと思って何回もやりたい気持ちになりました。でも最終話でリテイクも恥ずかしいし、やっぱり一発で決めないと、とすごく揺れ動く気持ちでアフレコしたことを覚えています。

――ライブなどで子どもとふれあえるのも『プリキュア』ならではかと思います。

ライブでプリキュアの格好をしている子を見つけたときは、泣きそうになりました。子どもたちもプリキュアに憧れて、プリキュアになりたいと思ってくれたらうれしいですし、その思いが未来へつながっていくのかなと感じました。私の声優としての目標はプリキュアになること、そして子どもたちが見る番組に関わることだったので、個人的な夢もかなってライブやイベントは感極まってばかりでした。あと、ライブに出演した経験があまりなくて振り付けが全然頭に入らず、1日リハーサル日を増やしていただいたのもいい思い出です。

――いま、清水さんからここねにひと言声をかけるとしたら、なんと伝えたい？

「あなたに出会えてよかった、私は幸せです、ありがとう」です。ここねはゆいと出会って、新しい挑戦、新しい経験をしていった。私もここねと同じように勇気をたくさんもらえたので、あなたに出会って人生が楽しくなりましたと言いたいです。

――そんな清水さんにとって「プリキュア」とはなんですか？

夢と希望と元気。全部がキラキラしていてパワーをもらえる存在です。私は『ふたりはプリキュア』のOPテーマ「DANZEN！ふたりはプリキュア」をいまでも聞くんですが、イントロだけで今日もがんばるぞと思える。そのくらい記憶に残るシリーズなので、全人類がプリキュアを観たほうがいいと思っています。

――では『デパプリ』を1年間応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

SNSなどを通じて応援してくださる方と交流が持て、メッセージをもらえて毎週がんばろうと思えました。この場を借りて、改めて感謝を伝えたいです。アニメは最終話を迎えましたが、これからもどこかで『デパプリ』のみんなは生き続けているので、時々思いを馳せてもらい、思い出してもらえたら、私の人生も幸せになります。本当にありがとうございました。

清水理沙から プリキュアのみんなへ

花菜ちゃん、1年間本当にお疲れさまでした。座長としてとてもがんばってくれていたと思います。オーディションで出会ったときから物怖じせず、明るく元気に挨拶ができて、スタジオに入っても元気いっぱいでしたね。私たちはいつも花菜ちゃんからパワーもらっていました。きっと1年間で大変なこともあったと思いますが、それを見せずに引っ張ってくれてありがとう。20歳になったらお酒デビューしましょうね。

裕香ちゃんと私は同い年なのですが、裕香ちゃんは本当にやさしくて、誰よりも周りをよく見て気を遣ってくれている人でした。現場でも誰かが困っているなと察して、率先してスタッフさんに質問をしたり、意見を聞いたりしてくれていたんです。本当にありがとう。頼れる裕香ちゃんが大好きです。出会ってくれてありがとうと、本当に伝えたいですね。これからもずっと仲よくしてくれたらうれしいです。

愛衣ちゃんは私にとっての女神様で仏様のような存在です。いつも相談に行くと、1の相談に100の答えを返してくれるんです。一緒にごはんに行ったときもマイナスなことは言わず、素敵で楽しい会話をいっぱいしてくれました。初めて4人で収録したとき、私の呼び方を聞かれたのですが「理沙ちゃんって感じじゃないな。考えてくる」って言って、翌週「りーさって呼ぶことに決めた」と言ってくれたこともうれしかったです。

井口裕香

【いぐち・ゆか】
7月11日生まれ。大沢事務所所属。主な出演作は、『本好きの下克上 司書になるためには手段を選んでいられません』マイン役、『ヤマノススメ』あおい役など。

華満らん／キュアヤムヤム

『プリキュア』シリーズは自分にとって永遠の目標で憧れです

太陽のような明るさを感じたらん

——最終話まで放送が終わりましたが、実感はわいてきましたか?

アニメのアフレコが終わっても、毎週ごはんに行くなどでほかのキャストと会う機会が途切れていなかったので、終わった感じがまだしていないんです。でも、感謝祭用のショーの収録をしたときは、アフレコという形でらんらんを演じるのは最後なんだなという気持ちがわいてきました。ただ、そのあとみんなでごはんに行く約束をしていたので、すぐに気持ちが何を食べるか、何を飲むかに切り替わっちゃいました(笑)。

——そういうしんみりしすぎないところも『デパプリ』らしいですね。

本当にそう思います。これまでの『プリキュア』シリーズでもいろんな試練にぶつかってきたと思うのですが、『デパプリ』はやむを得ず放送がお休みになる試練もありました。ちょうどらんらんがもうすぐプリキュアの仲間入りというところだったので、やきもきはしました。でも、そんな困難を乗り越えて最終話に辿り着けたのは感慨深かったですね。また、最終話に向けて、それぞれの成長や怪盗ブンドル団と向き合う姿も描いてもらえて、笑顔で終われたところが『デパプリ』らしいなと思いました。

——井口さんは『プリキュア』シリーズのオーディションを、何回か受けたことがあるそうですね。

はい。ただ、ここ数年は受けていなくて、久しぶりだったこともあり「私が受けていいのかな?」と思っていました。私にとって『プリキュア』は若手声優さんのチャンスの場だったんです。でも、改めてオーディションに参加する機会をもらえたことはすごくうれしかったです。

——受けたのはらん／キュアヤムヤムだけでしたか?

スタジオオーディション前のテープオーディションの段階で、らんらんにひと目ぼれをしてしまって、らんらんのみで挑戦しました。テープオーディションのときって、その瞬間だけは自分の役になるという喜びがあって感慨深かったです。その後、スタジオに行けるとなったときは、普段は絶対にそんなことをしないのに、キャラクターカラーである黄色のワンピースを着ていったんです。それは自分自身へのお守りというか、少しでもキャラクターに近づきたいという思いからでした。

——らんのどんなところにひと目ぼれしたのでしょうか?

まず見た目がかわいい。それから、擬音でリアクションをするようなちょっと変わったところがある子だけど、明るく元気で、さらに秘めた優しさや葛藤があるところ。オーディションでは「好きなものに一直線で、わーって語っては、ハッとして冷静になるみたいな子です」という説明もあったので、そこもいいなと思っていました。

——それだけ愛を持って臨んだらんに決まったときはどうでしたか?

スタジオオーディションでは思いが強すぎて冷静になれず、声はうわずるし、自分なりに考えた演技プランも全部吹き飛んでしまったんです。さらに「メンメンもお願いします」とお話があり、うれしい反面、らんはないんだなと思ってしまって。しかも、ちょうどスタジオを出るときに(菱川)花菜ちゃんとすれ違ったんです。元気な挨拶と爽やかな雰囲気に、彼女こそプリキュアだと感じてすごく落ち込んだんです。そうしたら、後日事務所でサプライズをされ、決まったと聞いて泣いて叫んでしまいました(笑)。しかも、アニメのスタッフへのメッセージも撮影したんですよ。大泣きしながら「ヤムヤムと一緒に成長したいです」って言ったのですが、あとになって新人さんみたいなことをした……と思いました。

——らんのお芝居については、どう考えていきましたか?

序盤は味が変わったことに気づくだけの子でしたが、らんらんが画面に映るとすごく明るくなるので、その太陽のような明るさや、登場するだけでワクワクさせるような部分を大事にしたいなと思いました。

——ふだんは明るいらんも物語が進むにつれて、素直に自分の気持ちを吐露できない部分も出てきましたよね。

自分って変わっているのかな、変ってダメなことなのかなみたいに揺れ動く気持ちがどんどん出てきましたよね。でも、そこは暗くなるのではなく、いじらしくかわいく見えるように演じられたらと意識していました。

——らんの「人と違うかも」という悩みは、すごくリアルでした。

学生時代って、クラスメイトや学校が自分の世界のすべてだと思っちゃいますよね。学校を出てみるともっと広い世界があって、個性的な人もいっぱいいる。そして個性があればあるほど、人と違えば違うほど魅力的に見える。でも子どものころはそれがわからないんですよね。みんなと違うことの恥ずかしさやドキドキする気持ちは理解できるので、私自身らんが自分を受け入れて変わっていく姿に勇気づけられました。

——らんの独特の言い回しについては、どうアプローチをしていきましたか?

最初はどこまでオーバーにやっていいのか悩みましたが、アフレコが進むにつれて、オーバーにすればするほどかわいくなると感じたんです。深澤SDから「悩まずに好きに演じてくれていいです」とお話があったので、あまり意識しないようにしました。ここね役の(清水)理沙ちんがらんらんのリアクションに大喜びしてくれていたので、その反応を見てがんばるぞと楽しく演じられました。

話し合えば理解できる素敵なキャラクターたち

——メンメンとのやりとりは、ほのぼのとしました。

半場(友恵)さんとは、1回しかアフレコでご一緒できなかったのですが、一緒じ

ゃなくてもプリキュアチームが収録したあとのお芝居にしっかりと乗っかってくれて、本当にたくさん助けてもらいました。メンメンは穏やかでおっとりした男の子ですが、らんらんと一緒に熱くなってくれる最高の相棒です。みんなお互いのペアを大切に思っていますが、らんらんとメンメンのペアも、もちろん最高です！

――メンメンとのやりとりでとくに印象に残っているシーンは？

やっぱり第7話の出会いのシーンです。それから、第32話でうどんのレシピッピを探すときのメンメンは、麺占いという意外な技も見せてくれたし、レシピッピに対してもお兄ちゃんっぽい振る舞いをしていて、すごく頼りになる姿を見られたので印象的です。

――半場さんに伝えたいメッセージはありますか？

いつも収録はすれ違いでしたが、気にかけてくださってありがとうございます。お会いするだけで心がパッと明るくなっていました。エナジー妖精チームは皆さん陽気な方ばかりですが、半場さんはムードメーカーとして場をまとめてくれて、勝手に頼りにしていました。いつもらんらんのグッズを持ってきてくれて、そして私が「かわいい」と言ったメンメンのグッズも、次の週に買ってきてくれて。私は声優を目指していたときから半場さんの出演作を観て半場さんが歌うキャラソンを歌っていたので、ペアを組むことができて幸せでした。願わくば、メンメンとのデュエットソングが欲しいです。

――ほかのプリキュアキャストのメンバーには、どんな印象がありましたか？

やっぱりキュアプレシャスという、分け隔てなく誰にでもまっすぐ接してくれる彼女がいたから、途中ですれ違ってもみんながひとつになれていたんだと思います。それこそアニメの彼女たちを見て、私たちキャストの絆も強くなっていった感覚があります。

――ローズマリーや拓海といった周囲の人との関わりも楽しい作品でしたが、ふたりへの印象は？

マリちゃんは、私たち大人から見てもこんな大人がいてくれたらいいなという理想の存在ですよね。間違いは正してくれるけれど、頭ごなしに否定するわけではない。やりたいようにやってみなさいと行動を促してもくれる。本当に素敵です。私も何かあったときは心のなかのマリちゃんに問いかけるようになったんです。そうするとすごく穏やかな気持ちになれます。前野さんのお芝居もとてもチャーミングでした。ブラペは人気でしたよね～。第40話で「あんな格好」と言っていたのを聞いて、「やっぱり違和感があったんだ」と思いましたが（笑）。応援してくださる方の声があって、キャラクターがどんどん大きくなっていくので、それがブラペの変身シーンにもつながったのかなと思っています。拓海にスポットが当たる回は、ゆいちゃんへの秘めた る思いを聞けたので、つい応援したくなっちゃいました。

――怪盗ブンドル団も憎めないキャラクターばかりでした。

悪になりきれていないところが愛らしいですよね。「ブンドルーブンドルー！」もついマネしたくなっちゃうし、何よりいやな人なわけではなく、ちゃんと話し合えば理解し合える存在だったことがうれしかったです。

食べることは生きることと教えてくれた『デパプリ』

――全45話のなかで、とくに印象的なエピソードは？

プレシャスが変身できなくなった第43話です。それぞれ壁にぶつかって葛藤し成長するシーンがあって、それがゆいちゃんにも来たのかと思って。第43話の変身シーンは、プレシャスを除いた3人でしたが、すごく違和感があったんです。いつも花菜ちゃんの呼吸に合わせていたので、誰が音頭を取るか相談して。結局、理沙ちんが取ってくれたのですが、改めてプレシャスの存在の大きさを感じましたし、駆けつけてくれたときには心底ホッとしました。

――いま、井口さんからららんにひと言声をかけるとしたら、なんと伝えたいですか？

「私はあなたになりたい」

らんらんって本当に素敵な子なんです。太陽のように明るくぽかぽかのひだまりを作ってくれて、個性的だけど好きなものに一直線。大人って好きなものがあっても冷静になって、衝動的に突っ走ることが減っちゃうので、楽しさを優先して好きなことに突き進む姿をまぶしく思っていましたし、らんらんのような人間になりたいと改めて思いました。

――井口さんにとって「プリキュア」とはなんですか？

じつは、この答えが出なくてずっと悩んでいたんです。声優になったときからプリキュアになりたいとずっと思っていて、それが30歳になったころから『プリキュア』という作品に携わりたいに変わって。声優になれたからには大きなロボットに乗ったり、変身して悪と戦ったりしたいじゃないですか。そのなかでも、私は大人も子どもも楽しめる作品に携わりたい思いが強かったんですね。自分が子どものころ、ＴＶにかじりついてワクワクしていたあの感覚を、誰かにシェアしたかった。いざプリキュアになれたいま考えると、私にとってプリキュアは憧れのまま、目標のままかもしれません。プリキュアになれたから次は敵にもなりたいし、できるなら妖精やお母さんにもなりたい。それくらいずっと携わりたい、私にとっての永遠の目標であり憧れの作品です。

――では、『デパプリ』を1年間応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

本当に終わっちゃうんだなぁと感じますね……。1年間応援してくださり、ありがとうございました。食べることや飲むことが大好きな4人が、プリキュアになって作品をお届けできて、とてもうれしかったです。食べることは生きることだと思っていますし、生きていくうえで大事なことですよね。ひとりで食べても大切な人と一緒でも、食事はその時間を含め、人の血となり肉となるものなのだと作品を通して改めて感じました。オンエアは終わりましたが、これからも彼女たちの日常は続いていくので、ふとおいしいものに出会ったときに『デパプリ』のことを思い出してくれたらうれしいです。私は料理を作るのが不得手なので、食べることに全力になり、『デパプリ』を胸に生きていきます。みんなもおいしいものをいっぱい食べましょう！

井口裕香から プリキュアのみんなへ

菱川花菜さま

花菜ちゃんは感情を表現するお芝居がすごく上手で、私も役者として刺激をたくさんもらいました。でも、マイクの前に立たない花菜ちゃんは愛らしく、若者の流行の話で私たちが頭にはてなマークを浮かべていても、いつもハッピーな空気を作ってくれました。本当にありがとう。プレシャスが花菜ちゃんで本当によかったです。20歳になったら、お姉さんたちと一緒にお酒を飲みに行きましょうね。楽しみにしています。

清水理沙さま

理沙ちんは同い年とは思えないくらいにお芝居もうまく美しく、何もかもが憧れです。趣味や好みがだいぶ違っていたことに最初は焦りましたが、お互いにないものを持っていて、すごく刺激を与え合えたと思っています。らんらんとここねの合わせ味噌の話は、自然と感情を引き出してもらえました。『プリキュア』じゃなかったら憧れのままで終わったと思いますが、いまは素敵な仲間だと感じているので、これからも仲よくしてください。

茅野愛衣さま

茅野さんとガッツリ掛け合ったり、収録後にごはんに行ったりするのは『デパプリ』が初だったので、すごく新鮮でした。あまねちゃんと同じように自分の信じたことにまっすぐ進む姿がまぶしかったです。きっとあまねちゃんみたいにちょっと抜けたところもあると思っていますが、いつも私たちがわいわいしているときにまとめてくださり、そしてごはんに誘ってくれてありがとうございます。大好きです。これからもよろしくお願いします。

茅野愛衣

【かやの・あい】
9月13日生まれ。大沢事務所所属。主な出演作は、『この素晴らしい世界に祝福を！』ダクネス役、『無職転生 ～異世界行ったら本気だす～』シルフィエット役など。

菓彩あまね／キュアフィナーレ

『デパプリ』に出会えたことが私にとっての財産です

年齢にとらわれない しっかり者のあまね

——放送が終わった実感はわきましたか?

ばなな（菱川さんの愛称）は「放送が終わったら、私は消えてなくなる……」みたいなことを言っていましたが、私はそこまでの実感がまだないんです。感謝祭が終わるまで気が抜けないなという気持ちですね。

——茅野さんが『プリキュア』シリーズのオーディションを受けたのは、今回が初めてだそうですね。

そうなんです。実際に受けたのもあまね／キュアフィナーレだけでしたが、オーディション用の資料にジェントルーのセリフもあったので、ちょっと大変そうな役だなと感じていました。

——オーディション段階でのあまね／キュアフィナーレへの印象はどうでしたか?

セリフとフィナーレになった姿しか資料がなかったので、かっこいい口調とラブリーな服とのギャップがあるなという印象でした。ただ、ほかのキャラクター資料や、生徒会長であることを踏まえると、ほかの子たちよりもお姉さんポジションなのかなと感じていました。それもあり、あまり年齢にとらわれず、しっかりした雰囲気で演じていきました。それから、プリキュアって子どもたちの憧れの存在で、しかもキュアフィナーレのイメージカラーはゴールドなので、かっこよさや最強感、ゴージャス感は出せるようにしたいなと思っていました。

——オーディションのときのジェントルーに対する印象は?

何を目的にレシピッピを奪おうとしているのかもそうですが、とにかく謎が多かったです。でも、身体はひとつですから、あまねと声を変えることはほとんどしませんでした。ただ、私たちも想像するのが仕事なので、ジェントルーがどこにいて誰と話しているのかをつねに意識して演じました。

——まじめそうなジェントルーが真剣に「ブンドルーブンドルー！」と言うのも、すごくインパクトがありました。

あの掛け声って、子どもたちにすごく人気なんですよね。放送が始まってから友達が「娘がすごくはまってて、いつも『ブンドルーブンドルー！』って言ってる」って教えてくれたんです。ただ、「ブンドル」ってあんまりいい言葉でもないから、いいのかなと思ったりもしたのですが（笑）。

——まさか、将来ジェントルーがプリキュアになるよとも言えませんし。

そうなんです。だからもう「がんばってブンドルね」みたいな返し方をしていましたね。ただ、「プリキュアになるんでしょう?」って尋ねてくる方もいたんですよ。どこまで秘密なのか、同じ役者の間でも言っていいのかがわからなくて、物語で描かれるまではちょっと困りました。

——茅野さんはプリキュアになりたいという目標のようなものはありましたか?

自分がプリキュア世代でなかったこともあるのか、プリキュアになりたいとは思っていなかったんです。プリキュアのオーディションの時期になると、女性声優の皆さんがざわめいていたり、『トロピカル～ジュ！プリキュア』に出演していた日高里菜ちゃんや花守ゆみりちゃんと一緒の現場で、ふたりが「来年よろしくね」と話しているのを偶然小耳に挟んだりしていて。みんなプリキュアが好きなんだなと思っていましたが、わりと客観的に見ていました。声優のお仕事を始めてから、好きを作らないようにしているのも影響しているのかもしれません。あまり好きすぎると自分の我がお芝居に出てしまうし、それこそ自分の好きな作品がアニメになったとき、出られないとなったら落ち込んじゃうと思うので、身を守るためにそうしているんです。ただ、今回オーディションを受け、あまねというキャラクターを演じることができた。それは本当に縁だったんだなと感じています。

——あまねはどちらかというとかたい話し方をしますが、その話し方についてはどう捉えていましたか?

お兄ちゃんの影響もあったのかなと見ていました。空手を学んでいるところから、あの言葉づかいになったんじゃないかな。言葉はかたいですが、私としては意志の強さや芯のある女性像を考えて演じていきましたね。ただ、拓海の呼び方が「品田」だったのは驚きました。同級生だから苗字で呼び捨てなんでしょうか。

——最終話で拓海に「顔が赤いぞ」と言っていましたが、アドリブだったそうですね。

あまねって、品田の恋心に気づいているんですよね。それまでにもちょっといじるようなセリフがあったので、テストで入れていいか確認したうえで入れてみました。あまねと品田と言えば、第40話でブラペの正体が品田だと知ったゆいが大泣きするのですが、そこでキュアフィナーレの口がバッテンになっているんですね。それを見てスタッフさんも品田とあまねの関係を楽しんでいるのかなと思えたこともあり、アドリブを入れてみたくなったんです。

——あまねは敵から味方になるということもありますが、性格的な面でもかなり変化が大きかったかと思います。

そうですね。ただ、心を操られてしまっていたころのあまねがどんな様子だったのかって、作中ではほとんど描写されていないんですよね。お友達との会話で過去が出てきたり、お兄ちゃんとの話で幼少期の様子がわかったりしますが、ゆいたちと出会ってからのことがわからない。生徒会長になるくらいなのでかなりの人格者だと思いますし、突然お母さんみたいなことも言い出すので、すごく気遣いができて、周りにも目が届くんですよね。そういう部分もきっとジェントルーに選ばれた理由なんじゃないかな。ナルシストルーは土地勘があることを選んだ理由だと言っていましたが、私は土地勘だけじゃないと思っています。

バランスがいい プリキュアの4人

——キュアフィナーレにはペアのエナジー

妖精がいませんでしたが、そのぶんパフェのレシピッピ（通称パフェピッピ）とのやりとりが印象的でした。

子どものころの思い出が結晶化したっていうエピソードがすごくいいですよね。パフェピッピとあまねがケンカをして変身できなくなった第33話はすごく印象深いです。まさか、パフェピッピを両手でぎゅーって潰すとは思わなかったです。パフェピッピは事務所の後輩の島袋美由利ちゃんが声を担当しているんです。一緒に録ることは叶わなかったんですが、ほかの現場で一緒になるとプリキュアの話をしていたので、彼女が演じてくれて本当によかったです。

―プリキュアキャストのメンバーには、どんな印象がありましたか？

本当にバランスがいいですよね。戦いもそうですが、役割がしっかり決まっている。アフレコも4人で収録するようになってからは、戦闘シーンがすごく気持ちよかったですね。しかも、1年担当していると、キャストとキャラクターが似てくるんです。キャラクターに似た人を選んでいるわけではないと思うのですが、オリジナル作品ということもあって、スタッフさん、そしてキャストで作っていった結果、どんどん似ていくのかなと思いました。キャスト面でいうと、仲のいいソウルメイトになれた気がしています。これまでの『プリキュア』シリーズに出演したキャストさんは、みんな「私たちのチームが一番だよね」とおっしゃっていて、キュアフィナーレが登場するようになったころ、私も「『デパプリ』が一番ですよね」と聞かれたのですが、当時はまだジェントルーのほう長かったし……という感覚が強かったんですね。でも、いまは私たちのチームが一番だと言える。こういう気持ちになったのは、プリキュアに魔法をかけてもらえたからだと思うんです。ほかの作品でご一緒したことがあっても、一緒にごはんを食べたり集まったりできる関係になれたのはプリキュアだからこそだと思っています。

―ジェントルー役としては、怪盗ブンドル団は第二のホームのような感覚なのでしょうか？

あまねは過去を振り返らないと言っていましたが、私的にはホームですし、ブンドル団のグッズもすごく欲しくて。でもこれを付けたらあまねに悪いかなと思っていたら、脚本の平林（佐和子）さんがブンドル団マークのグッズを帽子に付けていたので、いいのかなと思えました（笑）。ブンドル団って意外とがんばりやですよね。そのなかでも第37話の文化祭の話は、あまねとナルシストルーとの決着がきちんとついたので清々しい気持ちになりました。

―ローズマリーをはじめとする、周囲の人や家族との関わりも楽しく描かれた作品でしたね。

マリちゃんもブラペもキラキラしていましたね。とくにマリちゃんは戦い方のアドバイスも指示もしてくれて、本当にマリちゃん様々でした。マリちゃんの言葉はすべて胸に響くし、大切なことを教えてもらった気がしています。あまね的にはゆあんとみつきのお兄ちゃんもすごく大事なキャラクターでした。宮田（俊哉）さんの演じ分けが見事なんです。本当に『プリキュア』がお好きなことが伝わってきました。

―全45話のなかで、とくに印象的なエピソードは？

第18話のフィナーレに初めて変身する回です。「わたし、パフェのような人になりたい……！」と涙ながらに言う姿は想像していませんでした。あと衝撃的だったのは、メンメンとパムパムが「思い出せないメン」って頭を抱えていた第37話。あのあたりから、作品の持つ空気がだいぶ変わってきましたし、先を知らないからこその衝撃を毎週感じるようになりました。当時はゴーダッツの正体やフェンネルに何があったのか、そういうことを推理するのも楽しかったです。

―いま、茅野さんからあまねに声をかけるとしたら、なんと伝えたいですか？

言葉はなく、よくがんばったね、の気持ちを込めてハグしたいです。私としてはあまねとジェントルーをそれぞれギュッと抱きしめたい気持ちです。

―ジェントルーに関しては、2月18日、19日に行われた感謝祭で再びの登場がありました。

感謝祭を見た方はご存知だと思いますが、あまねとは別の人格としてジェントルーが復活する話だったんですよね。最初はジェントルー復活とだけ聞いていたので、またあまねが何かされるのかとドキドキしていましたが、別人格ということでホッとしました。ジェントルーを演じるのは個人的に楽しかったけれど、あまねにとっては辛い出来事だったので、楽しいと思っちゃいけないなとも思っていたんです。でも、今回のショーでジェントルーも救ってもらえて本当にうれしくて。改めて『デパプリ』は誰も犠牲にしない、ないがしろにしない物語だなと感じました。ジェントルーとして生きてきた時間も救ってもらえたような気持ちになりましたし、それ以外でも感謝祭のショーはエナジー妖精との再会もあり、ナルシストルーやセクレトルーもジェントルー騒動解決に協力してくれて。そのすべてがうれしくて、ショーで描かれた内容こそ、私にとっての最終話かもしれないという気持ちになりました。ぜひ、機会があったらたくさんの方に見ていただきたいです。

―そんな茅野さんにとってプリキュアとはなんでしょうか？

魔法のような存在かな。「自分たちのシリーズが一番」という感覚がわからなかった私に「『デパプリ』が一番」という気持ちが生まれたように、『プリキュア』シリーズを1年間一緒にやりきったからこそ生まれる気持ちがあると思うんです。きっと『プリキュア』を見てくれる子どもたちは、そんな私たちと同じように夢や希望、それ以外の何かを感じ取ってくれていると信じています。私は1年間『デパプリ』に関わったことで、そういった思いを生み出すプリキュアは魔法だと思いました。

―では、『デパプリ』を1年間応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

『デパプリ』が有終の美を迎えることができたのは、皆さんの応援のおかげです。フィナーレに出会えたこと、イベントやライブで皆さんの笑顔に会えたことは、これからの私の財産になりました。私は『デパプリ』に出演して、いつか『キラキラ☆プリキュアアラモード』のキュアパルフェと共演したいという新しい夢ができました。それを叶えるべくがんばっていきますので、今後も続いていく『プリキュア』シリーズの応援をよろしくお願いします。

茅野愛衣から プリキュアのみんなへ

菱川花菜さま

ばななはオーディション会場に来たとき、制服姿で大きな声と笑顔で挨拶してくれたことが印象に残っています。1年間、ばななの成長を身近に感じて、これからいろんな役を演じるばななを見るのがより楽しみになりました。これからいろんな困難があると思うけれど、ぶつかったぶんだけ成長できるチャンスなので、失敗を恐れず役に向き合ってほしいです。私もまた一緒にお仕事できるようにがんばります。これからもよろしくね。

清水理沙さま

これまでもいろんな作品でりーさの声を聞くことはありましたが、1年間一緒に作品を作っていくのは初めてでした。改めてりーさのお芝居や声が好きだと思ったし、真摯に役に向き合う姿を見て、身の引き締まる思いでした。いつもおしゃべりをいっぱいしてくれたし相談にも乗ってくれてありがとう。食の好みもすごく合って、おいしさを分かち合えたのがうれしいです。これからも一緒にチアーズして、仲よくしてくれたらうれしいです。

井口裕香さま

ゆかちは、いつも明るく現場を盛り上げてくれていました。これまでも共演はあったけれど、『デパプリ』でより距離が縮まったと思うし、ゆかちをもっと知れたのもうれしかったです。ゆかち以上に素直でかわいい子はあまりいないと思っているので、そのかわいらしさを持ち続けてください。そしてみんなを頼ってください。あと、ゆかちが動いてくれないとみんな行動に移せないので、またチラチラ見てくるスタンプを送ってください。

CAST Special Message

キャスト スペシャル メッセージ

プリキュアと行動をともにしたエナジー妖精やプリキュアにまつわる人々と、怪盗ブンドル団のキャラクターを演じた声優陣からのメッセージ！

コメコメ役 高森奈津美

Q 出演が決まったときの感想は？

マネジャーさんからご連絡いただいたときは真っ先に夢!? と思いましたが現実でした。こういった作品で妖精役をやらせていただくのがひとつの夢だったので『デパプリ』でそれが叶って本当にうれしかったです。

Q コメコメの印象は？

コメコメは最初あまり自己主張をしない、いじらしい健気な子という印象だったのですが、育っていくにつれてみんなからいろんな気持ちを教えてもらい、エナジー妖精同士でケンカをしたりちょっとわがままを言ってみたり、少しずつ自己主張もできるようになっていったのが感慨深いです。

Q シリーズを通して感じたコメコメの魅力は？

まずはオーディションで油布さんのキャラクターデザインを見たときに、あまりの愛らしさに衝撃を受けました。収録が始まると台本を読むたび一挙一動、存在すべてが愛おしかったのですが、ペアのゆいへの愛情はもちろん、それだけじゃなくつねにみんなへの大好きの気持ちでいっぱいなところがとてもかわいかったです。

Q 演じる際に心がけたことは？

普段そこまで計算というか、先々での予定を組んでお芝居をすることはほとんどないのですが、コメコメに関しては成長の度合いが細かいのとエナジー妖精時の姿もあったので、初めて細かくお芝居の予定を組んで演じました。いつも現場で「かわいくお願いします」とのお話をいただいていたので、観る方すべてのペアとしてかわいく寄り添う存在でいられるようにがんばりました。

Q 印象的だったエピソードは？

第28話で「早くおっきくなってみんなの役に立ちたいって思ってたコメ。～このままじゃ……プレシャスがかわいそうコメ……」の一連のセリフに、そのときコメコメが感じているふがいなさや大好きなプレシャスのために早く大きくなって役に立ちたい、隣に立ちたいという気持ちである妖精心が詰まっていてなんていじらしいんだと思って、台本を読んでいて涙が出ました。全体を通してですと、おしゃべりがどんなに上手になっても一番感極まったときに出る「コメ～!!」がかわいくて大好きです。アフレコ現場ではいつも『デパプリ』のグッズ交換会やグッズ開封の儀が行われていたのが楽しかったです。

Q 映画ではエナジー妖精全員が人の姿になりました。

エナジー妖精がそろって人の姿になれたのが、本当にうれしさテラ盛りでした。さらには変身してプリキュアと一緒に戦えるなんて……感無量です。個人的にはメンメンのチャイナっぽい少年スタイルが最高に大好きです。

Q ペアであるゆい／キュアプレシャスにひと言お願いします！

第1話でゆいに出会って、ゆいみたいに強くおっきくなりたいという気持ちでコメコメは大きくなりました。コメコメと出会ってくれて、たくさん愛情をくれてありがとう！ ゆい大好きコメ!!

Q ほかのプリキュアやエナジー妖精にもひと言！

プリキュアひとりずつと絆を強める話をそれぞれ作っていただけて、これは本当に贅沢で幸せなことですし、そのおかげでみんな大好きの気持ちでパーティアップ！ することができました。エナジー妖精のおふたりとは一番長い時間を一緒に過ごさせていただいて、この3人で『デパプリ』のエナジー妖精を演じることができて、本当に幸せだと思います。これからも仲よくしてください。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

1年とはいえ始まるとあっという間で、ついこの間、第1話の収録したのに!? という気持ちでいつまでも驚いてしまいます。けれど1クールの作品などが多いなか、こうして1年かけてじっくりコメコメと向き合い一緒に歩み成長できたことは、わたしの人生のなかで大事な大事な宝物になりました。本当に感謝してもしきれません。

Q いま感じる作品の魅力は？

食べる楽しさ、あたたかさを改めて教えてくれるデリシャスマイル～！な教科書です。

Q 読者にメッセージを。

1年間応援してくださって本当にありがとうございました！ 皆さんにとってコメコメはどんな存在になったでしょうか？ わたしにとってキラキラとした宝物のこの作品が、皆さんにとってもいつまでも心に残る特別な作品になったらうれしいなと思います。いつでもコメコメは皆さんのそばにいますので、おいしいごはんを食べるときにはちょっとだけコメコメのことを思い出してみてくださいね！ みんな、大好きコメ!!

パムパム役 日岡なつみ

Q 出演が決まったときの感想は？

夢のようでした……！ 声優を始めた当初から、インタビューなどで「演じてみたい役柄は？」と聞かれると、妖精のようなマスコットキャラクターと答えていたので、まさかそれが『プリキュア』という夢のような舞台で叶うなんて！ さらに私がパムパムのような茶色くて垂れ耳で女の子のワンちゃんを飼っているのもあって、これはもう運命的な出会いだ……！ と感激したのをいまも鮮明に覚えています。オーディションのときにエナジー妖精をどうしてもやりたくて、パムパムの長ゼリフを何度も何度も練習して挑んだのですが、のちにシリーズディレクターの深澤さんに「パムパムのセリフをすらすら言えていたのがよかった」とおっしゃっていただいて、心のなかでガッツポーズしました（笑）。

Q パムパムの印象は？

おしゃまでしっかり者でいろんなことを知っていて、コメコメのお世話も焼いちゃうお姉ちゃん的な存在なのかな？ という印象でした。ちょっとナルシストルー（笑）な小憎らしい愛らしさがあるというか……。初めのころはエナジー妖精で唯一おしゃべりができたのもあって、説明役的ポジションを担っていましたが、回を追うごとにメンメンが登場したり、コメコメがしゃべれるようになったりして、いつの間にかパムパムはオチ担当のようになっていったのがおもしろかったです（笑）。ペアのここねもそうですが、当初と比べて印象が変化したキャラクターだなと思います。

Q シリーズを通して感じたパムパムの魅力は？

やっぱり、ここねへの無限大の愛です！（笑）出会いからひと目惚れ（？）して、ずーっとここねに夢中なのが本当にかわいかったです。ここねにお友達ができるか心配で学校まで様子を見に行ったり、「ハイパーおしゃれ女神さん」なるワードをチョイスしたり。第35話ではここねがみんなと離れてイースキ島に行くかどうかの大きな決断を迫られたとき、ここねに付いて行く気マンマンで、「イースキ島からどうにかして駆けつけるパム！」と言い出し、さらには「みんなここねの味方」という愛に満ちた素敵なアドバイスを贈り……。ここねへの深～い愛情たっぷりなパムパムが大好きです！

Q 演じる際に心がけたことは？

おしゃまでちょっと大人ぶってる子どもの感じと、小憎らしいことを言っても嫌な感じはせずかわいらしさがでるといいなと思って演じていました。しっかり者に見えてちょこちょこ抜けていたり、変顔もおそらく一番多かったりと（笑）ギャグ要素も多かったので、観ている人に笑ってもらえるような愛されキャラを目指しました！ 苦労した点は「パムパム」が言いづらかったことです（笑）。これはよくパムパムを呼んでくれるここね役の清水理

沙さんも同じことをおっしゃっていて（笑）、第24話でナルシストルーに捕まって「パムパムパム……!!」とパンチしながらパムを連呼するシーンがあるのですが、そこが一番苦労しました（笑）。でも同時に大好きな回でもあり、なぜかこのお話を機に個人的にナルシストルーに夢中になってしまいました……（笑）。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

パムパムではないのですが、第18話でゆいがあまねに言う、「昨日食べたものが、今日の自分をつくる。今日食べたものが、明日の自分をつくる。過去は変えられない。でも、未来はこの瞬間からつくっていけるんだよ！　あまねさん、明日はどんな自分になりたい？」というセリフが大好きです。おばあちゃんの言葉は毎回心に響くものばかりですが、とくにこの言葉は、もう遅いなんてことはなくて自分自身の行動によっていつだってどんな未来も切り開いて行けるんだよ！　というポジティブで明るい意味がコメられていて、自分のモットーにしたいくらいでした！　アフレコ現場でのエピソードは、エナジー妖精チームでよくグッズの交換会をしたことが楽しかったです♪　この1年間で集めたものすごい量の『デパプリ』グッズ（とくにパムパムとここね）を飾って眺めるのがいまの幸せです（笑）。あとハプニングが一度あって、アフレコの最中に携帯電話を誤操作させてしまい、ペットカメラが起動しておうちにいるわんこの吠えている声がブースに響き渡ったことがありました……（笑）。あれはめちゃくちゃ焦りました……！　でもみんな笑って許してくださって、スタッフさんには「日岡さんがパムパムの鳴き声を入れてくれたのかと思った」と言われました（笑）それ以来、アフレコ中は携帯電話をなるべく遠いところに置いていました……（笑）。

Q 映画ではエナジー妖精全員が人の姿になりました。

とにかく初めて知ったときは、驚きの感情が大きくて……！　エナジー妖精のキャスト3人ですぐに連絡を取り合い、これどういうこと!?　と大興奮してしまいました（笑）。メンメンは人の姿になると男の子みが増してかっこかわいいし、パムパムはお洋服の感じがお嬢様っぽく、お顔や立ち姿がここねと似ていて妹みたいで本当に愛おしかったです。映画のなかでは、人の姿になれた喜びと、遊園地という非日常な場所も相まって、いつもより少しテンション高く演じてみました！　声質もエナジー妖精のときより少しだけ大人っぽくしてみたのですが、普段からおませな子なのであまり大きくは変わらなかったと思います。ですが、ラストの変身シーンは自分自身も興奮してしまい、気合を入れて挑みました！

Q ペアであるここね／キュアスパイシーにひと言お願いします！

パムパムとペアになってくれて本当にありがとう！　ここねにお友達がたくさんできて、分け合うおいしさを知れて、家族とも素敵な関係を築けて、とってもとってもうれしいです。ここねの周りの人たちはみんなここねの味方ってこと、これからも忘れないでね！　パムパムはここねのことがずーっと大好きです!!

Q ほかのエナジー妖精にもひと言！

成長を近くで見守ってきて、コメコメに対して母のような気持ちが芽生えました（笑）。マリちゃんみたいに、こんなに大きくなって……とウルウルしてしまったり。一番小さいながらにいろんなことをたくさん吸収して、たくましくすくすく育ってくれてうれしいです！　ゆいにヒーローとして憧れる姿も健気でかわいかったです。メンメンは、誰よりも大らかでやさしい心を持っていて、コメコメとパムパムがケンカしたときの「そんなこと言わないメン……」というセリフにメンメンの魅力が詰まっていて大好きでした。ペアの相手のことを唯一ちゃん付けで呼んでいるのも個人的推しポイントです……（笑）。エナジー妖精3匹の絆も本当に尊くて、ずっと3匹一緒に仲よしでいてほしいです！

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

率直に言うと、とてもさびしいです……!!　ここまで走り切った達成感もありつつ、1年は思ったよりもあっという間で、思い入れが強かったぶん、もう終わってしまったんだなと『デパプリ』ロスに陥っています。『デパプリ』に関わったこの1年は、声優人生で一番幸せな、夢のような時間でした。毎週アフレコに行くのが本当に楽しみで、キャストさんもスタッフさんもみんな暖かくて愛情ましましな方々ばかりで……。そんな素敵な場所にいられたことが、私の誇りであり、一生の宝物です。

Q いま感じる作品の魅力は？

こんな世のなかだからこそ伝えたいことがたくさんコメられている至極の一皿が、『デパプリ』だと思います。私自身、いつの間にか大人になってしまい、日々の生活に追われて、大事なことを忘れてしまっていたように思います。でも『デパプリ』から、おいしいごはんを食べることの大切さ、誰かと分かち合うことのすばらしさ、思いはつながっていくこと、誰かのためにがんばる気持ちは無敵なこと、ほかにも数えきれないたくさんの大切なことを教えてもらいました。子どもから大人まで幅広く楽しめて学べる、唯一無二の作品だと思います！

Q 読者にメッセージを。

ここまで応援してくださり、本当にありがとうございました！　私はこの1年、SNSやお手紙やイベント会場や映画館など、たくさんの場所を通じて、『デパプリ』への愛をたくさん感じていました。ごはんをおいしく食べられるようになりましたと教えてもらったり、パムパムとお出かけしてくれているのを見かけたり、『デパプリ』のこんなところが好き、あんなキャラクターが好きなど、うれしい応援の声がたくさん届いて元気をもらっていました。皆さんが『デパプリ』と過ごしてきた1年はどうでしたか？　何か変化や成長はありましたか？　皆さんの心に少しでも明るい何かを残せていたらうれしいです。いまはまだ少しさびしいけど、「会えなくても交わした言葉から思いを受け取ることはできる」「いまはお別れだけど、でもまた必ず会える」。きっとまたどこかで会えるそのときを楽しみにしています。『デパプリ』を愛してくれて、本当にありがとうございました！

メンメン役　半場友恵

Q 出演が決まったときの感想は？

オーディションだったのですが、あまりのエナジー妖精のかわいさに「きっと若手の方で決まるんだろうなぁ、これをきっかけにお母さん役とか先生役とかで呼んでもらえたらうれしいなぁ」となんとなく思っていたので、決まったと聞いたときは本当に驚きました。メンメンのキャラクターと『デリシャスパーティ♡プリキュア』のテーマにとても引かれていたので、素直にうれしかったです

Q メンメンの印象は？

いまでこそ穏やかにみんなを支えるしっかり者というイメージのあるメンメンですが、最初はなんとなくもうちょっと弱虫で甘えん坊のように感じていました。第24話のコメコメたちのケンカ回あたりから、やさしくてのんびりとした男の子にお兄ちゃん属性が見え隠れするようになった気がします。

Q シリーズを通して感じたメンメンの魅力は？

クッキングダムの住民以外には必ず「ちゃん」や「くん」を付けて呼び掛けるところが、メンメンの性格を端的に表しているなぁと思います。そんな感じでつねにおっとりニコニコみんなをフォローしているのに、いざとなれば敵を足止めするほどの攻撃もできる……私もそんな人間になりたいと思いながら毎週演じていました（笑）。メンメンは私の憧れですね。

Q 演じる際に心がけたことは？

アニメはどうしてもセリフの尺が決まっているので、メンメンのおっとりしたところをしゃべり方で表現するため、短い尺のセリフでもなるべくゆったり聞こえるように考えました。また、らんちゃんの名前を呼ぶときはとくに、そのひと言でふたりの関係性が見えるといいなと思いながら呼んでいました。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

メンメン的に、第32話のちゅるフェス回は衝撃でした。キャラクターの設定としてもともと存在していた才能が明かされただけなんでしょうけど、なんだかメンメンの得意技を増やしてもらえたような気がしてうれしかったです。アフレコスタジオでのエピソードですが、スタジオの自分の席でなんとなく視線を感じて顔を上げるとニヤリと笑ってるなっちゃん（日岡なつみ）と目が合い、そこから、なっちゃんのニヤリ顔にキレるふりをする私と、ニコニコしてただけだと言いはるなっちゃんと、適当なところで「ふたりでイチャイチャすな！」ってツッコむ奈津美ちゃん（高森奈津美）というやりとりを3人で延々やっていた時期がありました。楽しかったなぁ。

Q 映画ではエナジー妖精全員が人の姿になりました。

オーディション合格後、メンメンとしての初めてのセリフ収録時に、「コメコメと違って、パムパムとメンメンは人にはなりません」とはっきり言われていたので、イラストを見たときの衝撃はいまでも忘れられません。「あのエナジー妖精たちを人の姿にしたら絶対にこのビジュアルだ！」と言い切れるくらいパムパムだし、メンメンでした。演じるうえでは、事前に「いつものメンメンではなくイラストのイメージに近い声でしゃべってください」という指示があったので、少女期のコメコメと同級生くらいの感覚の声で演じました。声のトーンと見た目は変わっても、中身はいつものメンメンです！

Q ペアであるらん／キュアヤムヤムにひと言お願いします！

らんちゃんの情熱のパワー、ずっとずっと大好きメン!!

Q ほかのエナジー妖精にもひと言！

「変身するのに『ワンターン！』って（笑）」みたいなことを言われたりもするメンメンですが、よくよく考えると一番不思議なのって「テイスティー！」じゃないですか？ コメコメはコメ（食べ物）、メンメンはワンタン（食べ物）、パムパムは……形容詞、感想？ あの3匹はその辺どう考えてるんでしょう。知りたいです（笑）。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

最終話の数話前から、エナジー妖精たちがクッキングダムに帰ってしまうのかどうかずっとやきもきしていたので、「いまはお別れだけど、いつでも会える」という幸せな結末を知って本当にうれしかったです。放送は終わってしまいましたが不思議とさびしさはあまりなく、1年間無事に務めあげられたという安堵感でいっぱいです。私はよくグッズを買いにプリティストアへ行っていたのですが、そのときに、以前のシリーズの新グッズや、自分の好きだったシリーズのグッズを見つけてうれしそうに手に取るお客さんをお見かけしていました。プリキュアが続く限り『デパプリ』も終わらない、そんな気持ちが実感としてあるからこそ、さびしさを感じないんだと思います。

Q いま感じる作品の魅力は？

どこまでもまっすぐ進んでいくゆいちゃんの胸に大切にしまわれた、おばあちゃんの言葉たち。食べる幸せ、シェアする喜び、つながる世代、そしてあなたはあなたらしく。食べることは生きること！ ごはんは笑顔！

Q 読者にメッセージを。

「当たり前のこと」の大切さに気づかせてくれたこの『デパプリ』という作品は、私にとってかけがえのない宝物です。もし、皆さんにとってもこの『デパプリ』が宝物になっていたら、こんなにうれしいことはありません。1年間応援ありがとうございました！ 皆さんの人生がデリシャスマイル～！であふれますように！

ローズマリー役 前野智昭

Q 出演が決まったときの感想は？

『ハートキャッチプリキュア！』で明堂院さつきの声を担当したのが12年ほど前だったので、『プリキュア』だ！と懐かしくも新鮮に思ったのが最初の感想です。事前にテープオーディションのような形でセリフを何パターンか収録し、それをもとに合否をいただいたので、自分がこのキャラクターをどう表現していこうかとても楽しみでした。マリちゃんは初めて演じるタイプのキャラクターで不安もありましたが、それ以上に楽しみな気持ちがはるかに強かったのを覚えています。

Q ローズマリーの印象は？

これまでのシリーズにはいない独特なキャラクターで、正直、今回のプリキュアはなかなか難しいところを攻めてきたなと思いました。かなりキャラが濃いので、皆さんに受け入れていただけるか不安な部分もありましたが、実際は誰よりもやさしく、温かく、完成されたキャラクターで、まさに理想の大人だと思いました。お子さんがいらっしゃるご家庭で、マリちゃんにならうちの子を預けられる！ と思っていただけたらうれしいですね。

Q シリーズを通して感じたローズマリーの魅力は？

誰に対しても家族のように温かく接することができる懐の広さと、すべての行動が模範的な大人であるところや、そして自身の能力も高いのですが、決してそれをひけらかすようなまねをせず、誰に対しても目線を合わせて対等に対話をするところです。

Q 演じる際に心がけたことは？

みんなの保護者のような一面もあり、親友のような一面もあるので、いろいろな要素を要所要所で意識はしていましたが、基本は「この人は本当に信用できる」と誰もが思ってくれるような、裏表のない、そんなまっすぐな芝居を心掛けたつもりです。苦労した点も多いのですが、口ぐせが「〇〇盛り～！」というのに対し、絶妙なオーダーがあったので、何度か「もう一度やらせてください」と自ら志願したこともありました。また、クックファイターとしての強さも表現したかったので、アクションシーンはとにかく猛々しく演じ、そのギャップを楽しんでいただきたいという意識もしていました。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

マリちゃんは毎回心に響くことをサラッと言える大人なので、毎話心を揺さぶられていました。おそらく一番言ったであろう「デリシャスフィールド！」は毎回その話数ごとにちゃんと収録させていただきましたし、その前後のシチュエーションによって微妙にニュアンスを変えたり変えなかったりだったので、印象に残っているセリフのひとつです。そのなかでもやはり初回のアフレコは菱川さんとほぼ初対面の状態で、掛け合いをしながら収録したのでとくに印象に残っています。よく話しかけづらい印象を持たれる自分に、物怖じせずに積極的にコミュニケーションを取りにきてくださる菱川さんの姿がゆいと重なって見えたのを覚えています。いまでは一緒にゲームをするくらいの仲になりました（笑）。あとはやきそばマリちゃんの回はいろいろインパクトが強すぎて必ず話題にあがりますね。

Q プリキュアにひと言お願いします！

あなたたちと一緒に戦えて、本当によかったわ。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

充実感、達成感を感じているとともに、さびしさがあるのも事実です。分散収録で、なかなかみんなで一緒にアフレコもできませんでしたが、だからこそ自身のキャラクターと集中して向き合う時間は多かったと思いますし、もっと演じたい！ さびしい！ と思っているのは自分だけではないと思います。そういった感情を抱けるのはとても幸せなことだと思いますし、改めてこの作品と出会えてよかったと感じています。可能性は未知数ですが、将来またローズマリーを演じることになったとき、瞬間的にスイッチが入るようこれからも自分のなかで大切にしていこうと思います。

Q いま感じる作品の魅力は？

ついつい当たり前のように思ってしまっている、食べることのすばらしさ、ありがたさ、おいしさなど、人間が生きていくうえで必要不可欠な「食」という部分を改めて考えさせられるとともに、あきらめないことの大切さ、会えなくても心でつながれる絆の強さなど、気持ちの面でも学ばせていただきました。作品のメッセージ性もさることながら、音楽や作画も毎回すばらしく、アニメーションとしてのひとつの完成形とも言えるのではないでしょうか。また、プリキュアが強くてかわいくてかっこいいのはもちろん、ローズマリーやブラックペッパーたちも仲間として、とても繊細なバックボーンや見せ場を作ってくださり、プリキュア以外のキャラクターたちに焦点が当たる回も多く、そういった面もうれしかったです。

Q 読者にメッセージを。

ご視聴、応援、本当にありがとうございます。熱いキャストの皆さん、そして頼もしいスタッフの皆さんとともに作り上げた『デリシャスパーティ♡プリキュア』でしたが、このチームで本当によかったと思うのと同時に、その思いを受け止めてくださったのが視聴者の皆様で、そしてこの記事を目にしてくださっているあなたで本当によかったと心から思います。SNSやお手紙で毎話感想なども頂戴していましたし、皆様の応援が本当に力になりました。時間に追われるとついつい食事をおろそかにしがちなのは、社会人としてやむなき事象なのかもしれませんが、ゆいたちのように、どうか次の食事の際はとびきりの笑顔で召し上がってください。その笑顔はきっと誰かの力に変わるはずです。たくさんの応援、本当にありがとうございました。これ

からも『プリキュア』シリーズを、そしてみんなで盛り上げた『デリシャスパーティ♡プリキュア』をどうぞよろしくお願いします。

品田拓海／ブラックペッパー役 内田雄馬

Q 出演が決まったときの感想は？

まさか『プリキュア』シリーズに参加できると思わず、とてもうれしかったことを覚えています。1年通して放送するということでしたので、これだけ長い期間作品に携われることが幸せでした。

Q 拓海／ブラックペッパーの印象、彼の魅力的だと思うところを教えてください。

最初はぶっきらぼうで素直になれない子という印象でしたが、つねにやさしさがある人でした。家族のお手伝いやゆいと一緒にごはんを食べに行くこと、誰かを受け入れられることが拓海の強さであり魅力だと感じています。シリーズのなかで、自分で戦うことを決断したり、ゆいの思いを尊重して自分の気持ちをおさめたり、大人な選択をする部分もたくさんありました。第1話のときより、最後は素直に話せるようになっていたような気がしていて、ゆいたちとともに拓海も成長していたのだと感じました。

Q ブラックペッパーのコスチュームを見たときの感想は？

紳士的なスタイルだと感じております。白いクックファイター姿にマスクという組み合わせに胸をときめかせた視聴者の方々も多いのではないでしょうか。

Q 本作への出演について、何か周囲の反応はありましたか？ また、演じる際に心がけたことは？

作品をお子さんとご覧になっているとお聞きすることがありました。非常にうれしかったです。『プリキュア』だからどうするかということはなく、品田拓海ならどうするかということを大切にしていました。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

プリキュアとして戦うゆいの姿を見て、拓海が「あいつの笑顔を守る」と自分の意志で決めたこと。すごくかっこよかったです。

Q ゆいにほのかな思いを抱く拓海に、いまひと言伝えるとしたら？

思いのままに進め！

Q ゆいに訴えたいことはありますか？

訴えたいことはありません（笑）。ですが、ずっと彼女が笑顔でいられたらうれしいなと思っています。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

あっという間の1年だったと感じております。まだまだこの先のゆいたちの旅を見ていたいと思ってしまいます。

Q いま感じる作品の魅力は？

ごはんは笑顔。シェアリンエナジー。食べることのすばらしさ。誰かと分け合うことの喜び。

Q 読者にメッセージを。

『デパプリ』を応援していただいてありがとうございます。「一緒に食べる」ことが「喜びを共有する」ことだと教えてもらえる作品だったと感じています。どんなときでも、『デパプリ』を見ることで食べることの楽しさ、うれしさを思い出してもらえたらうれしいです。『デリシャスパーティ♡プリキュア』を、いつまでもよろしくお願いいたします。

和実よね役／ナレーション 宮崎美子

Q 出演が決まったときの感想は？

かねてからアニメの声優をやってみたかったのですが、まさか『プリキュア』でできることになるとは、とても光栄にそして責任重大だと思いました。

Q よねの印象を教えてください。

よねの設定画を見たら、着物に割烹着姿でいかにもおばあちゃんという感じなのですが、中学生のゆいの祖母なので、そんなに年寄りでもなく、おばあちゃんなのですが、若々しくしようと思いました。

Q よねのどんなところが魅力的だったと感じますか？

よねさんは特別な力を持っていたわけではないですが、みんなを笑顔にしたいという気持ちで生きてきた人で、ゆいちゃんを励ましてきた人。こういう存在が近くにいたら、生きるのがみんな楽になるだろうなと思わせる人ですね。

Q 演じる際に心がけたことは？

ほかの声優さんたちによる抑揚の付け方をアフレコが始まってから学びました。よねさんとしては、そこを注意したいなと思いましたが、よねさんはナレーションもします。ナレーションではまた抑揚の付け方も少し違うような気もしますので気を付けました。

過去のゆいちゃんとの会話のシーンだけは、ゆいちゃんと一緒にアフレコをしました。ゆいちゃん、いや、菱川さんの一生懸命さがとても伝わり、私も気持ちが入り、ずっと応援したいなという気持ちになりました。あのシーンのあと、ゆいちゃんにはおばあちゃんに言われたことを守るだけでなく、自分の言葉を探さないといけないという気持ちが芽生えていく大切な回で、とても印象に残りました。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

アフレコの初回、あれ、制服姿のかわいい子がいるけど……と思ったら、それが主演・和実ゆい／キュアプレシャスを演じる菱川さんでした。かわいい普通の高校生に見えました。それから数か月後、おばあちゃんのお話回で、初めてアフレコで隣に立って一緒にさせてもらいましたが、今回の作品で一番若い、周りは先輩ばかりのなか、主役を演じる者として、緊張感、プレッシャーも感じつつ一生懸命がんばっている姿を見て、よねおばあちゃんとしてなのか、私としてなのか、心から応援したいと思いました。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

先日、感謝祭にうかがいましたが、改めて本当に素敵な作品に参加させていただいたことを感じました。本当に多くの皆様に愛される歴史ある作品に参加させていただき光栄に思います。ありがとうございました。またぜひ、誰かのおばあちゃん役で。

Q いま感じる作品の魅力は？

「ごはん」「食事」をメインのモチーフにされたところでしょうか。年齢層問わずに、いつの時代も一番大切なことですよね。

Q 読者にメッセージを。

皆様、1年間応援いただきありがとうございました。よねおばあちゃん、この1年間いろんな名言を残しております。もし、また今後、観返すことがありましたら、そこも注目して観ていただければうれしいです。最後に、私、よね、いえ宮崎美子が一番好きなよねおばあちゃんの名言は「ごはんかパンだけで悩むな。迷ったときはうどんもある！」です。選択肢はいっぱいあるよ！ 人生には、ということです。和実よね／宮崎美子より皆様への大切なメッセージです。

フェンネル／ゴーダッツ役 三上哲

Q 出演が決まったときの感想は？

長く続いている人気のシリーズに参加させていただき、とても光栄に思いました。

Q ゴーダッツ、フェンネルの印象を教えてください。また、ゴーダッツがフェンネルと同一人物であることはどの段階で知りましたか？

オーディションでゴーダッツのセリフをいただいたときは、まだキャラ絵もなかったので、セリフから想像して重々しい感じのラスボスをイメージしました。どんな見た目になるのか楽しみでした。

フェンネルに関しては近衛隊長ということで、最初は堅物で厳しそうなイメージを受けました。

設定として同一人物というのは聞いていましたが、どうつながるかはわからなかったので早く先を知りたいと思いました。

Q ゴーダッツ、フェンネルのどんなところが魅力的だったと感じますか？

ゴーダッツ様はあの見た目と加工された声で「レシピッピ」と言うギャップでしょうか。

フェンネルは、決して生まれながらの悪ではなく、師匠に対する愛情の深さからゆがんでいってしまう……。そういう弱さが魅力なのかなと思います。

そんなフェンネルをずっと気にかけてくれるマリちゃんはやさしいし切ないなぁと。

Q 演じる際に心がけたことは?

ゴーダッツを演じるときは、少し声を落とし目でゆったりを意識して演じました。もちろん収録しているときの声は加工されていないので、フェンネルの声とバレないかな? と不安ではありましたが……。

フェンネルは、最初はストレートで厳しいイメージを持ったのですが、ローズマリーたちに対してねぎらいややさしさもほしいということで、そういったところも意識しました。

ゴーダッツを演じたあとで、すぐにフェンネルを演じたときに、ゴーダッツが残っていてゆったりしゃべり過ぎて「あれ?」というときも……。もちろんリテイクになりましたが。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは?

セリフではないですが、最終話の前のスペシャルデリシャストーンが暴走して、ずっと叫んでいるところは長かったですね。ほかの人のセリフの裏でもずっと叫び続けていたので。

物語の最後のほうでゆいちゃんをひどく傷つけてしまい、ゆいちゃん役の菱川さんに「ごめんねぇ。俺も苦しいのよぉ」と言ったら「絶対やっつけます!」とファイティングポーズで力強く言ってもらって、ありがたかった。そしてかわいかった。

ゴーダッツだけの出番の回にお客さんA役を演じさせていただき、バレないか不安でした。普段出さないような声でがんばりました。ひと言だけでしたが。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

最後の最後にゴーダッツとしてひどいことをしてしまい、申し訳ないなと……。最終的にはキュアプレシャスのおかげでフェンネルは人間らしい心を取り戻せたのでは? と思い、少しホッとしました。

Q いま感じる作品の魅力は?

食べ物をおいしく食べること、そして好きな人たちと一緒に食べることの大切さはもちろんですが、仲間や周りの人たちを思う気持ちに、年甲斐もなく感動してしまい、こういう気持ちは普遍的なものなのかなと思いました。

Q 読者にメッセージを。

この作品に関わらせていただき感謝しています! フェンネルも裏切るなどひどいことをしましたが、お仕事としてまっとうしただけなので許してくださいね。

セクレトルー役 木下紗華

Q 出演が決まったときの感想は?

長年多くの子どもたち、大人たちに愛され続けてきた『プリキュア』作品に出演するという夢をデビューしたてのころから抱いていましたので、とてもうれしかったです。若いころはもちろん、子どもたちの憧れのプリキュアとして変身する夢もありましたよ(笑)。ですが時が経つにつれ、いろいろなお仕事をさせていただくなかで培ってきた自分のキャラクター性や目指しているお芝居を見据えると、だんだんと敵役にも魅力を覚え、むしろ敵で出演したい! という欲のほうが強くなっていったんです。歴代の『プリキュア』も、だんだんと敵役に注目して観ていました。なのでずっと出演したかった『プリキュア』に敵役でお話をいただいたときは、天にも昇る気持ちで飛び上がって喜びました。

Q セクレトルーの印象を教えてください。

最初は自分にも他人にも厳しいクールビューティな印象でした。回を重ねることに、心の声や本音がつい口から出てしまったり、おいしいものに目がなくお取り寄せをしていたり、SNSで食べ物情報をチェックしていたりと、完璧でまじめな彼女が時々見せるチャーミングなギャップに愛おしさを感じるようになりました。クールで冷たい印象は、第1話の真顔での「ブンドルーブンドルー!」という掛け声とともに早々に取れましたが(笑)。彼女の厳しさやクールな印象は、過去に自分が料理で失敗した経験や苦い思い出から「完璧でなくては」という強い思いによって形作られたものであったりもします。後半にキュアプレシャスと戦って交わした会話から、徐々に自分が目指した「完璧」と向き合い、思い悩む。「ああ、セクレトルーも人間らしい、弱い部分を持っている人なんだ」と、大人になって完璧であろうとすることは、私ももちろん経験がありますので、彼女に親近感を抱き、より人間らしい印象へと変わっていきました。

Q セクレトルーのどんなところが魅力的だったと感じますか?

魅力はやはり長所であり短所でもある「完璧主義」なところです。彼女の所作や冷静さがとてもかっこいい。そして完璧に見えるからこそ、「てゆーか」口調でガラリと変わる二面性、最終話のセクレトルーの笑顔や一生懸命な姿など、本来の素の部分も引き立ちます。そのギャップが魅力的なのは、「完璧」であるからこそだったのでは……と感じています。

Q 演じる際に心がけたことは?

普段のお仕事モードではかために凛々しく、グチの部分は砕けて素に近く聞こえるようにと差別化を意識して演じました。ゴーダッツ様、ナルシストルー、ジェントルーと思いが異なる対象によっても変化させたり、と。グチのとき以外は総じて冷静で真面目なので、あまり感情の起伏を言葉に乗せないようにはしておりました。それが終盤でのプレシャスとの戦いで、保っていたものがだんだんと崩れはじめんですよね……。はつこ様との会話シーンあたりからは、完璧な部分は減らして、気持ちが動くままに、表情のあるお芝居へと変化を付けていきました。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは?

どのエピソードも好きなのでとくに「これ!」というものは選べないのですが、各ブンドル団幹部との「ブンドルーブンドルー!」の掛け声は毎話被ることなく、バリエーションに富んでいておもしろかったですね。演者もマイク前でお互いの姿とタイミングを横目で確認し合いながらお芝居をしていたのがとても印象深く楽しかったです。ジェントルー役の茅野さんとは掛け声のきっかけのセリフをアドリブで入れようと話し合ったりもしました。ナルシストルー役の阪口周平さん、スピリットルー役のかぬか光明君、ウバウゾー役の堀総士郎君、ゴーダッツ役の三上哲さんは、海外作品の吹替のお仕事でもたくさんご一緒している戦友でもあります。信頼感や安心感から生まれた空気のなかでお互い個性をぶつけ合って伸び伸び演じられたのは、このメンバーだったからこそだなぁと。収録後によくブンドル団で一緒に帰ったりもして……とてもいい思い出です。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

長いようで本当にあっという間の1年でした。敵幹部のなかではセクレトルーだけ、初回からずっと出演できたのでとてもありがたかったです。作品に携われた喜びはもちろんですが、個人的に勉強になったこと、成長できたことも多々ありましたので、終わってしまったあとも、もっと続けていたい、『デパプリ』の世界にずっといたい、さびしい! という気持ちを引きずっておりました。叶うならば、ブンドル団結成からの敵幹部たちの掘り下げたお話も見てみたいですね(笑)。終わってほしくない……それだけ思い入れが強い素敵な作品でした。

Q いま感じる作品の魅力は?

ごはんを食べるとこんなにも温かい気持ちになれる、笑顔になれる。当たり前になっていて忘れがちなたくさんの大切なことを明るく元気いっぱいに伝えてくれる作品。そんな素敵な作品ですが、とくに私が感じる一番の魅力は、それを伝えてくれる登場人物たち。深澤SDをはじめ、スタッフの皆さんが生み出した個性的なキャラクターたちが、油布さんのデザインによってかわいらしさやかっこよさがさらに増し、練られた脚本によって人物像が掘り下げられ、人間関係もとても素敵に描かれています。マリちゃんの言葉にグッとくることもありました。プリキュアの4人はもちろん、エナジー妖精たち、マリちゃん、拓海、ブンドル団、クッキングダムの人たち、ゆいちゃんたちの家族、学校の友達……。敵味方関係なく、登場人物たちに華がある作品です。

Q 読者にメッセージを。

最終話まで『デパプリ』をご視聴・応援していただき、ありがとうございました! 敵であるブンドル団も、気がついたらたくさんの方々に愛していただき、掛け声をまねしていただいたり、グッズ化もしたり……ありがたい限りです。セクレトルーを通じて多くの方に私自身のことも知っていただき、私にとっても、『デパプリ』はかけがえのない大切な作品です。おいしいごはんとゆいちゃんたちの笑顔を見たくなったら、またいつでも戻ってきてくださいね。そして前向きな気持ちになりたいときに、ぜひブンドル団を思い

出して、この言葉も口に出してみてください。ガンバル、ガンバル～!!

ナルシストルー役
阪口周平

Q 出演が決まったときの感想は？

僕は声の仕事をするうえで、アニメで子どもたちのヒーローになりたいという思いがあるので本当にうれしかったです。まあ今回はヒーローではなくヴィラン（悪役）でしたが（笑）。

Q ナルシストルーの印象を教えてください。

「残念なイケメンパム」。

どれだけ残念でも、どんな過去が明らかになっても、僕は自分の役を全力で愛するのでそういう意味では印象は変わりません！　でも贅沢を言えばもう少し過去を描いてもらってナルシストルーという役を深掘りしたかったなぁとは思います。

Q ナルシストルーのどんなところが魅力的だったと感じますか？

これもやはり「残念なイケメンパム」。ちゃんと悪役で、しかも見目麗しいのに、ポンコツというか抜けているというか……変にかわいげがありますよね（笑）。

Q 演じる際に心がけたことは？

ナルシストルーを演じるうえで、初登場で現場に入る前まで若干の迷いがありました。でも深澤SDに「吹替で主役をやるときのつもりで演じてください」と最初に言われ吹っ切れましたね。「『デパプリ』の主役はプリキュアか？　否！　俺様だ！」と。なので僕にとって『デパプリ』は〝ナルシストルーの成長劇〟という側面があるのです！　〝食〟嫌いの主人公が〝食〟のすばらしさを勧めてくるライバルたちとの戦いの末、そのよさに触れ新たな自分を発見していく成長の物語……。つまり改心ではなく成長なのだ！

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

ひとつはリンゴあめの話（第37話）。ナルシストルーの成長の集大成的なエピソードで思い入れ深いです。もうひとつはコメコメとケンカしたパムパムをつかまえる話（第24話）。いやぁ、あんなに演じるのが楽しかった回はなかったパムゥ～♪　そんなパムパム役の日岡くんはナルシストルーが大好きらしく、現場で会うたびに「ナルシストルーが大好きです！」と謎のカミングアウトをされていたこともいい思い出ですね。ちなみにスパイシー役の清水くんはそんな日岡くんを本気で心配していました（笑）。それとブンドル団はブンドル団チームで収録していたのですが、毎回収録後は木下くん（セクレトルー）と堀くん（ウバウゾー）と僕の3人で、僕の車〝通称ブンドル号〟で帰るのも楽しかった。当初僕はバイクで現場に行くつもりだったのですが、ナルシストルーが登場してしばらくは収録日がいつも雨で仕方なく車で通ってたんです。雨の日に車で行くものだからみんなが帰りやすい駅まで送ってたのが、いつの間にかそれが楽しくなって気づいたら晴れの日も車で行くようになってましたね（笑）。昨今の事情から共演者同士の人間関係が希薄になってしまうこともしばしばありますが、『デパプリ』ではなかなか濃密な時間を過ごせたなと思います。

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

ナルシストルー登場以降、最新話の放送前にSNSで〝ナルシストルーが言いそうなこと告知〟をなんとなくノリで始めたんです。そこそこ反響があったので毎週続けてたんですが正直言って大変でした（笑）。終わってみると開放感よりさびしさのほうが大きいんですよね。この仕事をするうえで「終わりがあるから新たな出会いがある」と考えていますが、それでもやっぱりさびしいものはさびしいですね（笑）。

Q いま感じる作品の魅力は？

「ごはんは笑顔」に尽きます。絶賛子育て中の我が家にこれほど刺さる言葉・考え方はないですね。ちなみに我が家では「学校に遅刻してもいいから朝ごはんはしっかり食べるべし」と子どもたちに伝えています（笑）。

Q 読者にメッセージを。

『デリシャスパーティ♡プリキュア』、1年間楽しんでいただけたでしょうか？　演者として、またひとりのファンとして僕自身とても楽しい1年でした。作品というものは制作スタッフやキャスト、そして観てくれる視聴者の方々、みんなで楽しむことでようやく完成するものだと思ってます。この作品を完成させてくれたみんな、本当にありがとうございました！

スピリットルー役
かぬか光明

Q 出演が決まったときの感想は？

うれしかったです。関わりたいと思っていたので、本当にうれしかったです。決定連絡をいただいたときに「おぉ！」と声が出たのを覚えています。

Q スピリットルーの印象を教えてください。

かわいい感じのロボットだと思いました。フォルムもそうですが、眉毛(?)も味わい深いなぁと。試作段階のスペシャルデリシャストーンを取られるまでは感情豊かなロボットでしたが、スペシャルデリシャストーンを失ってから無機質な感じになってしまったのはさびしかったです。

Q スピリットルーのどんなところが魅力的だったと感じますか？

善悪の概念がなく（薄く？）登場時には変身前のプリキュアのことを手伝ったり、「がんばるでごわす！」と声をかけたり。方向音痴で道に迷ったり、ちょっと抜けたところもあるんですが、戦闘中は全力でウバウゾーを応援して士気を上げたり。ゴーダッツ様のことを呼び捨てにしたりと、何かと忙しいキャラクターですが、そんなところが魅力だと個人的には感じました。

Q 演じる際に心がけたことは？

先にも書きましたが、試作段階のスペシャルデリシャストーンを取られるまではロボットというよりも「気のいい兄ちゃん」といった感じですかね。あとは「かわいさ」です。かわいく演じたつもりです！（笑）。常識がないというか、いい意味で分け隔てがないというか、明るくてマイペースで、ちょっと変なやつというイメージを自分のなかで大切にしました。

スペシャルデリシャストーンを取られてからは無機質な感じを意識しました。まさにロボットですね。ただ「ブンドルーブンドルー！」のセリフは明るい調子で演じてました。ミニスピリットルーに関しても同じです。「ブンドルーブンドルー！」は明るい調子をキープしたままで演じました。ミニスピリットルーは高めの「かわいい」声を意識しました！（かわいくなってるはずです！（笑））。

Q シリーズを通して印象的だったエピソードは？

印象的なセリフが多くて書き切れないです！　おばあちゃんの言葉、プリキュアの言葉、マリちゃんの言葉、どれも素敵な言葉で心に響いて、テレビを観ながら何度泣いたことか。本当に難しいんですが、自分はごはんを食べることが好きなのもあって、「ごはんは笑顔！」ですかね。いい言葉です！　あっ「ガンバル、ガンバル～！」もいいですよね！　一緒にやりたかったです!!

エピソードは最終話ですね。スピリットルーも感情が戻って、みんなで楽しそうにしていたのはとてもうれしかったです。心から「よかった！」と思いましたし、望んでいました。アフレコでは、吹替の現場でご一緒することが多い三上さん、木下さん、阪口さん、堀くんと心強いメンバーと一緒だったので、終始リラックスして演じられました！　そうそう、堀くん演じるウバウゾーがプリキュアに浄化されるときのセリフはよくまねてました。

「オナカイッパーイ！」と「ごちそうさまでした！」は「声、高っ!!」と思いつつもやってました。楽しかったです！（笑）。あと、これは出演者の皆さんが思ったことだと思うんですが、みんなで収録したかった!!!

Q 最終話まで終わって、いまの気持ちを教えてください。

さびしいです。終わるのってさびしいですよ。でも彼女たちやみんなが笑顔で新たな目標に向かって前に進めることはとてもうれしいです。

Q いま感じる作品の魅力は？

全部です！　すべてがこの作品の魅力です！　書き始めると止まらなそうなので「なんだよ！」と思われた方、すみません。でも、全部が魅力なんです!!　本当に!!

Q 読者にメッセージを。

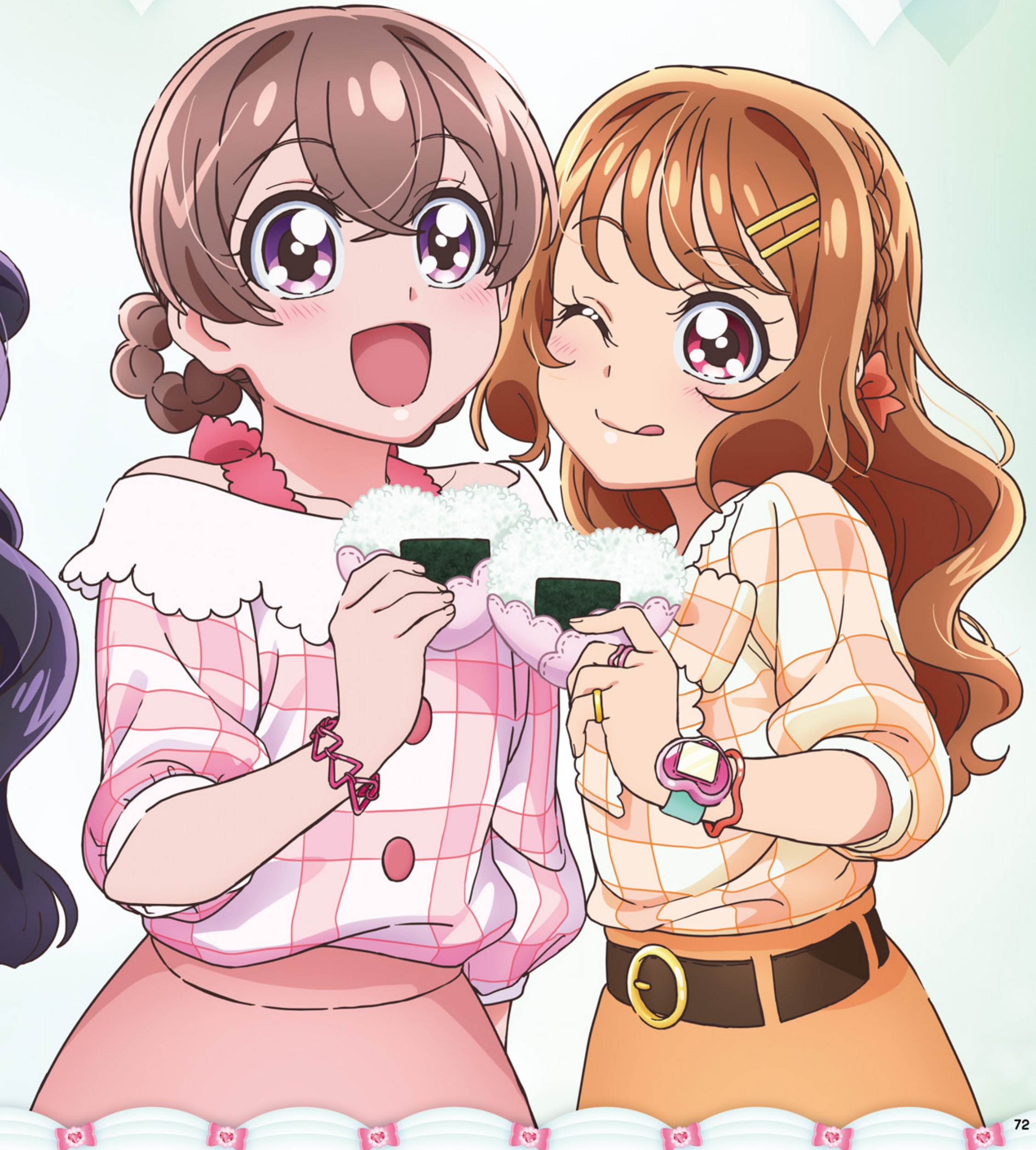
最後まで応援してくださった皆様！　本当にありがとうございます！　楽しかったです!!　最後はスピリットルーの十八番で〆たいと思います！

がんばれー！　がんばれー!!

み・ん・な――――！！！！！！

ILLUSTRATION GALLERY（イラストレーションギャラリー）

PART2

雑誌やカレンダー用に描きおろされたイラストや、各話の放送の最後を飾ったエンドカードを紹介。
ゆいたちの笑顔がまぶしい！　なお本書の背表紙に掲載したエンドカードは第45話で使用された。

✦初出／アニメディア2023年3月号
原画／油布京子

✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

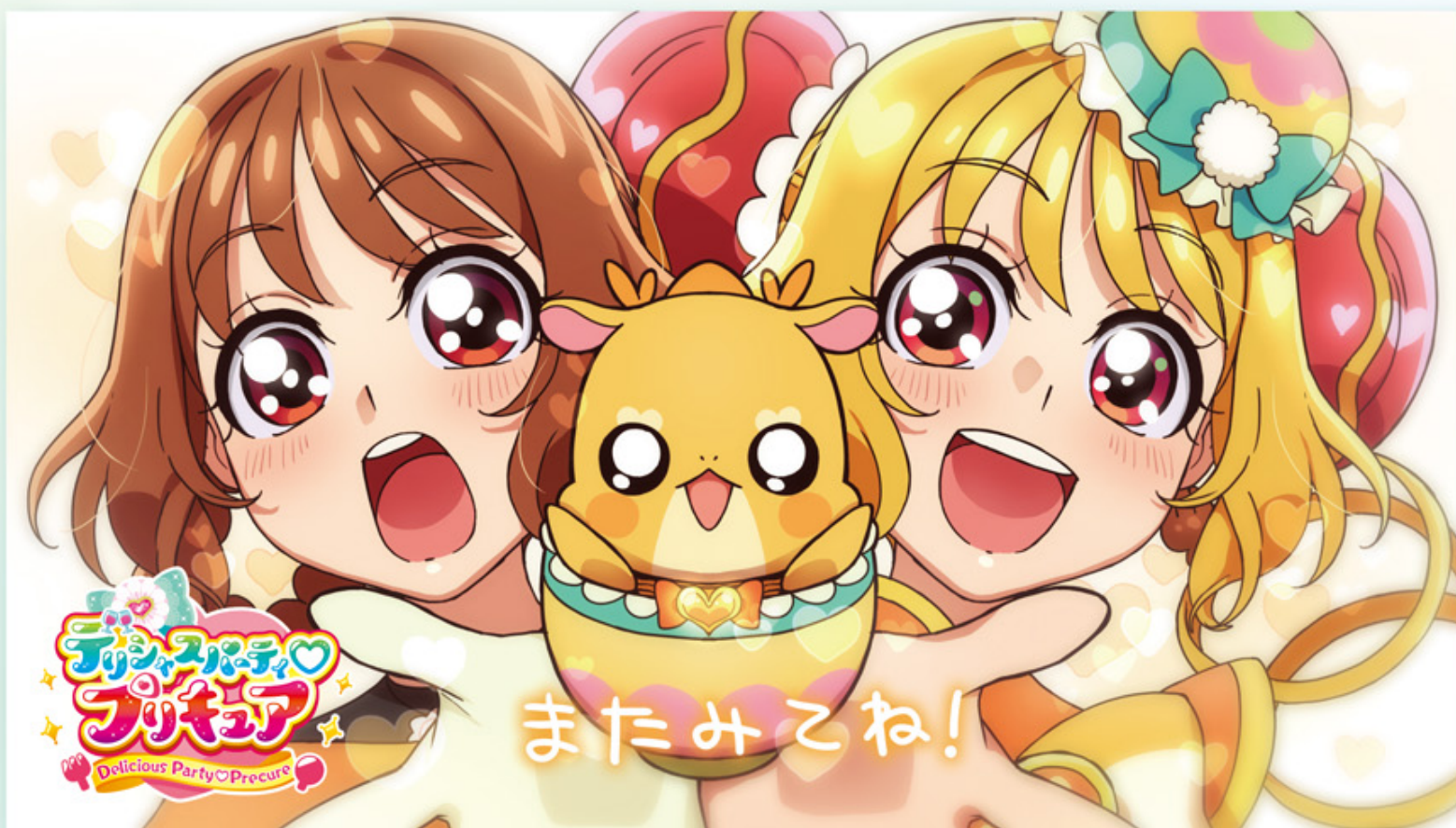
✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

✦初出／ 2023 デリシャスパーティ♡プリキュア A2カレンダー

初出／第1話エンドカード

初出／第4話エンドカード

初出／第6話エンドカード

初出／第7話エンドカード

初出／第14話エンドカード

初出／第18話エンドカード

Movie Guide（ムービーガイド）

映画での『デリシャスパーティ♡プリキュア』は、お子さまランチのテーマパーク「ドリーミア」を舞台に大活躍！　その思い出を振り返ろう。

『デリシャスパーティ♡プリキュア』初の映画は、お子さまランチのテーマパーク「ドリーミア」を舞台にした物語。発明王と呼ばれるケットシーが作った「ドリーミア」が、ある日突然おいしーなタウンにやってくる。お子さまであれば無料で遊び放題、食べ放題という、夢のような場所に沸き立つゆいたち。でも、入場できるのは人の子どもだけだった。落ち込むパムパムとメンメンだったが、不思議な力で人の姿に早変わりし、無事にみんなで入場することができた。次々と出てくるおいしい食べ物に盛り上がるゆいたち。ところがケットシーは、「ドリーミア」を作って大人を排除し、純粋な子どもたちだけを集めた世界を作ろうとしていたのだ。困惑するゆいに対し、ケットシーとのやりとりで彼が根っからの悪者ではないと感じたコメコメは、その思いをゆいに伝える。ずっとゆいに憧れていたコメコメが、迷うゆいを励まし引っ張っていこうとする、TVシリーズとは違った姿も見られる本作。実はゆいとケットシーの間にも特別な関係があり、それが何かを確かめてほしい。また、キュアプレシャスたちと『トロピカル～ジュ!プリキュア』のキュアサマー、『ヒーリングっど♥プリキュア』のキュアグレース、『スター☆トゥインクルプリキュア』のキュアスターが一緒にお子さまランチを作った同時上映『わたしだけのお子さまランチ』も要チェック。

✦2022年9月23日公開
https://2022.precure-movie.com/

STAFF　原作／東堂いづみ
監督／座古明史
脚本／田中仁　音楽／寺田志保
総作画監督・キャラクターデザイン／松浦仁美　作画監督／廣中美佳
美術監督／渡辺佳人
色彩設計／清田直美
撮影監督／髙橋賢司　製作担当／星郁也
アニメーション制作／東映アニメーション

CAST　キュアプレシャス、和実ゆい／菱川花菜
キュアスパイシー、芙羽ここね／清水理沙
キュアヤムヤム、華満らん／井口裕香
キュアフィナーレ、菓彩あまね／茅野愛衣
コメコメ／髙森奈津美　パムパム／日岡なつみ
メンメン／半場友恵　ナレーション／宮崎美子
ローズマリー／前野智昭　品田拓海／内田雄馬
ケットシー／花江夏樹
水田ロボット、川西ロボット、ゲートロボット、シェフロボット／和牛（水田信二・川西賢志郎）　ほか

同時上映『わたしだけのお子さまランチ』

▲お子さまランチをモチーフにして作られた「ドリーミア」。おむすびやパン、ラーメン、そしてデザートの建物がエリアごとに建てられている

▼ドリーミアリングにたくさん料理をコレクションすれば、園内のフードコートで自分だけのお子さまランチが作れちゃう

▶「ドリーミア」にやってきたゆいたちは食事だけでなく、さまざまなアトラクションも楽しむ。あまねがジェットコースターを苦手なことも判明した

ケットシー
（声／花江夏樹）

世界に革命が起こるといわれるほどの、未知のエネルギーを見つけた発明王。着ている着ぐるみは「ネコ」で、ある人物がかつて描いたイラストを元にしたものらしい。

ケットシーの目的は!?

ケットシーは大人をぬいぐるみにして、赤ん坊のような状態にしてしまう。それはケットシーが大人を汚らわしいと感じているから。そこまで彼が大人を憎むようになったのは、どうやら彼の発明と関係しているようだが……。

メンメン　パムパム　コメコメ

エナジー妖精全員が人の姿に!?

「ドリーミア」の入口にいたゲートロボから放たれたビームで、人の姿になったパムパムとメンメン。どことなくペアであるここねとらんに似ている。物語のラストでは、ケットシーが放つビームのある特性を利用して、プリキュアと同じように3人もお子さまランチドレス姿に変身した。

◀デリシャストーンの反応を追いかけて「ドリーミア」へとやってきたローズマリーだが、コンテナロボのビームを受けてしまい、かわいいぬいぐるみ姿になってしまった

▼▶ゆいたちが入り口でもらったドリーミアリングは、自分たちが食べたものをコレクションしてくれる。その仕組みを知って、コメコメもゆいも目を輝かせる

▲いつも笑顔のケットシーだが本当は悲しいのかもしれない……コメコメの言葉を聞いたキュアプレシャスは、ケットシーの本心を知るために彼が操る巨大ロボに立ち向かう

シリーズディレクター

深澤敏則

【ふかさわ・としのり】
アニメーション演出家、アニメーション監督。主な担当作品は、『映画 プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』（監督）、『ワンピース』（シリーズディレクター）など。

ほかのシリーズと重ならないキャラクターに

——『デリシャスパーティ♡プリキュア』のシリーズディレクター（以下SD）を担当することになった経緯を教えてください。

プロデューサーの安見香さんが、僕が監督を担当した『映画 プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』を観て、気に入ってもらえたようです。そこから次の『プリキュア』のSDをしてほしいと東映アニメーションの制作にオファーがあり、僕のところにも話が来ました。

——SDを担当することが決まった段階では、作品のテーマはどのくらい決まっていましたか？

「ごはん」をモチーフに、「ありがとう」と「シェア」というテーマは決まっていました。敵対勢力に関しては、「シェア」の反対だから「独り占め」したくて奪っちゃう集団＝怪盗集団ということもあったと思います。安見さんとしては、プリキュアの人数は4人くらいが描くのにちょうどいいと思われていたようです。プリキュアを和洋中にして色はどうするかなど、僕とシリーズ構成の平林佐和子さんが入ってから、一緒に決まっていったと記憶しています。

——テーマについて最初に聞いたときは、どう感じましたか？

「ごはん」というモチーフに関しては、子どもたちの大好きなものですし、ごはんにまつわるかわいい本もたくさん作られているので、興味を引くいいモチーフだなと思いました。「シェア」については、優しい気持ちにつながるだろうと思っていたんです。『デパプリ』の制作がスタートした当時は、コロナ禍でみんな自粛した生活を送っていて自分自身も息苦しさや不安を感じていました。「シェア」や「ありがとう」を伝えるというのは前向きですし、自分自身のためにもそういう作品を作りたいと思っていたので、物語にも絡めていけるテーマだと感じました。

——ゆい／キュアプレシャスは、物語のなかでもほとんど行動にブレがなく、周囲の人を引っ張っていく人物でした。このようなキャラクター像はどのように決めていったのでしょうか？

コロナ禍であったことと、あくまでも子ども向けということもあり、重く暗い話にはしたくなかったんです。各脚本を担当するライターさんにも、そこは気をつけてくださいとつねにお伝えしていたくらいでした。それから、作品の方向性として明るさとユーモアたっぷりな作風にもしたかったんです。それらを踏まえキャラクターを考えていったんですが、ゆいに関してはひたむきに前向きさを出していくキャラクターがいいだろうと思っていました。僕自身が幼いころ、主人公が暗く沈んでいるのを見るのが好きじゃなかったことも反映してます。子どもたちが安心感を持てて、それでいてかわいらしさもある。やっぱり子どもには楽しく見られるものと出会ってほしい。そんな意味合いも込めて、ゆいのキャラクターを考えていきました。

——ここね、らん、あまねの3人は、ゆいに引っ張ってもらってどんどん変わっていく子でしたね。

プリキュアに関しては、まずこれまでのシリーズの登場人物とはキャラクター性がかぶらないことが大前提でした。まずゆいを考えてからここねができたのかな。ここねに関しては、初期はいろいろとかわいそうな境遇も考えていたのですが、描くにあたっての難しさ、幼児向け作品であるという点を踏まえて企画の鷲尾天さんも交えてお話をして、いまのような形の疎外感を感じている子になりました。ゆいが周りを引っ張って助けていくというアイデアは初期からあったので、ここねはゆいと友達になって世界が広がっていく子にしたかったんです。じつは、ここねはある女優さんをモデルにしていて、もともと高身長で美しいイメージがありました。でも、それだけではなくギャップが欲しかったので、心はすごく優しい子として描いていきました。最初に油布さんがここねを描いてきたとき、彼女はロングヘアーだったんですが、ショートボブヘアにしていただきました。

らんに関してもモデルはいるのですが、こちらはそれほどキャラクター作りに反映されていません。らんは明るく元気で楽し

子どもたちが観て明るく楽しくなれる作品をイメージしました

美術設定

作品に登場する風景や街などをデザインした「美術設定」。ゆいたちが暮らすおいしーなタウンや、クッキングダム、怪盗ブンドル団のアジトの美術設定を紹介！

▲ゆいの家の居間

▲ゆいの家の庭

いムードメーカー。かつ、ちょっとオタク的なところがある女の子にしたかったんです。僕自身が『デパプリ』を通して悩みを抱えた子どもたちを応援したい気持ちがあったので、らんはあえていまどきのリアルな悩みを抱えた現代っ子っぽくしました。
　あまねは最後に考えたのですが、ゆいのキャラクター性とちょっとかぶるのではという意見が出ましたね。それもあって、同じリーダー的な素質は持っていても、ゆいが突っ走るタイプなら、あまねはいったん考えて周りを止められる立場の子として作っていきました。あまねは生徒会長でもありますし、年長者でしっかり者ということで差をつけたんです。ゆいは天真爛漫で爽やかな子だったので、そこで差が出せたんじゃないかなと思います。

――プリキュアのキャストは毎年オーディションで決められていますが、オーディション裏話などはありますか？

　選んだ基準といわれたら、まずは声ですね。それから、芝居を聞いたときに広がりや深みが感じられるかということも大きなポイントでした。キャラクター性が多少こちらのイメージと違っていたとしても、それはのちのちのディレクションで調整していけます。ですから、『プリキュア』といえばこんな感じというお芝居よりも、演技の幅広さを選ぶときに意識しました。菱川さんは、オーディション当時18歳くらいだったと思うのですが、理想とするいい声だったんですよ。僕はゆいに清涼飲料水のCMに出てくるようなイメージを持っていたので、爽やかな感じがすごくいいなと思って。ただ彼女はレギュラーとして出演経験がなかったので不安はありました。オーディションではいろいろと指示を出して、対応力や瞬発力を見せてもらいました。周りを実績のある方々で固めることもできたのでこれでいけるだろうとなりましたね。僕としてはせっかくプリキュアをやるなら、挑戦をしたかったんです。菱川さんもキャラクターデザインの油布さんもですが、フレッシュな若手ががんばって活躍してくれるとチームと作品に勢いが出るので、その点も決め手になりました。

――菱川さんは、アフレコの最初のころに、深澤SDから「ずっと隣にゆいがいると思って生活してください」と言われたと話していました。

　コロナ禍ということもあり役者さんとの接触を極力控えるという風潮でしたが、菱川さんとはアフレコのあとによく話をさせてもらえました。僕たちは「反省会」と呼んでいましたが、反省だけでなくて、芝居やそれ以外の話もたくさんして。僕のほうにも返ってくるものがたくさんあったので、作品作りの面ですごくプラスになりました。

――プリキュアキャストへのインタビューで、オーディションで菱川さんに会ったという声をよく聞いたのですが、今回、スタジオオーディションは少なめでしたか？

　その時々で人数は異なりますが、『デパプリ』はテープオーディションでかなり絞ったので20～30人くらいだったと思います。

――プリキュアのコスチュームに関しては、どんな希望をしましたか？

　最初にいただいたデザインはかわいらしさ優先という感じだったので、正義のヒーローに変身させてほしいということをお伝えして、いまの方向性へと持っていってもらいました。僕はリボンや「かわいさ」については自信がなかったので、そこは安見プロデューサーに意見をいただきつつ、シンプルさも提案していきました。

――深澤さんは油布さんにどんな印象を持っていますか？

　『プリキュア』シリーズに関しては、毎回どのデザイナーさんもオリジナリティーのあるデザインをしていてすごいなと思っていました。油布さんも、その才能を持ちつつ、僕たちの提案にすぐに応えてくれたんです。才能もあるし、きっとまだまだたくさんのデザインを考えるひらめきも持っていると思うので、今後が楽しみになりますね。

寄り添ってくれる大人の存在も大切に

――エナジー妖精については、とくにコメコメは化けられる姿が成長し変わっていくという、珍しいキャラクターでしたね。

　コメコメに関しては、玩具会社さんのご要望もありましたが、成長していく要素って子どもにとってはすごく魅力的ですよね。物語のなかで化けた姿を細かく変更していくのは大変かなと思ったのですが、油布さんのデザインがすごくかわいくて。これだったらいける、大きい姿も見たくなると思えるキャラクターになりました。コメコメに関しては、シナリオ構成の都合であまり出せなかった化け姿の段階があったので、そこは心残りでしたが、そのぶんスタッフの寄せ書き色紙のほうに描かせてもらいました。

――パムパムとメンメンが、映画で人の姿に化けましたが、最終話にも登場させることは想定していたのでしょうか？

　想定していませんでした。構成打ち合わせのときに平林さんたちから出したいですという話があったので、ファンサービスとして入れました。

――プリキュアと共闘するブラックペッパー、そしてプリキュアを支えてくれるローズマリーも、これまでのシリーズにはあまりない立ち位置のキャラクターで、とても新鮮でした。

　「ごはん」というものは性別関係なく関わるものですから、プリキュアといえど男性も一緒に戦えるようなものにしたいと初期からありました。ただ、ブラックペッパーの変身シーンを見せる余裕はないなと思っていたんです（笑）。共闘するとはいえ、メインで見せるのはプリキュアですから、ブラペの変身に尺はさけないなと思っていたんです。でも、第40話でゆいの前で変身させましょうとなった。これは物語の流れで決めました。
　マリちゃんに関しては、コロナ禍になって心配や不安を持っている子どもたちが安心できるような、優しく寄り添える存在がいてほしいと思っていたんですね。そういうところでどんなキャラクターがいいかと考えて生まれたのがマリちゃんでした。『プリキュア』を作るなら、これまでにない挑戦をしていきたいと思っていましたし、大

◀ここねの家の外観

▲らんの家の居間

人として意見を言えるキャラクターが加わることで、いままでにない物語にもできるのではないかと思った部分もありましたね。それから、通常妖精が物語の説明役を担うことが多いと思いますが、その役割を担えるキャラクターにもしたかったんです。

――ローズマリーの性格や設定はどのように考えていきましたか？

中学生と一緒にいる大人はどういう人物がふさわしいか、説得力、会話力のある人物はどんな存在かを考えていった結果ですね。ただ、マリちゃんについては、マリちゃんのあり方や生き方を詳細に子どもたちに訴えたいわけではないので、あくまでマリちゃんはマリちゃんですという描き方をしています。

――本作は、ローズマリーやゆいの祖母・よねなど、大人目線での優しさがとても丁寧に描かれている印象でした。

とくに、マリちゃんとおばあちゃんがそうですよね。おばあちゃんの言葉は平林さんからのアイデアだったと思うのですが、おばあちゃんとマリちゃんたち大人、そしてゆいたちという三世代を描くことで、受け継がれていくものがあると見せられたらいいのかなというところがありました。

――家族がよく登場する物語でもありましたが、これもごはん＝食卓を描くうえで自然とそうなっていったのでしょうか？

そうですね。食卓といえば家族だろうと。ただ、ごはんを食べるにしてもいろいろな形があるので、友達同士や家族、おじいちゃんの時代や親の時代にどう食べていたのかを意識して、登場するキャラクターにはそれぞれに役割を持たせていきました。

ブンドル団は敵だけどユーモアのある存在

――敵である怪盗ブンドル団に関しては、かなりコミカルな印象を受けました。これも重く暗くしたくないという意図があってのことでしょうか？

そうですね。敵ではありますが、ユーモアは持たせたいと思っていました。ただ、ぱっと見て子どもたちには敵だと認識してもらわないと困るので、その点はデザインで工夫してもらいました。でもやっぱり憎めないところは、敵味方関係なく入れたかったんですよね。ジェントルーの「ブンブンドルドル」の動きや呪文も、子どもたちの興味を引けるのではないかと思ったからです。振り付けは僕が考えました。ウバウゾーのデザインも、子どもがあまり怖がりすぎないものをと、最初の1体だけは油布さんにお願いしました。アフレコでも役者さんに、かわいさがあるということを伝えていきました。

――ちょっとトゲトゲしたデザインや、黒い衣装が悪者っぽさを表しているんですね。

油布さんにまず土台を作ってもらったのですが、敵を作るというところはまだまだ難しい部分もあったようです。それで、僕たちからもアイデアを出して、ぱっと見で敵とわかる、それでいてファンタジー的な要素も入れてもらいました。油布さんはかわいらしさやおしゃれなテイストを入れるのが得意だったので、そこに悪者っぽさをプラスしてもらった感じです。

――フェンネル／ゴーダッツに関しては、まず独り占めから生まれたキャラクターでもあるんですよね。

そうですね、師匠のジンジャーに自分を愛してもらいたいという思いが暴走したキャラクターです。人より劣っているのがいやで、自分の力を誇示するためにすべてを手に入れて覇者になりたいと思う人物になったんです。じつは第44話もそろそろ完成するというところで、変な話ですけど、僕自身ゴーダッツについて完全に理解できていないんじゃないかとふと思ったんです。ゴーダッツは、最終的にセクレトルーを捨ててしまうのですが、それは彼女が不要になったからという意図でした。でも、あれだけ優秀で忠実な部下をどんなつもりで捨てたんだろうかと引っ掛かって、いろいろ考えたんです。そもそもの設定からしてフェンネルとゴーダッツのふたつの顔を持つ彼は矛盾をはらんだ男です。師匠が好きで、師匠に嫌われたくないという思いがあったけれど、シナモンがやってきてシナモンが認められるうちに嫉妬心が芽生え、それをひた隠しにしていたら心のなかにゴーダッツが生まれてしまった。でも完全にゴーダッツになってしまったわけではなく、しっかりとフェンネルも残っていた。師匠を思い出して柔らかな笑顔になり、セルフィーユに対して厳しくも優しく接していた、これはフェンネルの真意です。僕たちもそんな意図でした。

――第29話でセルフィーユに助言したのはフェンネルでしたが、セルフィーユのピンチを助けようとしたローズマリーを止めたのはゴーダッツというイメージでしょうか。

はい。ミスリードの意味合いもあって、フィルム上では、フェンネルが試練を与えようとして止めているように描きましたが、ゴーダッツでしょう。でもその後、セルフィーユに可能性を見て石を与えたのはフェンネルなんです。そうすると、優秀で忠誠心の強いセクレトルーを置いていったのは果たしてどちらなのか。フェンネル／ゴーダッツが世界を手に入れて自分の気持ちを満たしたあと、その先には一体何が待っているのか、たったひとり、いずれ滅んでいく気がします。もしかしたらフェンネルがセクレトルーを置いていったのではないかと思えるようにもなったんです。自分はもうあと戻りができないところに来てしまっているけれど、セクレトルーはそこまではいっていないから、置いていったのかもしれない。そう考えると、自分たちで作って動かしているキャラクターでも、1年間制作していくうちに理解できていない部分も生まれてくるのかなと思うようになりました。

◀おいしーなタウンの「ハートベーカリー」

◀あまねの家のキッチン

ラストはみんなが集まって「いただきます」をする姿を描きたかった

ハッとさせられた感謝祭でのジェントルー

——シリーズ全体では、新キャラクターが登場した際に、都度名前のテロップが出るのも新鮮に映りました。

やっぱり子どもになじみを持ってもらいたかったんですね。初登場キャラなら3話くらいはつけたほうがいいのではとか、いろいろ話をしましたね。

——子どもたちが観るという点で、ほかにどんなことを気にかけましたか？

クッキングダムの人たちがほかほかハートの力で生活しているとか、デリシャストーンやゲートの設定もある程度決めていましたが、あえて説明をしませんでした。実際に本編でそれを説明しても、子どもたちには複雑で細かすぎてわからなくなっちゃうと思うんです。もちろん、物語を観るうえで必要なことはちゃんと説明していました。

——あまり複雑にしすぎると、子どもが飽きてしまいそうですよね。

そうなんです。子どもたちにとっては、「こういう世界なんだな」でいい。ただ、ストーリーがわかりにくくならないような言葉選びには注意しました。

——今回、ゆいが変身できなくなったのは、第43話だけでしたね。

ゆいが変身できなくなる話はいつかやりたいと平林さんたちともお話していました。ただそのドラマはかなり大きいもので、ゆいをガラッと変える出来事になるということもあって、後半のほうがいいですねとなり、第43話になりました。ゆいってすごく強い女の子なので、なかなか落ち込み続けたりはしないんですよね。じつは、その強さは表情の描き方にも表れています。ゆいはギャグシーン以外で心情的不安を思わせる〝八の字眉〟にならないようにしていて、そこでゆいの強さを表しているんです。ただし、ほかのキャラクターの心情に寄り添う際はその限りではなく、ゆい自身のことに限ってですが。

——最終話のCパートでは『ひろがるスカイ！プリキュア』のソラ・ハレワタールが登場しました。

今回は、Cパートでの紹介にしよう、となりました。バトンタッチパートでは、コメコメとエルちゃんが登場しました。おむすびを巡るやりとり、そしてプリキュアとしての姿を見せるという感じでしたね。

——1年間、最終話まで描ききっての感想を教えてください。

2月に行われた感謝祭を観に行ったのですが、すごく応援してもらえていることがわかったし、いっぱい愛してくれる人がいるんだなというのを改めて実感しました。皆さんの声援はすごくありがたかったですね。キャストさんの言葉や応援してくれる子どもたち、そして大人の方々が、すごく作品に思い入れを持っていることが伝わってきたんです。作ってきてよかったなと思いましたし、きっと僕たちの知らないところでみんなの思いは大きくなっていくと思うので、本当にありがたいことです。

まだ本編の作業があって感謝祭のショーの物語などにはタッチができなかったのですが、ショーがジェントルーの話だということは聞いていました。僕自身はジェントルーがすごく好きなキャラクターだったんですが、茅野愛衣さんはジェントルーが突然消えちゃったと捉えていてハッとさせられたんです。あまねとジェントルーは同じ身体なので、あまねが出てくるにはジェントルーが消えなければならない。フェンネル／ゴーダッツとは違う立ち位置なので、僕としてはあまねを助けるぞという思いのほうが強かったんですね。

——ジェントルーが出てこなくなったのも、話の流れ的には当然だなと思っていました。

そうですよね。でも、茅野さんやジェントルーが好きだったお子さんからしたら、ジェントルーも苦しんでいたし、そのまま消えちゃったみたいに感じられたのかもしれない。ショーで描かれたことでジェントルーが救えたところもあったので、すごくいい話を作ってもらえたなと感じています。

——本作は、ゴーダッツを含め、怪盗ブンドル団の面々も最後に奉仕活動をしていますよね。キャストの皆さんも「全員を救う物語だった」と話していましたが、その点は意識していましたか？

最初のころから、ラストはみんなが集まって「いただきます」と食事をするところを描きたいという思いはありました。それは敵も含めてだったので、誰ひとり落とさずに描きたかったんです。フェンネル／ゴーダッツはまだ完全に立ち直ったわけではありませんが、希望の光は見えている。きっと、ゆいは彼女の性格上、敵と考えが違っても話し合おうとすると思うんです。どんな考えであっても、ゆいはそれを認めるし、違うことを考えていたとしても将来的にはわかり合えると信じている。だから、最終話もあのような形になりました。

——最後に、1年間『デパプリ』を応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

本当に1年間、応援していただいてありがとうございました。『デパプリ』の物語は幕を下ろしたのですが、感謝祭の幕が上がったとき、ゆいたちが当たり前のように会話をしている姿を見て、TVでの放送は終わってもまだまだゆいたちの日常や世界は続いているんだと思うことができました。この先、また『デパプリ』メンバーが登場するチャンスがあればいいなと思っているので、そのときまで忘れずに、ゆいたちのことを思い続けてもらえたらうれしいです。

◀おいしーなタウンの「THE DINER」

◀おいしーなタウンの「プリティホリック」

シリーズ構成

平林佐和子

【ひらばやし・さわこ】
脚本家、小説家。主な担当作品は、『オオカミ少女と黒王子』（シリーズ構成・脚本）、『ヒーリングっど♥プリキュア』（脚本）など。

『プリキュア』シリーズは観るだけで元気になれる作品

——平林さんは『ヒーリングっど♥プリキュア』で脚本を担当していますが、『プリキュア』シリーズにはどんな印象がありましたか？

『ふたりはプリキュア』が始まった当時、本気でバトルをやっている、すごい作品だというウワサを聞いていました。その後、『Yes!プリキュア5』になってから視聴して、とても熱い物語でありながら女の子たちがかわいくてキラキラしていて、メッセージ性も強い作品だなと感じていました。総じてどのシリーズも、1話観ると元気がもらえる作品だなと思っています。

——『デパプリ』のシリーズ構成については、どのような形でオファーがありましたか？

安見プロデューサーから、直接お話がありました。当時、私が1年かけて放送する作品のシリーズ構成を担当したことがなかったので、すごい冒険をされるな！　と思ったのですが、なかなかないチャンスですし、『プリキュア』シリーズが大好きだったので、ぜひやらせてほしいとお返事しました。

——シリーズ構成として入ることが決まったときは、コンセプトは決まっていましたか？

安見さんからは、「ごはん」をモチーフにしたいということと、おいしいものをみんなで楽しく分かち合って食べる世界観の物語にしたいというお話がありました。私も食べることが好きだったので、ますますやりたい気持ちが強まりました。「ありがとう」「シェア」というテーマと「食を楽しむこと」も交えて、スタッフで話し合いをしていくなか、「ごはんは笑顔」というフレーズができました。

——プリキュアのキャラクター像については、平林さんから提案したことはありましたか？

私はあまり出さなかったと思います。深澤SDが、ゆいは爽やかでみんなを引っ張っていく子、ここねはクールで美人、ちょっと孤高で人との付き合いが苦手。らんは発明や研究ができる子がいいなと話していましたね。らんの食リポに関しては、私から提案したのかな。『プリキュア』シリーズもたくさんキャラクターがいて、「食」という切り口にもどうしても似たところは出てしまうんですね。それで新しい切り口として、いままでのシリーズではなかった「食リポ」をする子はどうだろうと。らんは、ほかとのバランスを見て小柄で元気、キュートな女の子にしました。あまねは、敵側からのスタートなので、凛としている子。深澤SDからゆいとWヒーローになるような存在感がほしいという話もあって、強さや周囲の人々との関係性を意識したような記憶があります。

——キュアフィナーレはデザートのプリキュアですが、『デパプリ』の5年前に放送された『キラキラ☆プリキュアアラモード』ではスイーツという近しいものを扱っていました。その点はキャラクター作りに影響がありましたか？

それはもちろん、被らないようにということはとても意識しました。ただ、『デパプリ』に関しては作ることよりも食べることのほうに重きを置いているので、差別化はできたのかなと思っています。らんがおいしさを独特な言葉で表現していて、それをキュアスタに投稿するというところも、違った印象を与えてくれたのではないかと思っています。

——ゆいは、気持ちのブレがあまりないタイプの子でしたよね。

そうですね。最初からここねとらんは葛藤する子、ゆいはみんなの中心にいる子というのは決まっていました。

——その葛藤をどう決着するかで、物語の構成も考えていったのですか？

ここねとらんに関しては気持ちの終着点は最初から決まっていて、それをどの話数に割り振るかを探りながら作っていきました。あまねとゆいは物語を進めながら終着点を探っていました。第28話でナルシストルーが退場するときに「恨みを晴らしたらどうだ？」とキュアフィナーレに言うのですが、その言葉のせいであまねのなかにもやのようなものが残ってしまう。それを乗り越えることが必ずやらなければいけないこととして、あまねのゴールを作っていきました。ゆいについては、1年通した結果「おばあちゃんの言葉」を超えることが彼女の新たなはじまりだと思ったので設定しました。

——ゆいが変身できなくなるエピソードを後半にしたのはなぜでしょうか？

ゆいは基本的にメンタルがすごく強い子なので、変身できなくなる、戦えなくなるほど落ち込むのであれば、相当なシチュエーションを作らなければならないと思っていました。中盤でやってしまうと、それを乗り越えた最強メンタルのままで最終話に向かってしまうので、ドラマが描きにくいなと思ったんですね。ですから、ラスト近くに持っていきました。

——あまねはゴーダッツによって心を操られてしまいましたが、作中ではナルシスト

▶おいしーなタウンの「はごろも堂」

▶おいしーなタウンの「レンタルドレススタジオ」

ルーが「土地勘があったから選ばれた」と言っていました。それ以外の理由はあったのでしょうか？

　土地勘以外だと、レシピッピが見えていたことが大きかったと思います。ただ、彼女がゴーダッツに選ばれたのは、「弱い心につけこまれた」とかではなく、本当に偶然の出来事なんです。自分に責任は何もないのに突発的にトラブルに巻き込まれてしまう可能性って誰でもありますよね。あまねはそんなふうに、自分の意図しないところでトラブルに巻き込まれてジェントルーになり、それが自分のなかで苦しい思い出になってしまっている。でも、自分に起きた出来事だから切り離すこともできずにいる子なんです。あまねはそんな苦い思いを乗り越え、自分を好きになって自分らしく生きていく子を目指しました。

食卓を囲むエピソードもバラエティ豊かに

——エナジー妖精については、今回とくにコメコメが化けられて、しかもだんだん大きな姿になるという、珍しいタイプのキャラクターでした。

　コメコメが大きくなるというところから、まずⅡ世であるということを決めました。生まれたばかりだから、ゆいと出会ったときに友情で結ばれるのではなく、憧れちゃうだろうなという形で性格を決めましたね。コメコメは、とにかくかわいくて一生懸命で末っ子感がある子。パムパムはそれに対してちょっとおしゃま。コメコメに対しては、化けられる特別感を認められる、器の大きいお姉さんキャラクターにしました。一方メンメンは、おっとりしているけれどしっかり者で、話をちゃんと進められるキャラクターにしました。

——ローズマリーと拓海／ブラックペッパーも、妖精以外で久々にプリキュアとともに戦ってくれるキャラクターでしたね。

　ローズマリーは、大人として付き添ってくれる雰囲気があり、みんなを導く存在。ときとして一般常識でプリキュアの壁になるけれど、それを乗り越えていくプリキュアの伸びしろに心を動かされて一緒に戦っていく。ローズマリーを描く際は、立場や振る舞いなど、誰かに嫌悪感を与えることのないように、とても意識しました。拓海／ブラックペッパーは、プリキュアのピンチに現れます。でも、プリキュアと共闘している存在として描きたいというお話があり、そのバランスに気をつけました。プリキュアが最強の戦士なんだということを守りつつ、ブラペはプリキュアとともにある存在なんだという点を意識して描きました。

——拓海に関しては、ゆいを意識している描写がありましたね。

　その点に関しては、あくまでほのかなエッセンスであってほしいというオーダーでしたね。物語を飾るひとつの色でということで、私も主軸に置くつもりではなかったです。ただ、やはりずっと観てくださった皆さんにとって、ゆいと拓海がどうなるのかは気になるだろうと思ったので、最終話にもふたりのエピソードを盛り込みました。あとは拓海が覚悟と勇気を持てば大丈夫な状態にしてあります（笑）。

——ゆいが鈍感であるがゆえに、拓海はやや不憫な感じにもなりましたね。

　そこを応援してもらえたのかなと思っています。ブラペとしてのがんばりと、拓海としてのがんばりも報われそうで報われないというところが、愛していただけたのかもしれませんね。

——ゆいの祖母・よねを含め、家族のエピソードも盛りだくさんでしたね。

　食卓を囲む最初の単位って家族ですよね。もちろん、ひとりで食べる方もいると思いますが、みんなで食べることも多いので、自然と家族の描写は増えていきました。ただ、誰と食べるか、どう食べるかは本当に人によるので、いろいろな描き方を考えたんです。例えば、第1話ではゆいとローズマリーが一緒に食べるけれど、ゆいのお母さんはお店の準備をしている。一緒に食事をしていてもひとりは働いているということがあってもいいし、らんの家のように両親が働いていて子どもたちが一緒に食べる形でもいい。ここねのように、お母さんとはリモートで食べるのもありです。そして、ひとりで食べるのもいいものだ、ということをここねに轟さんが教えてくれる。子どもたちには、ひとつひとつの情報を映像にしたほうが伝わると思うので、そんなふうに一緒に過ごすのにもいろいろな方法があるんだと描いていきました。

——保護者の職業に関しては、かなりバラエティ豊かでしたね。

　基本的には、食事に関わる職業にしました。ゆいの家は定食屋さんだけど、バラエティを持たせたい気持ちもあり、お父さんは漁師に。ここねの家は、職人というよりは経営。らんの家は、味を求めるラーメン屋さんで、あまねの家はデザート。食に関わるにしても、いろいろな立場があるよということも描きたかったんです。

コミカルで憎めないブンドル団たち

——怪盗ブンドル団は、ゴーダッツ以外は憎めないコミカルさも魅力でした。

　ジェントルーは、後半でプリキュアになること、仲間になることが決まっていたの

▶私立しんせん中学校正門

▶私立しんせん中学校中庭

で、できるだけ子どもたちに嫌われないような立ち位置にしたいと思っていました。それで、紳士的に盗むというキャラクターにしたんです。ナルシストルーはいい男風のキャラクターもほしいなと思っていたのですが、説明に「美形」とだけ書くと味気がないと思ったので、「ナルシスト」という設定にしておけば、皆さんがいい感じに書いてくれるだろうと思ったんです。とはいえ深澤SDから「ナルシストルーで悪役の魅力を見せたい」とお話があり、いかにかっこよくするかは意識しました。セクレトルーは、ジェントルーやナルシストルーよりは立場が上の、最後に出てくる幹部なので、ゴーダッツの右腕的なポジションで秘書のようにゴーダッツの気持ちがわかる相手にしました。あと、私がクールで仕事のできる女性が好きだったので、そういう人を活躍させたかったというのもあります。

――ブンドル団の掛け声や、セクレトルーがグチを言ってしまうところにもおもしろさがありました。

深澤さんはとても感覚が優れていて、気合いを入れるときにちょっとシュールな感じがほしいとか、セクレトルーも心の声が漏れちゃう人にしましょうなどのご提案がありました。気合い入れに関しては、第1話を書いたときに「ここで掛け声を入れてください」と言われたので「ブンドルーブンドルー！」を入れました。そしてセクレトルーに関しては「てゆーか」という二面性を盛り込みました。各話のライターさんもブンドル団をコミカルに書いてくださって、親しみが持てる雰囲気になっていきました。

――スピリットルーは、初登場時〝いいやつ〟感が強かったですよね。

スピリットルーは、まずナルシストルーの出番が長すぎるのではないかという話がきっかけで生まれたキャラクターなんです。さらに、ナルシストルーの内面を語るにしても、本人は絶対に話してくれないし、セクレトルーも言及するタイプではないからどうしようかということになり、ナルシストルーに変わるもうひとりの幹部を出しましょうということになりました。深澤さんから、悪なんだけどコミカルな感じにしたいし、ロボットっぽくしてほしいというお話があったんですね。ナルシストルーが作ったことにすれば、ナルシストルーの内面も代弁できるという考えもあり、スピリットルーというキャラクターができあがっていきました。スピリットルーがナルシストルーの内面を語ることで、視聴者がナルシストルーってもしかして……と思うようになり、それを受けてナルシストルーとの戦いに向かっていくのがいいかなと。スピリットルーは途中からの登場でしたが、すごく動かしやすくて物語作りで助けられました。最終話でミニスピリットルーも活躍してくれましたね。

――ゴーダッツがフェンネルであるという設定は最初から決まっていたのですか？

そうですね。野心を持ったフェンネルがレシピボンを手に入れて、すべての世界を支配しようとしているというところがキャラクターの始まりでした。構成を進めていくときに、深澤さんから師匠のジンジャーとの因縁が彼の原動力になっているという話にしたいというご提案があり、最終話に向けてその因縁が何であるのかを考えていきました。結果的に、因縁とはジンジャーに認めてほしかった気持ちなのですが、それはなるべく最後まで見せないようにして、すべてを手に入れたいという独占欲、そしてすべての頂点に立ちたいという思いを前面に描いていきました。

――ちなみに、ジンジャーはネコのマスクをしているんですか？

そうです。ネコが好きで、ネコになりたかったんじゃないかな（笑）。もともと、招き猫を街中に置こうという話は決まっていました。そのうちにブンドル団のアジトも美術さんがネコの形にしてくれたんです。おそらく「怪盗」だから「泥棒ネコ」がモチーフなのではと思うのですが。そのふたつが結びつく理由と、ジンジャーとゴーダッツのつながりを考えて、深澤さんはジンジャーがネコのマスクを被ることに決めたのだと思います。ちなみに、あのマスクの下がどうなっているのかは誰も知りません。設定も作られていないかと思います。

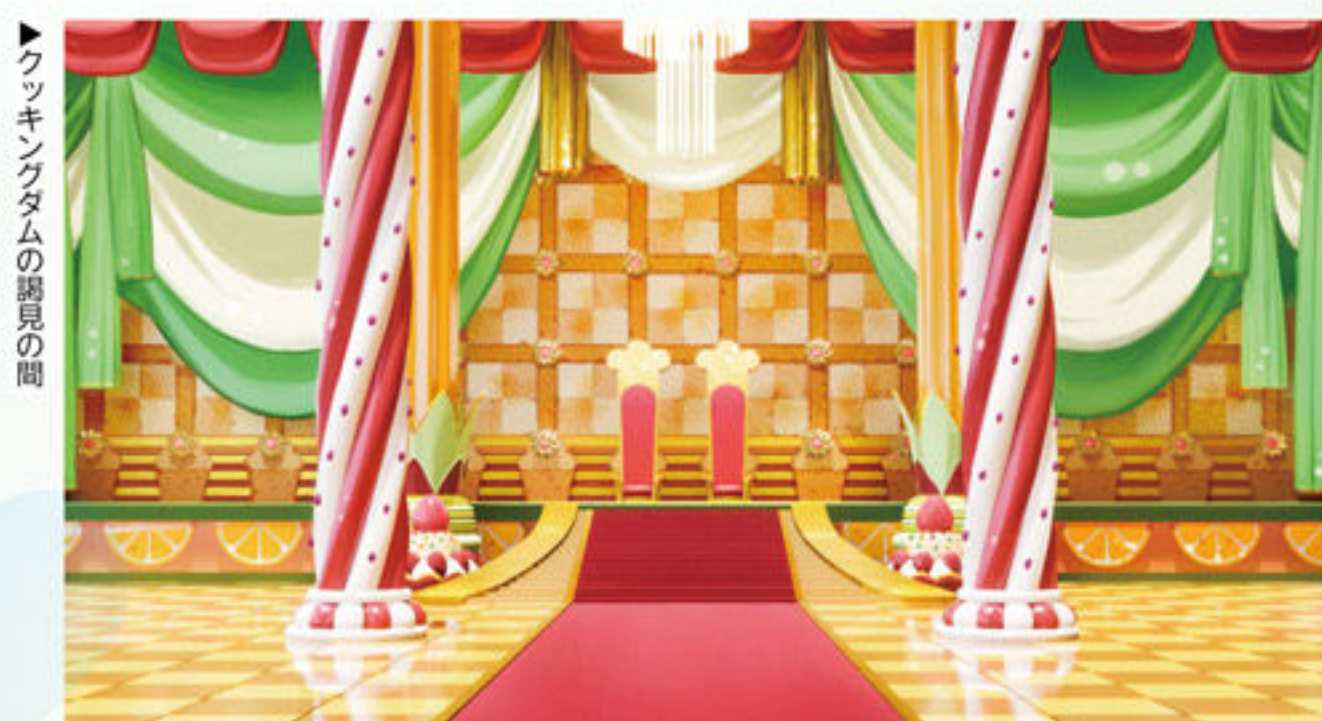
――2月に行われた感謝祭のショーにはジェントルーも登場しました。ジェントルーの物語を描きたいという思いはありましたか？

身もふたもない言い方をしてしまうと、まず感謝祭で動かせるキャラクターが、これまでのショーやドリームステージに登場したキャラクターだけという決まりがあったんですね。そのなかでどんな物語を作るかとなり、感謝祭に来てくれるということは、『デパプリ』をとても愛してくれている方だと思うので、最終話のあとの話を見たいだろうと思い、まず時間軸を決めました。でも、ショーですから変身して戦わなければならないんですよね。じゃあ敵をどうするか。ナルシストルーたちはもう敵にはならないとなると、必然的にジェントルーしかいないので、試作品のスペシャルデリシャストーンの力でジェントルーをひとりの人格として復活させて、クッキングダムで暮らすヤスと交流をし、という流れで考えていきました。あとで聞いたのですが、茅野愛衣さんがジェントルー復活をすごく喜んでくださったそうで。私たちは収録が大変だな、ご負担をおかけするなと思っていたので、とてもうれしかったです。

何よりも子どもたちにわかりやすい物語を

――最終的に、ゴーダッツはレシピッピを集めてレシピボンを完成させていました。そうなると、プリキュアが助けたレシピッピはどうなっていたのでしょうか？

レシピッピって捕まるからといって外に出るのをやめようとは考えず、自由気ままに行動しているんですね。だから、プリキュアに助けてもらっても、また外に出て行ってしまって、プリキュアが知らないところでブンドル団に捕まり、レシピボンに収められてしまっているんです。第1話で南米料理のお店が閉店してしまっているのは、レシピッピが完全に奪われて、もとの味を出せなくなってしまったからなんです。

▶クッキングダムの謁見の間

▶クッキングダムのレシピッピ広場

小さな「ありがとう」が重なって大きな力になることを伝えたかった

――ブンドル団はおいしーなタウン以外のレシピッピも狙っていたんですね。

　そうなりますね。セクレトルーが囮になりつつ、スピリットルーを使って世界各国でレシピッピを盗んでいたんです。ただ、おいしーなタウンはほかほかハートが蓄積されていて、かつ、ほかほかハートが生まれやすい場所なんですね。そうなるとレシピッピの出現率も高いので、ブンドル団は効率よくレシピッピを集めるためにおいしーなタウンを狙っている。ほかの場所だとレシピッピに遭遇する確率は低いけれど、プリキュアに邪魔される可能性も低いので、そこも密かに狙っていたという形です。

――1年間を通して物語を作ってみて、平林さんとしてはどんなことが伝わっていればいいなと考えていますか？

　最終的には、小さな「ありがとう」が折り重なって大きな力になるということを伝えられたらと思っていました。世界各地に招きネコを出したのも、小さな「ありがとう」が力になっていることを表現したかったからです。安見さんから、こういうお話を作ってほしいというリストをもらっていて、そこには「ひとりで食べるのはおかしなことじゃない」とか「外食やお惣菜もあり」「好き嫌いについて」「主義」とか、いろいろなアイデアがありました。どのエピソードもお話が重くならない形で入れていったつもりなので、それが子どもたちに伝わっていたらいいですね。

――このメニューは出せてよかったなと感じるものはありますか？

　まず、ピーマンの肉詰めですね。どうしてもピーマンって子どもたちに嫌われるので。それから、感謝祭でたい焼きのエピソードを描いたのですが、これは私がたい焼きを好きだからなんです（笑）。ただ、どうしてもTVシリーズの主軸には絡められなかったので、無理を言って感謝祭に出せることになりました。このためにたい焼きのレシピッピも作っていただけて、お手数をおかけいたしました。

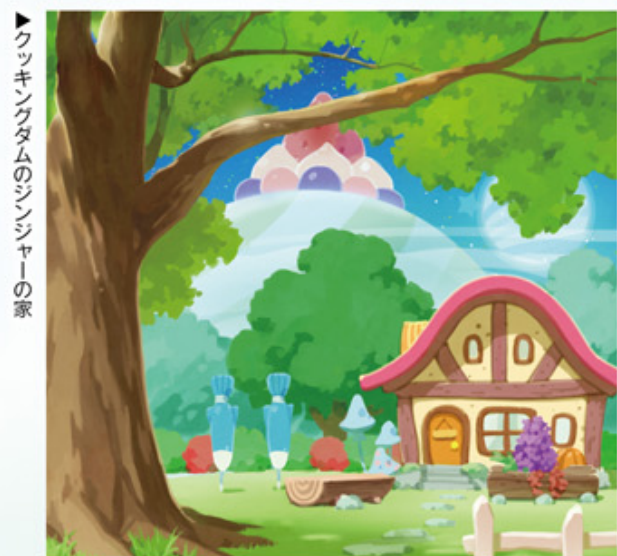
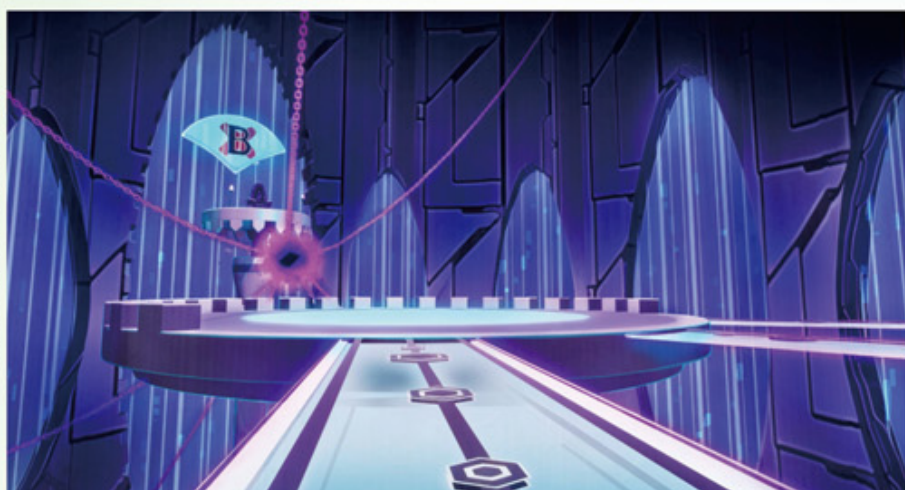
――『プリキュア』シリーズは子ども向けということが前提にありますが、子ども向けということでこだわった点は？

　子どもたちにわかりやすい物語というのはつねに意識していました。例えば第39話は、最初はお料理が苦手な女の人が結婚をすることになったけれど、お料理ができなくて困るというお話を考えていたんです。ゆいが一緒に特訓をして、そこにセクレトルーの料理ができないというエピソードも絡めようかと思っていて。でも、それだと子どもたちにはとっかかりがないんですね。それで、運動部の女の子がお父さんのことで悩んでいて、そんな彼女と接するうちにゆいが「ごはんって手作りじゃなくてもいい」と気づく話にしました。やはり子どもたちにとっては、主人公であるゆいのように、自分たちが投影できるキャラクターを中心に話を進めたほうがいいと思ったんですね。ただ、『プリキュア』は全般的に、主軸の話も進めなければならないけれど、毎回変身をして戦います。やらなければならないことが多くて大変でした。そのなかでもわかりやすく、かつ、かわいいシーンを入れ、さらに楽しいエピソードにするということはつねに意識していました。

――放送、そして感謝祭が終わったいまの率直な気持ちは？

　やりきった気持ちが強いですね。自分が『デパプリ』に捧げられるものは全部捧げました。制作中は何度も自信を失うことがありましたが、最後まで走り切れて、無事に次の作品にバトンを渡すことができてホッとしています。振り返ってみると、どのエピソードも思い入れがあって愛おしいです。

――1年間応援してくれた方に向けて、メッセージをお願いします。

　最後の感謝の気持ち、1年間の「ありがとう」を伝えようと思って感謝祭の脚本を書きました。実際に感謝祭も会場で観たのですが、メンメン役の半場さんがおっしゃっていたように、「ありがとう」を伝えにいったはずが、皆さんからたくさんの「ありがとう」と幸せをもらいました。私はスタッフのなかで作業の手が離れるのが一番早いのですが、最終話や最終決戦をスタッフの皆さんと一緒に試写で観ることができて、その映画のような映像に感激しました。スタッフの皆さんの情熱、そして視聴者の皆さんの愛によって、この作品が成り立っていることを感じました。「ありがとう」って「有り難き幸せ」から来ている言葉なのですが、あり得ないほどの幸せをいただきました。本当にありがとうございました。

▶クッキングダムのジンジャーの家

▶怪盗ブンドル団のアジトにある幹部の間

キャラクターデザイン

油布京子

【ゆふ・きょうこ】アニメーター、キャラクターデザイナー。主な担当作品は、『精霊幻想記』（キャラクターデザイン）など。

プリキュアは和洋中の食事とデザートの要素をコスチュームに盛り込みました

変身前と変身後の見た目の差がハッキリわかるように

―本書用にプリキュアが思い思いのポーズをとったかわいい表紙イラストをありがとうございます。

　プリキュアはもちろんですが、ブラックペッパーやマリちゃんは、ぜひ入れたかったんです。私としては『デパプリ』を描くうえで外せないキャラクターだったので、描けてよかったです。

―油布さんは、『プリキュア』シリーズが好きだったそうですが、世代としては『ふたりはプリキュア』になりますか？

　そうですね。でも私は同年代の子たちよりも卒業が遅かったというか、卒業しないまま大人になったところがあるので（笑）。初代から『Yes！プリキュア5GoGo！』までは玩具を買ってもらうくらいに好きでした。なかでもお気に入りだったのは、キュアドリーム。ピンク色の髪でふたつ結びのヘアスタイルが好きだったんです。

―キュアプレシャスもふたつ結びですから、いまも変わらずにお好きなんですね。では改めて『デパプリ』のキャラクターデザインオーディションについての感想は？

　スタッフの方から受けませんかというお話があったのですが、とにかく驚きました。全然実感がわきませんでした。

―オーディションでは、プリキュア3人とコメコメを描いたそうですね。

　はい。変身後のキュアプレシャス、キュアスパイシー、そしてキュアヤムヤムとコメコメをデザインしました。キュアプレシャスは、のびのびとしていて正義感のあるまっすぐな子。明るく元気でたまに抜けたところがあり、亡くなったおばあちゃんが大好きという設定でした。その当時から運動神経がよくて怪力、生野菜をかじるということも決まっていました。キュアスパイシーの設定は、クールビューティでおしゃれ、かわいいものが好き。あと、美人過ぎて周りから高嶺の花と思われひとりで過ごすことが多く、ひとりに慣れているとありました。キュアヤムヤムは、ごはんに対して関心が高く、興奮した気持ちを独特な言葉で表現するとか、自分の好きなものに対してテンションがあがってしまい、おしゃべりが止まらず「変わった子」だと思われることもあるという設定でしたね。SNSでごはんについて発信しているということも書いてあったかな。じつは、キュアヤムヤムに関しては最初のころは年齢がゆいたちのひとつ下だったんですね。同級生になったことでデザインを変えたわけではないのですが、その印象もあってやや幼い雰囲気になっています。

―オーディションのときに、これは必ず入れてほしいというデザインはあったのでしょうか？

　みんなエプロンを着けているという決まりはありました。あとは、腰元がキュッとしているとか、頭や胸元に大きめの飾りがほしいとかでしたね。それ以外は、あなたの思うかわいいをぶつけてくださいと言われた覚えがあります。

―キャラクターデザインを担当することが決まったときは、どう感じましたか？

　これもまた現実味がなく、ないままに過ごしていました。「本当に？」ってずっと思いながらデザインをしていた気がします。

―それぞれのプリキュアのデザインについても教えてください。まず、キュアプレシャスは着物のような雰囲気が強めですね。

　和の要素を入れてほしいというオーダーがあったので、着物風のデザインにしました。胸元のリボンのかけ方がポイントなんですが、ひものような形でたすき掛けをしているんです。それから、当時足袋ブーツをすごくかわいいと思っていたので、足元に取り入れました。髪形は再現するのが難しいものにしてほしいとご要望があったのですが、あまり奇抜な印象を与えたくなかったんですね。派手ではあるけれどかわいい感じにしたくて、シルエットのメリハリも考えて作っていきました。それから、抜け感を出したいとも言われました。それはデザイン途中だったので、どうしたらいいのか試行錯誤をしました。イヤリングの形状も、「ごはん」をモチーフにしたプリキュアですから、スプーンとフォークにしました。

―配色について、油布さんから提案したものはありますか？

　基本的には色彩設計の方が考えてくれるのですが、キュアプレシャスはロングヘアなので一番面積を占める髪はピンクにしたいと伝えました。あと、プリキュアはそれぞれにピンク、ブルー、イエロー、ゴールドというカラーがあるのですが、ポップな印象にしたいというお話もあったんですね。そのため、各プリキュアにメインカラー以外の色も入れていきました。

―髪のハイライトがハートマークになっているのもかわいいですね。

　さりげないかわいさを入れたくて、私から提案しました。あと、瞳のハイライトに関しては、変身後にひとつ増やしているんです。これは過去のシリーズでも瞳の種類が変わるパターンがあったので、何かしら瞳に変化を付けたくて入れました。

―キュアスパイシーは、ヘアスタイルがとても目を引きます。

　彼女は和洋中の「洋」で、パンが好きということで丸みを意識した髪形にしました。パンというよりはねじりドーナツみたいな感じですね。キュアスパイシーも衣装に抜け感をという話があって、デコルテを出したり袖の部分に穴を空けたりしました。

―抜け感を出すために、透けた衣装にしようという案はなかったのですか？

　パフスリーブの部分を透けた素材にしたらどうでしょうかという話がほかのスタッフさんからあったのですが、私の個人的な課題として、透けパーツとグラデーションを使わないようにしていたんですね。それもあって、透けた素材ではなく肌の色が見えるようなデザインにしました。

―ちなみに、どんな意図があってその課題を設定したのでしょうか？

　透けパーツに関しては、アニメで処理しようとすると大変だと聞いていたので、それなしで表現したいという気持ちでした。

―プリキュアのデザインの話に戻りますが、キュアヤムヤムは中華風ですね。

　まさに中華っぽくといわれたので。じつは、キュアヤムヤムはデザインにかなり時間がかかったんです。幼くしすぎると子どもたちが憧れる要素が減っちゃうかもしれないので、少し大人っぽい感じにしたいというオーダーもあって。それで、タイトスカートっぽくして、スリットで大人っぽい抜け感を表現し、スパッツで活発さを出していきました。スカートのすそ部分のハートマークは、あまり隙間が空いている感じを出したくなくて、さびしそうなところにつけていきました。

―プリキュアのなかでは、キュアフィナーレのデザインが最後ですか？

　そうです。キャラクターデザインを担当することが決まってから、発注がありました。彼女の色はゴールドと白が基調で、差し色として紫などの色も入るといいですね、というくらいだったと思います。あと、外国人風の顔立ちにしたいというお話があり、まず金髪をベースに考えていきました。最初のころはゴージャスなウエディングケーキにしたいという話があったので、フルーツケーキのようなデザインを考えました。

髪の金平糖はボリュームある髪がそのままあるだけだとさびしかったので付けました。

——キュアフィナーレとジェントルーのデザインは一緒に考えていましたか？

ほぼ同時でした。キュアフィナーレとジェントルーが同じ人物という話は聞いていたので、ジェントルーはキュアフィナーレの顔をベースに考えました。

——パーティアップスタイルは、どのように考えたのですか？

『デパプリ』は和洋中の要素があるので、和洋中の要素を伸ばして豪華なシルエットにしました。エプロンと髪飾りは玩具会社さんのご提案を生かしてみたのですが、4人ともなるべく似ないようにしたいと思い、シルエットは違う形にしました。

——プリキュアの変身前については、こうしたいという思いはありましたか？

まず、変身後の見た目と大きく差を付けることが前提で、私としては子ども向け作品なので子どもが見てかわいい印象にしたかったんです。それもあって、変身前はいまの子どもたちが着ていても違和感のない服のデザインを考えていきました。変身前のデザインは、ここねのヘアスタイルが最初と変わりましたね。ここねはロングのポニーテールだったのですが、安見プロデューサーからショートボブにしたいというお話があり、短くしました。最初はらんがショートでここねがロングのつもりだったので、全体のバランスを考えてらんの髪は長くしたんです。あと、あまねは私服姿でもヴィラン（敵役）っぽさを出したくてジェントルーのイメージに近くなりました。カチューシャはキュアフィナーレがゴールドなので、その色のものを付けてみました。

——ゆいたちが通う学校の制服は、ちょっとクラシカルですよね。

そうですね。私が通っていた学校がセーラー服で、校則もそこそこ厳しくてスカートは長くしなければいけなかったんです。でも、自分が学生時代に観ていた『プリキュア』のスカートが短くて自分と対照的でちょっとさびしかったんですね。そんな気持ちもあり、今回はスカート丈は長めに、清楚さが感じられるお嬢様っぽいデザインにしました。あとセーラー服もブレザーもかわいいので、冬はブレザー、夏はセーラーと私が着たい服を作りました（笑）。

怪盗ブンドル団は かわいさと怖さのある衣装に

——エナジー妖精については、どんなオーダーがありましたか？

白キツネ型とイヌ型とドラゴン型ということは最初にお聞きしました。コメコメは、オーディションのときには白いキツネ型の子で、フードがあってひっくり返すと形態が変わるということが決まっていたんですね。キツネも、うるうるしたかわいい目でお願いしますとあって、そのまま描いたらそれを気に入ってもらえたようです。パムパムはオーディション中に茶色いワンちゃんを、という話があり、メンメンだけがちょっと遅れて決まったと思います。でも、メンメンって難しいんですよ。デフォルメした形でドラゴンをどう表現するかを考え、ツノと翼でそれっぽく見えたらいいなと考えました。

——コメコメの化けた姿は、最初から5段階と決まっていたのでしょうか？

決まっていました。年齢について細かな指定があったので、最初に11歳くらいの一番大きい姿を考え、そこから逆算して年齢に合わせて調整をしました。化けた姿のコメコメのポイントは、現実離れしたビジュアルであること。瞳孔のなかにピンクの色トレスを入れていますし、髪の毛先も色分けをしていて、ほかのキャラクターではあまりやっていない処理を入れました。それは衣装も同様で、あまり見かけないシルエットで、そこにプリキュアっぽいかわいさも加えてみました。

——ローズマリーやブラックペッパーのデザインに関してこだわりは？

まずマリちゃんはおおよその年齢を聞いて、クックファイターであることを意識しつつ、深澤SDから肩に長いコートを掛けていてほしいというオーダーがあったので、それを盛り込みました。マリちゃんはメイクをしていますが、自分なりの美を追究しているからなので、あまり性別に寄りすぎない描き方をしましたね。首元のスカーフも、マリちゃんなりのオシャレだと思っているんだろうなというイメージです。

ブラペはまず拓海を先行してデザインしました。拓海はゆいのひとつ年上なので、身長は高めに、いまどきの男の子っぽくフードにジャケットを羽織らせました。顔は誰でも好きになれちゃうような、万人受けするものにしたかったんです。表情も含め、ゆいより年下に見えないよう、少年っぽくなりすぎないように心がけました。マリちゃんのコートやジャケットが決まっていたので、ブラペはクックファイターとしてのコートやデザインと似たものにしています。ただ、マントを着けたり顔を隠すためにツバが広めの帽子をかぶせたりしたことで、王子様っぽさがにじみ出ましたね。あと、かわいらしい要素を入れたくてリボンも付けました。じつは、怪盗ブンドル団のデザインを先に決めていたので、「ブラック」ペッパーですが白が多くなりました（笑）。だから、せめて名前をイメージさせる黒を入れたいなと思い、差し色として入れています。手袋やマスクの形がブンドル団とほぼ同じなのは、クッキングダム由来ということでやや共通性を持たせています。

——そんなブンドル団については、あまり怖くしないでほしいという話もあったそうですね。

最初にジェントルーから考えたこともあって、かわいい感じにはなったのですが、逆に悪者っぽい感じにならなかったんですね。それで、トゲを使ったデザインを入れたり、ブンドル団のマークを盛り込んだり、ちょっと悪っぽさが出るようにしていきました。黒い色に関しては怪盗だからというこだわりです。セクレトルーは、ジェントルーやナルシストルーよりは位が上なので、ふたりよりは強そうに描きました。ナルシストルーは、名前の通り「ナルシスト」な部分があるのでそれならおしゃれだろうと。自分を美しいと思っている人ですからその点はこだわりました。ゴーダッツに関しては、深澤SDと村上貴之SD補佐から「一番強いんです」をはじめ、いろいろな提案があったんですね。それも取り入れて肩のトゲは多めに、ジンジャーさんに憧れているから被り物をして、ネコっぽいファーも付けました。

——プリキュアの家族については、プリキュアのデザインから逆算をしてイメージしたのですか？

そうです。顔つきや髪形は子どもたちをベースに、このパーツはお母さん、このパーツはお父さん、この子はまるっとお母さん似と考えていきました。拓海に関しては、シナリオ上、お父さんにそっくりという話が出ているので、自然と似た顔になりましたね。

——油布さんは第44～45話で作画監督も担当しています。

年間通して総作画監督として入ってはいたのですが、とにかくキャラクターがいい顔をしてくれて、観ている方に喜んでもらえたらという思いが強かったですね。ゆいはおいしいそうに幸せそうな表情をしてほしいという気持ちでした。

——変身シーンでとくにお気に入りのポイントは？

『スマイルプリキュア！』の変身シーンで、頬にパフを乗せて笑うシーンの頬ブラシがすごくかわいくて、私もお気に入りだったんです。それで、変身シーンで顔をすごくよく見せるカットを作りたくて、そこに頬ブラシを乗せました。

——『プリキュア』シリーズはデザインのもととなる原作のない作品ということで、イチからデザインを作る難しさはありましたか？

まず、過去のシリーズと似ないようにしつつ、かっこいいデザインにする点での難しさがありました。それから、とにかくキャラクターが多いんです。あとから追加されることもあって、しかもそのキャラクターがすでに登場しているキャラクターと関係がある場合は、ちょっと要素をかぶせる必要があるといった難しさがありましたね。

——1年間、放送が終わってのいまの感想を教えてください。

原案から込みでデザインをするのが初めてだったので、本当に難しさも苦労もありました。でも、それ以上に楽しく、ファンの皆さんも温かく、スタッフの皆さんは優しくて、すごく環境に恵まれていたなと感じています。最初は長いなと思っていたのですが、終わってみるとあっという間で、もう一度最初からやりたいくらいです。

——最後に、1年間応援してくれたファンへメッセージをお願いします。

『プリキュア』は1年という長いスパンでの放送なので、ずっと追い続けるのは大変だと思います。そのなかでも、キャラや作品を応援し愛してくださってありがとうございます。放送は終わりましたが、きっとまた会える機会があると思うので、たまにはゆいたちを思い出してもらえたらうれしいです。

音楽

寺田志保

【てらだ・しほ】
作曲家、編曲家、キーボーディスト。主なアニメの担当作品は、『ヒーリングっど♥プリキュア』『トロピカル～ジュ！プリキュア』など。

温かみのある音楽を届けたくて木管楽器を多く使いました

音楽で表現する当たり前の素敵さ

――『ヒーリングっど♥プリキュア』（以下『ヒープリ』）『トロピカル～ジュ！プリキュア』（以下『トロプリ』）に続き、3作目の『プリキュア』シリーズの音楽担当になりましたが、『デリシャスパーティ♡プリキュア』（以下『デパプリ』）にはどんな印象を持ちましたか？

前作の『トロプリ』は明るく元気な日常という世界観でしたが、今作の『デパプリ』も同様に日常にすごく寄り添った作品だなと感じました。でも「ごはん」や「ありがとう」「シェア」をモチーフやテーマにしていて、同じ日常作品でもすごく世界観が変わった印象でした。

――音楽の方向性については、スタッフからはどんなオーダーがありましたか？

シンセサイザー主体ではなく、オーケストラの楽器を基本として、ギターやベースをフィーチャーしたかっこいい音楽にしてくださいというオーダーでした。

――作品のモチーフやテーマは、とても普遍的なものです。普遍的な題材を音楽で表現する際に、何か工夫はしましたか？

特別、奇をてらったことをしようとは思いませんでした。ただ、「ありがとう」や「いただきます」「ごちそうさま」って当たり前のことだけれど、ありがたみを忘れていることもありますよね。なので、音楽としては、「ありがとう」って実は素敵なことなんだと気づけるような、温かさを感じられるように心掛けて作曲しました。

――『デパプリ』では、どんな楽器を使おうと思いましたか？

『トロプリ』よりも木管楽器の出番が多かったかなと思います。私は木管楽器に温かみやヒューマンな雰囲気を感じるので、「ごはん」や「ありがとう」というメンタルな部分を楽器で伝えるのに、木管楽器が合っている気がしたんです。木管楽器中心ということもあり、キーや調の選び方が独特になったのかなとも思います。

――木管のなかでも、とくにこれという楽器はありましたか？

メロディを際立たせたいときはオーボエやフルートを使いましたね。とくにピッコロ（フルート）もかわいい音なので、ポイントで使っていきました。

――ゆいたちが暮らすおいしーなタウンは、いろんな国のお料理が集まる街ですが、各国の音楽は意識しましたか？

そうですね。ひとつの国にこだわらず、異国情緒あふれるようなイメージで作曲していきました。ちょっと中国風だったり、ちょっと北欧風だったり、ちょっとアメリカンだったり……そんなちょっとしたエッセンスをミックスしていきました。実は、お料理が出てくると聞いたときに、きっとフレンチが出てくると音楽スタッフの間で話していたことがあったんです。フレンチポップをメインテーマにしよう、みたいな話もありました。でも、実際にはフレンチはあまり登場しなかったですね（笑）。

――らんのおうちはラーメン屋さんですが、中国風な音楽というとドラのようなものが想像されますが、聞かれませんでした。

おいしーなタウンは異国風を意識しましたが、それぞれのキャラクターについては、どこかの国に寄らないように、日常の女の子っぽい雰囲気を考えました。らんちゃんに関していえば、音階の積み方やちょっとしたエッセンスで中国っぽい雰囲気が感じられるくらいにとどめています。

――クッキングダムに関しては、テーマ曲などはないんですね。

そうなんです。『デパプリ』は、心情の説明をする音楽が多く必要だったこともあって、そういったさまざまな音楽をクッキングダムなどのシーンに合った形で選曲さんが使ってくださったようです。

3年間で学べた怖くなりすぎないバランス

――敵の怪盗ブンドル団に関してですが、以前の作品で敵側はあまり怖くならないように、というお話がありましたよね。

今回も怪盗ブンドル団は「ブンドルーブンドルー！」と掛け声を使うような組織で、あまり怖くないんですという説明をいただいていました。一方で、コミカルにもしすぎないでほしい、いいあんばいのうさんくささがほしいですというオーダーもありました。それをフレーズに落とし込み、まじめにやればやるほど笑えるようなイメージで作曲していきました。

――といって、まったく怖くなくなってしまうと敵役らしさがなくなりますよね。

確かにそれもあって、わりと探りながら作曲していくところはありました。怖い音楽って、音を積み上げた迫力で作る恐ろしさと、音を抜いて表現する恐ろしさがあると思うんですが、私自身その恐ろしい音楽のバランスをつかめたのは『デパプリ』になってからでした。『ヒープリ』のときは、『プリキュア』シリーズの音楽を初めて担当するということもあり、かなり音を詰め込んだぶん、怖さが強めに出た感がありました。『デパプリ』では、そこまでの恐怖感を与えるような音楽にはならないように、ある程度小編成にして『デパプリ』という作品になじむことを考えて作曲していきました。

――『プリキュア』シリーズに欠かせない変身シーンは、今回どのようなアプローチで作りましたか？

キーワードとしては、3年間共通で「かっこいい」と「華やか」「かわいい」そして「凛とした」がありました。『トロプリ』はトロピカルなサウンドだったのでちょっと特殊でしたが、『デパプリ』は『ヒープリ』と少し似たテイストかもしれません。ただ『ヒープリ』のときは、初めてプリキュアの変身シーンを担当したこともあり、かっこよくしなきゃ、ここで展開しなきゃとか、過去のシリーズの変身シーンの音楽を聴いたり観たり、すごく意識をして作曲したんですね。でも、『デパプリ』は思いっきり華やかに始まりたいなとか、流れるようにしたいと思えるようになったんです。細かく展開について考えるよりも、最初から最後まで途切れずに流れていくような曲に自然となってくれたんじゃないかなと思っています。『デパプリ』は、細かくかっこよさを見せていくのではなく、変身シーン全体が音楽からもかっこいいアプローチができるためにと、大きく捉えて作曲することができました。

――変身シーンも絵コンテからの作曲ですよね。

そうですね。でも、これはどのシリーズもそうだったのですが、最初に絵コンテを見たときに出る言葉は「かわいい」しかないんですよ。皆さんよりも早い段階で絵を見られてるんるん気分になりますし（笑）、ときめきしかわかないですね。

――『デパプリ』のTVシリーズではたくさんの曲を作ったと思いますが、なかでも印象的な曲はありますか？

「ブンブンドルドル ブンドル～」から始まるウバウゾーを呼び出すときのテーマ「いでよ、ウバウゾー！」が好きですね。いかにも呪文を唱えそうなサウンドにでき

たんです。それから、「ブラックペッパー参上」は、私がブラペというキャラクターを好きだということもあり、ヒロイックな音楽になったことも印象に残っています。打ち合わせの段階では、ブラペの曲はマイナー調の音楽にしたいというオーダーがありました。ブラスの音で始めたのは、勇敢な感じを出したかったからです。プリキュアの変身シーンをブラスで始めることはないので、そこでテイストの違いが出せたのではないかと思います。

決め技でいうと、キュアフィナーレの技「プリキュア！　デリシャスフィナーレ・ファンファーレ！」は気高いイメージがあったので、クラシカルさとキラキラ感を乗せてちょっと上質なものを目指して作曲していきました。

――『映画デリシャスパーティ♡プリキュア　夢みる♡お子さまランチ！』は、テーマパークが舞台でした。舞台によって音楽作りに変化はありましたか？

映画はTVアニメとちがい、映像に合わせて作曲ができるので、自然とテーマパークっぽくなっていったかもしれません。ただ、各シーンの尺がハッキリと決まっているうえにかなり展開も速かったので、物語の潤滑油のようになる音楽を意識しました。映像に合わせて作曲できるのは、やっぱり楽しかったですね。もちろん尺が決まっていることの大変さや、途中で尺が変わったことによる調整の難しさはありますが、絵に落とし込めるのがいつもうれしくて。好きなブラペが出たシーンの作曲では、つい力が入っちゃったりもしましたね。

――推しキャラと言われたら、今年はブラックペッパーですか？

そうですね。一途にゆいちゃんを見守る姿が好きです。あと、マリちゃんも素敵ですよね。『デパプリ』の音楽で悔いがあるとしたら、マリちゃんのテーマを作れなかったことです。デリシャスフィールドの曲とか作曲してみたかったです。

――制作が終わってみて、寺田さんが感じる『デパプリ』らしい曲とは？

「ご飯は笑顔♡（メインテーマ曲）」や「しあわせお料理」「ごちそうさま、ありがとう」など……日常のシーンを表現した曲が感謝や温かさとリンクしているように思えるので、それが『デパプリ』の音楽らしさなのかもしれません。

――『ヒープリ』から3年間、『プリキュア』シリーズの音楽に携わってみて、ご自身が一番変わったなと感じることはなんでしょうか？

『ヒープリ』のときは全部で80曲ほど作曲しましたが、『トロプリ』と『デパプリ』は多少減ったとはいえ、映画も担当したので、結構な曲数を書かせてもらいました。しかもうれしいことに、生楽器の贅沢な編成でレコーディングさせていただいたんですね。さらには、バトルシーンなどのハードな曲も多かったので、作曲することだけでなくレコーディングなども含め、すごくタフになった気がします。

――最後に、1年間『デパプリ』を応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

1年間、観て聴いてくださりありがとうございました。ちょうどコロナ禍で黙食が当たり前な時期でしたが、ゆいちゃんたちが「ごはんは笑顔」「ごはんを食べるって楽しいことだよ」と言っている姿を見て、小さなお子さんも大きなお友達も、ごはんを食べることの楽しさや喜びを感じていただけたらうれしいです。ありがとうございました。そして、ごちそうさまでした。

CD Information

●発売元：マーベラス　●販売元：ソニー・ミュージックソリューションズ

✦『デリシャスパーティ♡プリキュア』オリジナル・サウンドトラック1 プリキュア・デリシャス・サウンド!!　●3300円（税込）

✦『デリシャスパーティ♡プリキュア』オリジナル・サウンドトラック2 プリキュア・プレシャス・サウンド!!　●3300円（税込）

✦『映画デリシャスパーティ♡プリキュア　夢みる♡お子さまランチ！』同時上映『わたしだけのお子さまランチ』オリジナル・サウンドトラック　●3300円（税込）

プロデューサー

安見香

【やすみ・かおり】東映アニメーションプロデューサー。主なプロデューサー担当作品は、『ヒーリングっど♥プリキュア』など。

大切な誰かとおいしいものを分かち合う大切さを描く

—『デパプリ』のテーマやコンセプトはどのように決めたのでしょうか？

2020年に放送する『プリキュア』の企画を練っていたとき、並行して「ごはん」をモチーフにした作品についても検討していました。ただ『キラキラ☆プリキュアアラモード』というスイーツをモチーフにした作品から期間が空いていないこともあり、そのときは「地球のお手当て」を主軸にした『ヒープリ』に決めたんですね。その制作中に2022年に放送する『プリキュア』のプロデューサーを担当することになったのですが、あっという間にコロナ禍になり、当時は本気でこの世の終わりなのかな……と思うような状況になりました。そんななかで幼稚園や保育園、小学校などで子どもたちが当たり前のようにしていた「ごはんを一緒に食べる」ことができなくなっていました。そこに私も感じるところがあったので「ごはん」をモチーフに決めました。

—「シェア」というのは、ひとりで食べなければいけなくなってしまったコロナ禍だからこそ選んだのかと思っていました。

大勢で食べることとひとりで食べること、どちらがいいとか悪いとかはないので、どちらかというと、大切な誰かと一緒の時間を過ごして、おいしいものを分かち合うっていいねということを描きたいという気持ちのほうが大きかったですね。

—「ありがとう」もそれに付随して決まったテーマでしたか？

そうですね。子どもたちは赤ちゃんのときにミルクをもらって育ち、そこで「いただきます」や「ごちそうさま」を自然と知っていく。私はそのなかに「ありがとう」も含まれているんじゃないかと考えたんですね。それもあって、「シェア」と「ありがとう」をテーマにしました。

—メインスタッフはどのように決めましたか？

『映画プリキュアミラクルリープ　みんなとの不思議な1日』の監督をした深澤さんと、『ヒープリ』でご縁があった平林さんにだいたい同じ時期くらいで声をかけたと思います。深澤さんは弊社の制作チームを通じて声をおかけしていました。平林さんは、『ヒープリ』でとても明るく愉快、そして優しい目線でお話を書いてくださったという印象だったんですね。『デパプリ』はアツく温かく、おもしろくて茶目っ気のある物語にしたかったので、平林さんにお願いしたいなという気持ちでした。それから、『ヒープリ』のドリームステージを平林さんが観に来てくれたときに、差し入れとして手作りのお菓子をくださったんです。その喜びと、食べ物がお好きなのかなということを感じて、「『ごはん』のプリキュアをやろうと思っているんです」とお声がけしました。平林さんは、年間のシリーズは初めてとのことで、ご不安もあったかと思いますが、深澤さんとなら絶対大丈夫！と思っていました。深澤さんはこんな画作りをしたいとか、こういうキャラクターにしたいというビジョンがハッキリ見えている方で、いつも前向きにアイデアを出してくださるんです。きっと平林さんとならいいタッグになるだろうと感じていました。

—キャラクターデザインは毎年オーディションですが、油布さんを選んだ決め手はなんでしたか？

まず、画を見て新しい風を吹かせてくれそうだなと感じたことがあります。そして、何よりもコメコメがかわいかった。『デパプリ』でコメコメが重要な存在になることは決まっていたので、自分としても一番胸を打たれたコメコメにしたかったんです。コメコメはほとんど、最初に上げてくださったデザインのママですね。油布さんの起用が決まった当初、プリキュアのデザインは現在のものと少々違いましたが、いろいろご相談したら、たくさんのアイデアを出してくださって、本当にありがたかったです。プリキュアに関しては、「油布さんの思う、すっごくかわいいプリキュアにしてください」とお願いし、最終的には現在のデザインになりました。あのかわいさも油布さんの持ち味だと思いますし、私は油布さんのデザインのいまっぽさを好きなように出していただきたいなと思っておりました。そういう意味でも、とても素敵なデザインになったと思っています。油布さんとしては、登場するキャラクターはちゃんと食べる子なので、極端に細く見えないようにということにもこだわってくださいました。CGのモデリングの際も、なるべくリアルな人間のスタイルに近いものにしたいとCGチームのスタッフと何度もやりとりを重ねていました。

—プリキュアのキャストは毎年オーディションですが、菱川さんはゆいらしい爽やかな強さを持った声でしたね。

菱川さんは背負うものが大きかったと思います。でも本当に芯の強い、まっすぐな方でしたし、オーディションで声を聞いたときにただただ「ゆいだな」と思えるところが強かったです。選んだ理由は？と聞かれたら、もう「ゆいであり、キュアプレシャスだったからです」としかお答えできないくらい。彼女はプリキュアを観て育った世代で当時18歳くらい。ゆいに近い年齢だったこともあったかもしれませんが、ゆいとキュアプレシャスに持っていてほしい素直さをご本人も持っていましたね。ここね、らん、あまねも、オーディションでのお声やお芝居をみて、お三方にお願いすることになりました。エナジー妖精やローズマリー、ブラペたちも含め、大変バランスのいい役者さんがそろった「チームデパプリ」となったと思います。

—よね役を宮崎美子さんにお願いすることになった経緯は？

キャスティングの担当から「宮崎さんにお願いできるかも」という話があってお声がけをしました。以前から『プリキュア』にご興味があるというお話をしてくださっていたとのことで、うれしかったですね。実際にご本人もとても朗らかでかわいらしい方で！　よねのかわいさは宮崎さんが出してくださったものも多いですね。

—今回、そんなよねのナレーションがかなり細かく入っていたのも気になりました。

ナレーションを入れたいというのは深澤さんのアイデアでした。『デパプリ』には入れたい要素がたくさんあり、尺との戦いになると思っていました。それで、ナレーションによって説明をスキップする手法も合うんじゃないかと思いました。子どもたちはナレーション＝よねとつながっていないかもしれないけれど、いつか思い返したときに気づいてもらえたらうれしいですね。

子どもたちに怖がられすぎない敵役・怪盗ブンドル団

—ローズマリーもすごく大切なキャラクターになりましたね。

『プリキュア』シリーズの場合、妖精がお話を回すことが多いかと思うのですが、今回は妖精以外に誰か人間の姿の人物がそばにいる形にしたいと思っていました。ローズマリーに関しては深澤さんからのアイデアもあって、デザインや性格などをいろいろな方と打ち合わせをして決めていったのですが、最終的には「自分らしく、美しく

『デパプリ』で知ったことや観たことを大人になってから思い出してくれたらうれしい

ありたい人」というところに着地しましたね。スタッフの皆さまもいろいろと考えてくださった結果、温かく見守りつつ、ときに引いたり、ときに押したりできるあんばいがちゃんとできる大人になってくれました。それから、プリキュアに素敵な大人がそばにいてくれるように、観ているお子さまたちにも、そんな存在がそばにいることと重ね合わせて感じていただけたら……という気持ちもありました。ローズマリーに関しては、前野智昭さんが本当に素敵に演じてくれて。前野さんだからこそ、多くの方に愛していただけたのだと思っています。

――プリキュアと一緒に戦う拓海／ブラックペッパーも印象深いキャラクターでした。

お子さまにとっても身近な「ごはん」は誰しもが食べるものですし、それに対して戦うのが女の子だけ、ということでいいのだろうかという気持ちがありました。そして、女の子のピンチを「救う」のではなくともに戦う男の子にしたくて、ブラックペッパーは生まれました。いろんな立場の方が世界にいることを自然に含みながら、みんながごはんに対して真剣に戦っているという姿を描きたかったんです。ゆいと拓海の恋模様は、ちょっとしたスパイスという感覚ですね。自身を振り返っても、中学生時代って恋はしますし、そのほんのりした気持ちを表現するレベルにしたいなと思っておりました。ただ、ゆいは非常に鈍感なので、拓海の気持ちに全然気づかない、ということはスタッフの共通意識として持ちつつ、最終話ではゆいが拓海の手を取り引っ張るというふれあいを描く。ふたりの関係には、たくさんのスタッフの皆さまのこだわりが詰まっていると思います。

――プリキュアを導いたり変身のキーになったりする妖精は、シリーズごとに数がまちまちですが、今回キュアフィナーレを除き、ひとりのプリキュアに1匹のエナジー妖精がいましたね。

私が小さいものや動物が好きだということもあるのかもしれませんが……。まず子どもたちがかわいいと思える動物の姿の妖精はプリキュアのそばにいてほしいと思っておりました。また、「シェア」というテーマに対して「力をわけてもらって変身する」という意味を持たせたく、エナジー妖精はひとりに1匹という形になりました。あまねはジェントルーとして先に登場するキャラクターだったこともあり、エナジー妖精とは違う流れで変身に至ることになりました。

――エナジー妖精のモチーフにお米、パン、麺を選んだ理由はありますか？

プリキュアが和洋中をモチーフにしたデザインの衣装でしたが、お子さまにとって身近な主食、米とパンと麺はそばにいてほしかったんですね。より身近に感じていただきたく、食卓によく出るものをと考えました。コメコメだけ素材である「お米」のエナジー妖精なのは、化ける能力があってほかのエナジー妖精と違うところをアピールする意味合いもありました。また、これはプリキュアも含めたキャラクターについてですが、個人的にみんな『ヒープリ』の隣にいてもいいような存在になるといいなと思っていました。のどかたちの隣にゆいたちが、ラビリンたちの隣にコメコメたちが。あー、ラビリンとパムパムは気が合うかな。ペギタンとメンメンがおしゃべりしたら朗らかでかわいいだろうな……、などと思いながら設定のご相談をしていた記憶があります。

――怪盗ブンドル団は、「シェア」の反対の「独り占め」から生まれたそうですね。

シェアに相反する形をシンプルに表現したかったので、独り占めする人、ぶんどっていく人でブンドル団になりました。でも、彼らがやっていることは悪いことなので、物語のなかで救いはありつつも、ちゃんと罪は償ってほしいと思っていました。それもあって、最終話で奉仕活動に従事している姿を描いていただいて。感謝祭では登場キャラクターの都合でナルシストルーがブンドル団の格好のままでしたが、実際は最終話で着ていたピンクの衣装を着ているイメージかなと思います。

――子どもたちはプリキュアの敵が味方になると驚いたり怖がったりすることもあるそうですが、ジェントルーを含めた敵の描き方で大切にしたことは？

お子さまたちは、本当に怖そうな敵が出てくると、最初で観るのをやめてしまう可能性が高い。悪という存在自体に対してすごく繊細な気持ちを持っていますし、実際に私の姪っ子は過去に敵を怖がったようで、『ヒープリ』を観てもらえず……ということもありましたので、ブンドル団は人の形をしていてなじみやすいキャラクターになりました。そして、最初に出てくるジェントルーは、パッと見て怖すぎ！　と思わないようなデザインを考えていただきまして。お子さまたちから見ると衣装は黒と紫色で、悪者っぽく感じられるとは思うのですが、ちゃんとかわいさとかっこよさがあるデザインになっていて、最初の敵をジェントルーにして本当によかったなと思います。

――フェンネル／ゴーダッツだけは、コミカルさがあまりないキャラクターでしたね。

スタッフで打ち合わせを重ねるなかで出てきたいろいろな意見がまとまって、師匠が大好きなことと、世界のすべてを自分のものにしたいというキャラクターが決まっていきました。自分の成長を見せたくてそうしたのか、それともただ単に独占欲の塊とするかは議論を重ねていきましたが、最終的にはいろんな行動を経た結果、師匠への思いが絡み合って自分の力を見せつけるために、食べ物を独り占めする行動をした形になりましたね。

映像も物語も明るく楽しくなるように

――深澤SDもあまり深刻な物語にならないようにしたいと話していました。

『ヒープリ』は癒やしの優しい世界でしたが、今作はギャグ顔をしちゃうような、笑える雰囲気も多めに持たせたいという気持ちは私にもありました。深澤さんがその点も汲んでくださり、明るく楽しい方向で作ってくださいました。

――映像面では、どう見せたいと考えていましたか？

深澤さんとも打ち合わせをしながら、まず明るい感じにしたいと思っておりました。全体から感じられる色みにしても美術さんが風景などを含め、ハイライトの付け方などを工夫して、細かな部分をすごく楽しい雰囲気にしてくれたんですね。おいしーなタウンに関しては、ちょっとおふざけネーミングかもしれませんが……、パッと見て「ここに行きたい！」と思えるような楽しそうで素敵な街にしたいという希望を美術さんが汲んでくださり、全力で街を設計・建設してくださいました。また、それから、肉弾戦ですね。『ヒープリ』ではステッキを使って戦っていましたが、『デパプリ』はそうではないものにしたいなと思っておりました。『映画プリキュアミラクルリープ みんなとの不思議な1日』で深澤さん

が描いたバトルに、スカッとするヒーローっぽさを感じたんですね。長く少年マンガ原作の作品などを手がけてきたというのもあるかもしれませんが、我々は我々なりにヒーローを描くべく、今作は肉弾戦などのバトルもより魅せたい、という思いがありました。

——変身シーンに関しては、どのようなこだわりがありましたか？

できる限り覚えやすいキャッチーな言葉で名乗ったうえで、今作はそのあとにもうひと言言わせたかったんです。それで、EDの振り付けを担当してくださったCRE8BOYさんに名乗りの最後のポーズを考えていただきました。キュアスパイシーのポーズがSNSの記号みたいだと物議を醸していましたが（笑）、いい意味で印象に残ったんじゃないかなと。

——それぞれの決めポーズは、確かに印象に残りますよね。

キュアフィナーレも手を差し出しているだけに見えてインパクトがあります。キュアフィナーレの持つハートフルーツペンダントのハート型は非対称で片方が大きいデザインなのですが、その斜め型のハートも意識した華やかなポーズでした。

——決め技のネーミングも個性とおもしろさがあって素敵でした。

ありがとうございます。キュアプレシャスの技に関しては、「カロリー」という言葉を使ったり、それから、キュアヤムヤムは中華といえば麺、ヒモのようだから捕縛系になるのかな、などいろいろとディスカッションをしていったうえで、ならばキュアプレシャスは王道の元気いっぱいのパンチにしようとなり、名前もシンプルでスカッとするものがいいねということで「500キロカロリーパンチ！」が決まりました。成長するに連れて数字も増えましたが、じゃあ最後はどうなるかということもお話していきました。それこそ5000キロカロリーという案もあったと思いますが、それもどうかとなって。ウバウゾーが「オナカイッパーイ！」と言って浄化されますので、「おなかいっぱいになっていただきたいです」という意味も込めて「おなかいっぱいパンチ！」になりました。「おなかいっぱいパンチ！」は、作画の方が技の途中で0を無数に描いてくださったり、本当にたくさんの方の愛を感じました。

——過去のシリーズでかなりの数のプリキュアがいるので、プリキュアの名前を決めるのが大変だったのではないかと思います。

本当に大変でした。過去のシリーズを振り返ると、結構食べ物の名前も使われていますので、まず食べ物縛りはやめようということを決めました。「プレシャス」は私も好きな言葉で、「ごはん」に対する大切で尊いという存在への思いとしていいかなと思い、キュアスパイシーはそのまま味の種類を名前にしています。キュアヤムヤムはお料理への感想で、キュアフィナーレは食事の最後に出るものという立ち位置、といった感じでバラけた意味合いで名付けられたかなと思います。ヤムヤムは、英語圏でお子さまたちが「おいしい」というときに「ヤムヤム」とか「ヤミー」と言ったりしますよね。「ヤミー」だと「闇」につながって悪者っぽくなりそうだったので、「ヤムヤム」をチョイスしました。アルファベット表記にすると「Yum-Yum」とハイフンがつきます。お子さまたちにはあまりなじみのない言葉かもしれませんが、いつか大人になって「ヤムヤム」という言葉に再会したとき、そういう意味だったのかと気づいてもらえたらうれしいですね。

——後期変身後スチールとして公開されたのが、プリキュアに変身した4人と、ローズマリー、そしてブラックペッパーのピクニック風景でした。あまりないシチュエーションだったのですが、安見さんからの提案もあったのですか？

油布さんにのびのびと描いていただけたらという思いをベースに深澤さん、油布さんとお話して、みんなが食べているところがいいな、プリキュア姿でピクニックはどうか、それならデリシャスフィールドのなかだね、などと決まっていったと思います。

——安見さんは、感謝祭にどのくらい関わっていたのですか？

コーナー名を調整したり、はたまたマーベラスの井上洸プロデューサーと選曲をしたり、朗読劇やショーの台本の打ち合わせなど、全体的に関わらせていただきまして、感慨もひとしおです。

——感謝祭は、『スター☆トゥインクルプリキュア』からスタートしたイベントですが、『ヒープリ』のときは完全オンラインでしたよね。

そうでしたね。お客さまにお越しいただくことはできませんでしたが、その当時できる精一杯のことをやりました。2021年から2022年になって、街でキャラクターによるショーも行われるようになり、少しずつだけどお子さまたちもショーを観に行けるようになった。今回は有観客で、最後に愛のこもった皆さんと集まって感謝祭をできたことが本当にうれしくて。『デパプリ』は作中でみんなでパーティをしてきたので、最後に応援してくれた皆さんとパーティを開けて、本当によかったです。

——放送が終わって、いまの感想を教えてください。

『ヒープリ』の放送中に『デパプリ』の制作が始まったので、4～5年くらいは『プリキュア』に携わっていた感覚です。お子さまたちの思い出に残る可能性を秘めたものづくりという、本当に素晴しい機会をいただきました。2020年、2022年とちょっと特殊な年に『プリキュア』を担当することになり、編成上の複雑な状況に直面したこともありましたが、『ヒープリ』のときの経験も『デパプリ』で生きたといいますか……。スタッフの皆さまにたくさんご協力いただきながら、調整を重ねたことも印象深いですね。

——最後に、1年間『デパプリ』を応援してくれた方へ、メッセージをお願いします。

小さいころ帰り道にかいださまざまなキッチンの匂い。大好きな味や紐づく思い出、その存在への思い。人生に結びつく「ごはん」を通じて、お子さまたちがいつかまた『デパプリ』のことを思い出してくれたらなと思っています。それから個人的には、誰かが何かをしてくれたときに「すみません」ではなく「ありがとう」という世界になったらいいな、という思いもありました。ほかほかハートは「ありがとう」の可視化というか、「いただきます」「ごちそうさま」「おいしい」と言えば言うほど、ほかほかハートが出ているんだとお子さまたちに伝えたいものでもありました。「ありがとう」から生まれる笑顔がほかほかハートだと思ってくれたらうれしいし、みんなが「ありがとう」を伝え合うことでほかほかハートが増えていったらきっと世界はもっと素敵になるのかなと思うんです。そんな願いもコメて、このシリーズは「ありがとう」を重ねてきました。お子さまたちが「ありがとう」っていいものだなーと感じてくれたならば、うれしいなと思います。皆さまと、このパーティを分かち合えたことが幸せです。重ねきれませんが……、長きにわたり『デパプリ』を応援してくださり、本当に、ありがとうございました！

全プリキュア展
～20th Anniversary Memories～

◀池袋での『デパプリ』の展示コーナー。中央の鏡は、あるキャラクターたちが映し出される仕組みだ

2004年に『ふたりはプリキュア』の放送がスタートし、シリーズ誕生20年目を迎えた2023年に、プリキュア20周年として、歴代プリキュアの世界観を余すところなく伝える展覧会「全プリキュア展」が開催。2月の東京会場では、入場すると20周年のロゴがあしらわれたフォトスポットがあり、記念撮影ができた。さらに、全『プリキュア』シリーズを振り返ることができる年表や、20周年を記念した描きおろしイラストの展示、シリーズごとにコーナーが設けられ、キャラクター設定や玩具など、ファンなら見逃せない展示が続々と続く。さらに台本や企画書など、ここでしか見られないレアな資料や、全シリーズのプリキュアの変身シーンを一同に集めた豪華な映像ブースもあり、プリキュアファンならずとも見入ってしまうこと間違いなし。何時間でも見ていられるボリュームたっぷりの展示になっていた。『デリシャスパーティ♡プリキュア』の展示コーナーは、大きなフォークとスプーンが飾られており、「ごはん」がテーマであることがひと目でわかる作りだ。等身大キャラクターのなかには、『デパプリ』を代表してキュアプレシャスの姿も見つけられる。今後は、4月に愛知・名古屋で、さらに大阪での展示も予定されているので、『プリキュア』の魅力を改めて感じたい人、懐かしいプリキュアにまた会いたい人はぜひ足を運んでもらいたい。

✦東京：2023/2/1～2/19　会場：池袋・サンシャインシティ ワールドインポートマートビル4F　展示ホールA
✦名古屋：2023/4/27～5/8　会場：ウインクあいち　6階展示場
※大阪でも開催予定

デリシャスパーティ♡プリキュア 感謝祭

2023年2月18、19日に開催された『デリシャスパーティ♡プリキュア 感謝祭』。昨年と同様に、ファミリー公演(昼)とプレミアム公演(夜)の各日2回公演でそれぞれ違った企画が盛り込まれ、観客を大いに楽しませてくれた。

ファミリー公演・プレミアム公演共通で行われたのは、この感謝祭のためだけに書きおろされたステージショー。MachicoによるOPの歌唱があり、ショーが本格的にスタート。壊れたブンドル団のアジトの片付けにやってきていたナルシストルーは、そこでスペシャルデリシャストーンの試作品とセクレトルーのタブレットを見つける。ふとしたきっかけで、タブレットにたまたま残されていたジェントルーのデータに試作品が反応し、ジェントルーの実体を作り上げてしまうというエピソードだ。ジェントルーのコピーとキュアプレシャスの交流、そしてジェントルーのその後も描き、心温まる物語となっていた。

吉武千颯が歌う前期EDでショーが終わったあと、ファミリー公演ではプリキュアとお話ができるコーナーが行われた。プリキュアがひとりずつ客席に降り、遊びに来てくれたお友達にお名前や年齢、好きなお料理を聞いて交流を深めていく。客席を練り歩くプリキュアに、子どもたちも大感激。その後、キャラクターの撮影コーナーやプリキュアが変身ポーズをレクチャーするコーナーで会場一体となって盛り上がった。さらに『ひろがるスカイ！プリキュア』のOP&ED主題歌を披露するコーナーと続き、ラストには佐々木李子による『デパプリ』の後期ED主題歌も披露された。

プレミアム公演では、ショーの間に声優キャストが登壇しての感謝祭オリジナル朗読劇も盛り込まれた。今回は、プリキュア4人とエナジー妖精3人、さらにローズマリー役の声優キャストが参加しての豪華メンバー。朗読劇はコメコメのお部屋に招待されたみんなが、デートが何かわからないコメコメのために、理想のデートについて語っていくストーリーだ。さらに、トークコーナーでは、声優キャストによる思い出の振り返りや生アフレコのほか、プリキュアがTVシリーズの第44話挿入歌「キズナ♡スペシャリティ」を歌唱するなど、楽しいコーナーが続く。さらに千秋楽となる19日の公演では品田拓海／ブラックペッパー役の内田雄馬からのビデオメッセージやプリキュアからの花束贈呈もあり、感動的なシーンに思わず涙ぐむファンも見られた。出演者一同が涙で声を詰まらせながら挨拶をしたあとは、もう一度全員でOP主題歌を歌い感謝祭の幕を閉じた。感動的な名シーンは、7月発売のBlu-rayに収められているので、ぜひチェックしてもらいたい。

✦2023/2/18(土)、19(日)開催
(ファミリー公演＆プレミアム公演の各日2回公演)
会場：中野サンプラザホール

✦Blu-ray発売決定！
発売日：2023/7/19
発売元：マーベラス
販売元：ハピネット・メディアマーケティング
価格：Blu-ray〈ライトアップ♡アクリルスタンド付〉15180円(税込)
Blu-ray通常版9680円(税込)

2/19プレミアム公演の内容を中心に、特典映像では2/18のプレミアム公演の一部（声優トークコーナー＋生アフレココーナー）、各日のファミリー公演の一部（プリキュアとおはなしできちゃう♡ふれあいコーナー）の模様も収録する。

各話スタッフリスト

『デリシャスパーティ♡プリキュア』で
各話の制作を担ったメインスタッフを一挙に紹介！

第1話

脚本／平林佐和子　原画／上田由希子、高橋任治、浦田幸博、星川信芳、島崎望、大久保俊介、片山敬介、坂本花梨、熊田綾人、池津寿恵、岩井田夏帆、柴田夏来、北田美弥子、板岡錦、美馬健二、豊増隆寛、たかはし隆子、鎚崎大、藤原未来夫、古池ゆかり、八木尚之、永澤謙一、田中慎之介、河本零王、宮本莉奈、吉村朝陽、中村進也、渡邊徳、髙野徹、大岸海晴、木下真澄、齋藤穂波、城彩花、中山亜倫夢、水上優紀、野村優貴、青木彩花、上道巧弥、リカルド・ヴァリエホス　背景／いいだりえ、門口亜矢、福島美和子、佐藤千恵、山下千歌、長恵美子、牟田いずみ、西田渚、倉橋隆、雨宮萌香、武田なつき、増田竜太郎　オープニングスタッフ／深澤敏則、飛田剛、油布京子、上野ケン、板岡錦、上田由希子、小泉寛之、松田千織、伊藤史華、宮原拓也、谷本馨、水野辰哉、徳田大貴、小出真也、横田拓己、斎藤敦史、山本由美子、菅野芳弘、今井美紀、相澤里佳　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、高村智、島谷裕昭、関歩、黒澤あかね、黒崎志王、レア・メルルーザ、藤原芽生、池田涼、おおかわたつや、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　演出助手／大垣愛結　製作進行／直田宏隆　美術／いいだりえ　作画監督／稲上晃　演出／深澤敏則

第2話

脚本／平林佐和子　原画／美馬健二、星川信芳、牛来隆行、清水隆正、岩村洋輝、岡村正弘、及川博史、豊田桂祐、柴田知波、齊藤香織、服部益実、おぎ原まこと、スタジオギガ、北田美弥子、永澤謙一、田中慎之介、渡邉徳、駒井香、山本華織、大場絵理、間中紗永、孫美玲、Toei Phils.、上海笑特姆動画、スタジオマスケット、スノーライトスタッフ　背景／鹿児島ラメカヒリム、山口大悟郎、梓梓、上野比呂美、緒方剛、鹿児島アートラボ、上原里香、横田哲男、有村美咲、山本みなみ、下西絵里加、佐藤瀬奈、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／篠原花奈　製作進行／舘原真道　美術／山口大悟郎、上原里香　作画監督／赤田信人、美馬健二　演出／南川達馬

第3話

脚本／平林佐和子　原画／荏原裕子、原憲一、村山里野、橋森有加、上田温子、小吹唯翔、小川純平、Noh Gil-bo、Lee Yeong-gyu、No Seung-won、宇代裕規、北田美弥子、稗田貴希　背景／濱野英次、長恵美子、福島美和子、佐藤千恵、西田渚、牟田いずみ、雨宮萌香、武田なつき、門口亜矢、山下千歌、いいだりえ　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、小椋玲於奈、板井静香、中山崇史、ステパニ・ゴリム、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、ルゥ・ムヒ、ラファエル・パルコン Jr.、畑中美乃里、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　製作進行／黒田博亮　美術／西田渚　作画監督／荏原裕子　絵コンテ／貝澤幸男　演出／武藤公春

第4話

脚本／平林佐和子　原画／藤原未来夫、星川信芳、完甘美也子、小泉寛之、梶原煌平、福原恵次、田中伸昭、野津美智子、青山充、爲我井克美、川村敦子、洪範錫、安田陽子、小林麻理奈、北田美弥子、森公太、徳田大貴、駒井香、田近瑞希、渡邉徳、上道巧弥、王宣静、宮かなえ、横山優衣、丹羽巧、オカヤマ、宮本莉奈、たかはし隆子、White Fox　背景／ BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩倞、李智恩、西田渚、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　製作進行／武田百加　美術／李凡善　作画監督／藤原未来夫　演出／小松由依

第5話

脚本／金子香緒里　原画／原田節子、稗田貴希、松田千織、進藤満尾、亀田朋幸、高橋任治、浦田幸博、アーノルド ジョセフ・デル モンテ、ボビー・デラペーニャ、チャールズ ジョセフ・ヴィリャヌエバ、ユージン・アイソン、フランクリン・タマング、アイバン・ミーニャ、ロメオ・アンニョヌエボ、駒井香、大場絵理、山本華織、大内智美、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、齋藤優、山口美保、本間薫、吉田佳代、長恵美子　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、高村智、島谷裕昭、関歩、黒澤あかね、黒崎志王、レア・メルルーザ、藤原芽生、池田涼、おおかわたつや、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　演出助手／山井淳生　製作進行／巻幡呼春　美術／戸杉奈津子　作画監督／フランシス・カネダ、ジョーイ・カランギアン、沼田広　絵コンテ／カトキハジメ　演出／岩井隆央

第6話

脚本／山岡潤平　原画／青山充、飯田花緒、都丸千歌、北田美弥子　背景／ KLAS、平良亜梨沙、Debbie Li、沼田優芽、峰島千明、中林由貴、余力、吉崎優、島田純子、大川真由美、中島裕一郎、佐々木友子、椿浩幸、プロダクション・アイ、森智裕、松澤里笑、棚舘育子、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、長谷見直季、樋口義男、金井啓太、種山駿平、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス、ファン・タン・チー、ボー・バン・タン・サン　CG制作協力／スティミュラスイメージ、デジタルワークスエンタテインメント　演出助手／大垣愛結　製作進行／直田宏隆　美術／平良亜梨沙　作画監督／青山充、絵コンテ／小村敏明　演出／ひろしまひでき

第7話

脚本／平林佐和子　原画／上野ケン、星川信芳、完甘美也子、清水隆正、牛来隆行、田中慎之介、梶原煌平、上田由希子、原田節子、永澤謙一、高橋任治、森宗弘樹、おぎ原まこと、本吉悟、松田千織、片山敬介、豊増隆寛、豊田桂祐、小出真也、髙野徹、岩村洋輝、宮かなえ、王宣静、八木尚之、上道巧弥、丹羽巧、宮本莉奈、渡邉徳、都丸千歌、飯田花緒、ちぃーむはらだ、北田美弥子　背景／鈴木祥太、石原信明、牟田いずみ、今井美紀、東美紀、土井裕子、いいだりえ　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、小椋玲於奈、板井静香、中山崇史、ステパニ・ゴリム、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、ルゥ・ムヒ、ラファエル・パルコン Jr.、畑中美乃里、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　製作進行／舘原真道　美術／今井美紀　作画監督／上野ケン　絵コンテ／貝澤幸男　演出／土田豊、篠原花奈

第8話

脚本／永井千晶　原画／原憲一、上田温子、小吹唯翔、山田諭、倉持彩乃、宇代裕規、藤原未来夫、岩井田夏帆、野津美智子、上田由希子、星川信芳、進藤満尾、北田久登、柴田知波、冨木由美子、田中伸昭、豊増隆寛、伊藤史華、安田陽子、谷本馨、小島隆寛、藤井睦美、柏熊信、斎藤浩登、飯田花緒、都丸千歌、田中慎之介、廣田訓之、永澤謙一、ラインファーム、北田美弥子　背景／ BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩倞、李智恩、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　製作進行／寺崎豊、星野和也　演出助手／山井淳生　美術／李凡善　作画監督／原憲一、Noh Gil-bo、赤田信人　絵コンテ／浜江康士、村上貴之　演出／佐藤道拓、岩井隆央

第9話

脚本／金子香緒里　原画／美馬健二、廣中美佳、青山充、完甘美也子、清水隆正、梶原煌平、星川信芳、原田節子、渡邉徳、松田千織、たかはし隆子、進藤満尾、福原恵次、王宣静、野津美智子、近藤健司、留都沢乃実、安田陽子、與儀有美、生戸日陽里、柏原華、長谷川将矢、山田修司、池田佳寿美、菅原美沙輝、駒井香、大場絵理、パインジャム、スタジオリングス、ラパントラック、ビー・アール・エー作画部、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、齋藤優、山口美保、本間薫、吉田佳代　チーフ美術補佐／西田渚　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、高村智、島谷裕昭、関歩、黒澤あかね、黒崎志王、レア・メルルーザ、藤原芽生、池田涼、おおかわたつや、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　演出助手／大垣愛結　製作進行／武田百加　美術／戸杉奈津子　作画監督／廣中美佳、美馬健二　演出／河原龍太

第10話

脚本／平林佐和子　原画／稗田貴希、浦田幸博、洪範錫、上杉遵史、永澤謙一、上田由希子、おぎ原まこと、敬维、袁東、吉毅、朱洪雲、片山敬介、鎚崎大、高橋任治、駒井香、山本華織、SOMSAK MAHAMONGKOL、SURASAK PHAPIJIT、杜衛峰、朱東華、章品林、ぎゃろっぷ、北田美弥子　背景／ KLAS、平良亜梨沙、峰島千明、沼田優芽、Debbie Li、中島裕一郎、大川真由美、椿浩幸、スタジオ Pablo、福田健二、矢口聖奈、小野寺由惟、八道大地、スタジオリセス、昆野千春　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／小松由依　美術／平良亜梨沙　作画監督／板岡錦、稲上晃、上田由希子　絵コンテ／小川孝治　演出／飛田剛

第11話

脚本／山岡潤平　原画／荏原裕子、村山里野、上田温子、小吹唯翔、市野瀬亜由美、小川純平、Noh Gil-bo、Lee Yeong-gyu、No Seung-won、宇代裕規、山下紀子、松田千織、完甘美也子、高橋任治、板岡錦、豊田桂祐、北田美弥子　背景／石原信明、鈴木祥太、牟田いずみ、土井裕子、今井美紀、東美紀　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、小椋玲於奈、板井静香、中山崇史、ステパニ・ゴリム、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、ルゥ・ムヒ、ラファエル・パルコン Jr.、畑中美乃里、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　製作進行／黒田博亮、星野和也　美術／東美紀　作画監督／荏原裕子、村山里野　絵コンテ／石黒達也　演出／武藤公春

第12話

脚本／平林佐和子　原画／青山充、星川信芳、完甘美也子、松田千織、福原恵次、たかはし隆子、田中伸昭、牛来隆行、原田節子、進藤満尾、高井浩一、森宗弘樹、柳澤たいよう、志田直俊、八木尚之、伊藤春香、吉村朝陽、大橋幸恵、青木彩花、野村優貴、山口愛子、宮本莉奈、藤浦嵩、大内智美、ラパントラック、スタジオリングス、北田美弥子　背景／ BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩倞、李智恩、いいだりえ、西田渚　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　製作進行／直田宏隆　美術／李凡善　作画監督／藤原未来夫　絵コンテ／佐藤照雄　演出／篠原花奈

第13話

脚本／金子香緒里　原画／岡村正弘、岩村洋輝、進藤満尾、及川博史、山本華織、レジー・マナバット、アレン・ジェラルディーノ、シーザー・デ レオン Jr.、エド マーチン・クリストモ、フランクリン・タマング、フリッツ・ウラング、アイバン・ミーニャ、ポール・ザルティバル、ロデル・レティリアス、田中慎之介、寧波麦冬映画、上海笑特姆動画、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、宮本里香、岩崎仁美、齋藤優、山口美保、吉田佳代　チーフ美術補佐／西田渚　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、高村智、島谷裕昭、関歩、黒澤あかね、黒崎志王、レア・メルルーザ、藤原芽生、池田涼、おおかわたつや、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　演出助手／山井淳生　製作進行／舘原真道　美術／戸杉奈津子　作画監督／沼田広、フランシス・カネダ　演出／志水淳児

第14話

脚本／永井千晶　原画／青山充、高橋任治、丸山匡彦、留都沢乃実、野津美智子、永澤謙一、本吉悟、上杉遵史、菅野利香、千葉靖子、針木大、熊田智美、米地圭佑、斎藤友里、佐藤大介、竹森由加、駒井香、大場絵理、伊藤春香、郁林屹、大橋幸恵、藤浦崇、八木尚之、近藤健司、清水隆正、studio hb、北田美弥子　背景／ KLAS、平良亜梨沙、沼田優芽、峰島千明、Debbie Li、大川真由美、中島裕一郎、佐々木友子、スタジオ Pablo、小野寺由惟　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／大垣愛結　製作進行／武田百加　美術／中林由貴　作画監督／竹森由加、赤田信人　絵コンテ／小村敏明　演出／岩井隆央

第15話

脚本／伊藤睦美　原画／原憲一、Noh Gil-bo、荏原裕子、村山里野、上田温子、小吹唯翔、小川純平、Lee Yeong-gyu、No Seung-won、倉持彩乃、山下紀子、北田美弥子　背景／今井美紀、鈴木祥太、石原信明、牟田いずみ、土井裕子、佐藤千恵、東美紀　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、小椋玲於奈、板井静香、中山崇史、ステパニ・ゴリム、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、ルゥ・ムヒ、ラファエル・パルコン Jr.、畑中美乃里、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　製作進行／寺崎豊、星野和也　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／原憲一、Noh Gil-bo、荏原裕子　絵コンテ／佐藤道拓　演出／武藤公春、山本隆太

第16話

脚本／山岡潤平　原画／青山充、飯田花緒、都丸千歌、北田美弥子　背景／ BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩倞、李智恩　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／小松由依　製作進行／上原三輝　美術／李凡善　作画監督／青山充　絵コンテ／貝澤幸男　演出／ひろしまひでき

第17話

脚本／金子香緒里　原画／上野ケン、上田由希子、松田千織、たかはし隆子、片山敬介、田中伸昭、完甘美也子、森宗弘樹、水村十司、敬维、周亮、周源、都丸千歌、藤井睦美、柏熊信、小島隆寛、齋藤浩登、佐藤秋穂、竹内未和、廣田訓之、劉志光、八木尚之、寺前惇、朱東華、何金龍、王晨玮、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、宮本里香、岩崎仁美、齋藤優、山口美保、吉田佳代、高橋佐知、チェン ヤンフェイ　チーフ美術補佐／西田渚　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、高村智、島谷裕昭、関歩、黒澤あかね、黒崎志王、レア・メルルーザ、藤原芽生、池田涼、おおかわたつや、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　演出助手／山井淳生、岩澤秀平　製作進行／直田宏隆、谷川さくら　美術／戸杉奈津子　作画監督／上野ケン、川口弘明、高橋直樹、松本勝次、陈潔琼、袁東　絵コンテ／村上貴之　演出／佐々木憲世

第18話

脚本／平林佐和子　原画／板岡錦、美馬健二、星川信芳、岩村洋輝、浦田幸博、清水隆正、福原恵次、北田美弥子、原田節子、牛来隆行、梶原煌平、河野俊希、駒井香、大場絵里、都丸千歌、飯田花緒、佐藤秋穂、寧波麦冬映画、髙野徹、芳山優、田中慎之介　背景／ KLAS、沼田優芽、峰島千明、大川真由美、中島裕一郎、佐々木友子、スタジオ Pablo、小野寺由惟　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／大垣愛結　製作進行／舘原真道　美術／中林由貴　作画監督／板岡錦　絵コンテ／小川孝治　演出／飛田剛

第19話

脚本／永井千晶　原画／池田竜也、佐藤智明、阿部謙介、沈敖、吉田圭佑、薩摩夢、土田虎太郎、鈴木湧二朗、井上可奈子、花水城勇輔、金鐘明、村山里野、上田温子、小吹唯翔、Lee Yeong-gyu、No Seung-won、山口直紀、芳山優、高橋任治、北田美弥子　背景／今井美紀、牟田いずみ、石原信明、佐藤千恵、鈴木祥太、土井裕子、東美紀　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、小椋玲於奈、板井静香、中山崇史、ステパニ・ゴリム、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、ルゥ・ムヒ、ラファエル・パルコン Jr.、畑中美乃里、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン　製作進行／近藤俊弥、星野和也　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／北島勇樹、長濱睦輝、古徳真美、寿夢龍　絵コンテ／古田丈司　演出／八冲繁

第20話

脚本／伊藤睦美　原画／上田由希子、豊田桂祐、苫政三、清水隆正、完甘美也子、永澤謙一、野津美智子、星川信芳、稗田貴希、たかはし隆子、アルフレッド・レイエス III、アレン・ジェラルディーノ、シーザー・デ レオン Jr.、エド マーチン・クリストモ、アイバン・ミーニャ、ポール・ザルティバル、ロメオ・アンニョヌエボ、小西未紗、八木尚之、都丸千歌、泉美咲、Chen Zitu、間中紗永、梶田乃愛、市村龍星、外山喜子、福田紗耶、中村プロダクション、北田美弥子　背景／ BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩倞、李智恩　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／篠原花奈　製作進行／直田宏隆　美術／李凡善　作画監督／稲上晃、上田由希子　絵コンテ／南川達馬　演出／岩井隆央

第21話

脚本／山岡潤平　原画／完甘美也子、星川信芳、原田節子、野津美智子、松田千織、福原恵次、高橋任治、本吉悟、永澤謙一、森宗弘樹、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、齋藤優、山口美保、吉田佳代　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／小松由依　製作進行／上原三輝　美術／戸杉奈津子　作画監督／藤原未来夫　絵コンテ／西村聡　演出／河原龍太

第22話

脚本／金子香緒里　原画／美馬健二、板岡錦、田中伸昭、たかはし隆子、梶原煌平、片山敬介、玉谷朋香、迫江沙羅、浅見日香留、アルフレッド・レイエス III、アレン・ジェラルディーノ、ボビー・デラペーニャ、シーザー・デ レオン Jr.、エド マーチン・クリストモ、フランクリン・タマング、フリッツ・ウラング、アイバン・ミーニャ、ポール・ザルティバル、ロメオ・アンニョヌエボ、チャールズ ジョセフ・ヴィリャヌエバ、完甘美也子、原田節子、清水隆正、松田千織、北田美弥子　背景／グーフィー、周両欣、杉山理乃、舟川天文、林竜太、邢程、松本克樹、PEEC Animation、佐藤千恵　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊澗明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／大垣愛結　製作進行／直田宏隆　美術／周両欣　作画監督／美馬健二、ジョーイ・カランギアン、レジー・マナバット　絵コンテ／佐藤照雄　演出／ひろしまひでき

第39話

脚本／平林佐和子　原画／藤原未来夫、星川信芳、斉藤玲子、黒柳賢治、安田陽子、豊田桂祐、窪敏、冨木由美子、森宗弘樹、洪範錫、たかはし隆子、駒井香、大場絵理、SOMSAK MAHAMONGKOL、梶田乃愛、孫美玲、勘米良南奈、Toei Phils、100Studio、北田美弥子　背景／石原信明、鈴木祥太、土井裕子、大関彩、佐藤千恵、今井美紀、東美紀、いいだりえ　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、板井静香、中山崇史、関歩夢、ステバニ・ゴリム、横塚成美、ルゥ・ムヒ、サイレル・マリット、ロナ・アン・ザントゥア、藤原芽生、川瀬基之、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／青井優武　製作進行／舘原真道　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／藤原未来夫　絵コンテ／小村敏明　演出／岩井隆央

第40話

脚本／金子香緒里　原画／廣中美佳、田中伸昭、本吉悟、高橋任治、野津美智子、稗田貴希、永澤謙一、美馬健二、板岡錦、北田久登、竹森由加、針木大、千葉靖子、菅野利香、米地圭佑、佐藤大介、斎藤友里、熊田智美、金子剣、駒井香、大場絵理、Toei Phils.、北田美弥子　背景／BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩僖、李智恩　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／山井淳生　製作進行／上原三輝　美術／李凡善　作画監督／竹森由加、廣中美佳　演出／河原龍太

第41話

脚本／伊藤睦美　原画／青山充、福島史士、苫政三、ノエル・アンニョヌエボ、ジョーイ・カランギアン、ユージン・アイソン、ロデル・レティリアス、リカルド アルフォンソ・ヴァリェホス、アルフレッド・レイエス III、シーザー・デ レオン Jr.、ポール・ザルディバル、ジョセフ ネル・ブルゴス、アイバン・ミーニャ、内野桜、駒井香、SOMSAK MAHAMONGKOL、大場絵理、謝文、鈴木杏実歌、清水隆正、梶原煌平、梶岡知央、稲橋誠二、張逸暉、島崎望、藤田宇円、アーニャ・ライズ、中村プロダクション、スタジオ・コスモ、スタジオリングス、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、宮本里香、岩崎仁美、齋藤優、山口美保、チェン ヤンフェイ、ジェイソン　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／渡邉智喜　製作進行／星野和也　美術／戸杉奈津子　作画監督／赤田信人、ジョーイ・カランギアン、レジー・マナバット　演出／志水淳児

第42話

脚本／山岡潤平　原画／完甘美也子、星川信芳、原田節子、上杉遵史、井手陽子、宍戸久美子、監物ケビン雄太、飯田花緒、大内智美、丸山匡彦、小林陽奈、たかはし隆子、丹羽巧、松浦仁美、亀田朋幸、藤井睦美、上野ケン、柳澤たいよう、田中大喜、大橋幸恵、吉野美貴、宇佐見メリー、梶岡知央、八木沙弥夏、金子剣、二川剣治、北田美弥子　背景／KLAS、髙木佑梨、吉崎優、沼田優芽、余力、峰島千明、島田純子、佐々木友子、中島裕一郎、大川真由美、スタジオ Pablo、堀川あゆみ、倉田優、荒武明日香、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　製作進行／直田宏隆　美術／高木佑梨　作画監督／松浦仁美　絵コンテ／寺岡巌、門由利子、篠原花奈　演出／篠原花奈

第43話

脚本／平林佐和子　原画／美馬健二、青山充、梶原煌平、清水隆正、松田千織、上田由希子、浦田幸博、冨木由美子、森宗弘樹、菅野利香、針木大、熊田智美、米地圭佑、斎藤友里、佐藤大介、大橋幸恵、渡邊徳、宮本莉奈、島崎望、齋藤洋平、藤田宇円、アーニャ・ライズ、駒井香、大場絵理、鈴木杏実歌、常定日和、吉野美貴、北田美弥子　背景／グーフィー、周霞欣、杉山理乃、大久保聡、内間太一、眞木春奈、林竜太、PEEC Animation、BIEN THUOC、LINH TRANG、KHANH HONG、PHAN ANH、いいだりえ　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、板井静香、中山崇史、関歩夢、ステバニ・ゴリム、横塚成美、ルゥ・ムヒ、サイレル・マリット、ロナ・アン・ザントゥア、藤原芽生、川瀬基之、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／広末悠奈　製作進行／藤本遥　美術／周霞欣　作画監督／美馬健二、沼田広　演出／横内一樹

第44話

脚本／平林佐和子　原画／板岡錦、野津美智子、岩井田夏帆、高橋任治、田中慎之介、田中伸昭、留都沢乃実、芳山優、山岡直子、安田陽子、飯飼一幸、斉藤玲子、永澤謙一、稗田貴希、梶原煌平、松田千織、おぎ原まこと、野口征恒、黒柳賢治、上田由希子、森田岳士、稲橋誠二、梶岡知央、柏熊信、佐藤大介、駒井香、山本華織、SOMSAK MAHAMONGKOL、大場絵理、河野俊希、本多美月　背景／BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩僖、李智恩、いいだりえ、濱野英次　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／山井淳生　製作進行／舘原真道　美術／李凡善　作画監督／板岡錦、藤原未来夫、油布京子　絵コンテ／深澤敏則、手塚江美　演出／深澤敏則

第45話

脚本／伊藤睦美　原画／上野ケン、星川信芳、完甘美也子、福原恵次、佐川由佳、薄井紀子、郡司智一、中谷友紀子、竹森由加、針木大、千葉靖子、菅野利香、米地圭佑、佐藤大介、斎藤友里、熊田智美、アルフレッド・レイエス III、シーザー・デ レオン Jr.、アーノルド ジョセフ・デル モンテ、フリッツ・ウラング、チャールズ ジョセフ・ヴィリャヌエバ、金子剣、小川歩、村田大亮、スタジオリングス　料理作監／北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、猿谷勝巳、齋藤優、高橋佐知、瀧澤有香、吉田佳代、本間薫、チェン ヤンフェイ、いいだりえ、西田渚、雨宮萌香、長恵美子、土居ゆりの、増田竜太郎　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／青井優武　製作進行／星野和也　美術／戸杉奈津子　作画監督／上野ケン、油布京子　演出／村上貴之

第31話

脚本／平林佐和子　原画／星川信芳、福島史士、稗田貴希、森宗弘樹、郡司智一、斉藤玲子、藤原未来夫、おぎ原まこと、安田陽子、吉田和香子、進藤満尾、冨木由美子、金子剣、松枝尚生、高橋任治、都丸千歌、清水隆正、北田美弥子　背景／鈴木祥太、牟田いずみ、今井美紀、石原信明、佐藤千恵、土井裕子、羽鳥雅美、大関彩、森山周平、東美紀　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、板井静香、中山崇史、関歩夢、ステバニ・ゴリム、横塚成美、ルゥ・ムヒ、サイレル・マリット、ロナ・アン・ザントゥア、藤原芽生、川瀬基之、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／篠原花奈　製作進行／上原三輝　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／藤原未来夫　演出／門由利子

第32話

脚本／永井千晶　原画／菅野利香、千葉靖子、針木大、熊田智美、米地圭佑、斎藤友里、佐藤大介、竹森由加、アルフレッド・レイエス III、ユージン・アイソン、アーノルド ジョセフ・デル モンテ、フランクリン・タマング、シーザー・デ レオン Jr.、ロメオ・アンニョヌエボ、チャールズ ジョセフ・ヴィリャヌエバ、エド マーチン・クリストモ、リカルド アルフォンソ・ヴァリェホス、ジュンジー・ボーイ・エスピリトゥ、北田美弥子　背景／BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩僖、李智恩　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／小松由依　製作進行／藤本遥　美術／李凡善　作画監督／竹森由加、ジョーイ・カランギアン、レジー・マナバット　絵コンテ／村上貴之　演出／岩井隆央

第33話

脚本／永井千晶　原画／青山充、完甘美也子、清水隆正、岩村洋輝、原田節子、松田千織、井手陽子、たかはし隆子、美馬健二、駒井香、山本華織、大場絵理、梶田乃愛、市村龍星、勘米良南奈、勝吉聖人、藤野優華、関川楠、竹内未和、兵藤恭子、Toei Phils.、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、吉田佳代、瀧澤有香、本間薫、チェン ヤンフェイ　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、板井静香、中山崇史、関歩夢、ステバニ・ゴリム、横塚成美、ルゥ・ムヒ、サイレル・マリット、ロナ・アン・ザントゥア、藤原芽生、川瀬基之、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／大垣愛結　製作進行／舘原真道　美術／戸杉奈津子　作画監督／沼田広、赤田信人、美馬健二　演出／志水淳児

第34話

脚本／金子香緒里　原画／原憲一、Noh Gil-bo、村山里野、市野瀬亜由美、上田温子、小吹唯翔、小川純平、Lee Yeong-gyu、No Seung-won、宇代祐規、山下紀子、松丸祥弥、佐久間早紀、北田美弥子　背景／KLAS、髙木佑梨、吉崎優、沼田優芽、余力、峰島千明、島田純子、大川真由美、佐々木友子　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　製作進行／寺崎豊、星野和也　美術／髙木佑梨　作画監督／原憲一、Noh Gil-bo、村山里野　絵コンテ／河原龍太、演出／武藤公春

第35話

脚本／伊藤睦美　原画／上野ケン、高橋任治、苫政三、田中伸昭、野津美智子、高井浩一、浦田幸博、永澤謙一、稗田貴希、本吉悟、佐川由佳、佐藤元、金子剣、Toei Phils.、北田美弥子　背景／牟田いずみ、石原信明、鈴木祥太、土井裕子、佐藤千恵、東美紀、今井美紀　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、板井静香、中山崇史、関歩夢、ステバニ・ゴリム、横塚成美、ルゥ・ムヒ、サイレル・マリット、ロナ・アン・ザントゥア、藤原芽生、川瀬基之、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／青井優武　製作進行／上原三輝　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／上野ケン　演出／土田豊

第36話

脚本／山岡潤平　原画／青山充、飯田花緒、北田美弥子　背景／BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩僖、李智恩　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／大垣愛結　製作進行／直田宏隆　美術／李凡善　作画監督／青山充　演出／横内一樹

第37話

脚本／金子香緒里　原画／水村十司、清水智子、川口弘明、袁東、劉定福、李沛洪、周源、寺前惇、趙晨、朱東華、杜衛峰、何金龍、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、齋藤優、山口美保、吉田佳代、瀧澤有香　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　製作進行／谷川さくら、星野和也　美術／戸杉奈津子　作画監督／高橋直樹、松本勝次、趙親雲、陈潔琼、邱錦、陳強　絵コンテ／西田章二　演出／ひろしまひでき

第38話

脚本／平林佐和子　原画／上田由希子、星川信芳、完甘美也子、松田千織、福原恵次、梶原煌平、清水隆正、浦田幸博、原田節子、郡司智一、大橋幸恵、宇佐見メリー、スタジオリングス、北田美弥子　背景／KLAS、髙木佑梨、吉崎優、沼田優芽、余力、峰島千明、島田純子、佐々木友子、中島裕一郎、大川真由美、スタジオリセス、森下知廣、佐藤由梨、村形夏海、昆野千春、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　製作進行／藤本遥　美術／髙木佑梨　作画監督／稲上晃、上田由希子　絵コンテ／河原龍太、鈴木正男　演出／小松由依

第23話

脚本／伊藤睦美　原画／原憲一、Noh Gil-bo、村山里野、上田温子、小吹唯翔、小川純平、Lee Yeong-gyu、No Seung-won、山下紀子、倉持彩乃、北田美弥子　背景／鈴木祥太、佐藤千恵、石原信明、牟田いずみ、土井裕子、門口亜矢、今井美紀、東美紀　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、清水彩乃、王思丹、板井静香、中山崇史、関歩夢、ステバニ・ゴリム、横塚成美、ルゥ・ムヒ、サイレル・マリット、ロナ・アン・ザントゥア、藤原芽生、川瀬基之、今井克尚　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　製作進行／寺崎豊、星野和也　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／原憲一、Noh Gil-bo、村山里野　絵コンテ／小村敏明　演出／武藤公春

第24話

脚本／山岡潤平　原画／青山充、牛来隆行、井手陽子、稗田貴希、進藤満男、洪範錫、菅野利香、千葉靖子、針木大、熊田智美、米地圭佑、斎藤友里、佐藤大介、竹森由加、アーノルド ジョセル・デル モンテ、ボビー・デラベーニャ、エド マーチン・クリストモ、フリッツ・ウラング、マービン・メンドーサ、レム・バレンシア、チャールズ ジョセフ・ヴィリャヌエバ、ロメオ・アンニョヌエボ、岩村洋輝、清水隆正、たかはし隆子、永澤謙一、北田美弥子　背景／BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩僖、李智恩　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／篠原花奈　製作進行／舘原真道　美術／李凡善　作画監督／沼田広、赤田信人、竹森由加　演出／横内一樹

第25話

脚本／伊藤睦美　原画／水村十司、清水智子、及川博史、敬維、周亮、周源、王正、寺前惇、趙晨、姚遠、朱東華、吳成彬、何金龍、浦田幸博、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、猿谷勝巳、齋藤優、吉田佳代、高橋佐知、篠原裕伸　エンディングスタッフ／森智章、松瀬勝、大曽根悠介、浜崎恵、難波克毅、小椋玲於奈、島谷裕昭、黒澤あかね、レア・メルルーザ、クリーシャ・ブラスコ、クルーイン・アギーラ、栗原萌、加藤志帆、杉崎英嗣、藤田卓也、おおかわたつや　CG制作協力／ダイナモピクチャーズ、エヌ・デザイン、ドーン・パープル　演出助手／小松由依　製作進行／上原三輝、谷川さくら　美術／戸杉奈津子　作画監督／高橋直樹、松本勝次、陈潔琼、邱錦、陳如水、張福民　絵コンテ／小川孝治　演出／岩井隆央

第26話

脚本／金子香緒里　原画／上野ケン、星川信芳、渡邉徳、梶原煌平、小林麻理奈、近藤健司、清水隆正、安田陽子、浅見日香留、舘崎大、大橋幸恵、八木沙弥夏、宮本莉奈、スタジオ雲雀、スタジオコスモ、ティオメディア、北田美弥子　背景／グーフィー、周霞欣、杉山理乃、舟川天文、林竜太、臼田真弓、邢程、ムクオスタジオ、石田喬子、中村沙和子、中川源太、高塚光樹、鹿野良行、PEEC Animation　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／大垣愛結　製作進行・仕上進行／門田一　美術／周霞欣　作画監督／上野ケン　演出／土田豊

第27話

脚本／伊藤睦美　原画／青山充、飯田花緒、北田美弥子　背景／牟田いずみ、鈴木祥太、大関彩、佐藤千恵、石原信明、今井美紀、森山周平、羽鳥雅美、土井裕子、門口亜矢、東美紀　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／篠原花奈　製作進行／星野和也　美術／土井裕子、東美紀　作画監督／青山充　絵コンテ／志水淳児　演出／ひろしまひでき

第28話

脚本／平林佐和子　原画／板岡錦、たかはし隆子、完甘美也子、原田節子、松田千織、清水隆正、高橋任治、田中伸昭、片山敬介、北田美弥子、迫江沙羅、田中慎之介、柏熊信、高野徹、豊田桂祐、上野ケン、美馬健二、大橋幸恵、八木沙弥夏、小西未紗、伊藤春香、金子剣、浦田幸博、小林陽奈、野村優貴、宮本莉奈　背景／BON.Corp、徐柱星、黄琇詠、鈴木やよい、村田桃奈、studio AR.T.ON、柳煥錫、高智榮、安恩僖、李智恩、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／小松由依　製作進行／直田宏隆　美術／李凡善　作画監督／板岡錦　絵コンテ／佐々木憲世、深澤敏則　演出／飛田剛

第29話

脚本／山岡潤平　原画／上田由希子、梶原煌平、福原恵次、永澤謙一、苫政三、岩村洋輝、野津美智子、本吉悟、上杉遵史、及川博史、小林大芽、小野可奈子、佐藤元、高橋任治、浦田幸博、ボビー・デラベーニャ、シーザー・デ レオン Jr.、エド マーチン・クリストモ、リカルド・ヴァリエホス、ジョセフ ネル・ブルゴス、スタジオコスモ、寧波麦冬映画、北田美弥子　背景／スタジオMAO、三浦明日香、小林亮太、岩崎仁美、宮本里香、齋藤優、山口美保、吉田佳代、高橋佐知、本間薫、篠原裕伸、チェン ヤンフェイ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　演出助手／大垣愛結　製作進行／舘原真道　美術／戸杉奈津子　作画監督／稲上晃、上田由希子　演出／河原龍太

第30話

脚本／谷畑ユキ　原画／佐藤智明、阿部謙介、平瀬三恵諒、沈敖、長濱睦輝、薩摩夢、池田竜也、シェーン・マイ、村山里野、上田温子、小吹唯翔、No Seung-won、Lee Yeong-gyu、佐藤元、鳥居和慶、竹野楓、山口直紀、たかはし隆子、スタジオ・ミュウ、SAS、TopGear、北田美弥子　背景／グーフィー、周霞欣、杉山理乃、舟川天文、林竜太、臼田真弓、邢程、ムクオスタジオ、石田喬子、中村沙和子、渡川優介、中川源太、高橋マナ、林鴻生、鹿野良行、PEEC Animation、いいだりえ　CGディレクター／大曽根悠介　デジタルアーティスト／海老沢大生、松本八希、熊洞明日香、町田政彌、竹内誠、沓澤順一、向井択海、武井洸貴、長谷見直季、ダリル・パドゥア、ダンテ・カンパレ Jr.、エメット・メネス、ナルシーソ・タグロス、ニコロ・アルカラ、マンリコ・サエス　CG制作協力／スティミュラスイメージ　製作進行／近藤俊弥、星野和也　美術／周霞欣　作画監督／北島勇樹　絵コンテ／小村敏明　演出／三家本泰美

Gakken Mook

Official Complete Book

Package Information

Blu-ray 全4巻

●発売元：マーベラス　●販売元：ハピネット・メディアマーケティング
Vol.1～3、発売中。Vol.4、2023年5月24日発売。各25,300円（税込）

DVD 全15巻

●発売元：マーベラス
●販売元：ハピネット・メディアマーケティング
Vol.1～12、発売中。
Vol.13～14、2023年4月26日発売。
Vol.15、2023年5月24日発売。各4,180円（税込）

CD

●発売元：マーベラス
●販売元：ソニー・ミュージックソリューションズ　すべて発売中

CD+DVD　通常盤

デリシャスパーティ♡
プリキュア
主題歌シングル
CD＋DVD：
2,200円（税込）、
通常盤：
1,320円（税込）

デリシャスパーティ♡
プリキュア
ボーカルアルバム
～Welcome to
Delicious Party～
3,850円（税込）

CD+DVD　通常盤

デリシャスパーティ♡
プリキュア
後期主題歌シングル
CD＋DVD：
2,200円（税込）、
通常盤：
1,320円（税込）

デリシャスパーティ♡
プリキュア
ボーカルベスト
～Delicious Ambitious!～
4,000円（税込）

『映画デリシャスパーティ♡プリキュア　夢みる♡お子さまランチ！』同時上映『わたしだけのお子さまランチ』

CD+DVD

●発売元：マーベラス
●販売元：ソニー・ミュージックソリューションズ
主題歌シングル
CD＋DVD：
2,200円（税込）。
発売中

通常盤

●発売元：マーベラス
●販売元：ソニー・ミュージックソリューションズ
主題歌シングル
通常盤：
1,320円（税込）。
発売中

Blu-ray&DVD

※写真はBlu-rayのものです

●発売元：マーベラス
●販売元：ハピネット・メディアマーケティング
Blu-ray特装版：8,360円（税込）、
DVD特装版：6,270円（税込）、
DVD通常版：5,170円（税込）。
発売中

デリシャスパーティ♡プリキュア LIVE 2022 Cheers！ Delicious LIVE Party♡

●発売元：マーベラス
●販売元：ハピネット・メディアマーケティング
Blu-rayバンドル特典版：
23,100円（税込）、
Blu-ray通常版：15,400円（税込）。
発売中

2023年5月8日　第1刷発行

発行人　土本学
編集人　水谷隆介
企画編集　佐藤純平
発行所　株式会社イード
〒164-0012　東京都中野区本町1-32-2
発売元　株式会社Gakken
〒141-8416　東京都品川区西五反田2-11-8
印刷所　凸版印刷株式会社

編集　水野二千翔

編集・執筆　野下奈生（アイプランニング）
宮村妙子（アイプランニング）
後藤悠里奈

デザイン　坂井容美（CUiR WORKS）

カバー＆表紙イラスト
原画／油布京子

製作協力　東映アニメーション株式会社
東映株式会社
株式会社ラクーンドッグ
株式会社アクセント
株式会社大沢事務所
株式会社ぷろだくしょんバオバブ
株式会社アーツビジョン
株式会社インテンション
株式会社ホリプロ
株式会社ケンユウオフィス
ネクシード株式会社
株式会社マーベラス
株式会社ABCアニメーション
（順不同）

《この本に関する各種お問い合せ先》
●本の内容については、
電子メールmegami-magazine@iid.co.jp（編集部）
●在庫については、電話03-6431-1250（販売部）
●不良品（落丁、乱丁）については、電話0570-000577
学研業務センター　〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富279-1

MAIN STAFF

シリーズディレクター／深澤敏則　シリーズ構成／平林佐和子
キャラクターデザイン／油布京子　美術デザイン／増田竜太郎
美術監督／いいだりえ　色彩設計／清田直美　音楽／寺田志保
プロデューサー／多田香奈子（ABCアニメーション）、
矢崎史（ADKエモーションズ）、安見香

CAST

キュアプレシャス、和実ゆい／菱川花菜
キュアスパイシー、芙羽ここね／清水理沙
キュアヤムヤム、華満らん／井口裕香
キュアフィナーレ、菓彩あまね／茅野愛衣
コメコメ／高森奈津美　パムパム／日岡なつみ
メンメン／半場友恵　ローズマリー／前野智昭
品田拓海／内田雄馬　ほか

CONTENTS

豪華！スタッフ＆キャストおつかれさま色紙

イラスト満載！キャラクターコレクション

全45話のストーリーをプレイバック！

スタッフ＆キャストが思いを語るインタビュー

美麗イラストギャラリー

OP＆EDコレクション ほか